

大府市文化財調査報告書 第2集

愛知県大府市

海陸庵古窯址群

神明古窯址群

～大府半月地区土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告書～

1996年

大府市教育委員会

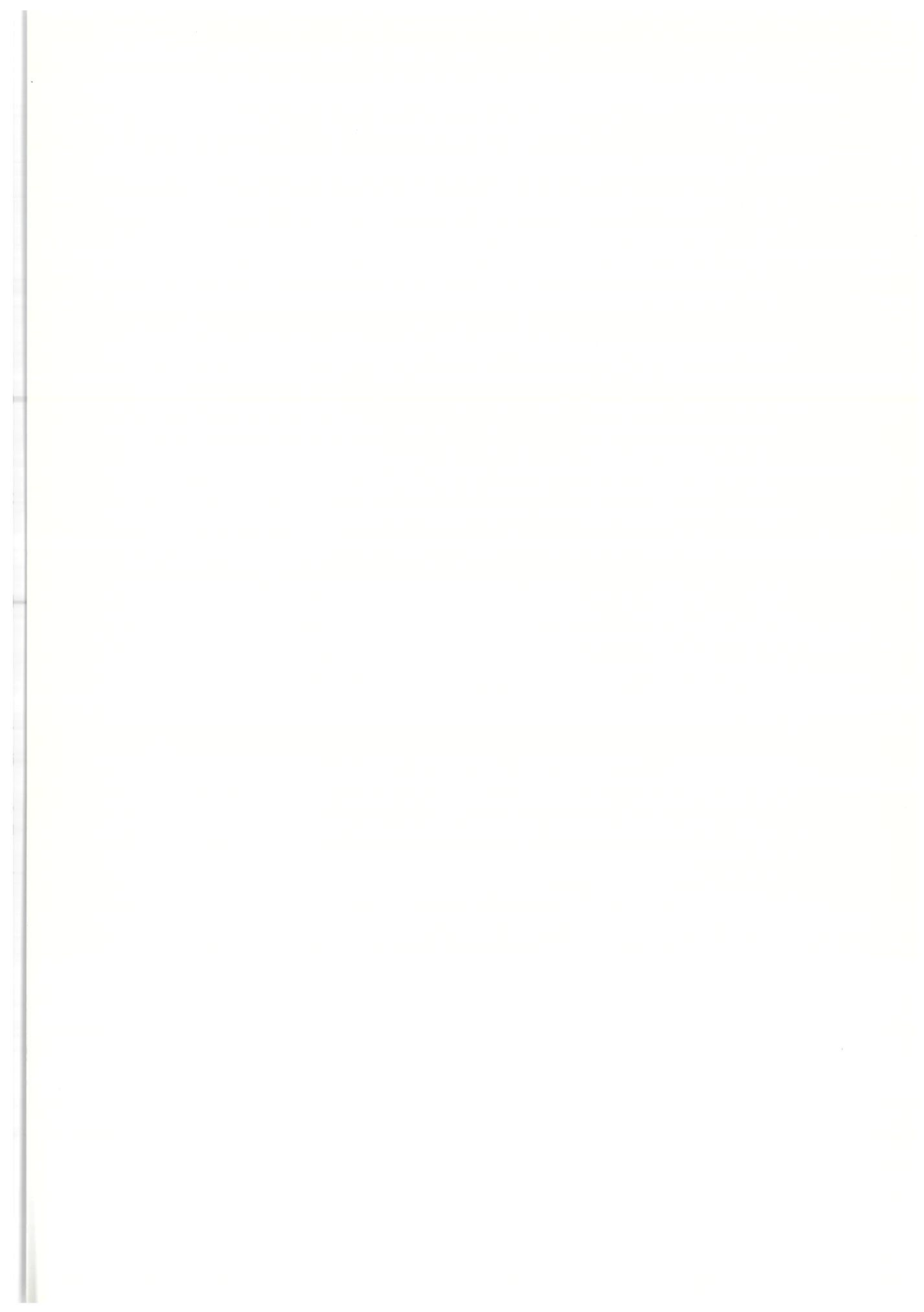
愛知県大府市

海陸庵古窯址群
神明古窯址群

～大府半月地区土地地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告書～

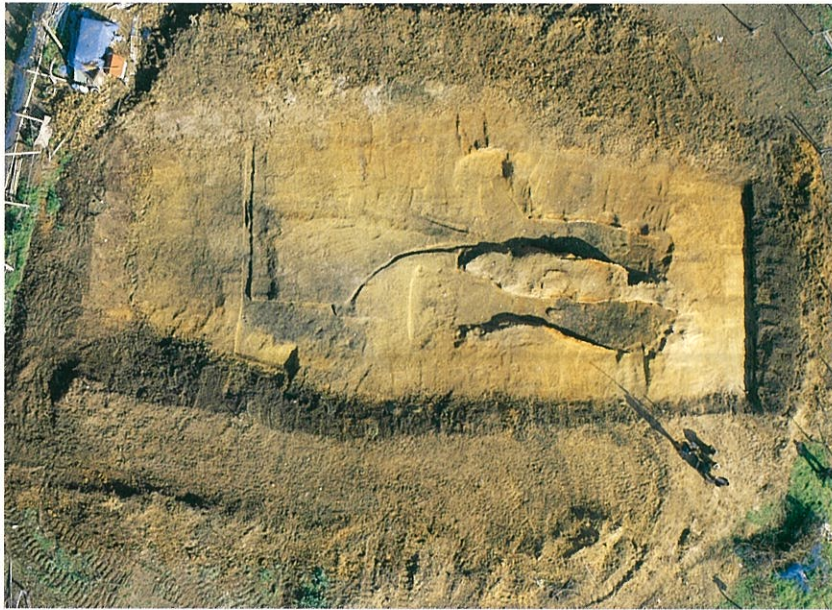
1996年

大府市教育委員会





神明古窯出土広口長頸瓶



海陸庵古窯全景（上が北東）



神明古窯全景（上が南西）

序

知多地方の丘陵地には瀬戸・猿投から続く多くの古窯址が有り、大府市にも、現在判明しているものだけでも、63箇所古窯が存在しています。

大府市は名古屋市の南に隣接した都市で、年々人口増加にともなう様々な開発事業が展開され、それに重なるように埋蔵文化財の発見も増えてきています。埋蔵文化財は歴史的にも文化的にも貴重な遺産で、それを後世に伝えていくことは我々の使命であると考えます。

本市では、今回の海陸庵古窯・神明古窯の発掘調査は、昭和52年のハンヤ古窯の調査以来のもので、本市の歴史を研究するのに多くの資料を得ることができました。調査は平成6年10月から開始し、平成7年5月に無事終了し、ここに発掘調査報告書として上梓することができました。

最後に、発掘調査を指揮された半月土地区画整理地内埋蔵文化財調査団団長立松宏氏（半田市立博物館館長）をはじめとする調査員の方々のご苦勞・ご協力に心から感謝いたします。また調査に際して、ご指導ご協力を賜りました愛知県教育委員会、大府市都市開発部区画整理課、発掘調査作業にご協力いただいた方々、この事業に対して、特別なご理解とご高配をいただきました地権者と地元大府半月特定土地区画整理組合の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成8年3月吉日

大府市教育委員会

教育長 浅田 勇

例 言

1. 本書は愛知県大府市吉田町海陸庵・神明地内に所在した海陸庵古窯・神明古窯の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は大府半月特定土地区画整理事業に伴う事前調査として、大府市教育委員会の委託を受けた半月土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査団が実施した。
3. 調査期間は、海陸庵古窯が平成6年10月19日から平成7年3月3日まで、神明古窯が平成7年3月14日から5月9日までであり、平成7年度内は報告書作成のための整理作業を実施した。
4. 調査体制は、調査団組織をとり、陣容は第1章第3節に明記した。
5. 調査にあたって愛知県教育委員会文化財課の指導を得たほか、大府半月特定土地区画整理組合および大府市都市開発部区画整理課のご協力を得た。
6. 発掘調査にあたり作業に参加された方々は以下のとおりである。五十音順、敬称略。

海陸庵古窯発掘作業

伴 善吉、福井義一（以上社団法人大府市シルバー人材センター）

秋田谷正夫、五十嵐誠三、佐藤常義、高橋養蔵、田中清治、村瀬信良、山華明雄（以上株式会社花井組）

神明古窯

加藤はりの、加藤よ志子、川上友市、鈴置小遊、田中すゑ子、田中礼子、伴 善吉、

深谷明義、福井義一、三嶋志づゑ（以上社団法人大府市シルバー人材センター）

佐藤常義、佐藤与一、高橋末五郎、村瀬信良（以上株式会社花井組）

7. 調査記録および出土遺物の整理をはじめ本書に係わることは以下が担当した。五十音順、敬称略。

遺物洗浄 相羽利一、有村美和子、内川ハツ、岡田かよ子、小島鈴子、竹内福江、
寺島かぎ、寺島トミ、深谷明義、深谷和子、深谷ときゑ、深谷ぬいこ
（以上社団法人大府市シルバー人材センター）

遺物注記 小川、小島美智子（資料館社会教育指導員）、柘植季代美（資料館臨時職員）、
深川（大府市歴史民俗資料館主任）、古田

遺物接合 小川、小島、近藤、柘植、遠山、古田

遺物実測 近藤、遠山、花田良一（日本福祉大学学生）、古田

トレース 小川、小島、近藤、遠山、古田

写真撮影 小川、深川

8. 本書の執筆分担は文末に記した。編集は立松の助言を得て、近藤と古田が行った。

9. 神明古窯での炭化材調査は小川に依頼し、太田唯之（愛知教育大学教授）・木方洋二（名古屋大学名誉教授）にご指導・ご助言を得、結果については第3章第4節に収録した。
10. 窯体の熱残留磁気測定を広岡公夫（富山大学理学部教授）に依頼し、結果については第4章に収録した。
11. 窯体および調査区の測量は愛知玉野情報システム株式会社に委託し、座標は国土座標第VII系に準拠する。
12. 発掘調査および報告書作成に当たって、下記の方々からご指導、ご教示を得た。五十音順、敬称略。
柴垣勇夫（愛知県陶磁資料館学芸課長）、中野晴久（常滑市民俗資料館）、吉村暁夫（大府市立大府中学校教諭）
13. 調査記録および出土遺物は大府市歴史民俗資料館で保管している。

目 次

第 1 章 調査概要

第 1 節 位置と地形	2
第 2 節 歴史的環境	3
第 3 節 発掘調査に至る経緯	6

第 2 章 海陸庵古窯址群

第 1 節 調査の経過	10
第 2 節 遺構について	11
第 3 節 遺物について	19
第 4 節 小結	33

第 3 章 神明古窯址群

第 1 節 調査の経過	36
第 2 節 遺構について	38
第 3 節 遺物について	48
第 4 節 出土炭化材の樹種同定	125
第 5 節 小結	134

第 4 章 考古地磁気測定について 137 |

第 5 章 総論 153 |

図版 海陸庵古窯址群 157 |

神明古窯址群 171 |

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図……………	2	第28図 神明第2号窯ピット出土遺物実測図	65
第2図 大府市遺跡分布図……………	4	第29図 神明第3号窯窯内出土遺物実測図…	66
第3図 調査前地形図(1)……………	7	第30図 神明第3号窯ピット出土遺物実測図	67
第4図 調査前地形図(2)……………	7	第31図 神明古窯前庭部出土遺物実測図……	68
第5図 海陸庵古窯発掘後地形図……………	14	第32図 神明古窯前庭部ベルト出土遺物実測 図(1)……………	69
第6図 海陸庵第1号窯窯体実測図……………	15	第33図 神明古窯前庭部ベルト出土遺物実測 図(2)……………	70
第7図 海陸庵第2号窯窯体実測図……………	16	第34図 神明古窯前庭部ベルト出土遺物実測 図(3)……………	71
第8図 海陸庵古窯灰原ピット図……………	17	第35図 神明古窯前庭部ベルト出土遺物実測 図(4)……………	72
第9図 海陸庵古窯セクションポイント図…	17	第36図 神明古窯灰原出土遺物実測図(1)……	73
第10図 海陸庵古窯灰原セクション図……………	18	第37図 神明古窯灰原出土遺物実測図(2)……	74
第11図 海陸庵古窯出土の碗類器形分類図…	20	第38図 神明第1号窯分焰柱内出土遺物実測 図……………	75
第12図 海陸庵古窯出土の皿類器形分類図…	20	第39図 神明第2号窯分焰柱内出土遺物実測 図……………	75
第13図 海陸庵古窯出土遺物実測図(1)……	23	第40図 神明古窯表採遺物実測図……………	75
第14図 海陸庵古窯出土遺物実測図(2)……	24	第41図 神明古窯出土広口長頸瓶実測図(1)…	76
第15図 海陸庵古窯出土遺物実測図(3)……	25	第42図 神明古窯出土広口長頸瓶実測図(2)…	77
第16図 神明古窯発掘後地形図……………	42	第43図 神明古窯出土広口長頸瓶実測図(3)…	78
第17図 神明第1号窯窯体実測図……………	43	第44図 神明古窯出土広口長頸瓶実測図(4)…	79
第18図 神明第2号窯窯体実測図……………	44	第45図 神明古窯出土広口長頸瓶実測図(5)…	80
第19図 神明第3号窯窯体実測図……………	45	第46図 古窯の配置と試料分布……………	126
第20図 神明古窯前庭部ベルト区割・セク ションポイント 図……………	46	第47図 アベマキ・ヌカメ材木口模式図……	128
第21図 神明古窯前庭部ベルトセクション図	47	第48図 西南日本の考古地磁気永年変化(広 岡、1977による)と、海陸庵1・2 号窯と神明1・2・3号窯の考古地 磁気測定結果……………	142
第22図 神明古窯出土の碗類器形分類図……	49		
第23図 神明古窯出土の皿類器形分類図……	50		
第24図 神明古窯出土の鉢類器形分類図……	51		
第25図 神明古窯出土の広口長頸瓶全体器形 分類図……………	61		
第26図 神明古窯出土の広口長頸瓶口縁端部 器形分類図……………	62		
第27図 神明第2号窯窯内出土遺物実測図…	64		

表 目 次

第1表	大府市遺跡名称表……………	5	第34表	神明古窯出土遺物観察表 碗(17)……	97
第2表	発掘調査に伴う法的手続き……………	8	第35表	神明古窯出土遺物観察表 碗(18)……	98
第3表	海陸庵古窯出土碗類体部と口縁部の 組み合わせ表……………	21	第36表	神明古窯出土遺物観察表 碗(19)……	99
第4表	海陸庵古窯出土碗類口縁端部分類表	21	第37表	神明古窯出土遺物観察表 碗(20)……	100
第5表	海陸庵古窯出土皿類体部と口縁端部 の組み合わせ表……………	22	第38表	神明古窯出土遺物観察表 碗(21)……	101
第6表	海陸庵古窯出土遺物観察表 碗(1)…	26	第39表	神明古窯出土遺物観察表 碗(22)……	102
第7表	海陸庵古窯出土遺物観察表 碗(2)…	27	第40表	神明古窯出土遺物観察表 碗(23)……	103
第8表	海陸庵古窯出土遺物観察表 碗(3)…	28	第41表	神明古窯出土遺物観察表 碗(24)……	104
第9表	海陸庵古窯出土遺物観察表 皿(1)…	29	第42表	神明古窯出土遺物観察表 玉縁状口 縁碗……………	104
第10表	海陸庵古窯出土遺物観察表 皿(2)…	30	第43表	神明古窯出土遺物観察表 皿(1)……	105
第11表	海陸庵古窯出土遺物観察表 皿(3)…	31	第44表	神明古窯出土遺物観察表 皿(2)……	106
第12表	海陸庵古窯出土遺物観察表 鉢……	32	第45表	神明古窯出土遺物観察表 皿(3)……	107
第13表	海陸庵古窯出土遺物観察表 陶錘…	32	第46表	神明古窯出土遺物観察表 皿(4)……	108
第14表	神明古窯前庭部等出土碗類の器形別 数量表……………	55	第47表	神明古窯出土遺物観察表 皿(5)……	109
第15表	神明古窯前庭部等出土皿類の器形別 数量表……………	56	第48表	神明古窯出土遺物観察表 皿(6)……	110
第16表	神明古窯出土広口長頸瓶法量表(平 均値)……………	63	第49表	神明古窯出土遺物観察表 皿(7)……	111
第17表	神明古窯出土広口長頸瓶口縁端部法 量表(平均値)……………	63	第50表	神明古窯出土遺物観察表 皿(8)……	112
第18表	神明古窯出土遺物観察表 碗(1)……	81	第51表	神明古窯出土遺物観察表 皿(9)……	113
第19表	神明古窯出土遺物観察表 碗(2)……	82	第52表	神明古窯出土遺物観察表 皿(10)……	114
第20表	神明古窯出土遺物観察表 碗(3)……	83	第53表	神明古窯出土遺物観察表 皿(11)……	115
第21表	神明古窯出土遺物観察表 碗(4)……	84	第54表	神明古窯出土遺物観察表 広口長頸 瓶(1)……………	116
第22表	神明古窯出土遺物観察表 碗(5)……	85	第55表	神明古窯出土遺物観察表 広口長頸 瓶(2)……………	118
第23表	神明古窯出土遺物観察表 碗(6)……	86	第56表	神明古窯出土遺物観察表 広口長頸 瓶(3)……………	120
第24表	神明古窯出土遺物観察表 碗(7)……	87	第57表	神明古窯出土遺物観察表 三筋壺…	122
第25表	神明古窯出土遺物観察表 碗(8)……	88	第58表	神明古窯出土遺物観察表 壺……	122
第26表	神明古窯出土遺物観察表 碗(9)……	89	第59表	神明古窯出土遺物観察表 土師質鍋	122
第27表	神明古窯出土遺物観察表 碗(10)……	90	第60表	神明古窯出土遺物観察表 鉢……	124
第28表	神明古窯出土遺物観察表 碗(11)……	91	第61表	試料採取場所・試料数・試料記号・ 種類……………	126
第29表	神明古窯出土遺物観察表 碗(12)……	92	第62表	出土炭化材樹種同定結果一覧表……	129
第30表	神明古窯出土遺物観察表 碗(13)……	93	第63表	大府市海陸庵・神明古窯群の採集 考古地磁気試料番号……………	143
第31表	神明古窯出土遺物観察表 碗(14)……	94	第64表	海陸庵1号窯のNRMの磁化測定 結果……………	143
第32表	神明古窯出土遺物観察表 碗(15)……	95			
第33表	神明古窯出土遺物観察表 碗(16)……	96			

第65表	海陸庵 1号窯の25Oe 消磁後の磁化測定結果	144
第66表	海陸庵 1号窯の50Oe 消磁後の磁化測定結果	144
第67表	海陸庵 2号窯の NRM の磁化測定結果	145
第68表	海陸庵 2号窯の25Oe 消磁後の磁化測定結果	145
第69表	海陸庵 2号窯の50Oe 消磁後の磁化測定結果	146
第70表	神明 1号窯の NRM の磁化測定結果	146
第71表	神明 1号窯の25Oe 消磁後の磁化測定結果	147
第72表	神明 1号窯の50Oe 消磁後の磁化測定結果	147

第73表	神明 2号窯の NRM の磁化測定結果	148
第74表	神明 2号窯の25Oe 消磁後の磁化測定結果	148
第75表	神明 2号窯の50Oe 消磁後の磁化測定結果	149
第76表	神明 3号窯の NRM の磁化測定結果	149
第77表	神明 3号窯の25Oe 消磁後の磁化測定結果	150
第78表	神明 3号窯の50Oe 消磁後の磁化測定結果	150
第79表	大府市海陸庵・神明古窯群の考古地磁気測定結果	151

図版目次

図版 1	海陸庵古窯 遺跡(1)	158
図版 2	海陸庵古窯 遺跡(2) 1号窯	159
図版 3	海陸庵古窯 遺跡(3) 2号窯	160
図版 4	海陸庵古窯 遺跡(4) 灰原	161
図版 5	海陸庵古窯 遺跡(5) 灰原	162
図版 6	海陸庵古窯出土遺物 碗(1)	163
図版 7	海陸庵古窯出土遺物 碗(2)	164
図版 8	海陸庵古窯出土遺物 碗(3)	165
図版 9	海陸庵古窯出土遺物 碗(4)	166
図版10	海陸庵古窯出土遺物 碗(5)	167
図版11	海陸庵古窯出土遺物 皿(1)	168
図版12	海陸庵古窯出土遺物 皿(2)	169
図版13	海陸庵古窯出土遺物 鉢 陶錘	170
図版14	神明古窯 遺跡(1)	172
図版15	神明古窯 遺跡(2)	173
図版16	神明古窯 遺跡(3) 1号窯	174
図版17	神明古窯 遺跡(4) 1号窯	175
図版18	神明古窯 遺跡(5) 2号窯	176
図版19	神明古窯 遺跡(6) 2号窯	177
図版20	神明古窯 遺跡(7) 3号窯	178
図版21	神明古窯 遺跡(8) 3号窯	179
図版22	神明古窯 遺跡(9) 遺物	180
図版23	神明古窯 遺跡(10) 遺物	181

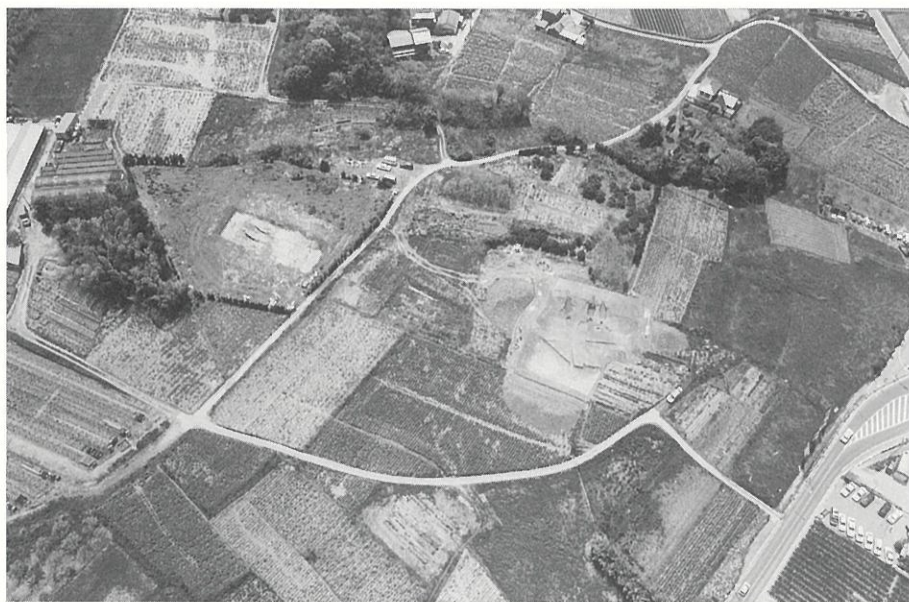
図版24	神明古窯 遺跡(11) ベルト	182
図版25	神明第 2号窯窯内出土遺物 碗(1)	183
図版26	神明第 2号窯窯内出土遺物 碗(2)皿(1)	184
図版27	神明第 2号窯窯内出土遺物 皿(2)鉢	185
図版28	神明第 2号窯窯内出土遺物 三筋壺 重ね焼 焼台	186
図版29	神明第 2号窯ピット出土遺物 碗(1)	187
図版30	神明第 2号窯ピット出土遺物 碗(2)	188
図版31	神明第 2号窯ピット出土遺物 碗(3) 皿	189
図版32	神明第 3号窯窯内出土遺物 碗(1)	190
図版33	神明第 3号窯窯内出土遺物 碗(2)皿	191
図版34	神明第 3号窯窯内出土遺物 土師質 鍋 重ね焼 焼台	192
図版35	神明第 3号窯ピット出土遺物 碗	193
図版36	神明第 3号窯ピット出土遺物 皿 鉢	194
図版37	神明古窯前庭部出土遺物 碗(1)皿(1)	195
図版38	神明古窯前庭部出土遺物 碗(2)皿(2)	196
図版39	神明古窯前庭部出土遺物 碗(3)皿(3)	197
図版40	神明古窯前庭部ベルト出土遺物 碗(1)	198

図版41	神明古窯前庭部ベルト出土遺物 碗 (2)……………	199	図版50	神明古窯前庭部ベルト出土遺物 鉢 (2)……………	208
図版42	神明古窯前庭部ベルト出土遺物 碗 (3)……………	200	図版51	神明古窯灰原出土遺物 碗(1)……………	209
図版43	神明古窯前庭部ベルト出土遺物 碗 (4)……………	201	図版52	神明古窯灰原出土遺物 碗(2)……………	210
図版44	神明古窯前庭部ベルト出土遺物 碗 (5)……………	202	図版53	神明古窯灰原出土遺物 皿……………	211
図版45	神明古窯前庭部ベルト出土遺物 碗 (6) 玉縁状口縁碗……………	203	図版54	神明古窯灰原出土遺物 鉢(1)……………	212
図版46	神明古窯前庭部ベルト出土遺物 皿 (1)……………	204	図版55	神明古窯灰原出土遺物 鉢(2) 壺…	213
図版47	神明古窯前庭部ベルト出土遺物 皿 (2)……………	205	図版56	神明第1号窯分焰柱内出土遺物 碗	214
図版48	神明古窯前庭部ベルト出土遺物 皿 (3) 重ね焼……………	206	図版57	神明古窯表採出土遺物 鉢……………	214
図版49	神明古窯前庭部ベルト出土遺物 鉢 (1)……………	207	図版58	神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(1)…	215
			図版59	神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(2)…	216
			図版60	神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(3)…	217
			図版61	神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(4)…	218
			図版62	神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(5)…	219
			図版63	神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(6)…	220
			図版64	神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(7)…	221
			図版65	神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(8)…	222
			図版66	神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(9)…	223

写真目次

写真1	七社神社社叢林と植生……………	125	写真3	走査型電子顕微鏡写真資料(2)……………	131
写真2	走査型電子顕微鏡写真資料(1)……………	130	写真4	走査型電子顕微鏡写真資料(3)……………	132

第1章 調査概要



海陸庵・神明両古窯址群全景（上が南東）

第1節 位置と地形

大府市は知多半島の基部に位置し、南西の端を頂点とする二等辺三角形の市域を形成する。面積は33.59km²である。市域は主に丘陵地から成るが、中央部には丘陵地を二分する北西—南東方向の低地があり、そこをJR東海道線が通っている。東部は尾張丘陵と総称される名古屋市の東部の丘陵につながっている。西部は大府丘陵と呼ばれている。これらの丘陵は北東—南西方向に標高を下げ、市域では丘陵の最も高いところで40～50mとなっている。このため大府丘陵の方がややなだらかな地形となっている。丘陵は常滑層群と呼ばれる地層からなり、礫層、砂層、シルト層から構成される。常滑累層は下部から上部にかけて構成粒子が大きくなり、上部層の表出している尾張丘陵では礫層が多く挟まるようになる。海陸庵・神明古窯址群は大府丘陵に立地している⁽¹⁾。

この両古窯址群は国道155号線に隣接しており、そこから海陸庵古窯址群は南側へ150m入った北西側に傾斜した斜面に、神明古窯址群は南側へ50m行った東側に傾斜した斜面に位置している。ともに北側に緩やかに傾斜した丘陵の畑地の一角を占めている。調査前には、海陸庵古窯址群では果樹園が営まれ、神明古窯址群では野菜等が栽培される農地であった。いずれも旧傾斜を生かした土地利用がされていたため、遺跡に与える影響はあまりなく、残存状況は良好だった。現在は土地区画整理事業による造成のため、大量の土砂が搬出され、平坦な土地へと変貌している。

註

(吉村、古田)

(1) 『大府市誌』資料篇 自然 3～18頁、(1988年刊、大府市役所)。



第1図 遺跡位置図 1：海陸庵古窯址群 2：神明古窯址群

第2節 歴史的環境

海陸庵古窯址群と神明古窯址群の両古窯は市の西部に位置し、市庁舎や JR 大府駅のある市中心から直線距離にして約2km の場所である。ここは前述したように西部丘陵の一角であるが、地形的には北に石ヶ瀬川にともなう平坦地に隣接し、北側に緩やかに傾斜した斜面に立地する。海陸庵古窯址群で標高30m、神明古窯址群で標高25m である。すぐ北には国道155号線が通る。

遺跡周辺では平安時代以前のはほとんど知られていない。弥生時代の土師器の高杯が1点採取された源吾遺跡が、古墳時代といわれる高山古墳が若干知られる程である。これに対して、窯業関係遺跡は数多く周辺に存在している。須恵器生産をした窯跡は知られていないが、平安時代に灰釉陶器を生産した野々宮古窯がある。この古窯は海陸庵・神明古窯址群から西方へ1.3km いった場所で熊野神社の東側に立地している。昭和47年に調査が実施され、窯本体は発見されなかったが、2か所の灰層から灰釉陶器が出土した⁽¹⁾。これ以外の古窯は山茶碗を主体とした平安時代末期から鎌倉時代にかけての山茶碗窯が散在している。

大府市では現在までに87か所の遺跡を確認しているが、そのうち63か所が窯業関連の遺跡で、7割強に及んでいる。遺跡分布図のように、市内にはほぼ全域に古窯が散在している。東部丘陵は西部丘陵と比較してその数は少ないが、市の北部で豊明市と接する地区に密集する傾向が見受けられる。また、西部丘陵では境川へ流れ込む石ヶ瀬川と鞍流瀬川に接する丘陵地にはかなりの数の古窯が密集している傾向が指摘できる。その数は31か所に及んでいる。前述の野々宮古窯以外は採取された破片から山茶碗窯と思われる。

市の西部で東海市に隣接する地区には昭和43と同44年に調査された吉田第1・2号窯が存在する。海陸庵・神明古窯址群から2.2km の地点で知多半島道路の大府インター西側に隣接するところである。この古窯は瓦を焼成した平安時代末期の窯で、東海市の社山古窯址・権現山古窯址と同時期である。吉田第1・2号窯の瓦は院政期に鳥羽上皇の発願による御願寺の安楽寿院（京都府）に使用されたことが確かめられている⁽²⁾。

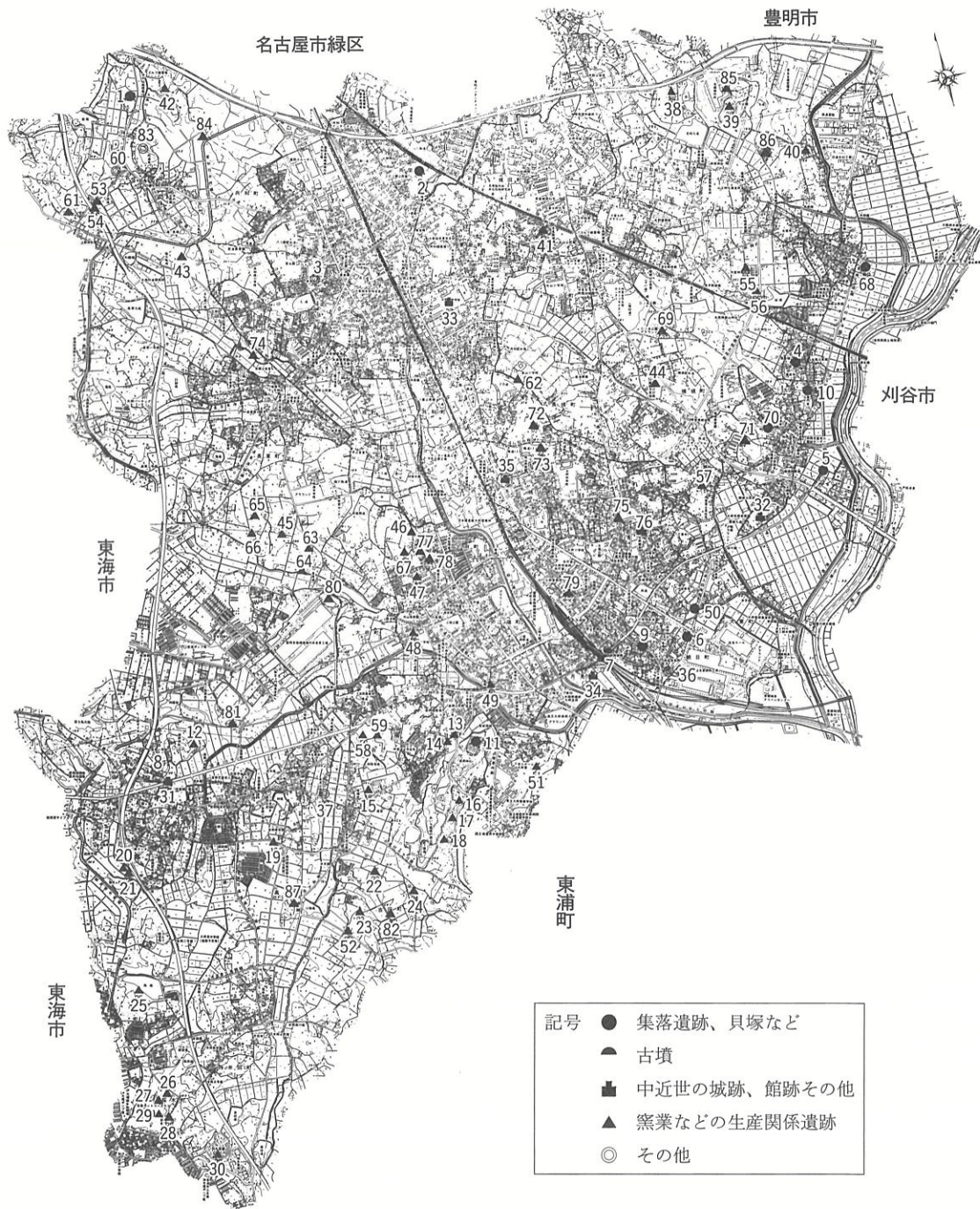
近年、丘陵地での開発が進行していることもあり古窯跡が発見されることも珍しくなくなっている。古窯跡が低丘陵地に築窯される事実とつきあわせると丘陵部の多い大府市では現在発見されているもの以外にも未発見の古窯がまだ眠っている可能性が大である。

(古田)

註

(1) 大府市教育委員会編『野々宮古窯発掘調査報告』(1975年刊)。

(2) 大府町教育委員会編『吉田第一号窯発掘調査報告書』(1969年刊)、大府市教育委員会編『吉田第二号窯発掘調査報告書』(1975年刊)。



第2図 大府市遺跡分布図

1	子安神社遺跡	31	吉川城跡	61	上入道古窯
2	共栄遺跡	32	横根城跡	62	長根山古窯
3	東光寺経塚	33	追分城跡	63	立根 B 古窯
4	賢聖院貝塚	34	石ヶ瀬古戦場跡	64	立根 C 古窯
5	惣作遺跡	35	大清水遺跡	65	立根 D 古窯
6	棧敷貝塚	36	おしも井戸跡	66	立根 E 古窯
7	高山古墳	37	芦沢井戸跡	67	深廻間 B 古窯
8	正官墳	38	福池古窯	68	西浜田遺跡
9	南島貝塚	39	大根古窯	69	二ツ池東古窯
10	石丸遺跡	40	高根山古窯	70	藤井宮御酒瓶子出土地
11	源吾遺跡	41	梶田古窯	71	平子古窯
12	野々宮古窯	42	別岨古窯	72	鴨池北古窯
13	森岡第 1 号窯	43	権兵衛池古窯	73	鴨池東古窯
14	森岡第 2 号窯	44	名高山古窯	74	下北山古窯
15	北向古窯	45	立根 A 古窯	75	川池西古窯
16	旧中部病院第 1 号窯	46	深廻間 A 古窯	76	石亀土古窯
17	旧中部病院第 2 号窯	47	柊山 A 古窯	77	柊山 B 古窯
18	旧中部病院第 3 号窯	48	石ヶ瀬古窯	78	柊山 C 古窯
19	ハンヤ古窯	49	江端古窯	79	雨兼池西古墳
20	吉田第 1 号窯	50	延命寺貝塚	80	山口古窯
21	吉田第 2 号窯	51	割木 A 古窯	81	大高山古窯
22	律粉古窯	52	東端古窯	82	籠染第 3 号窯
23	籠染第 1 号窯	53	才田 A 古窯	83	円通寺経塚
24	籠染第 2 号窯	54	才田 B 古窯	84	大廻間古窯
25	大日古窯	55	山手 A 古窯	85	みどり公園古窯
26	外輪第 1 号窯	56	山手 B 古窯	86	高根山西古窯
27	外輪第 2 号窯	57	羽根山古窯	87	口無池西古窯
28	外輪第 3 号窯	58	神明古窯 ★		
29	外輪第 4 号窯	59	海陸庵古窯 ☆		
30	骨田末古窯	60	円通寺古墓		

第 1 表 大府市遺跡名称表

第3節 発掘調査に至る経緯

海陸庵古窯・神明古窯の両古窯群は、歴史民俗資料館で実施している遺跡分布調査の過程で見された古窯である。両古窯群を含む大府市吉田町海陸庵と神明は土地区画整理事業が計画されていた土地で、開発事業に先立って1993年2月に現地踏査を実施した。この時に2カ所で数点の破片を採集し、窯跡が存在する可能性があるために、半田市立博物館館長立松宏氏に現地を確認してもらったところ、調査が必要だというコメントをもらった。その結果を遺跡分布図に掲載して周知の遺跡とするとともに、市都市開発部区画整理課へ通報し、この両遺跡の取扱について協議した。協議を経て、愛知県教育委員会に対して大府半月特定土地区画整理組合から遺跡の有無を照会した。その回答は、試掘調査を要するとのことだったので、1993年11月24日に市教育委員会は試掘調査を実施した。

試掘調査の概要は以下の通りである。

調査の方法は、2カ所の遺物散布地をそれぞれA地点・B地点として、そこを中心に斜面に沿って小型重機によるトレンチの掘削と、人力による坪堀で、遺構の確認作業をした。それと平行して地主に遺跡についての聞き取り調査も実施した。

A地点ではトレンチを1本入れた。この地点は果樹園に隣接する北西の畑地で、長さ15m幅2mのトレンチを入れ、炭化物と数点の遺物を採取した。ここでは灰原の拡がりを確認した。しかし、窯体の存在すると思われる場所は果樹園のため調査を断念した。

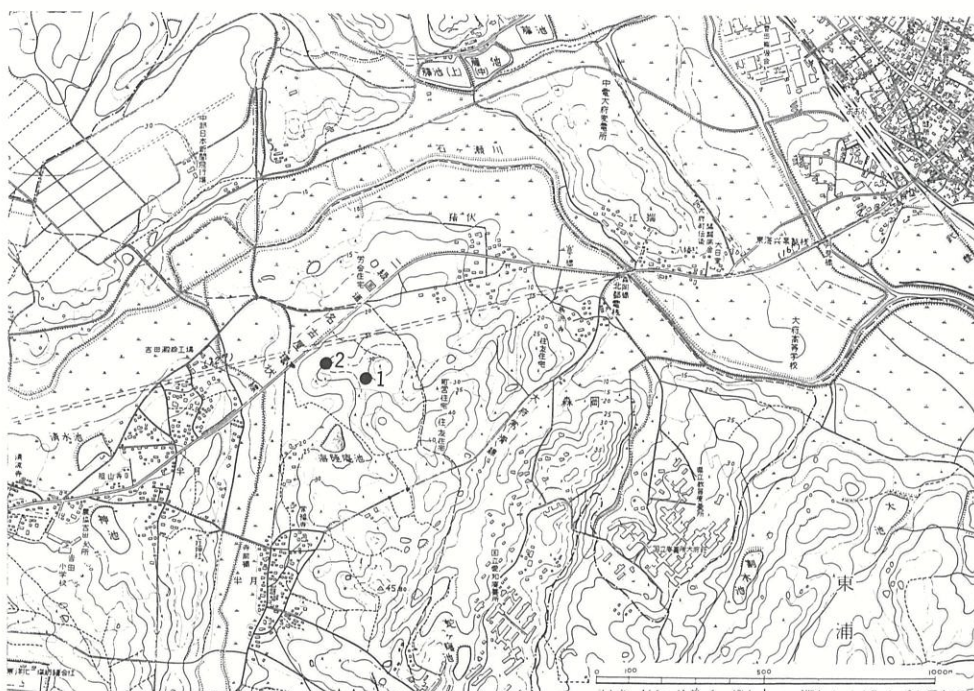
B地点では2本のトレンチを入れた。1本は畑の畦に沿って長さ5m・幅0.5mのもので大量の山茶碗片と焼台を発見するとともに、壁片も混ざっていた。2本目は1本目より南西側に上がった畑の中に設定したが、すぐに元山にぶっかり何も手がかりは得られなかった。窯体は検出できなかったが、大量の遺物から遺跡の残存する可能性が大と判断した。

調査の結果に基づき、A・B両地点に窯体の残存することが十分に考えられるので、A地点を海陸庵古窯と、B地点を神明古窯と命名し、市区画整理課と区画整理組合に協議した。窯跡の残存する可能性が高いので、記録保存のための発掘調査を工事開始前に実施することとし、平成6年度中に調査に着手することとなった。

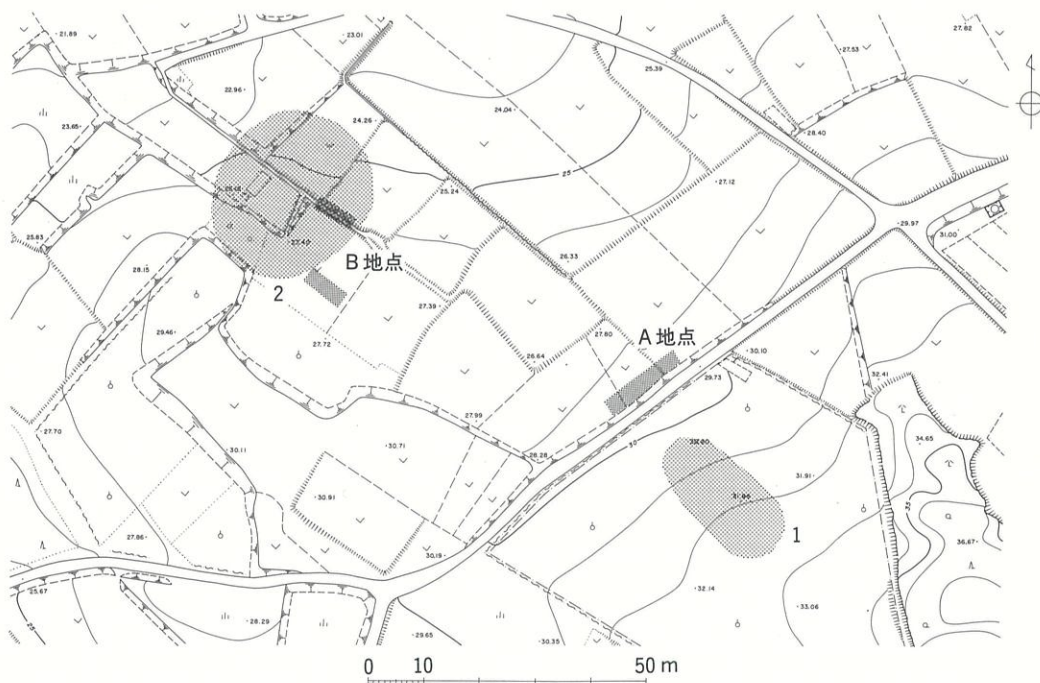
発掘調査の実施にあたっては、試掘調査を指導した半田市立博物館の立松宏氏に大府市教育委員会が委託し、立松氏を中心にして、半月土地区画整理地内遺跡調査団を結成し、平成6年10月19日から平成7年5月9日にかけて、両古窯の発掘調査を実施した。

調査団の陣容は以下の通りである。

(古田)



第3図 調査前地形図(1)〔昭和40年頃〕 1：海陸庵古窯址群 2：神明古窯址群



第4図 調査前地形図(2)〔平成7年3月頃〕 1：海陸庵古窯址群 2：神明古窯址群
 はトレンチ

半月土地区画整理地内遺跡調査団

調査団長	立松 宏	(半田市立博物館館長、日本考古学会協会会員)
調査主任	近藤 英正	(半田市立博物館学芸員兼大府市文化財研究員)
調査主任	山本 恭弘	(半田市立博物館学芸員兼大府市文化財研究員)
調査員	小川 雅康	(大府市歴史民俗資料館指導員)
調査員	遠山 光嗣	(新美南吉記念館学芸員)
調査団事務局	深谷 修平	(教育委員会生涯学習課大府市歴史民俗資料館館長)
調査団事務局兼調査員	古田 功治	(教育委員会生涯学習課大府市歴史民俗資料館主事)

市教育委員会事務局

教育長	浅田 勇	
教育部長	近藤 彊	
生涯学習課長	久野 孝保	
生涯学習課長補佐	藤井 政司	(図書館・歴史民俗資料館担当)

区分	大府半月特定土地区画整理組合	市教育委員会	県教育委員会	文化庁
有無の照会	共通 平成5年5月27日	共通 平成5年6月3日 大教生発第22号	共通 平成6年9月14日 5 教文第60-33号	
文化財保護法 第57条の2	共通 平成6年8月23日 第21号	共通 平成6年8月24日 大教生発第58号	共通 平成6年9月14日 6 教文第63-280号	
		共通 平成6年9月22日 大教生発第58号		
文化財保護法 第98条の2		海 平成6年9月22日 大教生発第58号	海 平成6年10月12日 6 教文第62-56号	海 平成7年6月12日 6 委保記第5-6267号
		神 平成7年3月7日 大教生発第58号	神 平成7年3月28日 7 教文第62-19号	神 平成7年6月12日 7 委保記第5-1207号
遺失物法第1 条		共通 平成7年5月18日 (東海警察署提出)		
埋蔵文化財保 管証		海 平成7年5月11日 大教生発第58号	海 平成7年7月27日 6 教文第62-56号	
		神 平成7年5月11日 大教生発第58号	神 平成7年8月22日 7 教文第62-19号	

第2表 発掘調査に伴う法的手続き

海：海陸庵古窯、神：神明古窯

第2章 海陸庵古窯址群



調査風景

第1節 調査の経過

調査日誌

- 平成6年10月19日 果樹施設の残る調査予定地で、窯跡の正確な位置を確認するために作業員と重機を投入して表土の除去を開始する。まず一基を発見する。
- 20日 前日と同様の作業を、最初に発見した窯跡の周辺にも実施したところ、もう一基を確認する。
- 21日 二基以外に窯跡が存在するかどうかを確認するために窯跡から南西方向へトレンチを設定したが発見にはいたらない。計2基の窯体が検出され、それぞれ1号窯・2号窯とする。午後は雨のため作業中止。
- 22日 窯内の掘削を始める。灰層の拡がりを確認するために調査区の西側で新しいトレンチを設定する。
- 23日 大府市文化財保護委員の見学。
- 24日 大府市文化財保護委員と同地区の区画整理組合理事の見学。中日新聞の取材。第1次の調査終了。
- 11月23日 果樹施設の撤去が完了し、約300m²の調査区を設定する。灰原及び前庭部の検出作業を始める。
- 24日 愛知玉野情報システム株式会社による地形測量作業開始。
- 25日 調査区の清掃。
- 26日 ラジコンヘリコプターによる空撮。遺構の写真撮影。愛知玉野情報システム株式会社による測量作業終了。
- 29日 引き続き灰原からの遺物採取。灰原からだ円状のピットを検出する。市教育委員会の幹部見学。
- 30日 調査区の保全作業を実施する。
- 平成7年1月10日 富山大学広岡教授による熱残留磁気測定 of 資料採取を実施。大府市議の見学。
- 2月24日 遺物の水洗作業開始。
- 3月2日 両窯の断ち割り作業。灰原からの遺物採取。
- 3日 断ち割り面の実測作業。現場での作業を終了。
- 9月19日 遺物の注記作業終了。
- 11月8日 市歴史民俗資料館にて報告書の作成を開始する。

(古田)

第2節 遺構について

本古窯址群は2基の窯体と灰原からなる古窯址群である。南東から北西にかけて、なだらかに傾斜する丘陵の砂層に築窯されている。窯体は2基とも山茶碗窯といわれる小規模な窖窯であるが、遺存状態はあまり良好とはいえない。窯体上半部及び灰原末端部が開墾のため消失している。

第1号窯

本窯は開墾によって焼成室上半部が削平されているが、焼成室の半分と分焰柱の基部・燃烧室・焼き口部は遺存している。窯体は焼き口を北西に向けて築窯されており、窯体の主軸方位はS-39°-E、標高30.7m~31.4mである。

焼き口から燃烧室までの遺存状態は良好である。側壁も左右両方とも焼き口まで残存しており、焼き口の幅は1.36m、燃烧室の幅は分焰柱基部で1.45m、燃烧室の長さは分焰柱基部まで1.2mである。燃烧室の床面傾斜は、焼き口から分焰柱に向かって3°の傾斜で緩く下降している。床面は赤褐色で、床面上面に炭化物や灰が堆積していた。側壁も左右とも赤褐色である。焼き口部からは左右ともに柱穴が検出された。柱穴は側壁の始まる部分の両側から見つかり、右側は直径約12cm、深さ約40cm、左側は直径約12cm、深さ約45cmで、ほぼ垂直になり、先は細くとがっていた。

分焰柱は基底部のみが残存していた。残存している高さは約6cm、57cm×68cmの楕円形を呈している。残存している分焰柱の上にも、燃烧室・焼成室同様、炭化物や灰が堆積していたが、取り除いたところ分焰柱の中心部にあたる部分は地山が顕れており、本来この分焰柱は地山掘り残しによって造られたものと思われる。分焰柱中央部での窯体の幅は、床面で1.75m、通焰孔の床面幅は左右とも同じで約59cmとなっている。

焼成室は上半部が削平されており、床面センターライン上で分焰柱基部から約3m、側壁部分では約3.9mが残存している。床面の幅は残存している部分の最も広いところで2.17mである。側壁は高いところで約85cmを残すのみである。床面の傾斜は分焰柱基部から約1mまでは10°、それ以降は約20°で上昇している。焼成室の床面もほぼ全面に炭化物や灰が薄く堆積していたが、それを取り除いたところ、床面は灰色を呈しよく焼き締っていた。床面を立ち割り調査したところ、灰色焼土層の下に約6cmの厚さで黒色炭化物層がほぼ全面に敷き詰められており、その下は地山である砂層となっていた。

窯体の残存長は約6m、床面・側壁とも補修痕は確認できなかった。

第2号窯

本窯は第1号窯の南西約2mに位置している。第1号窯同様、焼成室上半部が開墜によって削平されている以外は、焚き口まで遺存している。窯体は焚き口を北西に向けて築窯されており、窯体の主軸方位はS-40°-Eで、第1号窯とほぼ平行に築窯されている。標高は30.9m~32.3mで、焚き口で約20cm本窯の方が高くなっている。

焚き口から燃焼室までの遺存状態は良好である。側壁も左右両方とも焚き口まで残存しており、焚き口の幅は95cm、燃焼室の幅は分焰柱基部で1.48m、燃焼室の長さは分焰柱基部まで1.55mである。燃焼室の床面傾斜はなく、焚き口からほぼ水平に分焰柱まで続いている。燃焼室左側壁から削り込み部分が検出された。焚き口から約85cm奥で、床面から約30cmの高さの部分に、幅5cm、長さ約15cmの削り込み部分がある。側壁は左右とも赤褐色を呈しているが、この削り込まれた部分も同様に赤褐色を呈しており、このため焼成後に作られたものではなく、焼成前か焼成中に作られたものと思われる。

分焰柱は基底部のみが残存しており、52cm×75cmの楕円形を呈している。第1号窯と同様に、分焰柱基底部の上にも炭化物や灰が堆積しており、取り除いたところ分焰柱の中心部にあたる部分は地山が顕れており、本来この分焰柱は地山掘り残しによって造られたものと思われる。分焰柱中央部での窯体の幅は床面で1.68m、通焰孔の床面幅は左右ともほぼ同じで約58cmとなっている。

焼成室は上半部が削平されており、床面センターライン上で分焰柱基部から約4.6m、側壁部分では約5.2mが残存している。床面の幅は残存している部分の最も広いところで2.65mである。側壁は高いところで約90cmを残すのみである。床面の傾斜は分焰柱基部から70cmまではほぼ水平、そこから約80cmまでは5°で、それ以降約18°~20°で上昇している。第1号窯同様、本窯も炭化物や灰の層が床面全体に薄く堆積しており、その下に灰色によく焼き締った床面がある。立ち割り調査をしたところ、灰色焼土の下に赤褐色焼土層・黄色焼土層・黒色炭化物層・灰色粘土層がそれぞれ約2cm・3cm・2cm・4cm・1cmの厚さで続き、その下は地山である砂層となっていた。また分焰柱中央部より約1m奥、左側壁沿いの床面下より山茶碗の破片が6点(1個体分)検出された。これは黄色焼土層の下に敷かれていたもので、他からは検出されなかった。

窯体の残存長は約7.2m、床面・側壁とも補修痕は確認できなかった。

前庭部・灰原

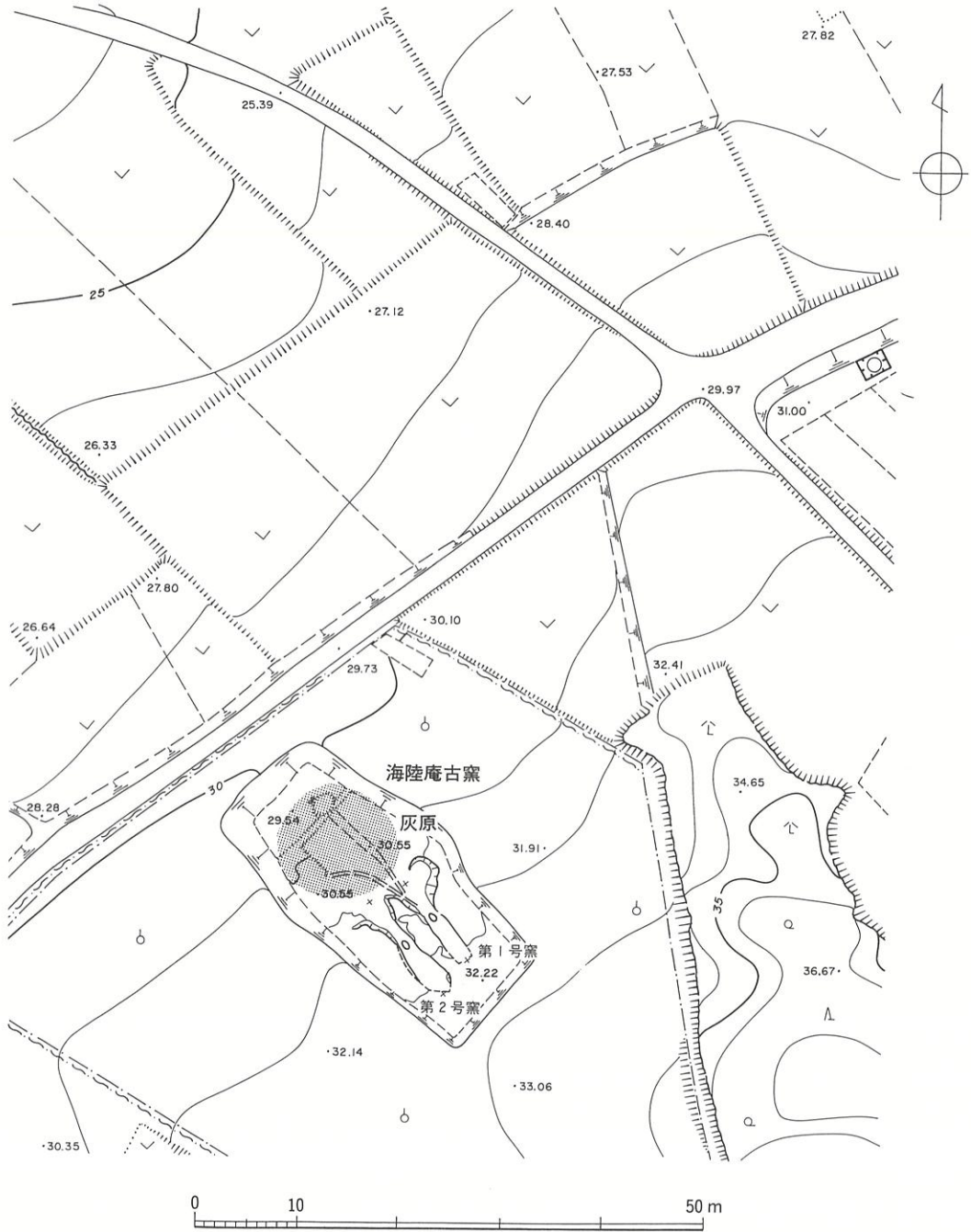
前庭部の遺存状態は極めて良好である。築窯前の掘り込み面が、第2号窯では左右両方、第1号窯では右側面で残存している。第2号窯では焚き口から約60cmの地点から緩く開きながら続き、右側面で焚き口から約2.6m、左側面では約3.3mの地点で大きく開いていく。特に左側面は第1号窯の右側面と合流している。第1号窯の左側面は、焚き口からすぐに大きな楕円形のピツ

トに続いている。このピットからは、大量の遺物が出土しているが、ほとんどが不良品であった。第1号窯では、ピットの他に溝が2本検出された。1本は焚き口右側部分から掘り込み面に沿って、幅15cm、深さ5cmの溝が長さ7mにわたって緩くカーブしながら灰原へと続いている。溝内からは、炭化物や灰に混入した陶錘の他、山茶碗・山皿の破片が若干出土したのみである。1本の溝は、焚き口から約1m、やや右寄りの地点から始まり、第1号窯窯体主軸方向に沿って、灰原左側へと続いている。幅は約15cm、深さは3cm程度と浅く、長さも約2mを過ぎるあたりからは、幅も広く浅くなって、やがて消滅していく。第2号窯の前庭部からは、ピット等特に検出されなかった。

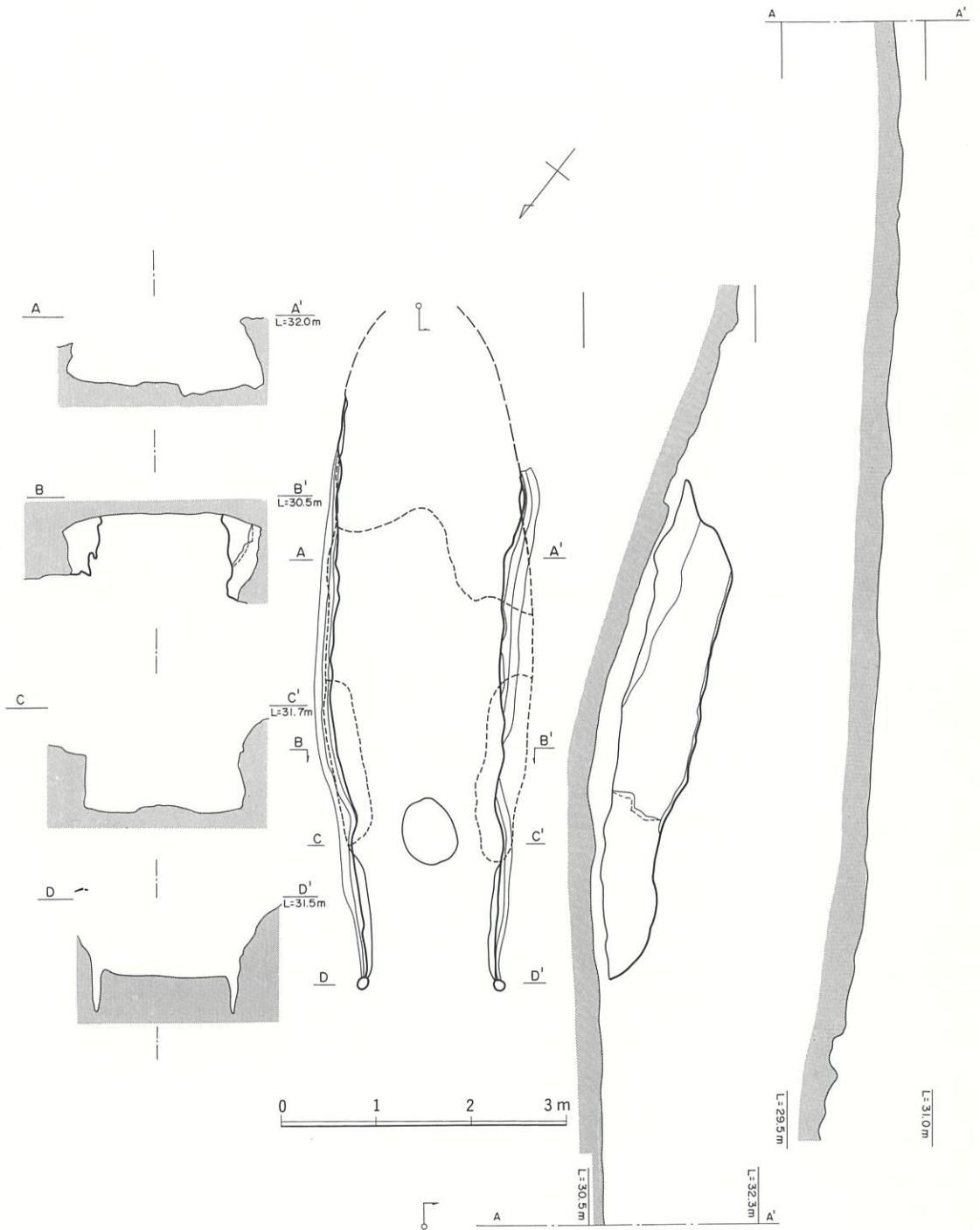
灰原は末端部が開墾のために削平されていたため、残存する広さは前庭部と合わせて幅約9m、長さ約15mである。前庭部から灰原にかけての傾斜は非常に緩やかである。焚き口から約4mの地点までは5cm程度上昇し、そこから3mまでは約10cm下降する。さらに約8mの地点まで80cm下降するのみである。標高は29.8m～30.7mである。灰原部の地形が非常に緩やかであるために、堆積した灰層も薄く、遺物も少量しか出土しなかった。

灰原部の残存部のほぼ末端近く、北東寄りの地点からピットが検出された。このピットは1.2m×2.6mの楕円形で、深さは約15cm、底部は1m×2.4mの楕円形でほぼフラットになっている。またこのピットの北西側から、ピットに接するように4つの杭痕が検出された。この4つの杭痕は直径8～15cmのほぼ円形で、垂直になるものと、斜に入り込むものがあった。また、内部には炭化した木材が残存しているものもあった。

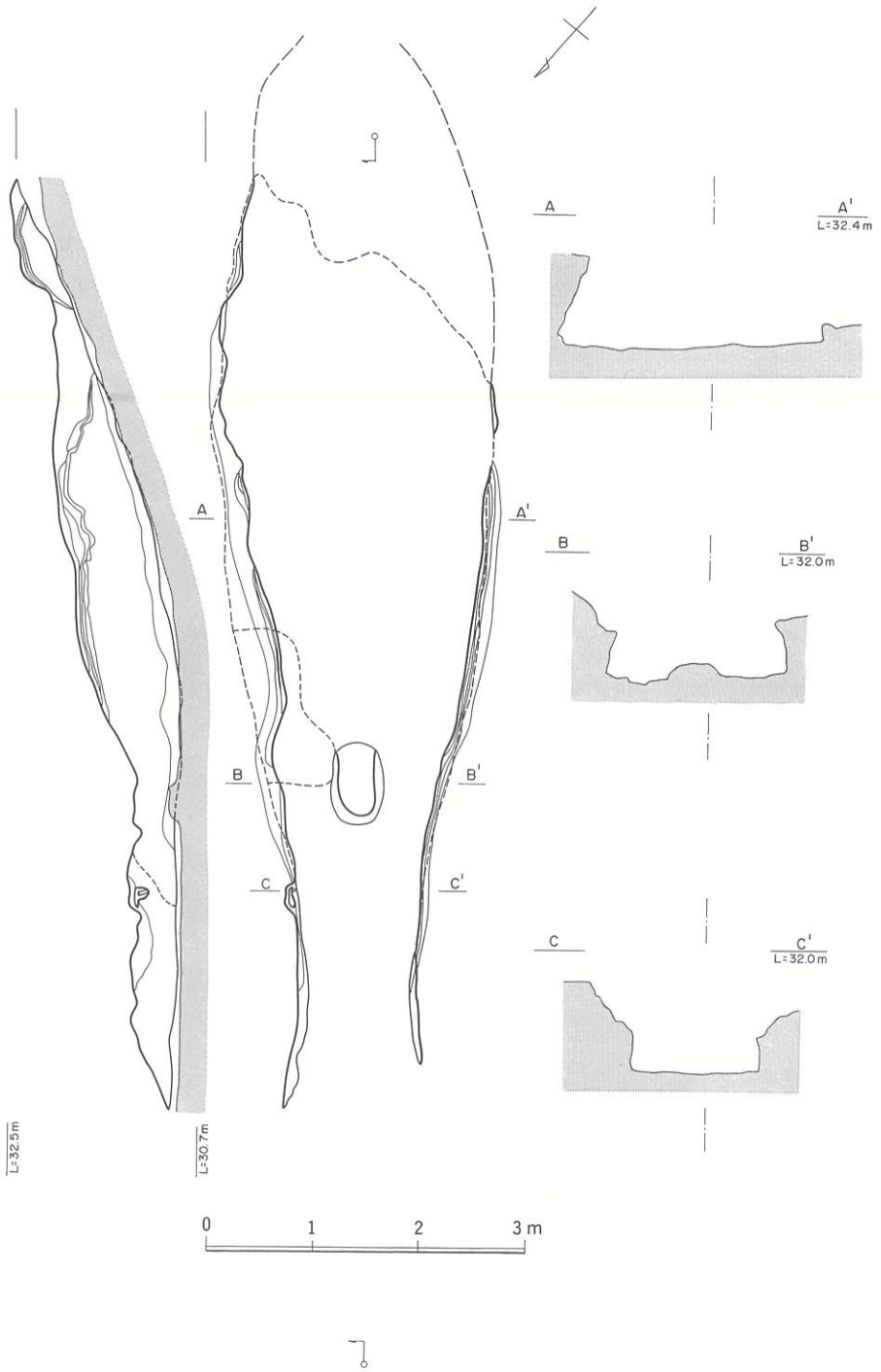
(近藤)



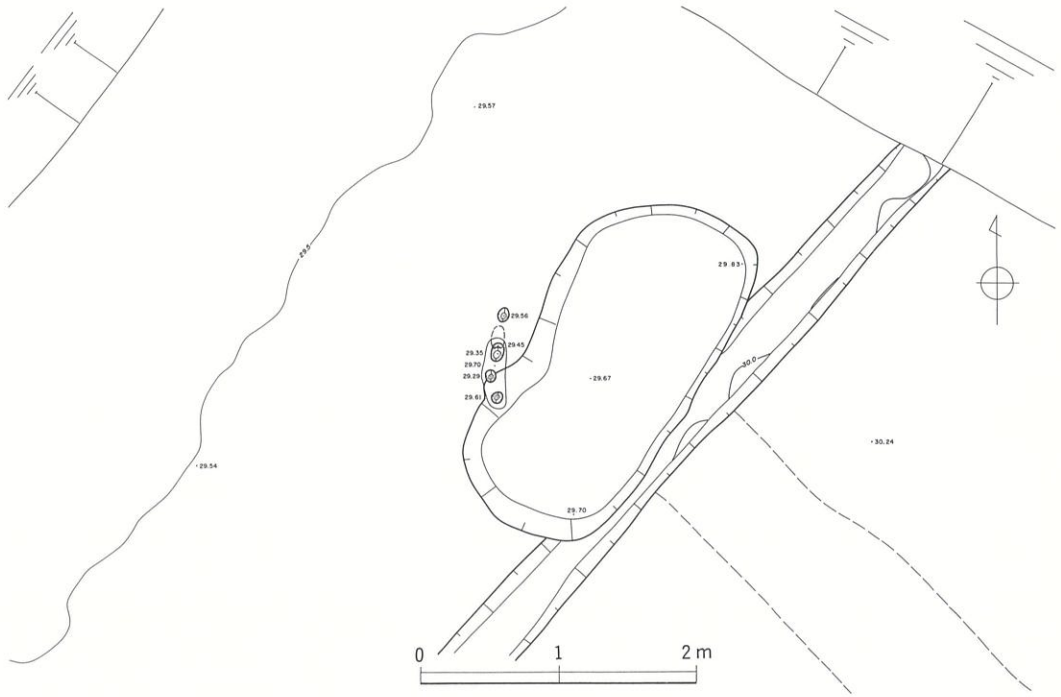
第5図 海陸庵古窯発掘後地形図



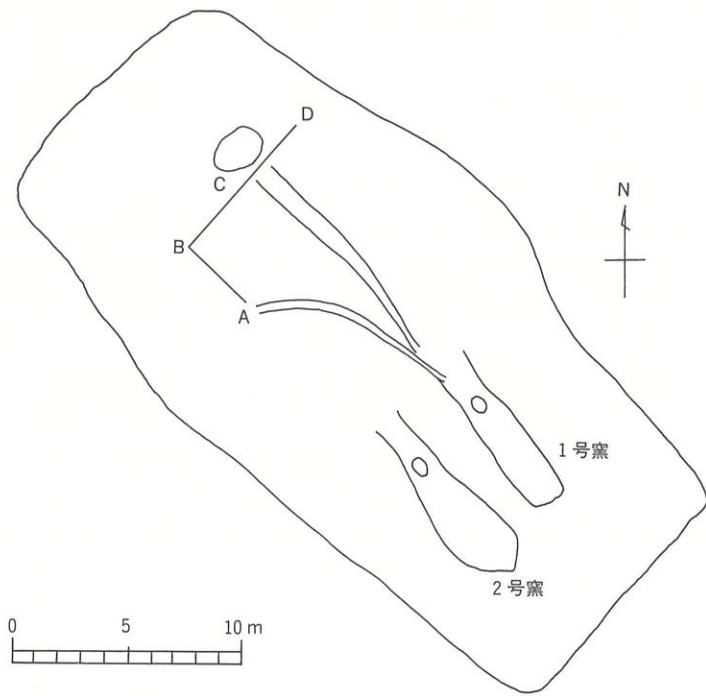
第 6 图 海陸庵第 1 号窠窠体实测图



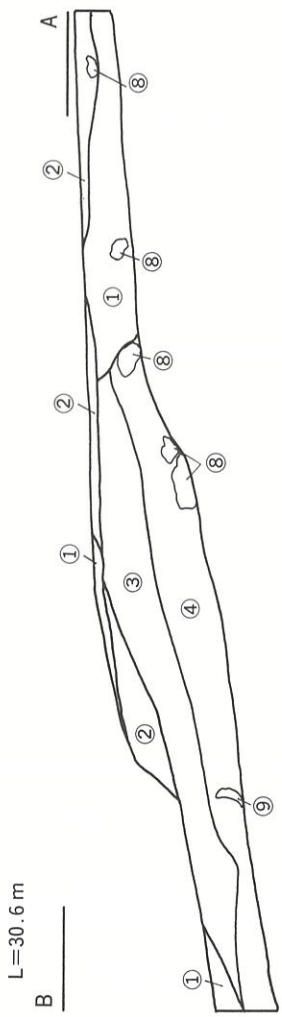
第7图 海陸庵第2号窟窠体实测图



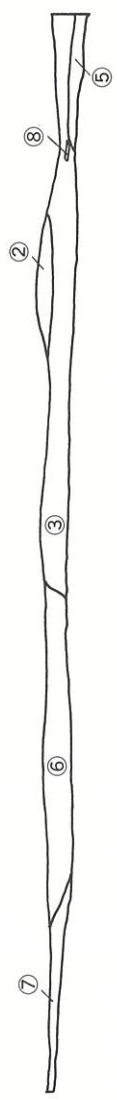
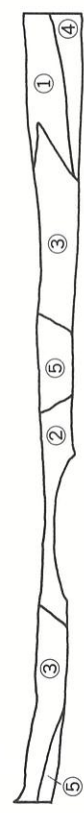
第8図 海陸庵古窯灰原ピット図



第9図 海陸庵古窯セクションポイント図



①	黄褐色粘質砂層
②	黒色灰層
③	黒灰色砂層 (焼台混入)
④	黒色灰層 (遺物混入)
⑤	黒褐色粘質砂層
⑥	黄灰色粘質砂層
⑦	赤褐色粘質砂層
⑧	焼台・壁
⑨	山茶碗



第10図 海陸庵古窯灰原セクション図

第3節 遺物について

海陸庵古窯の発掘で出土した遺物は土嚢袋で約40袋である。出土品の種類は碗、皿、鉢、陶錘、焼台である。碗、皿は口径・底径・器高のいずれも測定可能なものを1個体としてカウントした。なお、鉢、陶錘は出土点数が少ないのですべてをカウントした。このうち出土遺物の主体をなす碗と皿についてはあらかじめ分類を行った。

1. 器形分類について

(1) 碗

碗は、その形態を体部、口縁部、口縁端部のそれぞれで分類した。

体部

A類 ほぼ直線的に立ち上がるもの

B類 丸みをもって立ち上がるもの

口縁部

a 体部からの流れに沿い、変化のほとんどないもの

b 外に広がるもの

c 外に反り返るもの

口縁端部

1 内外面からナデられ、丸くなっているもの

2 外面から内面に向かってナデられ、体部傾斜に斜交もしくは直交する端面を持つもの

3 体部傾斜に斜交する端面に、細い沈線をつくるもの

4 外面から内面に向かってナデ上げ、上向きに細い突帯をつくるもの

(2) 皿

皿は、その形態を体部と口縁端部とにより分類した。

体部

A類 ほぼ直線的に立ち上がり、そのまま口縁に至るもの

B類 丸みをもって立ち上がり、そのまま口縁に至るもの

C類 丸みをもって立ち上がり、口縁付近が開くもの

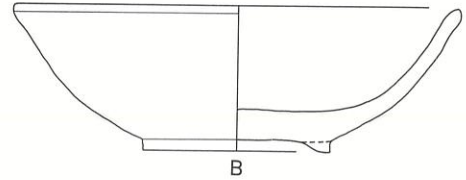
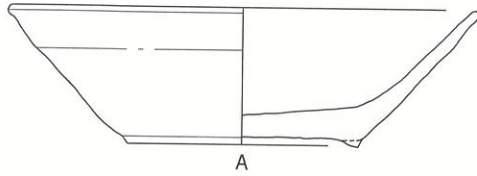
D類 外反しながら立ち上がり、口縁付近が肥厚しているもの

E類 丸みをもって立ち上がり、口縁付近が肥厚しているもの

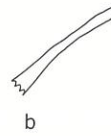
口縁端部

- 1 内外面からナデられ、丸くなっているもの
- 2 外面から内面に向かってナデられ、体部傾斜に斜交もしくは直交する端面を持つもの
- 3 内面から外面に向かってナデられ、上向きの広い平坦面を持つもの

体部



口縁部

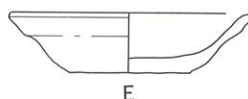
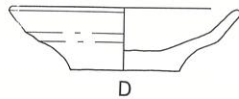
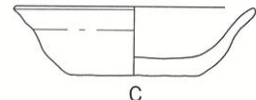
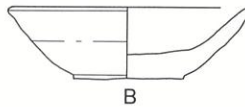
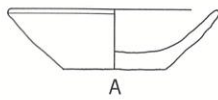


口縁端部



第11図 海陸庵古窯出土の碗類器形分類図

体部



口縁端部



第12図 海陸庵古窯出土の皿類器形分類図

2. 出土遺物について

本古窯址群の出土遺物は、計測可能なもので碗124個体、皿142個体、鉢2個体、陶錘5個体である。しかし、1号窯、2号窯とも焼成室からの出土はなく、燃焼室からの出土が数点見られるほかは、ほとんどが前庭部もしくは灰原からの出土である。また、灰層がはっきりと分かれていないため、灰原からの出土遺物も、どちらの窯で焼成されたものであるか判別することは困難である。したがって、本節では出土地区別ではなく一括してこれを取り扱うことにする。

(1) 碗 (挿図 第13図1~30、第14図31~60)

碗は計測可能なものが124個体で、そのうち60個体を図示した。

口径14.0~17.9 (平均15.9) cm、底径5.2~9.0 (平均7.1) cm、器高4.0~6.0 (平均5.0) cmで、胎土に砂質分が多く粗い器肌のものが多い。色調は灰白色を呈するものが多いが、灰黒色のものもあり、ほぼ半数の個体に自然釉がかかる。剝離したものを除いて、すべて付け高台を持ち、ほとんどの高台底辺に靱痕が認められる。

分類の内訳は下表の通りである。

	a	b	c	計
A	19	15	1	35
B	16	50	23	89
計	35	65	24	124

第3表 海陸庵古窯出土碗類体部と口縁部の組み合わせ表

形態	1	2	3	4	計
個数	19	84	20	1	124

第4表 海陸庵古窯出土碗類口縁端部分類表

体部の形態ではB類が72%を占め、口縁部の形態ではbが53%と過半数を占める。口縁端部については2が68%で、残りを2と3がほぼ同数で分ける。3の特徴である沈線の形状は各個体で少しずつ異なり、中には6 (第13図) のように口縁端部の両角から沈線を入れるようにして中央を細い突帯状に残す個体もある。また、口縁端部を外側から内側に向かってナデ上げ、上向きに細い突帯をつくる60 (第14図) は、一例のみであるが4として区別した。

体部・口縁部と口縁端部の組み合わせに特に傾向は見られないが、全体の組み合わせでは、B b 2のタイプが全体の29%を占めて最も多い。

(2) 皿 (挿図 第15図61~110)

皿は計測可能なものが142個体で、そのうち40個体を図示した。口径6.8~9.0(平均7.9) cm、底径2.8~5.1(平均3.7) cm、器高1.6~2.5(平均2.1) cmで、全体的にかなり小振りである。高台を持つものは皆無で、底径には糸切り痕を残すものが多いが、板目を残すもの、ナデを施したものも見られる。胎土は碗と同様に砂質分が多い。

分類の内訳は下表の通りである。

	A	B	C	D	E	計
1	2	4	5	8	8	27
2	11	12	11	45	30	109
3	0	1	1	2	2	6
計	13	17	17	55	40	142

第5表 海陸庵古窯出土皿類体部と口縁端部の組み合わせ表

体部では共に口縁付近が肥厚するD類とE類が多く、併せて全体の67%を占める。口縁端部については2が圧倒的に多いが、上向きの広い平坦面を持つ特異な形状の3(第15図78・96・97・109・110)も6個体見られる。

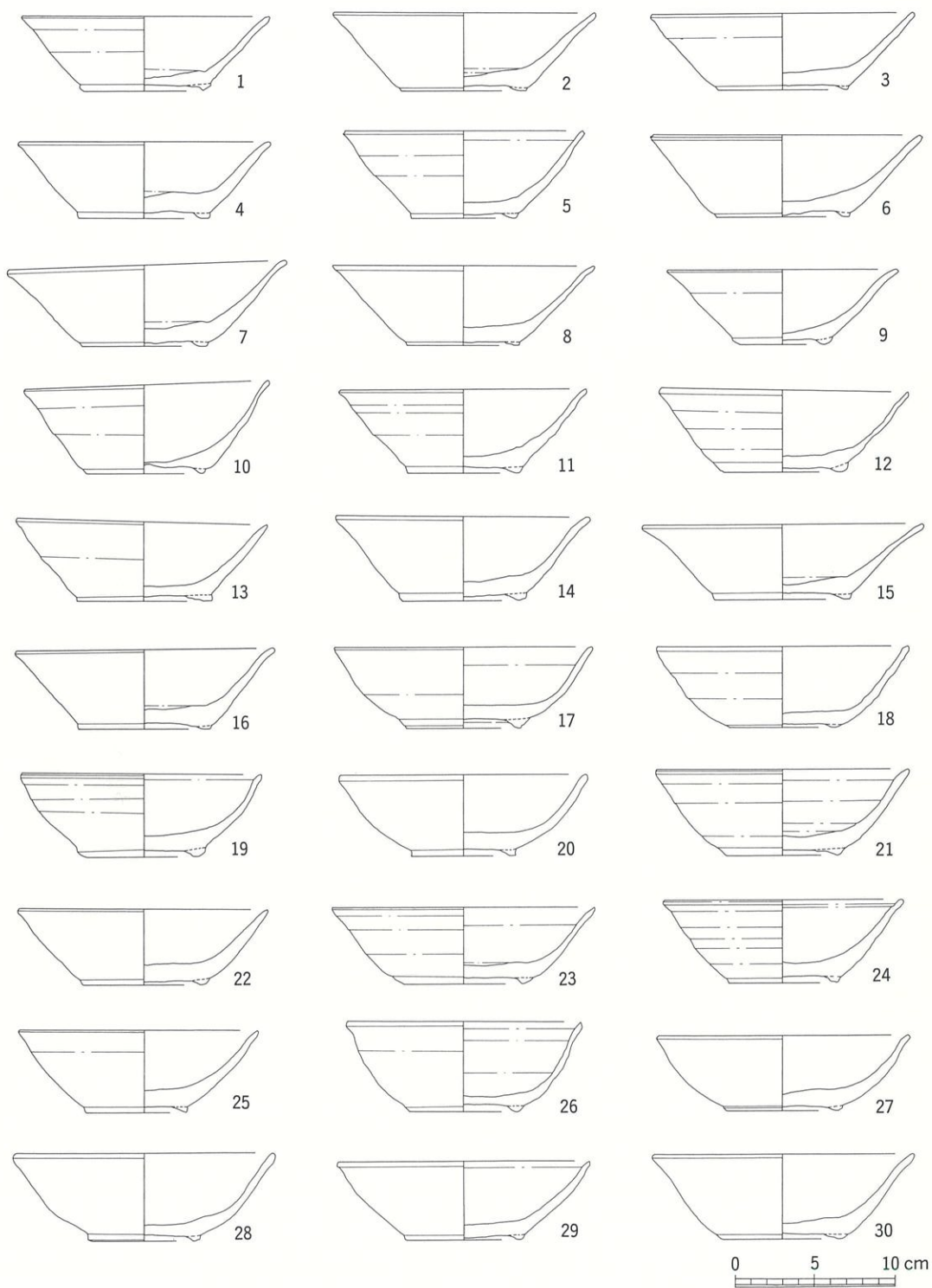
(3) 鉢 (挿図 第15図111~112)

1号窯前庭部から3個体、灰原から1個体が出土した。付け高台が剝離しているものの全体を復元できる111以外は、すべて断片資料であるが、112と鉢の3(第12表)には丁寧な作りの付け高台が残る。いずれも色調は灰白色を呈し、胎土は良好である。

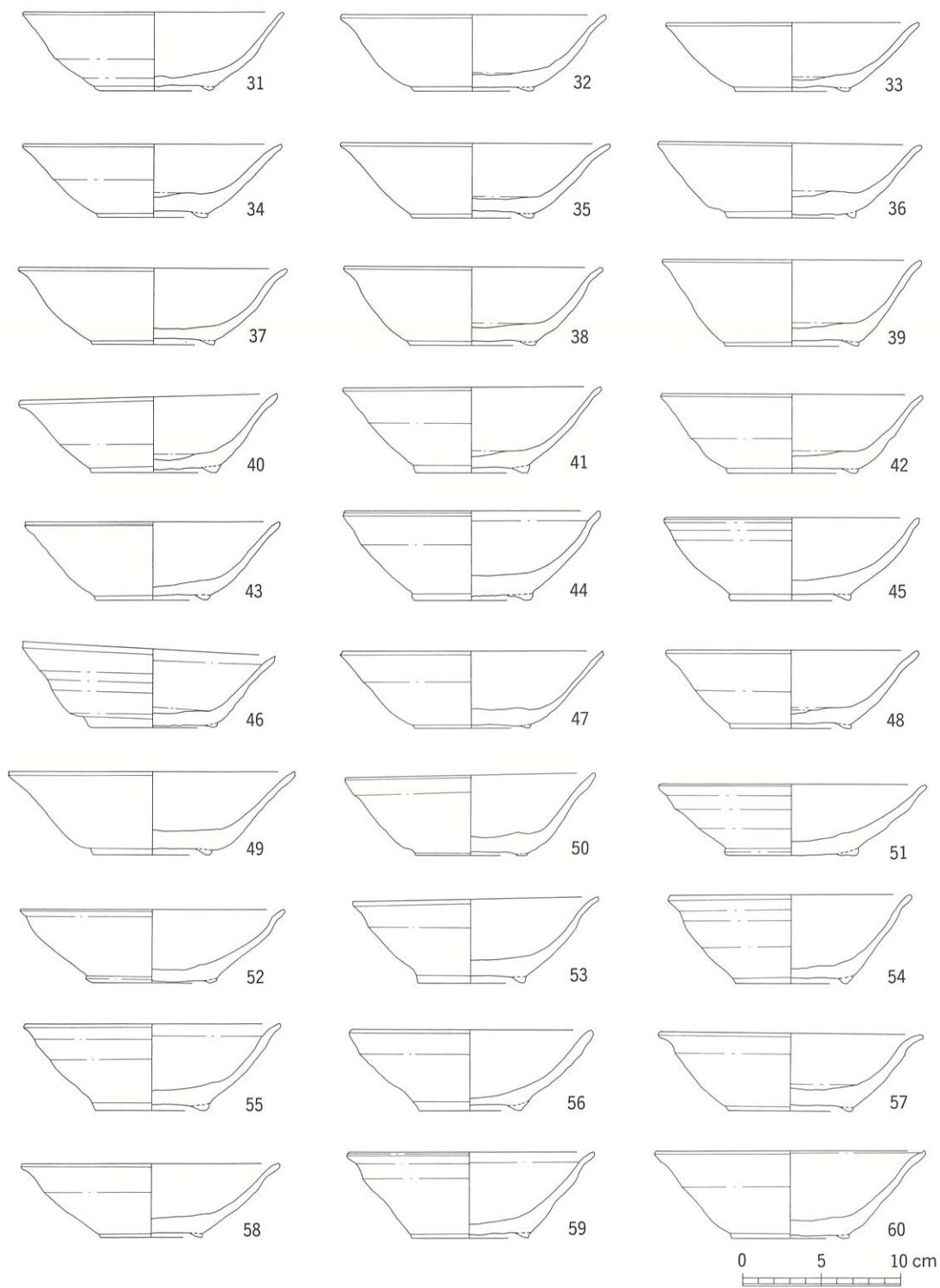
(4) 陶錘 (挿図 第15図113~117)

1号窯前庭部から4個体、1号窯前庭部溝状ピットから1個体が出土した。いずれも外形はほぼ等幅の円柱状を呈し、小口は平らに調整されている。115と117には表面に指痕が認められる。どれも焼けが甘く軟質で、色調は焼成時に炎にあたった面とあたらなかった面で、白色と赤褐色の色むらが顕著に現れている。完形品はなく、どの個体も孔に近い部分を残して表面が剝離したような状態でその一部が欠損している。

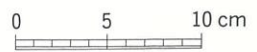
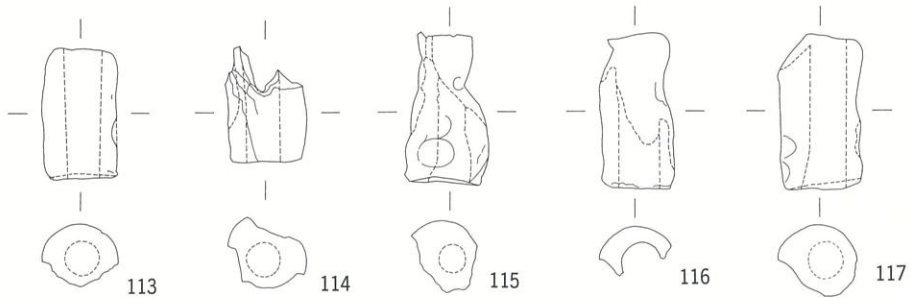
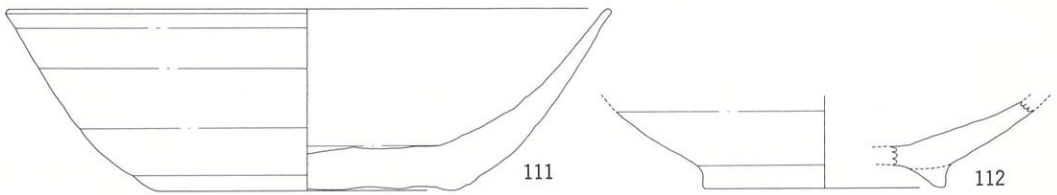
(遠山)



第13図 海陸庵古窯出土遺物実測図(1)



第14図 海陸庵古窯出土遺物実測図(2)



第15図 海陸庵古窯出土遺物実測図(3)

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	備 考
							口 径	高台径	器 高		
1	14-51	10-43	Bc2	1号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.8)	8.1	4.5	有	
2	14-50	10-42	Bc1	1号窯燃焼室	靱跡	—	15.6	7.0	5.0	有	
3	13-17	7-14	Ba1	1号窯溝状ピット内	靱跡	糸切り	(16.2)	7.1	5.1	有	
4	14-52	10-44	Bc2	1号窯燃焼室	靱跡	板目	(16.5)	7.3	4.6	有	
5	13-9		Ab2	1号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(14.5)	(5.2)	4.6	有	
6	14-59	10-49	Bc3	1号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(15.4)	7.3	5.4	有	
7			Ab2	1号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.8)	6.8	4.9	有	
8			Bc2	1号窯燃焼室	靱跡	糸切り・板目	(17.1)	7.0	4.9	有	
9	13-5	6-5	Aa3	1号窯溝状ピット内	靱跡	糸切り	15.1	6.6	5.5	有	口唇部にミゾ
10	14-43	9-36	Bb3	1号窯溝状ピット内	靱跡	—	(15.9)	7.0	4.9	有	口唇部にミゾ、接合
11			Aa2	1号窯溝状ピット内	靱跡	糸切り	(16.5)	(8.6)	4.7	有	
12	14-53	10-45	Bc2	1号窯前庭部左ピット	靱跡	—	15.3	6.6	5.2	有	
13			Bc2	1号窯前庭部左ピット	靱跡	糸切り	(15.3)	7.0	5.4	有	
14	13-8		Ab1	1号窯前庭部左ピット内	靱跡	糸切り	(16.3)	7.0	5.0	有	
15	13-10	6-8	Ab1	1号窯前庭部左ピット内	靱跡	—	15.3	7.2	5.5	有	生焼け、接合
16	13-25		Bb2	1号窯前庭部左ピット内	靱跡	—	(15.0)	6.2	5.2	有	
17	13-18		Ba2	1号窯前庭部	靱跡	糸切り	(15.7)	6.7	5.2	有	
18	13-11		Ab2	1号窯前庭部	靱跡	糸切り	(15.5)	7.0	5.2	有	
19	13-12	6-9	Ab2	1号窯前庭部	靱跡	—	15.5	7.4	5.1	有	
20	13-26	8-21	Bb2	1号窯前庭部	靱跡	糸切り	(14.7)	6.8	5.6	有	
21	14-54	10-46	Bc2	1号窯前庭部	靱跡	糸切り	15.3	7.0	5.5	有	
22			Bc2	1号窯前庭部	靱跡	—	(15.3)	6.8	5.3	有	
23			Bb2	1号窯前庭部	靱跡	—	(16.0)	7.4	4.8	有	
24			Bb2	1号窯前庭部	靱跡	ナデ	(16.1)	7.3	5.2	有	
25			Bb2	1号窯前庭部	靱跡	ナデ	—	7.7	5.4	有	全体に歪み
26			Bb2	1号窯前庭部・灰原	—	糸切り	(15.1)	6.9	[5.3]	—	
27			Bb2	1号窯前庭部・灰原	靱跡	糸切り	(16.6)	8.0	4.5	有	
28	14-55		Bc2	1号窯前庭部・灰原	靱跡	糸切り	16.0	6.9	5.4	有	
29			Bc1	1号窯前庭部	靱跡	糸切り	—	6.7	5.6	有	全体に歪み
30	13-13	6-10	Ab2	2号窯燃焼室	—	—	15.7	8.4	5.0	有	
31	14-44	9-37	Bb3	2号窯燃焼室	靱跡	—	(16.0)	7.2	5.5	有	口唇部にミゾ
32			Ba2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	15.0	7.0	5.3	有	
33			Bb2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.1)	7.0	5.2	有	
34			Bc2	2号窯燃焼室内	靱跡	糸切り	(15.0)	7.1	5.6	有	接合
35	13-27	8-22	Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(15.8)	(7.0)	4.7	有	
36	13-23	7-19	Bb1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.4)	7.5	4.8	有	
37	13-19	7-15	Ba2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	15.0	7.0	5.2	有	
38			Aa2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(14.9)	7.2	4.8	有	
39			Aa2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り・板目・指ナデ	(16.6)	8.4	4.9	有	
40	13-20	7-16	Ba2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(15.5)	6.5	5.1	有	
41			Ba2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.2)	6.6	5.4	有	
42	13-21	7-17	Ba2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(15.8)	6.9	5.4	有	口唇部にミゾ
43			Ba2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り・板目	(16.1)	6.8	4.5	有	
44	14-45	9-38	Bb3	2号窯前庭部	靱跡	ナデ	(15.0)	7.5	5.2	有	口唇部にミゾ
45	14-56	10-47	Bc2	2号窯前庭部	靱跡	板目	(15.2)	6.4	5.1	有	底部肉厚薄い
46			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(15.8)	6.2	5.8	有	
47	13-28		Bb2	2号窯前庭部	靱跡	—	(16.4)	6.4	5.4	有	
48			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	16.1	6.7	5.2	有	
49	13-24	7-20	Bb1	2号窯前庭部	—	—	(15.0)	6.8	5.2	有	
50	13-29	8-23	Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(15.7)	7.2	4.9	有	
51			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	板目	(15.8)	7.2	6.0	有	
52			Bb1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.0)	7.5	5.0	有	
53			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.0)	(7.6)	5.0	有	

※左側＝北東側、右側＝南西側

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

第6表 海陸庵古窯出土遺物観察表 碗(1)

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	備 考
							口 径	高台径	器 高		
54			Bc1	2号窯前庭部	靱跡	—	—	—	5.1	有	
55			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	ナデ	(15.8)	7.3	5.0	有	
56			Bc1	2号窯前庭部	靱跡	板目	(15.0)	7.4	5.2	有	
57			Aa1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.0)	8.1	[4.5]	有	
58	6-30	8-24	Bb2	灰原トレンチ内	—	糸切り	(16.3)	7.4	5.3	有	
59			Bb3	灰原トレンチ内	靱跡	糸切り	15.1	6.0	5.1	有	口唇部にミゾ
60	14-31	8-25	Bb2	灰原右	靱跡	—	(16.3)	6.7	4.9	有	
61	13-14	7-11	Ab2	灰原右	靱跡	糸切り	15.9	7.4	5.3	有	完形品
62	13-1	6-1	Aa2	灰原右	靱跡	糸切り	15.5	7.4	4.7	有	
63			Aa1	灰原右	靱跡	糸切り	16.2	7.5	4.5	有	
64			Aa2	灰原右	砂跡	糸切り	(15.7)	7.1	4.8	有	
65	14-32	8-26	Bb2	灰原	靱跡	指ナデ	(16.6)	7.4	4.8	有	完形品
66	13-2	6-2	Aa2	灰原	靱跡	糸切り	16.4	7.8	4.9	有	重量感あり
67	13-6	6-6	Aa3	灰原	靱跡	指ナデ	16.9	8.2	5.2	有	重量感あり、口唇部 にミゾ
68			Bb2	灰原	靱跡	指ナデ	16.0	6.6	5.0	有	
69			Bb3	灰原	靱跡	糸切り	15.7	7.3	4.8	有	
70			Ab2	灰原	—	—	15.8	7.7	[4.8]	—	
71	14-46	9-39	Bb3	灰原	靱跡	糸切り	15.7	7.5	4.9	有	完形品
72			Bb2	灰原	靱跡	指ナデ	(16.8)	8.1	5.2	有	
73	14-47		Bb3	灰原	靱跡	糸切り	(16.4)	7.2	4.8	有	口唇部にミゾ
74	14-33		Bb2	灰原	靱跡	指ナデ	(15.8)	7.1	4.3	有	
75	14-34	8-27	Bb2	灰原	靱跡	糸切り	(16.1)	6.8	4.6	有	接合
76			Bc2	灰原	靱跡	指ナデ	(15.4)	(6.7)	5.2	有	
77	14-60	10-50	Bc4	灰原	靱跡	糸切り	(17.0)	7.4	5.5	有	重量感あり、口唇部 に特徴
78	14-35	8-28	Bb2	灰原	靱跡	糸切り	16.8	7.5	4.7	有	重量感あり、接合
79	14-36	7-29	Bb2	灰原	靱跡	糸切り	16.5	8.0	4.7	有	重量感あり、接合
80	13-16	7-13	Ab3	灰原	靱跡	糸切り	16.2	8.2	5.0	有	重量感あり
81	14-57	10-48	Bc2	灰原	靱跡	糸切り	(16.6)	7.7	4.9	有	
82	13-15	7-12	Ab2	灰原	靱跡	指ナデ	(17.5)	8.4	4.7	有	
83	14-37	8-30	Bb2	灰原	靱跡	指ナデ	(16.7)	7.6	4.8	有	
84	14-58		Bc2	灰原	靱跡	指ナデ	(16.1)	6.3	4.6	有	重ね焼最上部
85	14-48	9-40	Bb3	灰原	靱跡	糸切り	15.8	7.6	4.9	有	接合
86			Bb2	灰原	砂跡	糸切り	(16.8)	7.5	5.4	有	体部にヘラ削り
87	14-38	9-31	Bb2	灰原	靱跡	指ナデ、板目	(16.2)	7.7	4.9	有	
88			Aa3	灰原	靱跡	糸切り	(16.2)	7.2	4.9	有	口唇部にミゾ
89			Aa3	灰原	靱跡	糸切り	(16.5)	6.9	4.5	有	
90	14-39	9-32	Bb2	灰原	靱跡	糸切り	(16.2)	8.3	5.4	有	
91			Bc2	灰原	—	糸切り	(16.4)	7.2	[4.0]	—	
92			Bb2	灰原	靱跡	糸切り、板目	(17.2)	7.8	5.2	有	
93	13-3	6-3	Aa2	灰原	靱跡	糸切り	(16.4)	8.0	4.8	有	重量感あり
94	13-7	6-7	Aa3	灰原	靱跡	糸切り	17.5	7.7	5.1	有	
95			Bb2	灰原	砂跡	指ナデ	16.8	7.3	4.8	有	接合
96	13-4	6-4	Aa2	灰原	靱跡	糸切り	15.8	8.1	4.8	有	重量感あり、内側底 部に指ナデ、接合
97			Ab2	灰原	砂跡	糸切り	(16.2)	7.9	5.0	有	
98	14-40	9-33	Bb2	灰原	靱跡	糸切り	16.1	7.7	4.7	有	
99			Aa3	1号窯灰原	靱跡	糸切り	(16.7)	6.6	5.2	有	
100			Bb3	灰原	靱跡	糸切り	(15.9)	6.3	4.8	有	
101	14-41	9-34	Bb2	灰原	靱跡	糸切り	(16.1)	7.0	5.3	有	
102			Bb2	灰原	靱跡	指ナデ	(16.8)	7.4	4.6	有	
103	14-42	9-35	Bb2	灰原	靱跡	指ナデ	(16.4)	8.0	5.0	有	
104			Ab2	灰原	靱跡	糸切り	(14.9)	5.8	5.2	有	
105			Aa2	灰原	靱跡	糸切り	(14.7)	(6.6)	5.1	有	
106	13-22	7-18	Ba2	灰原	靱跡	糸切り	15.6	7.6	4.8	有	全体に肉厚

※左側=北東側、右側=南西側

法量の数値で () は推定値、[] は残存値

第7表 海陸庵古窯出土遺物観察表 碗(2)

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	備 考	
							口 径	高台径	器 高			
107	14-49	10-41	Bb3	灰原	靱跡	糸切り	(17.9)	7.2	5.2	有	口唇部にミゾ、接合	
108			Bb3	灰原	靱跡	糸切り	16.3	7.1	5.1	有		接合
109			Ba2	灰原	靱跡	糸切り	(16.7)	7.7	5.5	有		生焼け、接合
110			Bb2	灰原	靱跡	糸切り	(15.4)	6.4	4.9	有		
111			Ab1	灰原	靱跡	糸切り	(14.4)	(7.0)	6.0	有		
112			Aa1	灰原	靱跡	糸切り	(15.2)	6.6	5.2	有		
113			Aa1	灰原右	靱跡	糸切り	(15.0)	(6.8)	4.5	有		
114			Ac1	灰原右	靱跡	糸切り	(15.2)	(9.0)	4.8	有	生焼け	
115			Ba2	灰原トレンチ内	靱跡	ナデ	(16.0)	6.2	5.5	有		
116			Ab1	灰原トレンチ内	靱跡	—	(16.0)	6.3	5.1	有		
117			Ba1	灰原トレンチ内	靱跡	—	(16.0)	(7.0)	5.0	有		
118			Bb2	灰原トレンチ内	靱跡	—	(15.0)	(6.0)	4.7	有	口唇部にミゾ	
119			Ba1	灰原	靱跡	—	(15.0)	(5.8)	5.4	有		
120			Ba2	灰原	—	—	(16.0)	(6.0)	5.6	有	口唇部にミゾ	
121			Ba2	灰原	靱跡	糸切り	(14.0)	(6.0)	4.5	有		
122	Bc1	灰原	靱跡	ナデ	(16.4)	(7.0)	4.6	有				
123	Ba3	灰原	靱跡	—	(15.8)	(6.6)	5.1	有	口唇部にミゾ			
124	Bb2	灰原	靱跡	糸切り	(16.0)	6.8	5.2	有	接合			
125	—	灰原	—	—	—	—	—	—	重焼き10枚			

※左側=北東側、右側=南西側

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

第8表 海陸庵古窯出土遺物観察表 碗(3)

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	備 考
							口 径	高台径	器 高		
1			D2	1号窯前庭部	—	—	(7.9)	3.8	1.9	無	
2			C2	1号窯溝状ピット	—	糸切り	(7.8)	(4.0)	1.9	無	
3	15-79	11-65	D1	1号窯溝状ピット内	—	—	8.2	3.7	2.1	無	
4	15-82	11-57	D2	1号窯溝状ピット内	—	糸切り	7.6	3.6	2.0	無	
5	15-83	11-66	D2	1号窯前庭部	—	糸切り	8.4	3.8	2.2	無	
6	15-84	11-67	D2	1号窯前庭部	—	板目	8.0	3.8	2.2	無	
7			D2	1号窯前庭部	—	糸切り	(8.9)	4.4	2.0	無	
8			D2	1号窯前庭部	—	糸切り	(8.4)	3.6	2.3	無	
9	15-101	12-79	E2	1号窯前庭部	—	糸切り	7.9	4.2	2.1	無	
10	15-85	11-68	D2	1号窯前庭部・灰原	—	糸切り	8.3	3.8	2.3	無	
11	15-86	12-69	D2	1号窯前庭部・灰原	—	糸切り	7.4	3.2	2.1	無	
12			D2	1号窯前庭部・灰原	—	—	(8.1)	3.6	2.1	無	
13			D2	1号窯前庭部・灰原	—	糸切り	(8.2)	3.6	2.1	無	
14			D2	1号窯前庭部・灰原	—	糸切り	(7.9)	3.8	2.0	無	
15			D2	1号窯前庭部・灰原	—	—	(8.0)	3.6	2.2	無	生焼け、接合
16			D2	1号窯前庭部・灰原	—	—	8.1	3.6	1.9	無	
17			D2	1号窯前庭部・灰原	—	糸切り	(8.3)	3.6	2.1	無	
18	15-80	11-54	D1	2号窯燃焼室	—	—	7.9	3.2	2.4	無	ほぼ完形
19			E2	2号窯燃焼室	—	板目	(8.2)	4.0	2.0	無	
20	15-61	11-52	A1	2号窯前庭部	—	糸切り	7.6	3.9	2.3	無	
21			D2	2号窯前庭部	—	糸切り	(8.2)	3.5	2.0	無	
22			D2	2号窯前庭部	—	糸切り	(7.6)	3.6	2.5	無	重ね焼最上部
23			B2	2号窯前庭部	—	糸切り	(7.7)	3.7	2.1	無	
24			E2	2号窯前庭部	—	板目	(7.4)	3.4	2.2	無	
25	15-96		D3	2号窯前庭部	—	糸切り	8.1	3.6	2.2	無	
26	15-97	12-76	D3	2号窯前庭部	—	—	7.9	3.5	2.0	無	
27			E2	2号窯前庭部	—	糸切り	(7.7)	3.5	2.1	無	
28	15-87	12-70	D2	2号窯前庭部	—	糸切り	7.9	3.5	2.1	無	
29			E2	2号窯前庭部	—	—	(7.6)	3.6	2.0	無	
30			D2	2号窯前庭部	—	糸切り	(8.0)	3.7	1.6	無	
31			E2	2号窯前庭部	—	糸切り	(7.7)	3.8	1.8	無	
32			E2	2号窯前庭部	—	板目	(7.8)	3.4	2.0	無	
33	15-88	12-71	D2	2号窯前庭部	—	糸切り	7.9	4.0	1.8	無	
34	15-98	12-77	E1	2号窯前庭部	—	板目	8.1	3.6	2.0	無	
35			D2	2号窯前庭部	—	—	7.8	3.3	2.1	無	
36	15-109	12-86	E3	2号窯前庭部	—	—	7.8	3.9	1.8	無	
37	15-102	12-80	E2	2号窯前庭部	—	板目	7.8	3.4	2.0	無	重ね焼最上部
38	15-103		E2	2号窯前庭部	—	—	7.9	3.7	1.9	無	
39			B2	2号窯前庭部	—	板目	(7.9)	3.6	1.9	無	
40	15-89		D2	2号窯前庭部	—	板目	8.0	4.0	2.3	無	
41	15-99	12-78	E1	2号窯前庭部	—	糸切り	7.6	3.6	2.2	無	
42			D2	2号窯前庭部	—	糸切り	8.2	3.8	2.0	無	重ね焼最上部
43			D2	2号窯前庭部	—	—	(7.4)	3.5	1.7	無	
44	15-81		D1	2号窯前庭部	—	糸切り	8.1	3.9	2.1	無	
45			D2	2号窯前庭部	—	糸切り	7.9	3.7	2.0	無	
46	15-110		E3	2号窯前庭部	—	板目	7.8	3.6	1.9	無	
47	15-66		B2	2号窯前庭部	—	糸切り	(7.6)	3.4	2.0	無	
48			D2	2号窯前庭部	—	板目	(7.7)	3.4	2.2	無	重ね焼最上部
49			D1	2号窯前庭部	—	糸切り	(8.1)	4.0	2.2	無	
50			B3	2号窯前庭部	—	—	(8.0)	4.0	1.9	無	
51			D1	2号窯前庭部	—	糸切り	(8.8)	3.5	2.3	無	
52			E1	2号窯前庭部	—	糸切り	(8.6)	3.6	2.3	無	
53			E1	2号窯前庭部	—	糸切り	(7.8)	3.6	2.4	無	

※左側=北東側、右側=南西側

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

第9表 海陸庵古窯出土遺物観察表 皿(1)

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	備 考
							口 径	高台径	器 高		
54			B1	2号窯前庭部	—	糸切り	(7.6)	3.7	1.7	無	
55			B2	灰原トレンチ内	—	糸切り	(7.7)	3.5	2.3	無	
56			D2	灰原トレンチ内	—	糸切り	(8.3)	3.5	2.0	無	
57	15-90	12-72	D2	灰原トレンチ内	—	—	(8.0)	3.8	2.2	無	
58			E1	灰原トレンチ内	—	糸切り	8.3	4.8	2.2	無	
59	15-104	12-81	E2	灰原トレンチ内	—	板目	7.7	3.0	2.1	無	
60	15-72	11-62	C1	灰原トレンチ内	—	糸切り	(8.4)	4.4	2.4	無	
61			D2	灰原トレンチ内	—	糸切り	6.9	3.3	1.9	無	
62	15-105	12-82	E2	灰原右	—	糸切り	7.7	4.0	2.1	無	
63			E2	灰原右	—	糸切り	7.7	3.4	2.3	無	
64	15-74	11-58	C2	灰原右	—	糸切り	7.9	3.8	2.2	無	
65			D1	灰原右	—	糸切り	7.8	3.4	2.3	無	
66	15-100		E1	灰原右	—	糸切り	7.7	4.2	2.1	無	
67			A2	灰原右	—	糸切り	(8.4)	3.8	2.0	無	
68			E2	灰原右	—	糸切り	(8.1)	4.2	2.5	無	
69			E2	灰原	—	糸切り	(9.0)	(4.7)	2.0	無	
70			D2	灰原の右	—	板目	(8.2)	5.1	2.2	無	
71			B2	灰原	—	糸切り	(7.6)	3.8	2.0	無	
72			C2	灰原	—	糸切り	(8.5)	4.0	2.3	無	
73			E2	灰原	—	—	8.2	4.0	2.2	無	
74	15-106	12-83	E2	灰原	—	糸切り	7.4	3.2	2.0	無	
75			E2	灰原	—	糸切り	(7.6)	3.2	2.1	無	
76			D2	灰原	—	糸切り	(8.3)	(3.9)	2.0	無	
77	15-64		B1	灰原	—	—	7.2	3.1	2.4	無	接合
78			E1	灰原	—	—	(7.4)	3.4	2.2	無	
79	15-67	11-55	B2	灰原	—	—	8.0	3.6	2.1	無	
80			B1	灰原右	—	糸切り	(8.0)	4.1	2.2	無	
81	15-62	11-59	A2	灰原右	—	糸切り	7.6	3.7	2.0	無	
82	15-107	12-84	E2	灰原右	—	糸切り	7.5	3.2	2.2	無	
83	15-68	11-60	B2	灰原右	—	糸切り	8.1	3.4	2.3	無	
84			B2	灰原右	—	—	8.0	3.8	2.1	無	
85	15-78	11-64	C3	灰原右	—	—	(8.6)	4.2	2.5	無	
86	15-75		C2	灰原右	—	板目	8.0	3.7	2.3	無	
87	15-65	11-51	B1	灰原右	—	—	8.1	3.8	2.1	無	
88	15-69		B2	灰原右	—	—	7.7	3.0	2.5	無	
89			A2	灰原	—	板目	8.0	4.2	2.2	無	
90	15-91		D2	灰原	—	ナデ	7.8	3.4	2.2	無	重ね焼最上部
91			C2	灰原	—	糸切り	(7.8)	(4.0)	1.9	無	
92			D2	灰原	—	糸切り	(8.0)	(3.6)	1.9	無	
93			A2	灰原	—	糸切り	(7.6)	(3.6)	2.0	無	
94	15-63		A2	灰原	—	糸切り	(7.4)	(3.6)	2.1	無	
95			D2	灰原	—	糸切り	(7.1)	3.4	2.1	無	
96			A2	灰原	—	糸切り	(7.8)	4.2	1.8	無	
97			E2	灰原	—	糸切り	(7.8)	(3.8)	2.1	無	
98			E2	灰原	—	板目	(7.8)	(4.0)	2.0	無	
99	15-92	12-73	D2	灰原	—	糸切り	7.8	3.6	2.0	無	
100			D2	灰原	—	糸切り	(8.0)	4.0	2.1	無	
101			D2	灰原	—	—	(7.3)	3.1	2.2	無	
102	15-93		D2	灰原	—	糸切り	7.2	3.5	1.9	無	
103	15-94	12-74	D2	灰原	—	糸切り	7.3	3.6	1.9	無	
104			C1	灰原	—	—	(7.8)	(3.6)	2.2	無	
105			D2	灰原	—	糸切り	(7.9)	3.4	2.0	無	
106			A2	灰原	—	糸切り	(8.4)	(4.0)	2.3	無	

※左側＝北東側、右側＝南西側

法量の数値で () は推定値、[] は残存値

第10表 海陸庵古窯出土遺物観察表 皿(2)

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	備 考
							口 径	高台径	器 高		
107			D2	灰原	—	糸切り	(7.6)	(3.4)	2.1	無	
108			A2	灰原	—	—	(8.5)	3.6	1.9	無	
109	15-76	11-63	C2	灰原	—	—	8.5	4.0	2.0	無	
110			C2	灰原	—	糸切り	7.9	3.8	2.0	無	
111			B2	灰原	—	—	(8.1)	4.0	2.0	無	
112	15-77	11-53	C2	灰原	—	—	8.1	3.8	2.3	無	
113			A2	灰原	—	糸切り	(8.0)	4.5	2.3	無	
114			E2	灰原	—	指ナデ	8.7	3.6	2.4	無	
115			C1	灰原	—	糸切り	(8.7)	4.3	2.4	無	
116	15-70	11-61	B2	灰原	—	糸切り	(8.4)	3.8	2.5	無	
117			A2	灰原	—	糸切り	(8.6)	(4.4)	2.4	無	
118			E2	灰原	—	—	7.9	4.0	2.1	無	
119			E2	灰原	—	—	7.8	3.8	2.3	無	
120	15-108	12-85	E2	灰原	—	糸切り	8.4	4.2	2.1	無	
121			E2	灰原	—	—	7.8	3.3	2.1	無	
122			C2	灰原	—	糸切り	(8.2)	4.1	2.2	無	
123			D2	灰原	—	糸切り	(7.1)	3.1	1.9	無	重ね焼最上部
124			D2	灰原	—	—	(7.4)	3.0	1.9	無	接合
125			D2	灰原	—	糸切り	7.5	3.6	2.0	無	
126			E2	灰原	—	糸切り	(8.4)	4.0	2.0	無	
127	15-95	12-75	D2	灰原	—	—	7.4	3.6	2.0	無	重ね焼最上部
128			D2	灰原	—	糸切り	8.3	4.0	2.0	無	
129			A2	灰原	—	糸切り	(8.4)	4.2	2.1	無	
130	15-71	11-56	B2	灰原	—	糸切り	7.9	3.5	1.9	無	完形品
131			E2	灰原	—	糸切り	8.0	3.7	2.0	無	
132	15-73		C1	灰原	—	—	8.2	4.0	2.3	無	
133			C2	灰原	—	糸切り	(8.3)	(4.4)	2.3	無	
134			C2	灰原	—	糸切り	(7.6)	(3.2)	2.1	無	
135			D2	灰原	—	—	(7.2)	(3.8)	2.0	無	
136			E1	灰原	—	—	(8.0)	3.8	2.4	無	
137			A1	灰原	—	—	(8.0)	(3.6)	2.4	無	
138			D1	灰原トレンチ内	—	—	(8.6)	3.7	2.3	無	
139			D1	灰原	—	—	(6.8)	2.8	1.8	無	
140			D2	灰原	—	—	(7.2)	(3.0)	1.6	無	
141			C1	灰原	—	—	(7.8)	4.1	2.2	無	
142			E2	灰原	—	糸切り	(7.2)	(3.2)	2.2	無	
143			—	2号窠前庭部	—	板目	7.7	3.7	2.1	無	重ね焼8枚

※左側＝北東側、右側＝南西側

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

第11表 海陸庵古窯出土遺物観察表 皿(3)

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			備 考
							口 径	高台径	器 高	
1			—	1号前庭部	—	—				体部のみ残存 付け高台 付け高台 付け高台とれ
2			—	1号前庭部・灰原	—	—				
3	15-112	13-88	—	1号前庭部・灰原	—	—		(12.6)		
4	15-111	13-87	—	灰原右	—	—	(32.6)	(16.8)	(9.8)	

右側＝南西側

法量の数値で()は推定値、法量は最大値

第12表 海陸庵古窯出土遺物観察表 鉢

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	出土位置	色調	法量(cm)				残存率 (%)	備 考
					長 さ	幅	孔 径	重 さ		
1	15-113	13-89	1号窯溝状ピット	白	7.1	4.1	1.9	90	80	生焼け
2	15-114	13-90	1号前庭部・灰原	白	6.3	4.2	1.8	51	40	生焼け
3	15-115	13-91	1号前庭部	白	8.3	4.5	1.5	100	60	生焼け
4	15-116	13-92	1号前庭部・灰原	白	8.4	3.9	2.2	74	50	生焼け
5	15-117	13-93	1号前庭部	白	8.4	4.3	2.0	139	80	生焼け

法量は最大値で、重さはグラム

第13表 海陸庵古窯出土遺物観察表 陶錘

第4節 小 結

本古窯址群は2基の窯体と灰原からなる古窯址群である。窯体は2基とも焼成室上半部が消滅しており、遺存状態は良好ではなかった。

遺構について

分焰柱は、1号窯・2号窯ともに6~10cm程度しか残存していなかった。2基とも残存している分焰柱の痕跡の上部には、焼成室から続いて炭化物や灰が薄く推積した状態で検出された。これは山茶碗・山皿等を焼成した後、分焰柱を壊して遺物を取り出したものと思われる。そのため、2基とも焼成室内にはほとんど遺物が残されていない状態であった。

1号窯・2号窯ともに、床面の立ち割り調査を行なったところ、焼成室の床面下から炭化物の層が検出された。第1号窯では約6cm、第2号窯では約4cmの厚さで、残存する焼成室ほぼ全面に敷き詰められていた。これは築窯する段階で作られた施設であるが、第1号窯では、砂層を掘り抜いた面に直接炭化物が敷かれているのに対して、第2号窯では地山である砂層の上に約1cmの厚さで粘土を敷き、その上に炭化物層が敷かれている。このような施設は、排水・除湿等の目的で作られたものと思われる。知多古窯では、排水・除湿等の目的で、床面下に山茶碗や甕・鉢等を敷いた施設が現在までに33基確認されている⁽¹⁾。本古窯址群では、床面下に遺物等はほとんど確認されなかったが、同様の目的でつくられたことは間違いないものと思われる。また、第1号窯には焚き口から2本の排水溝が作られているが、床面下施設をもつ窯体には、排水溝が併設される例が多くみられる。

前庭部には、築窯前の掘り込み面が残存していた。本古窯址群の地形は傾斜がかなり緩やかであるため、窯体を掘り始める前に一旦地山を掘り下げて、焚き口部を築いたものであろう。この部分が掘り込み面として残存したが、この掘り込み面が第2号窯では左右両面、第1号窯では右側面で残存している。前述した第1号窯の排水溝の1本は、焚き口から右側面に沿って第2号窯の前庭部から灰原に続いて築かれている。このことからみると、第1号窯は第2号窯の後に築窯されたものと考えられることができる。

遺物について

本古窯址群の出土遺物は、山茶碗・山皿・鉢・陶錘等である。2基とも窯内からはほとんど遺物は検出されず、また灰原末端部も削平されているため、遺物の出土量は少量にとどまっている。

山茶碗・山皿ともに胎土に砂質分が多くみられる。山茶碗の平均値は、口径15.9cm、底径7.1

cm、器高5.0cmである。体部はやや丸みをもち、そのまま外に広がる形態のものが多くみられる。山皿はすべて無高台で、平均値は口径7.9cm、底径3.7cm、器高2.1cmで、全体に小振りな作りとなっている。これら遺物の特徴からみると、13世紀前半に築窯されたものと思われる。

また、陶鍾が5点出土している。陶鍾は知多古窯からは17ヶ所の古窯址群で、33基の窯体及び灰原からの出土例が報告されている⁽²⁾。陶鍾は大きく2種類に分類される。長さ6~7cm、最大径2~3cmで紡錘状になる小型のもの、長さ7~9cm、最大径4~5cmで円筒状になる大型のものである。本古窯址群出土の陶鍾の平均値は、長さ7.7cm、最大径4.2cmであり、後者の大型の陶鍾といえる。類似した陶鍾は、上芳池古窯址群(阿久比町)・亀塚池古窯址群(常滑市)などから出土している。

(近藤)

註

(1) 文献18。

(2) 17古窯址群・33ヶ所の窯体は、知多市七曲C-1号窯内(文献1)・刀池A灰原(文献2)、東浦町石浜1・2号窯(文献3)・石浜4号窯(文献4)・東仙坊1号窯(文献5)・八巻古窯(文献6)・福住5号窯(文献7)、阿久比町上芳池2号窯内・1~3号灰原(文献8)・上親田6号窯内(文献未発刊)、常滑市北マムシ田1号窯(文献9)・松淵12号窯(文献10)・小森B-1号窯(文献11)・亀塚池8号窯内・1~6号灰原・13号灰原・15号窯内(文献12)、半田市三ツ池6号窯前庭部(文献13)、武豊町下別曾A地点前庭部・B-3号窯(文献14)・蛇ヶ谷3号灰原・4号窯内・5号窯内(文献15)・南蛇ヶ谷1号灰原(文献16)・中田池A-1・2・5号窯・A-8~10号灰原・B-0号窯内・B-Y~4号前庭部C-4号焚き口・C-1~5号前庭部(文献17)である。

参考文献

1. 『七曲古窯址群 第3次発掘調査』1989年 知多市教育委員会
2. 『刀池古窯跡群』1995年 愛知県埋蔵文化財センター
3. 『石浜古窯跡群(1)』1980年 東浦町教育委員会
4. 『石浜古窯跡群(2)』1981年 東浦町教育委員会
5. 『東仙坊・丸池山古窯址群』1983年 東浦町教育委員会
6. 『愛知県知多古窯址群』1962年 愛知県教育委員会
7. 『福住古窯址群』1978年 新巽ヶ丘団地関係遺跡調査団
8. 『上芳池古窯址群調査報告』1990年 阿久比町教育委員会
9. 『二ノ田古窯址群』1978年 常滑市教育委員会
10. 『松淵古窯址群』1981年 常滑市教育委員会
11. 『小森古窯址群』1990年 常滑市教育委員会
12. 『亀塚池古窯址群発掘調査報告書』1993年 常滑市教育委員会
13. 『三ツ池古窯址群』1988年 半田市教育委員会
14. 『下別曾古窯址群』1987年 武豊町教育委員会
15. 『蛇ヶ谷古窯址群』1986年 武豊町教育委員会
16. 『南蛇ヶ谷古窯址群』1986年 武豊町教育委員会
17. 『中田池古窯址群 その1』1990年 武豊町教育委員会
18. 『親田古窯址群』1996年 阿久比町教育委員会

第3章 神明古窯址群



調査風景

第1節 調査の経過

調査日誌

- 平成7年3月14日 表土剥ぎ作業と窯跡の正確な位置を確認するために作業員と重機を投入して表土の除去を開始する。まず一基を発見する。
- 15日 前日と同様の作業を継続。灰原の上層を確認する。
- 16日 雨の中、作業を開始したが、すぐに中止とした。
- 21日 他に遺構が存在するかどうか、確認するために最初に発見された窯跡の両側の表土の除去をしたところ、西側から新たに2基の窯跡を発見する。それぞれ発見順に1号窯・2号窯・3号窯とする。1号窯の窯内の埋土の掘削。
- 22日 1号窯の南北方向へ灰層の拡がりを確認するためにトレンチを設定する。大府市文化財保護委員の見学。
- 23日 2号窯と3号窯の窯内の掘削。灰原の拡がりを確認するため表土除去を継続。約600m²の調査区を設定。
- 24日 雨が断続的に降る中、2号窯の掘削。
- 25日 小雨の中、2号窯と3号窯の窯内の掘削。
- 28日 2号窯と3号窯の窯内の掘削と両窯に付属するピットの検出作業。
3号窯の西側ピットからほぼ完形の広口長頸瓶1個を発掘。
- 29日 各窯の窯内の未掘削部分の処理と平行して、増員した作業員に灰原の掘削を北側から開始。
- 30日 雨のため作業中止。
- 31日 遺構からの水の除去作業。灰原の掘削。2号窯の東側ピットから三筋壺片が出土。
- 4月1日 1号窯から3号窯の前庭部にセクションを設定する。灰原の掘削。
- 3日 灰原の掘削。
- 8日 前庭部のセクションの実測作業。灰原の東側の掘削。
- 9日 前庭部のセクション発掘作業。午後雨のため作業中止。
- 10日 前庭部のセクション発掘作業。

- 11日 前庭部のセクション発掘作業。終了後、調査区の清掃作業。愛知玉野情報システム株式会社による測量作業開始。市広報課による取材。
- 17日 ラジコンヘリコプターによる空撮作業に備えて、調査区の清掃作業。測量作業。中日新聞・朝日新聞の2紙が取材。
- 4月18日 発掘記事が中日新聞に掲載される。
- 24日 富山大学理学部教授広岡氏による熱残留磁気測定調査のサンプル取り。
- 29日 市民向けの現地説明会を開催。
- 5月9日 窯の床面の断ち割り調査。現場での作業終了。
- 18日 市議会の教育経済委員へ現地説明を実施。
- 24日 遺物の水洗い作業開始。
- 11月14日 遺物の注記作業終了。
- 11月15日 市歴史民俗資料館にて報告書の作成を開始。

(古田)

第2節 遺構について

本古窯址群は3基の窯体と灰原からなる古窯址群である。南から北へかけてなだらかに傾斜する丘陵の、砂層に築窯されている。窯体は3基とも山茶碗窯といわれる小規模な窖窯であるが、遺存状態は良好で、一部煙道部と灰原末端部が開墾のため消失している程度であった。

第1号窯

本窯は煙道部から焚き口までほぼ全体が残存している。残存している全体の長さは約10mである。窯体は焚き口を北東に向けて築窯されており、窯体の主軸方位は、S-22°-W、標高24.3m~27.4mである。

焚き口から燃焼室までの遺存状態は良好である。側壁も左右両方とも焚き口まで残存しており、焚き口の幅は95cm、燃焼室の幅は分焰柱基部で1.4m、燃焼室の長さは分焰柱基部まで1.45mである。燃焼室の床面傾斜は、焚き口から分焰柱に向かって14°の傾斜で下降している。床面は灰黒色でよく焼き締まっている。側壁は赤褐色を呈し、左右ともよく残存している。

分焰柱は地山掘り残しによって作られており、天井部まで残存している。基底部で78cm×66cmの楕円形を呈しているが、中位から上部にかけてやや方形になり天井部に至る。色は灰黒色でよく焼き締まっている。立ち割り調査を行なったところ、かなり補修されていた。分焰柱のまわりに山茶碗の内部にスサ入り粘土を詰めたものが貼り付けてあり、その上から粘土と砂を混ぜて塗りこめてあった。補修に使用された山茶碗は全部で15個体が検出された。分焰柱中央部での窯体の幅は、床面で1.62m、通焰孔は右が高さ85cm・幅54cm、左が高さ80cm・幅66cmであった。

焼成室はセンターライン上で長さ約5.7m・最大幅2.05mである。側壁は高いところで約1.1mを残す。床面の傾斜は分焰柱基部から約25cmまでやや下降し、そこから1mの地点まで7°の傾斜で上昇する。そこから約50cmの地点までは18°、1.1mの地点までは25°、それ以降は33°の傾斜で上昇していく。焼成室の床面も灰黒色を呈しよく焼き締っており、焼成室上部より炭化した木材が大量に検出された。床面を立ち割り調査したところ、焼土面が2層検出された。上層は黒色・白色・黄色焼土層、下層は黒色・赤褐色焼土層となり、その下に焼けていない粘土層があり、地山である砂層へと続いている。上層の焼土層はスサ入り粘土を貼り付けてあるのに対して、下層の焼土層は粘土だけを貼り付けたものである。

煙道部は長さ85cm・幅約1.5mあり、赤褐色を呈している。床面の最終面はほぼ水平になっているが、その下に約10cmの層があり、煙道部の調整をした痕跡がうかがえる。

第2号窯

本窯は第1号窯の西、約5kmに位置している。煙道部の上部が削平されている以外、焚き口までほとんど残存している。窯体の残存長は約8.7mである。窯体は焚き口を北東に向けて築窯されており、窯体の主軸方位はS-30°-Wで、第1号窯とほぼ平行に築窯されている。標高は24.0m～27.1mである。

焚き口から燃焼室までの遺存状態は良好である。側壁も左右両方とも焚き口まで残存しており、焚き口の幅は約1m、燃焼室の幅は分焰柱基部で1.46m、燃焼室の長さは分焰柱基部まで約1.5mである。燃焼室の床面傾斜は、焚き口から分焰柱に向かって11°の傾斜で下降している。床面は灰黒色でよく焼き締まっている。側壁は赤褐色を呈し、左右ともよく残存している。

分焰柱は地山掘り残しによって作られ、天井部まで残存している。基底部で65cm×90cmの楕円形を呈しているが、中位から上部にかけてやや方形になり天井部に至る。色は灰黒色でよく焼き締まっている。立ち割り調査を行なったところ、第1号窯同様かなり補修されていた。地山掘り残しの部分は左前面約4分の1程度しか残存しておらず、焼成室側にあたる部分は、ほとんど崩れてしまっていた。焼成室側の欠落した部分には、直径4cmと6cmの2本の杭を立て、その中間に重なった山茶碗を伏せて置き、スサ入り粘土で固めてあった。この部分の補修に使われたスサ入り粘土は、特にスサが多く混入していた。また前面右側には、広口長頸瓶の破片や山皿の破片を置き、その上からスサ入り粘土が貼り付けてあった。分焰柱中央部での窯体の幅は、床面で約1.9m、通焰孔は右が高さ80cm・幅58cm、左が高さ90cm・幅66cmであった。

焼成室はセンターライン上で長さ約5.7m・最大幅2.3mである。側壁は高いところで約80cmを残す。床面の傾斜は、分焰柱基部から90cmの地点まで4°で上昇し、そこから35cmの地点まで11°、2mの地点まで22°で上昇する。そこから15cmの地点までは52°と急上昇し、60cmの地点まで30°、それ以降は45°で上昇する。焼成室の床面は、分焰柱から約3.4mの地点まで灰黒色を呈しよく焼き締まっているが、その先約2.3mの部分は赤褐色で、あまり焼き締っていない。この部分は天井部が残存していた。焼成室内からは、第1号窯同様、炭化した木材が検出されている。床面の立ち割り調査を行なったところ2層になっていた。上層は灰黒色・白色焼土、下層は黒色・赤褐色焼土となっている。また上層は粘土層、下層は砂層となっていた。焼成室床面には焼台がかなり残存していた。特に分焰柱から85cmの地点まで、幅約80cmの範囲で、山皿専用の焼台と思われる小型の焼台がまとまって残存していた。

第3号窯

本窯は第2号窯の西約1mに位置している。焼成室上部が削平されている以外、焚き口まで残存している。窯体の残存長は約8mである。窯体は焚き口を北東に向けて築窯されており、窯体の主軸方位はS-25°-Wで、第2号窯とほぼ平行に築窯されている。標高は24.1m～26.9mである。

焚き口から燃焼室までの遺存状態は良好である。側壁も左右両方とも焚き口まで残存しており、焚き口の幅は約85cm、燃焼室の幅は分焰柱基部で1.38m、燃焼室の長さは分焰柱基部まで1.65mである。燃焼室の床面傾斜は、焚き口から75cmまでは16°、そこから70cmまでは7°の傾斜で下降し、そこから分焰柱基部までほぼ水平となる。床面は灰黒色でよく焼き締まっている。側壁は赤褐色で、左右ともよく残存している。

分焰柱は地山掘り残しによって作られ、天井部まで残存している。基底部で55cm×60cmの隅丸方形を呈しており、そのままの形態で天井部に至る。色は灰黒色でよく焼き締まっている。立ち割り調査を行なったところ、ほとんど原形をとどめており、薄く粘土を貼り付けた痕跡があるのみである。分焰柱中央部での窯体の幅は、床面で約1.7m、通焰孔は右が幅65cm、左が高さ70cm・幅60cmであった。

焼成室はセンターライン上で残存長約5.4m・最大幅2.8mである。側壁は高いところで約90cmを残す。床面の傾斜は、分焰柱基部から1.1mの地点まではほぼ水平で、そこから約1.1mの地点までは15°、そこから約1.2mの地点までは26°、約1.4mの地点までは37°で上昇し、それ以降は45°で上昇していく。焼成室の床面は灰黒色を呈し、よく焼き締まっている。立ち割り調査を行なったところ、床面は2層になっていた。上層は灰黒色・赤褐色焼土、下層は灰黒色・赤褐色焼土で、第2号窯同様上層は粘土層、下層は砂層となっていた。特に上層の粘土層は、床面全面に掌の跡が残っており、補修のために貼り付けた痕跡がよくうかがえる。

前庭部・灰原

前庭部は広くかなり平坦になっており、前庭部に続く灰原も傾斜は緩やかで、そのままの傾斜で広がっていく。

第1号窯前庭部からは小さなピットが検出された。焚き口から主軸方向に約3.5m、右へ50cmの地点に直径約30cmのピットがある。またそこから左へ約2.5mの地点に直径約20cmのピットがある。2つのピットとも深さは約15cm程度であった。

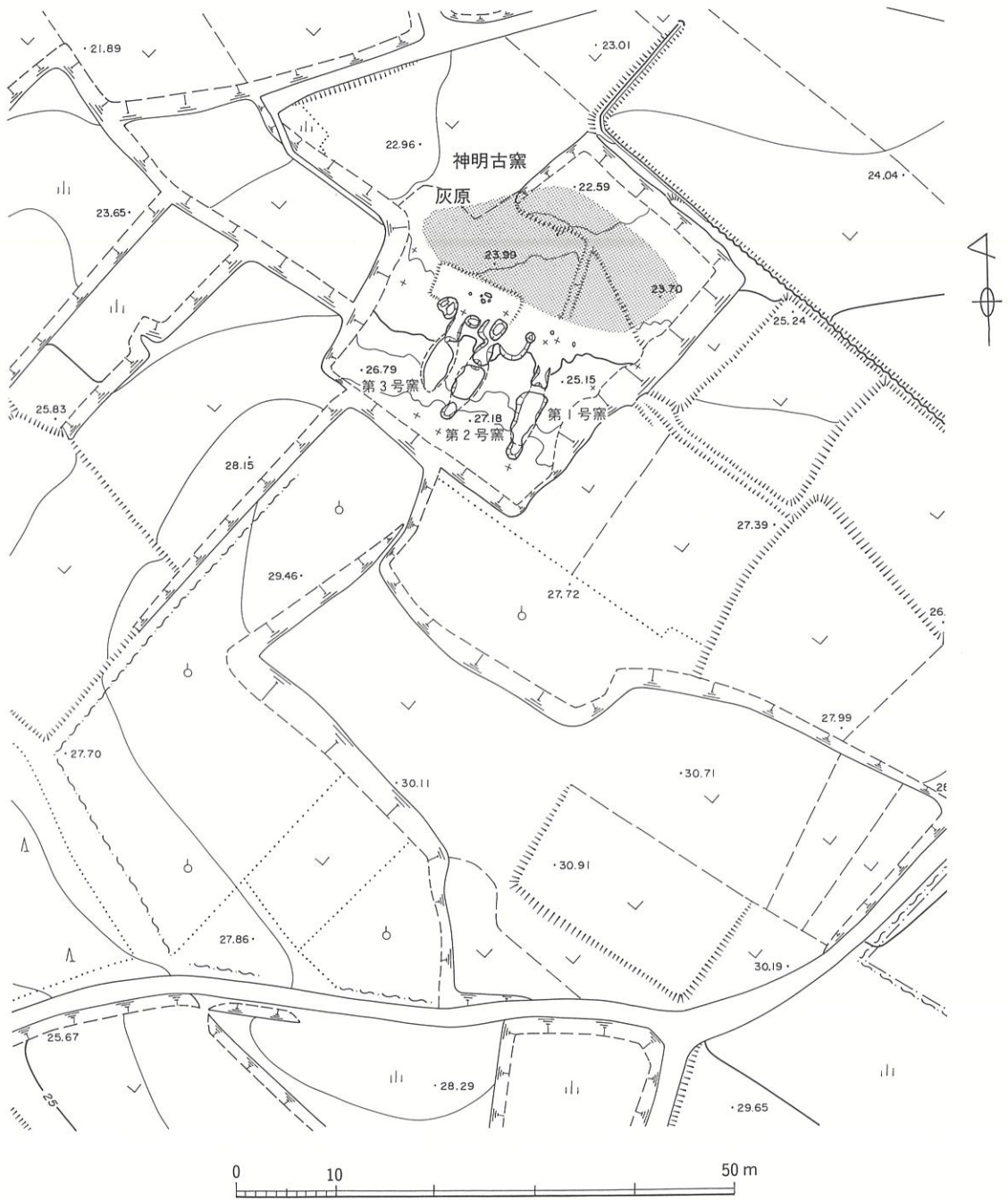
第2号窯前庭部には、焚き口から約2mの地点に1.4m×2m、深さ28cmの楕円形のピットがある。このピットを取り巻くように、幅約5mのピットがある。このピットの左側からは大量の遺物が検出された。完形品はほとんど出土していないため、第2号窯で焼成された不良品の土器溜めではないかと思われる。

第3号窯前庭部には焚き口の外側、左右両方にピットがある。左側は1m×1.4mの楕円形で深さ28cm、右側は2.1m×1.2m、深さ12cmのピットと1.3m×0.8m、深さ25cmのピットが重なって位置していた。これらのピットからはいずれも大量の遺物が検出されており、第2号窯同様、不良品を投棄したものと思われる。

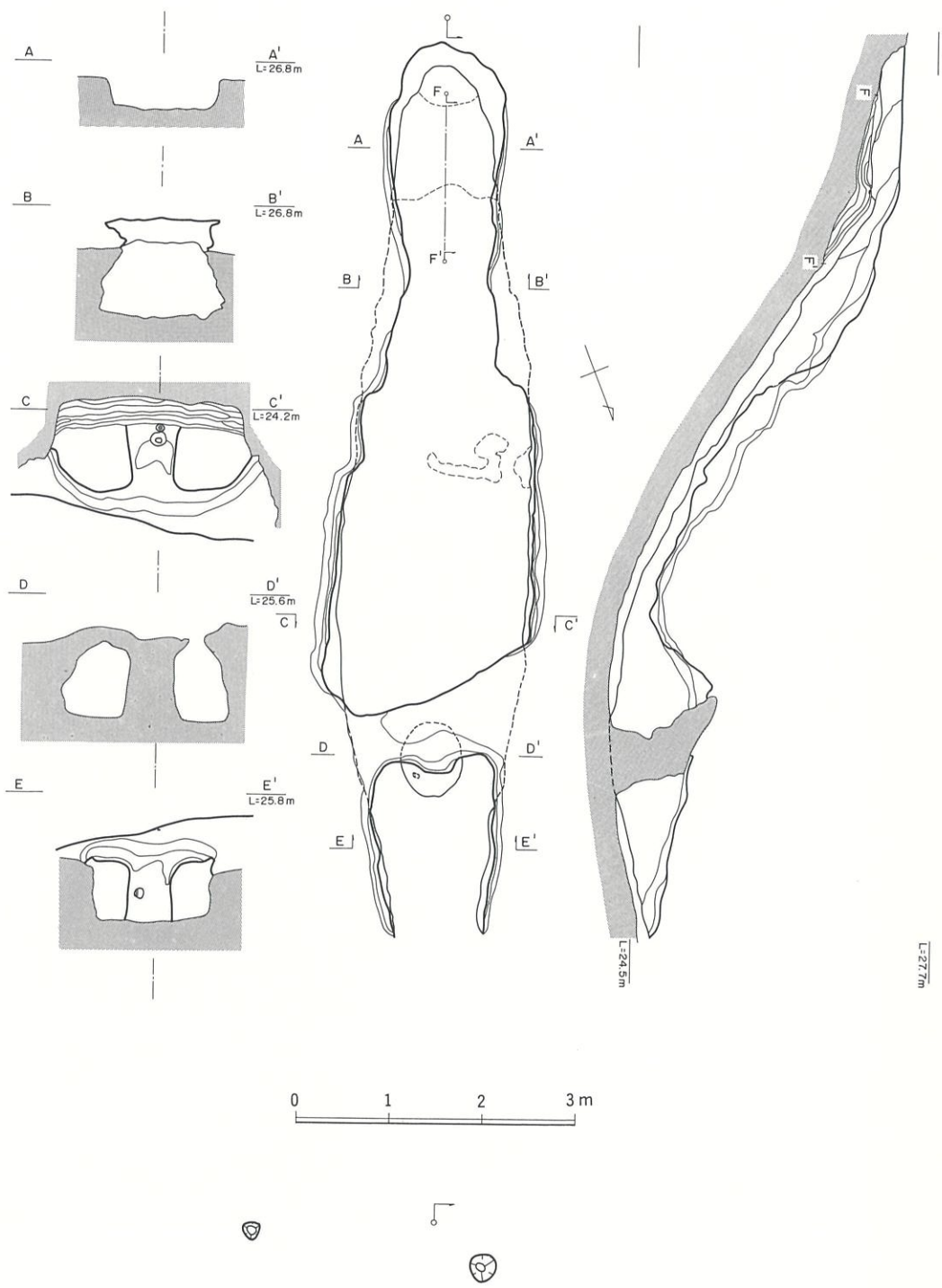
灰原部は前庭部からほとんど同じ傾斜で下っていくため、はっきりと区別することはできない。

広さは前庭部と合わせて、幅約20m、長さ約15mである。前庭部から灰原にかけての傾斜は非常に緩やかで、灰原末端部と上部との高低差は約1.4mしかなかった。灰原部からはピット等、遺構は検出されなかった。

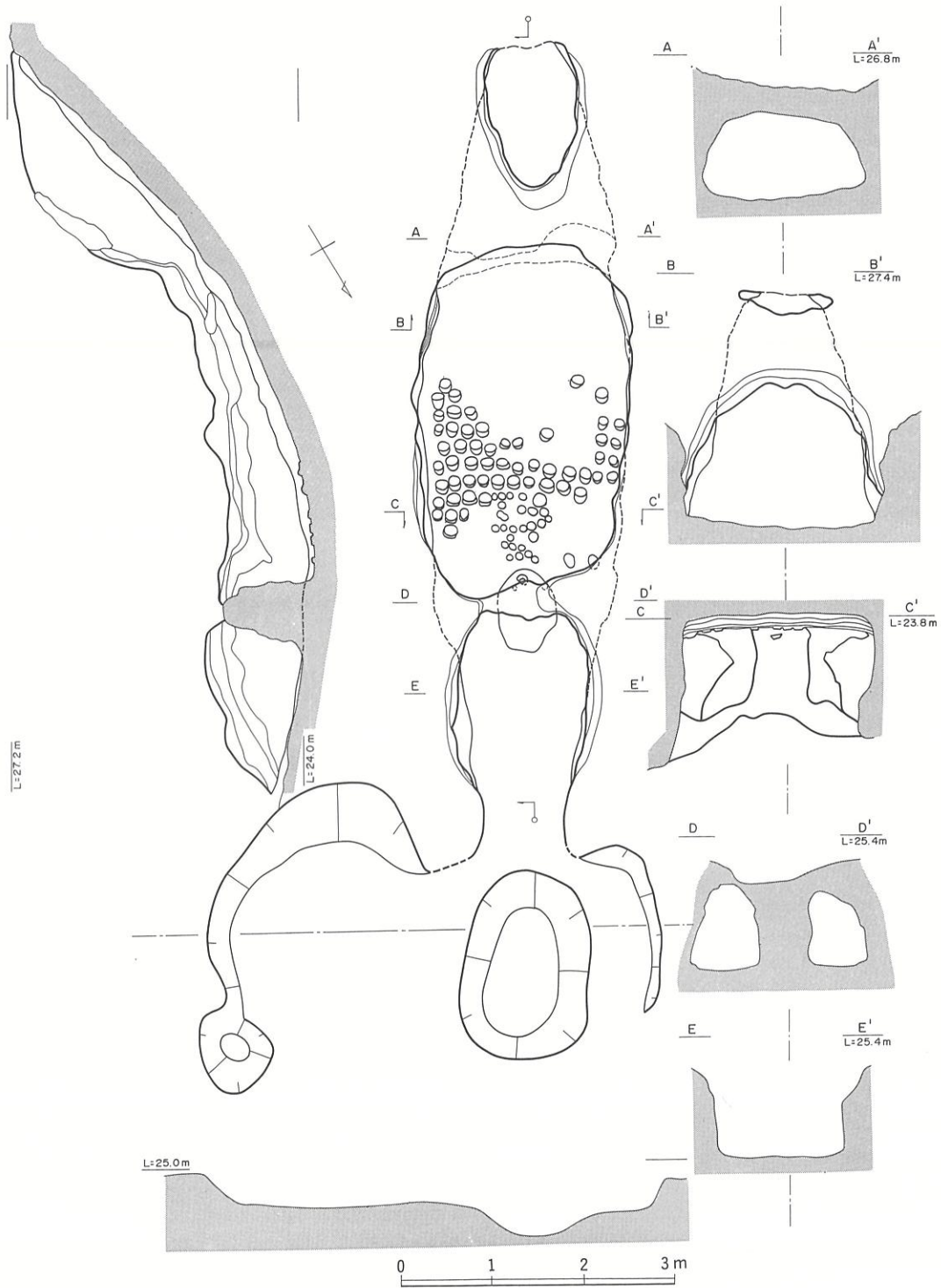
(近藤)



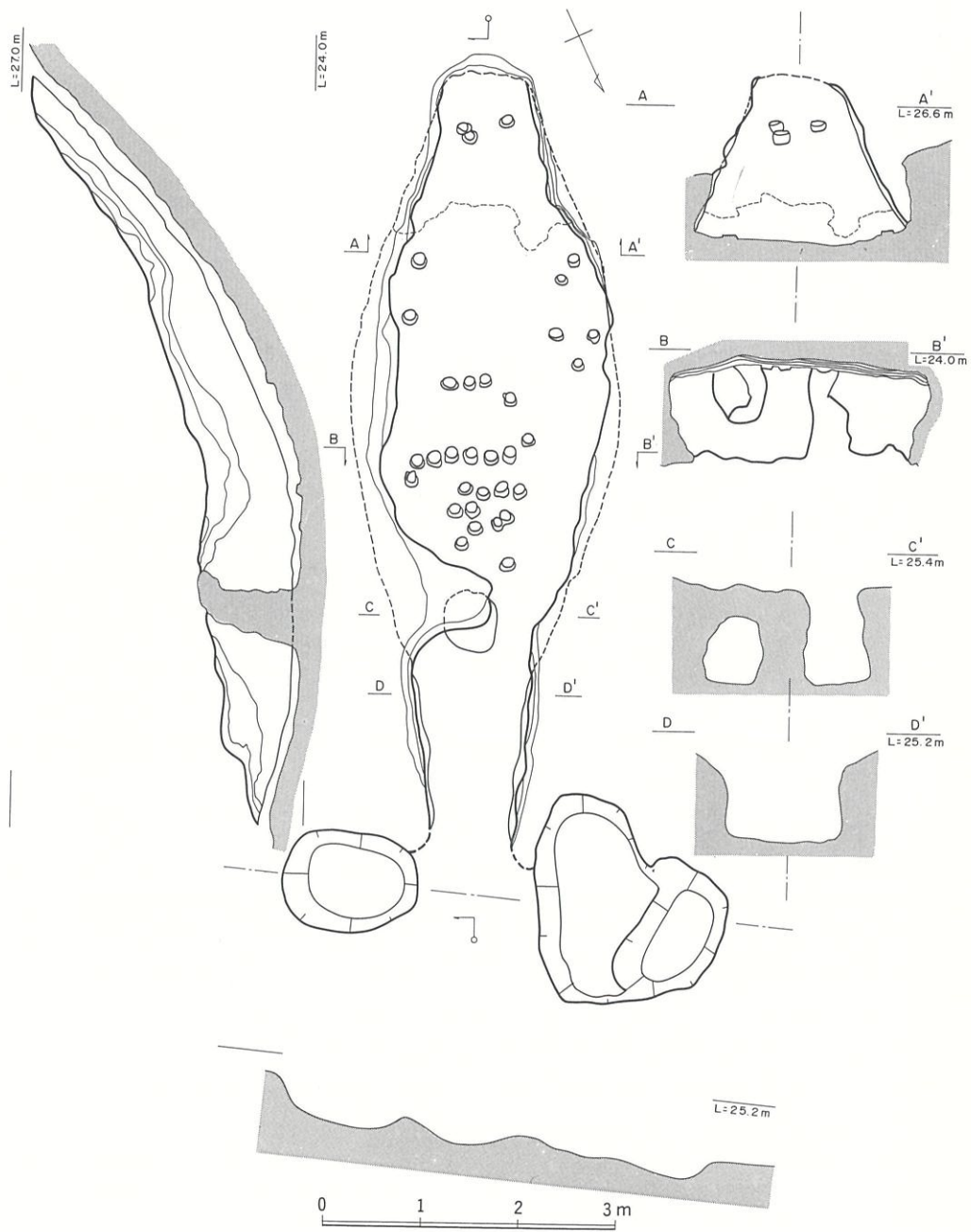
第16図 神明古塚発掘後地形図



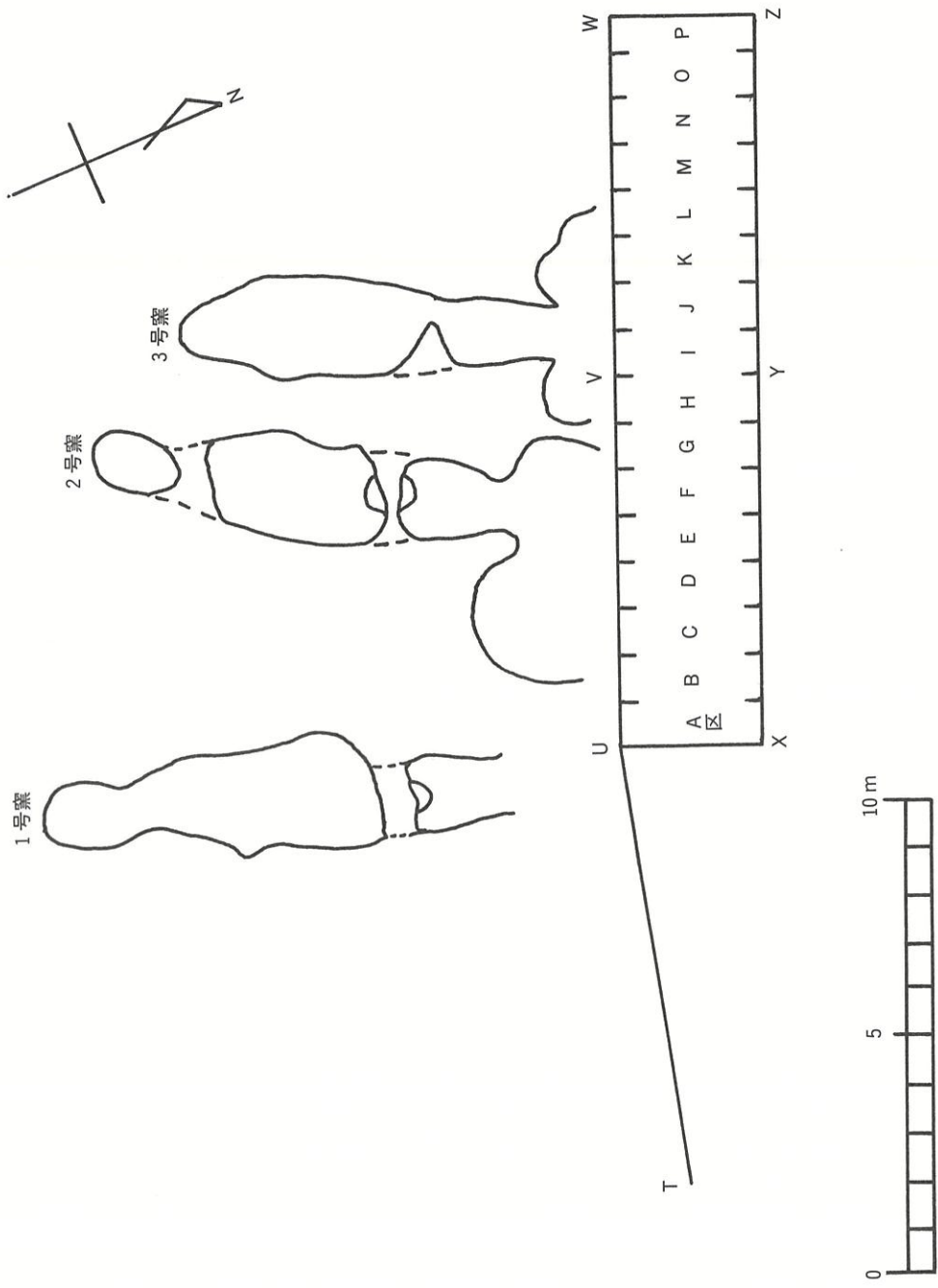
第17图 神明第1号窟体実测图



第18图 神明第2号窠体实测图

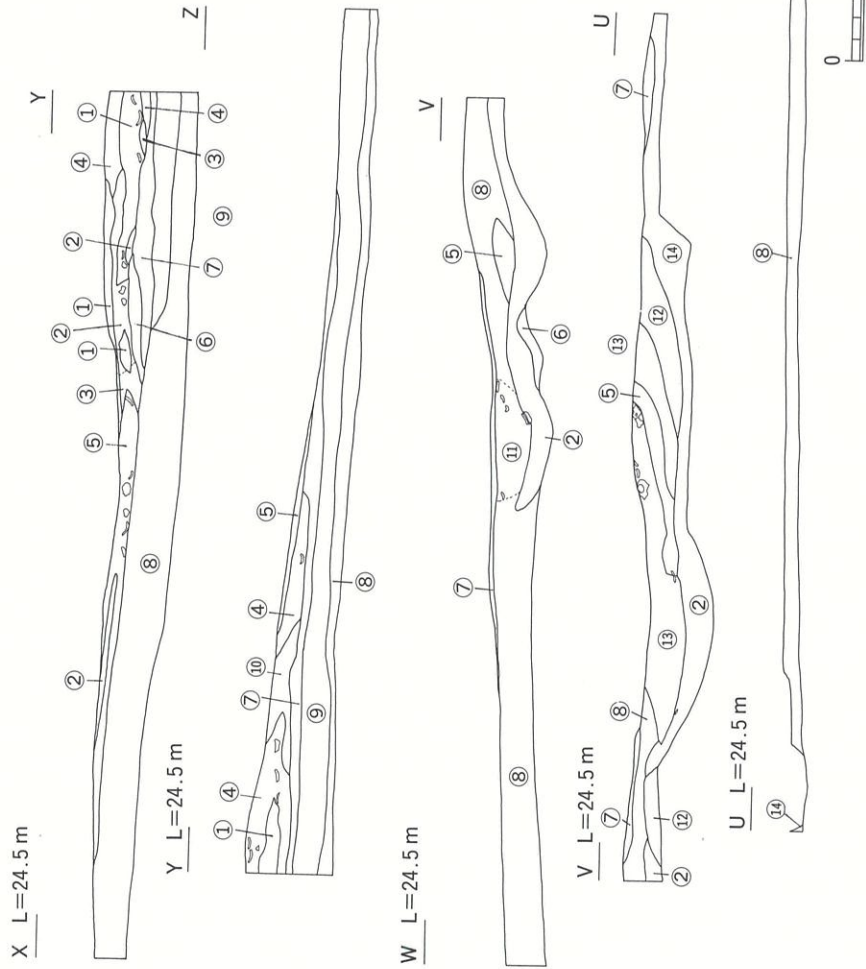


第19図 神明第3号窟体実測図



第20図 神明古塚前庭部ベルト区割・セクションポイント図

①	黄褐色砂層
②	黒色灰層
③	黒色灰層(特に遺物が多く混入)
④	黒灰色砂層
⑤	淡黄褐色砂層
⑥	黒褐色粘質砂層
⑦	赤褐色粘質砂層
⑧	黄灰色粘質土層
⑨	黄灰色粘質土層(礫が多く混入)
⑩	黒灰色褐色砂層
⑪	黄灰色粘質土層(特に遺物が多く混入)
⑫	黄灰色粘質砂層
⑬	赤褐色粘質砂層(遺物が混入)
⑭	黄灰色砂層



第21図 神明古塚前庭部ベルトセクション図

第3節 遺物について

神明古窯の発掘で出土した遺物は土嚢袋で200袋強である。出土品の種類は碗、皿、鉢、瓶、壺、鍋、焼台である。これらのうち出土量の多い碗、皿、鉢と特殊品である瓶については器形の分類を試みた。碗、皿は口径・底径・器高のいずれも測定可能なものを、鉢は口縁部から底部が残存しているものを1個体した。高台のはずれたものも底部があればカウントした。瓶・壺類については、その残存状況に係わらず、全体の出土品からみて、明らかに1個体と判別可能なものを1個として数えた。

1. 器形分類について

(1) 碗

碗は口形・底形・高台形・器形の測定可能なものを1個体とし、1/2以下しか残存しないものも少し含まれているが、1156点が器形分類の対象となった。分類は体部、口縁部、口縁端部の3か所で実施し、以下第22図のとおりとなった。体部はA類からD類の4種類、口縁部はaからcまでの3種類、口縁端部は1から4までの種類となった。高台は3号窯内から出土した1点（第20表遺物番号158）を除いてすべてに付いている。

体部

- A類 直線的に立ち上がるもの
- B類 曲線的に丸みをもって立ち上がるもの
- C類 直線的または曲線的に立ち上がりから複数の稜線が認められるもの
- D類 丸みをもって立ち上がり、すぐに内側に内湾しているもの

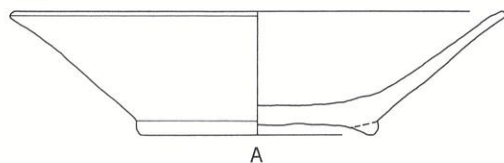
口縁部

- a ほぼ直線的になるもの
- b 外に開くもの
- c 外反するもの

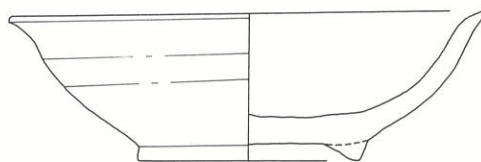
口縁端部

- 1 丸くなるもの、多くの場合肥厚する
- 2 外面から内側へナデ、体部傾斜と直交するように平坦面をつくるもの
- 3 内側から外面へナデ、体部傾斜と斜交するように平坦面をつくるもの
- 4 細くなるもの

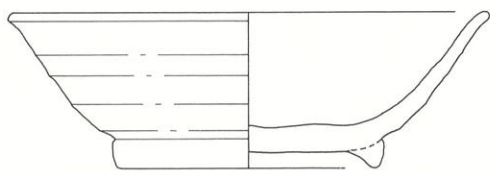
体部



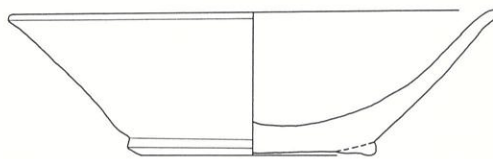
A



B



C



D

口縁部



a



b



c

口縁端部



1



2



3



4

第22図 神明古窯出土の碗類器形分類図

(2) 皿

皿は口形・底形・高台形・器形の測定可能なものを1個体とし、1/2以下しか残存しないものも少し含まれているが、498点が器形分類の対象となった。分類は体部と口縁端部の2か所で行い、以下第23図のとおりとなった。体部はA類からG類の7種類、口縁端部は5種類となった。なお、高台の有無による区別はしていない。

体部

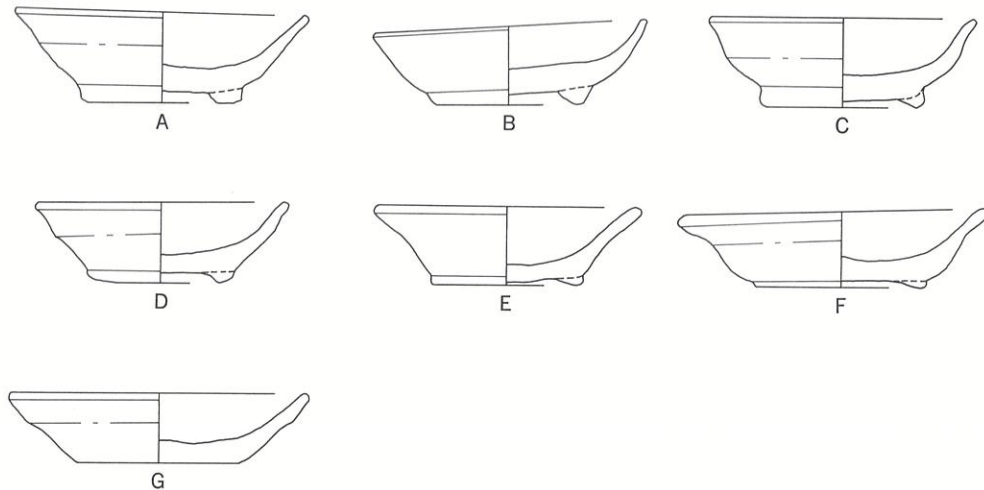
A類 ほぼ直線的なもの

- B類 丸みをもって曲線的なもので、いくぶん外に開くもの
- C類 丸みをもち折り曲げられたように中段で稜が認められ、そのまま開くもの
- D類 直線的に立ち上がり中段で折り曲げられたように稜が認められ、外反していくもの
- E類 直線的に立ち上がり、中段付近で内側へえぐれるように内湾し、外へ開いていくもの
- F類 丸みをもって膨らみながら立ち上がり、中段付近で内側へえぐれるように内湾し外へ開いていくもの
- G類 内湾しながら立ち上がり、中段付近から外へ開いていくもの

口縁端部

- 1 丸くなるもの
- 2 内側から外面へナデ、体部傾斜と斜交するように平坦面をつくるもの
- 3 外面から内側へナデ、体部傾斜と直交するように平坦面をつくるもの
- 4 鋭くとがるもの
- 5 細くなるもの

体部



口縁端部



第23図 神明古窯出土の皿類器形分類図

(3) 鉢

鉢は196個の破片が出土し、そのうち20個体が測定可能であった。器形分類はこの20個をもとにして行った。完全に復元できたものではなく、いずれも1/2前後しか残存しなかった。出土地点は2号窯と3号窯、それに付属した灰原・ピットに集中しており、1号窯窯内とその関連の遺構での出土は皆無であった。

器形分類は個体数が少量だったため、細分化を避けるため、体部と口縁部の二点で実施した。

体部

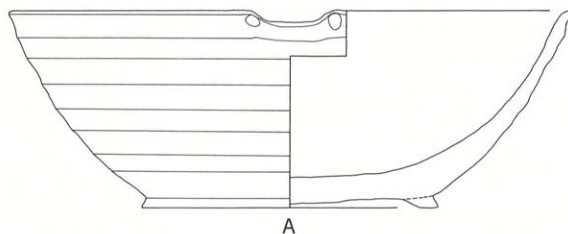
A類 体部が丸みをもってうねりながら曲線的に立ち上がるもの

B類 体部が直線的に立ち上がるもの

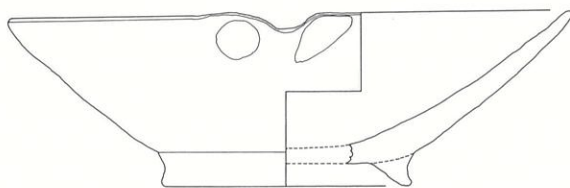
口縁部

- 1 端部がやや外反し、細く丸くなるもの
- 2 端部が直線的で細くなるもの
- 3 端部が直線的だがやや内へ入るもの

体部



A



B

口縁部



1



2



3

第24図 神明古窯出土の鉢類器形分類図

(4) 広口長頸瓶

広口長頸瓶の器形分類は行をあらためる。

2. 1号窯関連

ここでは窯内からの遺物の出土はほとんどなく、わずかに皿類が採取されたのみである。

皿 (挿図 第31図3)

高台を有するものが1点、焚口付近から出土している。口径9.0cm、高台径5.6cm、器高2.8cmで高台があるものの中の平均値と比較してやや大きいものである。器形はD類系に属するものである。高台の端部には靱殻痕が認められ、底部外面には糸きり痕と板目が認められる。

3. 2号窯関連

ここでは窯内とその付属ピットから出土したものについてまとめる。出土した器種は碗類・皿類・鉢類・広口長頸瓶・三筋壺の5種類である。

(1) 碗 (挿図 第27図1~15、第28図1~24)

窯内とその付属のピットから310点の資料が測定可能であった。A類系・B類系・C類系・D類系のすべてが出土しているが、A類系とB類系の碗が圧倒的な数で98.1%を占めており、他の類系はわずか3点であった。法量は平均で口径16.7cm、高台径7.9cm、器高5.2cmを計測した。形態についてまとめると以下のようなになる。高台はすべてに付いている。高台の端部には280点(90%)に靱殻痕、12点(3.9%)に砂跡、12点(3.9%)に靱殻痕と砂跡の両方があった。また高台の状態は碗自体の重みで潰れたと思われるものが186点(60%)存在した。高台の成形は丁寧なものと同様に粗雑なものも並存するが、D類系のものに粗質なものが多い傾向がある。底部外面には糸きり痕、ナデ跡、板目跡、指ナデ跡、ワラ跡が認められた。色調は灰白色が6割弱を占めている。釉は265点(85.5%)に認められ、そのうち9点に重ね焼最上部のものが含まれている。胎土は全体的に良質であるが、そのなかにあって比較的重量感を感じさせるものが16点あった。その他、特徴として指摘できるのは、高台の外側の平坦面にミゾが取り巻いているのが1点(第25図9)ある。また口縁端部の平坦面にミゾを有するものが32点確認できた。

(2) 皿 (挿図 第27図16~30、第28図25~39、観察表第43・44表)

測定可能な資料が139点あった。ここからはA類系・B類系・C類系・D類系・F類系の5種類が出土している。最多はC類系の82点(59%)、次はD類系の36点(25.9%)であった。高台のあるものは74点、無高台のものは63点であった。高台のあるもの74点中、高台の端部に靱殻痕があるのが66点、砂跡のあるものが3点であった。底部外面には糸きり痕・ナデ跡・板目など認められ、糸きり痕が116点と圧倒的な数を占めている。色調は灰色・灰白色などの灰色系統の色が大多数である。胎土は比較的良質が多い。釉が付着しているものが124点(90%)であった。そのうち重ね焼の最上部と思われるものが32点含まれている。形態上の

特徴としては、口縁端部にミゾがあるもの2点（遺物番号45、79）ある。また底部内側に靱殻が付着しているものが2点（第27図20、遺物番号80）認められた。

(3) 鉢（挿図 第27図31～32）

燃焼室とピットなどから出土した破片から2個体分について器形分類と計測が可能であった。いずれも完全に復元はできなかったが、1/2程度形がもどった。底部には高台が付き、靱殻痕が認められる。底部外面はナデによる調整が施されている。体部は丸みをもって曲線的に立あがるものだが、口縁部はやや外反するもの（A類）と直線的で細くなるもの（B類）の2形状があった。ともに口縁部には注口が1口あり、いわゆる片口鉢と言われるタイプのものである。

(4) 三筋壺（挿図 第27図33）

体部の破片4個が、東側ピットや焼成室から出土し、接合作業の結果、2個の資料となった。口縁部や底部の破片はない。しかし、胎土、灰釉の状態や色、体部の沈線の位置などから同一個体と判断される。全体の大きさや形は不明であるが、体部に二本線を1単位とする複線の沈線が2か所、いずれの破片にも認められるので、いわゆる三筋壺と呼ばれる短頸壺と思われる。個々の破片を法量的にみると、胴部最大径は約16cm、1段目と2段目の沈線の間隔はいずれの個体の場合も6.3cmであった。成形は棒状粘土を輪積み状に積み上げた、いわゆる紐作りと呼ばれるもので、ヘラによる調整が施され後、沈線が刻まれたと考えられる。

4. 3号窯関連

ここでは窯内とその付属するピットから出土したものについてまとめる。出土した器種は碗類・皿類・鉢類・土師質鍋（伊勢型鍋）・広口長頸瓶の5種類である。

(1) 碗（挿図 第29図1～21、第30図1～18、観察表第20・21・26・27表）

測定可能な資料が窯内とその付属のピットから169点出土している。器形はA類系からD類系まで出土しているが、B類系の106点（62.7%）とA類系の52点（30.8%）が大半を占めている。高台の有無については1点（遺物番号158）に唯一付いていないだけである。これらは良質のものが多く、重ね焼最上部で焼成されたものである（第20・21・26・27表）。法量は平均値で口径16cm、高台径7.7cm、器高4.8cmで、やや器高が全体との比較から低いことが指摘できる。高台の端部には147点（86.9%）に靱殻痕、12点（7.1%）に砂跡が確認できた。底部外面に糸きり跡、ナデ跡、板目、藁跡が認められた。高台の状態は碗自体の重みによると考えられる潰れが110点（65.1%）存在した。高台は付高台だが、丁寧につけられたものや粗雑につけられたものの両方が混在する。釉は145点（85.8%）に認められ、そのうち11点が重ね焼最上部のものである。前述のように、胎土は全体的に良質であるが、そのなかにあっ

て重量感を感じさせるものが22点あった。また、表面に小石をかんでいるものが3点あった。器形上の特徴として、口縁端部の平坦面にミゾが認められるものが5点あった。

(2) 皿 (挿図 第29図22~40、第30図19~39、観察表第45・47表)

測定可能な資料は86点であった。ここからはA類系からF類系までの7種類いずれもが出土している。飛び抜けて数の多い種類は認められず、E類系とG類系を除いてどの種類も15個前後出土している。高台のあるものは60点(69.8%)、無高台のものが25点(29.1%)であった。高台のあるもの60点中、端部に靱殻痕が認められるもの52点で、砂跡があるものが5点であった。底部外面には糸きり痕・ナデ跡・板目などが認められ、糸きり痕のあるものが多く51点を数えた。色調は灰色や灰白色の灰色系統のものが圧倒数を占めるが、若干茶系統のものも存在した。これは生焼け、または過度に炎のあたったものかと思われる。胎土の良質のものや粗質なものは認められなかった。釉が付着したものは73点(85%)のものにあり、その内重ね焼の最上部のものが21点含まれている。特にあらゆる面に釉のかかったものが1点(遺物番号219)あった。器形上の特徴として、口縁端部にミゾがあるものが6点(第29図22・33・36、第30図28・33、遺物番号132)あった。

(3) 鉢 (挿図 第30図40)

ピットから1/2以上残存する資料が1個体分確認できた。高台は欠損し、注口も欠落している。底部外面にはナデが施されている。口径は28.6cmと平均的なサイズで、形状はA類1で、体部が曲線的で、口縁部がやや外反するものである。

(4) 土師質鍋 (挿図 第29図41)

燃焼室から21個片が出土した。そのうちから1個体分の口縁部が約半分復元できた。口径が23.2cmで黄褐色を呈している。口縁部はやや厚手に成形され、口唇部は内側に折り返して肥厚させ、平坦面を形成している。体部は口縁部より薄手で、非常にもろい。また体部片には外側に炭が付着、または焦げ跡が残存している。

5. 前庭部およびベルト

ここでは各窯の前庭部とそこに設定したベルトから出土した遺物が考察の対象である。なお、1号窯前庭部からの出土の遺物は皆無に近かった。出土した器種は碗類・皿類・鉢類・広口長瓶の4種類である。

(1) 碗 (挿図 第31図1~2、4~12、23~31、第32図、第33図、第34図61~66、観察表第36表)

ここからの出土点数は多く、測定可能な資料だけで536点を数えた。1号窯前庭部から3点、2号窯前庭部から93点、3号窯前庭部から78点、ベルトから362点がある。第14表には器形ごと数量をしめしておいた。表のとおりB類系が最多で64.4%であった。形態についてまとめると、以下のとおりとなる。高台はすべてのものについていた。その端部には靱

穀痕、砂跡が認められるものがほとんどであったが、43%のものが潰れていた。高台の作りは付高台で、丁寧なものや粗雑のものが混在する状態で、器形による差は認められない。底部の外面には糸きり痕、ナデ跡、板目、指ナデ、粃殻痕が認められた。特に粃殻痕があったのは1点（遺物番号889）で全面にひろがっていた。釉は420点（78%）のものにみとめられ、その内の26点が重ね焼最上部のものであった。器形上の特徴は高台の外側外面にミゾがあるものが16点、口縁端部の平坦面にミゾがあるものが18点確認できた。ここで出土した碗は全体的に作りは丁寧であった。

	A類	B類	C類	D類	計
1号窯前庭部	1	2	0	0	3
2号窯前庭部	19	68	6	0	93
3号窯前庭部	13	45	14	6	78
前庭部ベルト	28	230	100	4	362
合計	61	345	120	10	536

第14表 神明古窯前庭部等出土碗類の器形別数量表

(2) 皿（挿図 第31図3、13～22、32～41、第34図67～121、観察表第49表）

測定可能な資料が230点であった。A類系からG類系までの7種類のいずれもが出土し、C類系が半数近くを数え113点あった。他にB類系とD類系の2種類が40個弱あった。高台のあるものは162点、無高台のものが65点であった。高台のあるものの中で、粃殻痕の認められるものが144点、砂跡のあるものが8点、両方認められるものが1点という内訳である。底部外面は糸きり痕・ナデ跡・板目などが認められるものが157点あり、そのうち糸きり痕が130点（57%）、いずれも確認できないものが73点（32%）存在した。色調は灰色・灰白色などの灰色系統色が93%を占めている。胎土は比較的良質のものがほとんどである。釉は203点のものに付着しており、そのうち72点が重ね焼最上部のものである。また内側底部に粃殻が付着しているものが1点（第34図101）あった。器形上の特徴として口縁部にミゾが認められるものが4点（第34図70・71・116、遺物番号291）あった。また、87（第34図）には底部に小さな二重丸状の溝が刻まれているものがあった。

(3) 鉢（挿図 第35図124～131）

前庭部ベルトから測定可能な資料が9個体分確認できた。高台が残存しているのは、4点（124～127）で、他の5点にも高台の痕跡があるので、付高台の鉢である。高台の末端にはいずれも粃殻痕が残っている。底部外面はどれもナデ調整である。口縁部に注口があるのは4点（124～126・128）で、いずれも1か所のみであるので、いわゆる片口鉢と言われる鉢で

	A類	B類	C類	D類	E類	F類	G類	計
1号窯前庭部	0	0	1	1	0	0	0	2
2号窯前庭部	0	4	27	8	0	0	3	42
3号窯前庭部	4	3	12	4	6	5	7	41
前庭部ベルト	6	31	73	23	4	2	7	146
合計	10	38	113	36	10	7	17	231

第15表 神明古窯前庭部等出土皿類の器形別数量表

ある。器形は4タイプが確認できた。その中で125(第35図)は他のどの地点で出土した鉢とも少し異なった形状をしている。内側が深いものがほとんどなのが、この資料だけは浅く、開いたものでやや特殊な器形に属すると思われる。また126(第35図)は残存率80%で鉢のなかで一番数の多いA類1に分類される。これには付高台と1口の注口があり、神明古窯で焼成された鉢の標準的な器形に属するものと考えられる。また130(第35図)は内側底部に碗との重ね焼の痕跡があり、鉢のみの焼成でなかったことが想定される。形状は体部が曲線的に立ち上がる丸みを帯びたタイプがほとんどである。

(4) 玉縁状口縁碗(挿図 第34図122~123)

大量に出土している碗の中に、2個体分が確認できた。1個(122)は口縁部が半分程欠落したもので、高台部は完全に残存している。もう1個(123)は接合により半分程度復元可能なものであるが、高台は4分の1が欠落している。いずれも口縁部を肥厚させたもので、いわゆる玉縁状口縁碗と呼ばれるものである。特徴は他の碗と比較して口縁部と高台に認められる。口縁部は折り返しによって肥厚させるのではなく、口縁端部から平均0.8cmの幅で体部を成形によるくびれで厚さを出す方法で玉縁状を形成させている。高台は付高台で、中段から垂直になる形をした立ちの高いものである。内側にはナデ調整が施されたしっかりとした作りとなっている。胎土は他の器種と質の差は認められない。前者は重ね焼最上部のもので、窯体片と思われる遺物が付着している。

6. 灰原

1号窯に関する灰原はほとんど検出できず、また灰原と思われるところは平坦な地形と2号窯と3号窯とが近接していることもあり、個々に区別し得なかった。そのため、ここでは灰原から出土した遺物を一括して扱うことにする。なお、出土した器種は碗類・皿類・鉢類・壺類・広口長頸瓶の5種類である。

(1) 碗 (挿図 第36図1~21)

測定可能であった資料が132点であった。いずれの器形も出土しているが、B類系が70点(41.4%)で最多、最小はD類系の2点である。法量は平均値で口径16.5cm、高台径7.7cm、器高5.2cmであった。高台の端部には靱殻痕の124点(94%)、靱殻痕と砂跡の両方が1点あった。高台の状態は潰れているのが多く、また成形も丁寧なものと粗雑なものが混在している。底部外面には糸きり痕、ナデ跡、板目の3種類が認められた。釉は87点(65.9%)に認められ、そのうち6点が重ね焼最上部である。器形上の特徴として、口縁端部の平坦面にミゾがあるものが4点、高台の外側側面にミゾがあるものが2点存在した。

(2) 皿 (挿図 第36図22~46)

測定可能であった資料は41点であった。灰原からはA類系からG類系までの7器形のすべてのタイプが出土している。その中で最多のものはC類系の15点(36.6%)、次はD類系の8点(19.5%)であった。法量は平均で口径9.3cm、底径(高台径)5.1cm、器高2.6cmであった。41点中で、高台のあるものが31点、無高台が10点で、高台の端部には靱殻痕のあるものが26点、砂跡のあるものが2点であった。底部外面には糸きり痕、ナデ跡、板目などが確認でき、糸きり痕が29点と最多であった。ナデ跡は高台接着時に付けられたと思われ、板目は乾燥時に付いたものと想定される。色調は灰色や灰白色などの灰色系が圧倒数を占めている。胎土は、神明古窯の焼成品が比較的良質であるなか、特に良質のものが多い。釉は35点(85%)のものに認められた。特に重ね焼最上部のものが10点含まれている。形状における特徴として、口縁端部にミゾが認められるものが1点(第36図29)あった。また内側底部に靱殻が癒着しているものも1点(第36図35)確認された。

(3) 鉢 (挿図 第37図47~53)

底部から口縁部まで残存している資料が7個体分確認できた。高台が残存しているのは第37図47~51で、無いものはその痕跡が残存している。高台のあるものの末端には靱殻痕が付いている。底部外面はいずれもナデ調整が施されている。口縁に注口があるのは第37図47と49と51の3点で、どれも1カ所で、いわゆる片口鉢と言われるタイプのものである。

(4) 壺 (挿図 第37図54)

底部の破片が4個出土し、接合の結果、1個体分の資料となった。底部のみが残存しているのみで、口縁がないため全体像は明確にならないが、残された部分から壺の一種と思われる。しかし、広口長頸瓶や三筋壺とは厚みや表面のナデ方法に差異がみとめられるので、別の器種と考えられる。底径は13.2cmを計測し、広口長頸瓶の底部とは4cmの差がある。また厚みは最大で4cm、最小で1.5cm、立ち上がりのカ所で2.7cmもある。これらの結果から、全体を復元すると器高が40cm前後になると想定される。成形はヘラで施され、外側には縦ナデが認められる。釉の付着はなく、表面は赤黒色を呈している。

7. 1号窯分焰柱内

1号窯分焰柱内からは碗類のみが出土し、分焰柱の補強または補修に使用されたと思われる。

碗 (挿図 第38図1~9)

分焰柱の断ち割り調査で11点出土した。11点には口縁部のないものを2点含んでいるが出土点数が少ないので資料点数からは除かなかった。この11点は2度焼のような状態のものがほとんどで固く焼締まり、表面に釉がしっかりと付いたもの、黒く焼け焦げたものや砂がこびり付いたものがあった。器形としてはすべてB類であった。寸法は口径16.9cm、高台径7.9cm、器高5.4cmが平均で、全体との比較では若干大きいという結果が得られた。高台は付高台で、端部に靨痕が認められ、底部外面には糸きり痕と板目が確認された。高台の状態はすべて潰れていた。

8. 2号窯分焰柱内

2号窯分焰柱内からは皿類が1点と数点の瓶類の2種類の破片が出土し、分焰柱の補強または補修に使用されたと思われる。この瓶類は広口長頸瓶の破片と思われる。

皿 (挿図 第39図1)

分焰柱の断ち割り調査中に1点出土した。無高台のものである。底部外面には糸切り痕が認められる。1/2程度しか残存していないが、口径8.8cm、底径5.0cm、器高2.3cmを計測した。無高台のものの中で、口径を除いて平均的な大きさのものである。器形はG類系に属するものである。

9. 表採

発掘調査前に調査区の表土に露出または、動かした土中から採取されたものをここで扱う。ここでは碗類・鉢類・広口長頸瓶の3種類の器種が確認された。

(1) 碗

3個体分の資料が出土している。B類系が2点とC類系が1点であった。大きさは平均的なものである。高台は付高台で、端部には靨痕があり、底部外面には糸きり痕とナデ跡がみめられた。

(2) 鉢 (挿図 第40図1)

1個体分の資料が出土している。釉が分厚くかかり、内側底部に重ね焼の痕跡が認められる。高台はあるが、末端部の欠損が著しいので、靨痕あるいは砂痕は確認できない。口縁部の注口は残存していない。形状はA類1で、口径は平均よりやや大きいものである。

10. 広口長頸瓶

(1) 個体数分析について

発掘調査等により出土した広口長頸瓶の破片は総数287個をカウントした。この287個の破片から総個体数を割り出す作業をしたところ以下の結果が得られた。

底部を基準にカウントした場合 最低 43個

- | | |
|--|-----|
| ①底部が完全に残存しているもの | 26個 |
| ②底部が2/3以上残存しているもの | 2個 |
| ③底部が1/3以下しか残存せず、且つその1/3残存のものとは別個体と考えられるもので、また②とは別個体のもの | 12個 |
| ④底部がなく、胴体部のみでいずれの口縁部とも合致しないもの | 3個 |

口縁部を基準にカウントした場合 最低 48個

- | | |
|------------------------------------|-----|
| ①口縁部が完全に残存しているもの | 9個 |
| ②胴体部から口縁部まで残存していて、口縁部が部分的に欠落しているもの | 20個 |
| ③首部から口縁部までの破片で、②とは完全に形態が異なるもの | 19個 |

底部を基準にした場合は最低で43個、口縁部を基準にした場合は最低で48個という数字であった。詳細な分析は時間的にも予算的にも難しいので、これ以上の検討は不可能である。そのため今後の検討次第では、個体数の増減の可能性はのこされているが、現段階では広口長頸瓶は約50個体程度出土したと考えられる。観察表には76件分のデータを掲載したが、この数字がそのまま個体数にならないことを予め断っておく。

287点の広口長頸瓶を2通りの器形分類方法を使用して分けてみた。第1の方法は全体を通しての分類、第2の分類は口縁部のみによる方法で、以下に分類基準と器形分類図を示しておく。

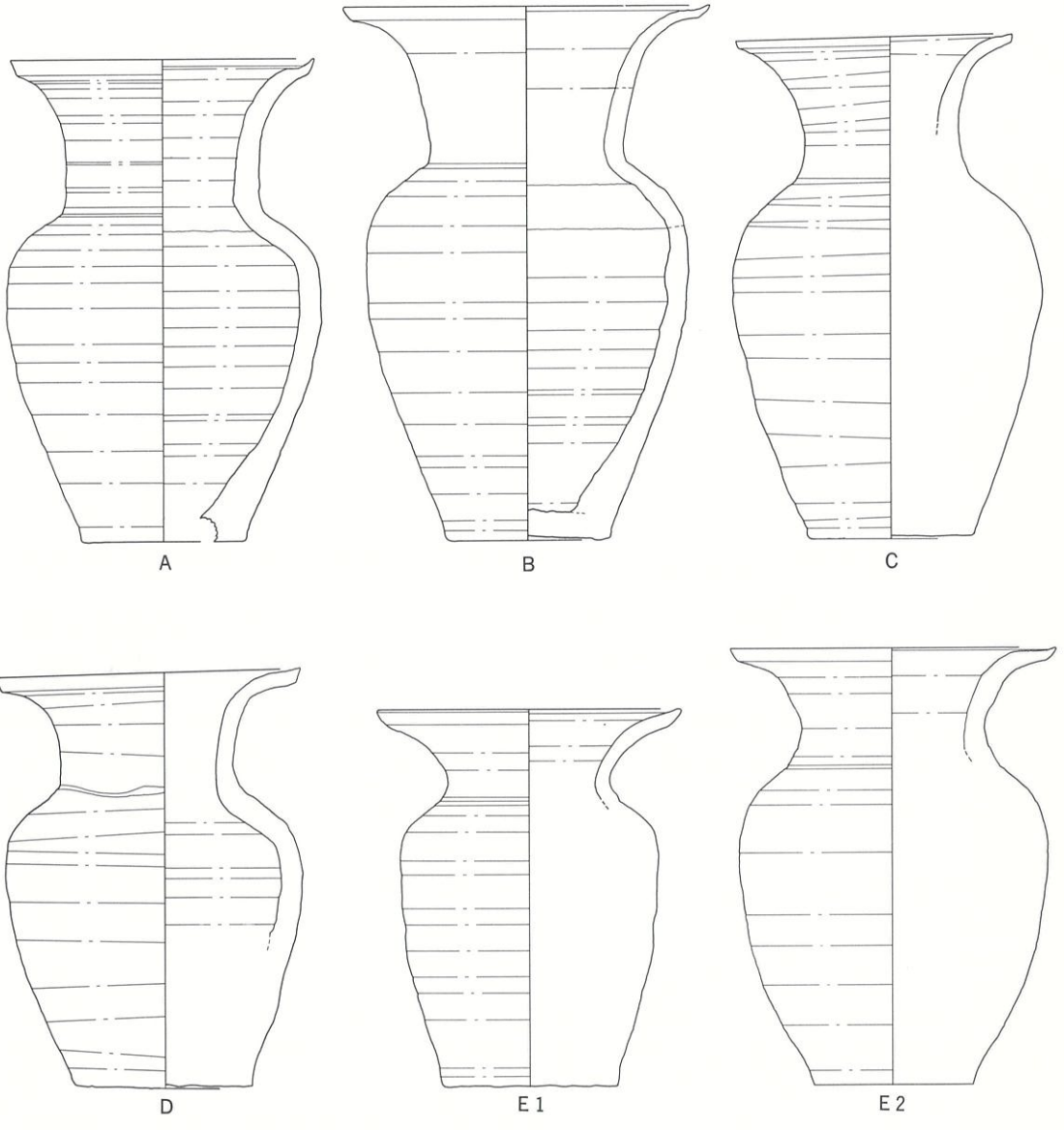
(2) 器形分類について

広口長頸瓶全体器形分類基準

A類 全体に成形が整っていて、猿投窯の最末期の同形の壺または瓶と類似していて、バランスが良い。口縁部が折り曲げた様に調整し、外に開いている。また、頸部と胴部のつけ根に明瞭な溝を有している。肩の部分の張りがなだらかに丸みを帯び、底部へと続いていく。底部は接合によるものである。

B類 全体的に成形にムラがあり、A類と比較して一回り大きい。頸部から底部にかけての形はなだらかに丸みを帯び、口縁部へと続いていく。頸部のつけ根から垂直的に立ち上がり、外へ開き、口縁部へとつながっていく。口縁端部はA類と比較して明瞭に折り曲げた様な調整は認められない。頸部と胴部のつけ根に溝を有している。

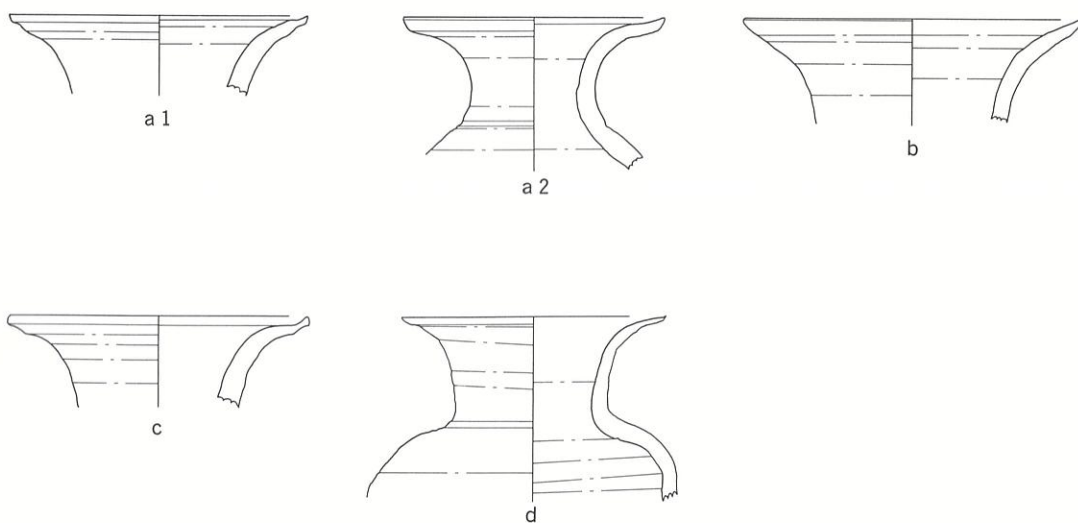
- C類 全体に成形が整っているが、A類よりは各部の整形はあまり明瞭でない。頸部から底部にかけてなだらかに丸みを帯び、肩の張りは明確でない。頸部は中段あたりで最小径があらわれる。つまりくびれる型をして、口縁部へと開いていく。口縁端部は整形が明瞭で、端部の部分ではナデにより出来た段差があり、外へ開きながら立ち上がる。頸部と胴部のつけ根に溝を有している。
- D類 全体のバランスはよいが、A類よりは各部の成形に粗雑感がある。特に胴部の整形が悪い。肩には張りが明確に認められ、直線的に底部へとつながる。頸部のつけ根から直線的ないし、開き気味に立ち上がる。口縁端部の厚みが余り変化せず、緩やかに外反する。折り曲げた様な感じはない。頸部と胴部のつけ根に溝を有している。
- E1類 A類からD類よりは小振りで、成形は粗雑である。胴部は肩の張りが明瞭で直線的に底部へと続いていく。頸部がかなり短く、いきなりラッパ状に開く感じである。口縁端部は厚みが余り変化せず、A類の様に折り曲げた感じではなく、つまむ様に細く整形されている。
- E2類 A類からD類よりは小振りで、成形は粗雑である。胴部は肩の張りがなく、卵型をしている。頸部は短く、C類と形状が似ている。端部の仕上げはE1類系よりは丁寧である。また、折り曲げた様に端部を整形し、外へ開いている。



第25図 神明古窠出土の広口長頸瓶全体器形分類図

広口長頸瓶口縁端部器形分類基準

- a1 端部が外に向かって開きながら立ち上がるとともに、先端は尖った様な部分となる。その外面には平坦面が形成されているもの。
- a2 端部が外に向かって開きながら立ち上がるが、厚みの変化が乏しい。その外面には平坦面が形成されているもの。
- b 端部外面に平坦面をつくるが、つまみ上げた部分を形成せず、まるく仕上げられたもの。
- c 口縁端部の手前で厚みが薄くなり、折り曲げにより、端部外面の平坦面が頸部と直交するもの。
- d 口縁端部の厚みが薄くなり、端部は外に向かって開き、折り曲げにより、端部外面に平坦面を形成するもの。



第26図 神明古窯出土の広口長頸瓶口縁端部器形分類図

(3) 広口長頸瓶について(挿図 第41図1~4、第42図5~8、第43図9~12、第44図13~18、第45図19~24)

前述のとおり広口長頸瓶の破片は総数287個である。接合作業により全体分類で5種類6タイプの器形のもものが焼成されていたことが確認できた。器形の形態や特徴は10.(2)に譲ることとする。個々にはそれぞれ各部位に特徴があるものの、一般的にはラッパ状に大きく外反する口縁部や長い首から球状を呈した肩に続き、胴部の下はややすぼまり、無高台の底部と

いう形状をしている。平均して口径は16.9cm、底径は9.23cm、器高は24.64cmであった。他の古窯で出土した広口長頸瓶と比較して同じ様な寸法のものである⁽¹⁾。成形の方法は粘土紐巻き上げと、ナデによる調整がとられているが、一体として形状がつくられてはおらず、口縁部と頸部が胴部と接着されており、その痕跡が頸部と胴部のつけ根にミゾとして現れている。また、底部も接合されている場合がほとんどである。胎土は他の遺物と比較して特に質に変化があるとは認められないが、ただA類のものはかなり良質である。

以上のように、形態がいく種類もあり、かつ焼成品に質的な差が認められる。これは、広口長頸瓶が数人の工人の手になるためか、時間的な差によるものかのいずれかと想定される。しかし、A類と比較して他類型が成形に質的な差が感じられるのは、現時点ではA類を手本にこれを模倣して作られたためと思われる。

(古田)

註

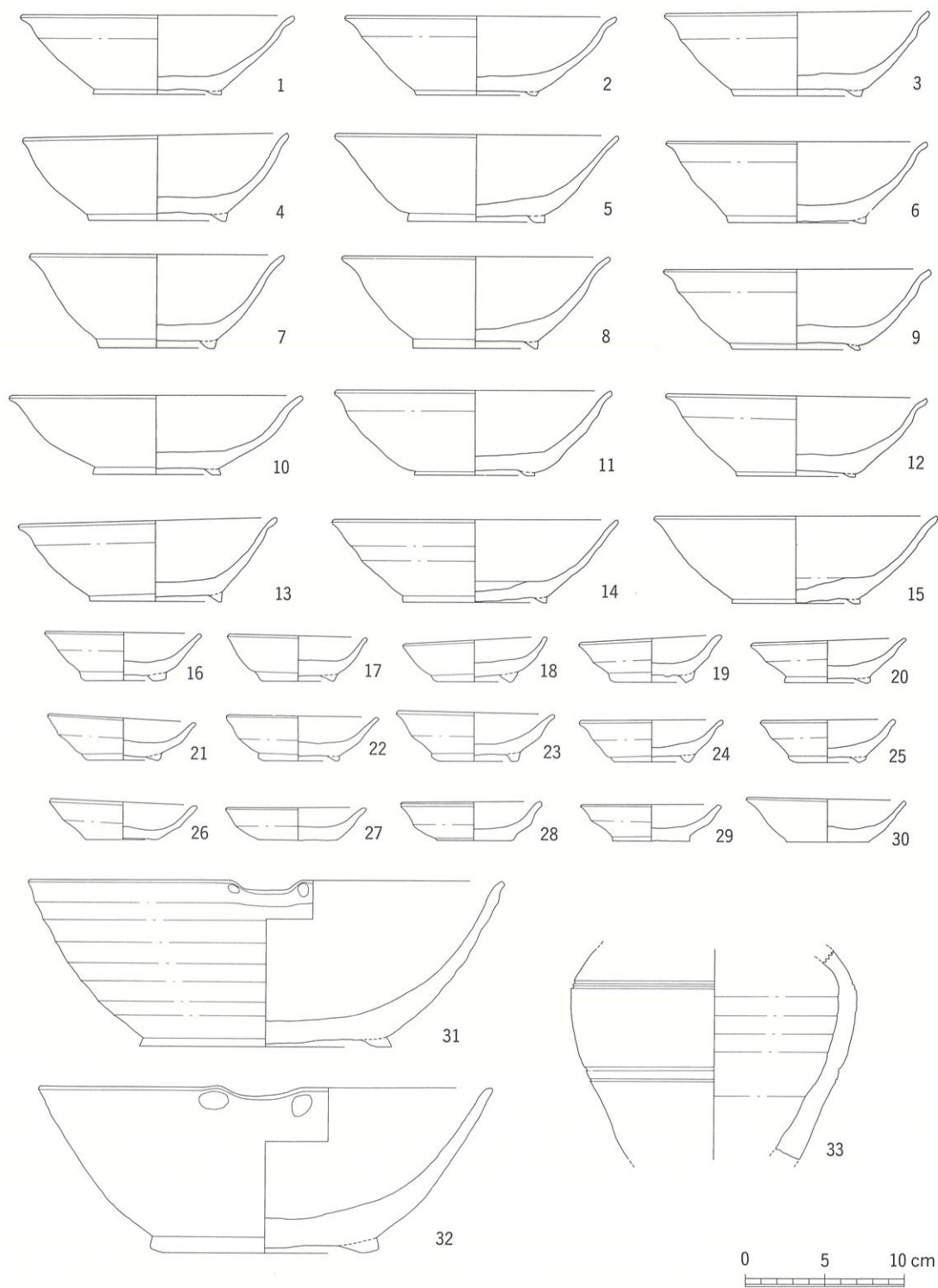
(1) 比較対象は、上白田古窯（常滑市）と八和田古窯（三好町）のものである。

	口径	頸基部径	胴部最大径	底径	器高	口頸部高
全体	16.9	9.6	16.4	9.2	24.6	6.9
A	17.0	10.6	17.4	9.0	26.5	8.2
B	20.4	8.8	17.2	8.9	28.0	8.5
C	16.0	9.9	16.8	9.3	25.8	7.3
D	17.7	9.3	16.0	9.6	24.0	6.4
E1	16.7	9.4	14.5	9.5	20.6	4.8
E2	16.7	10.4	16.5	8.3	23.2	5.7

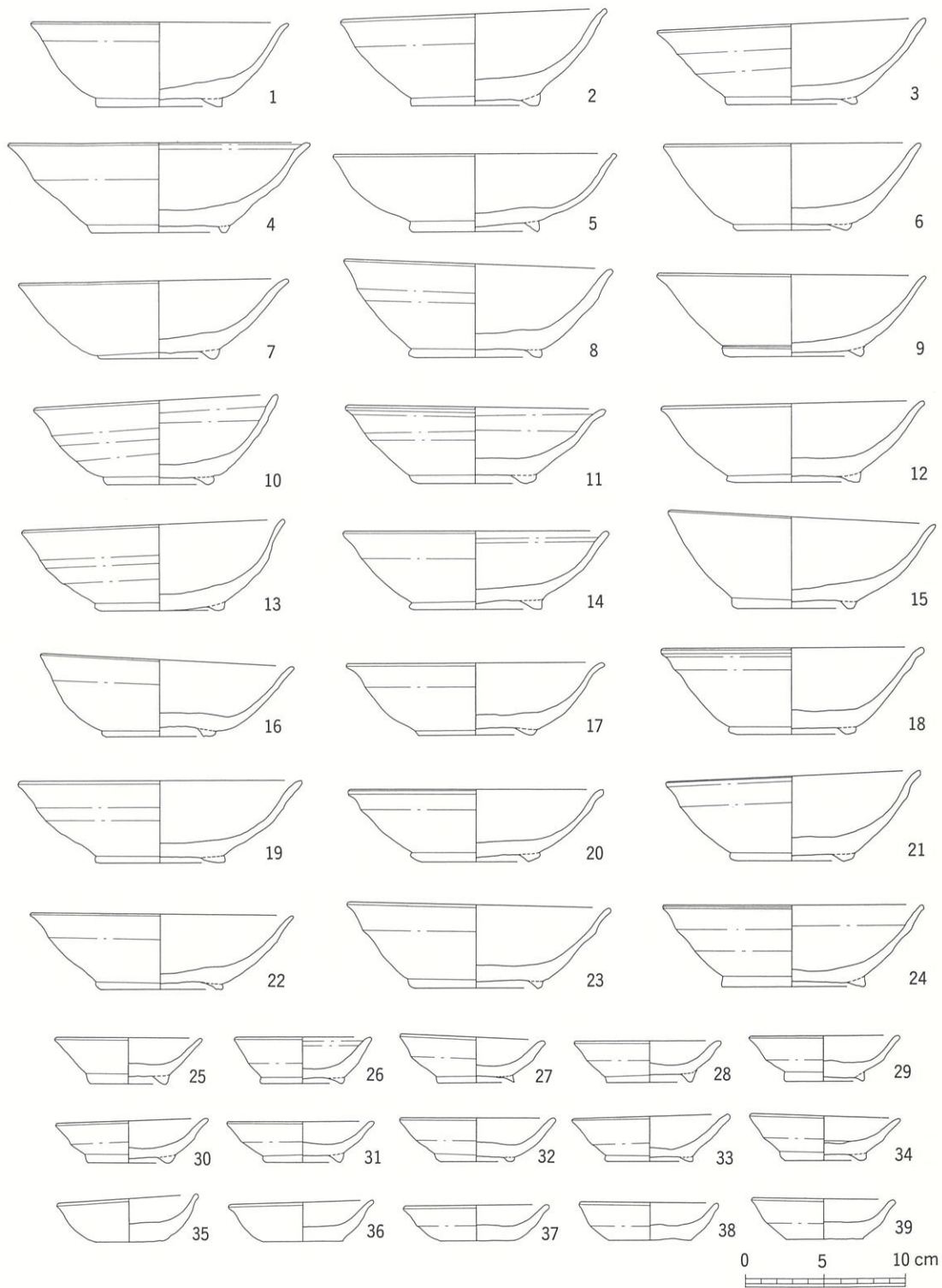
第16表 神明古窯出土広口長頸瓶法量表（平均値）（単位 cm）

	a1	a2	b	c	d
個体数	29	10	3	1	5
口径 平均値	16.7	16.8	19.5	16.0	16.8
最小値	14.8	14.0	17.8		14.1
最大値	24.0	19.2	20.5		19.6

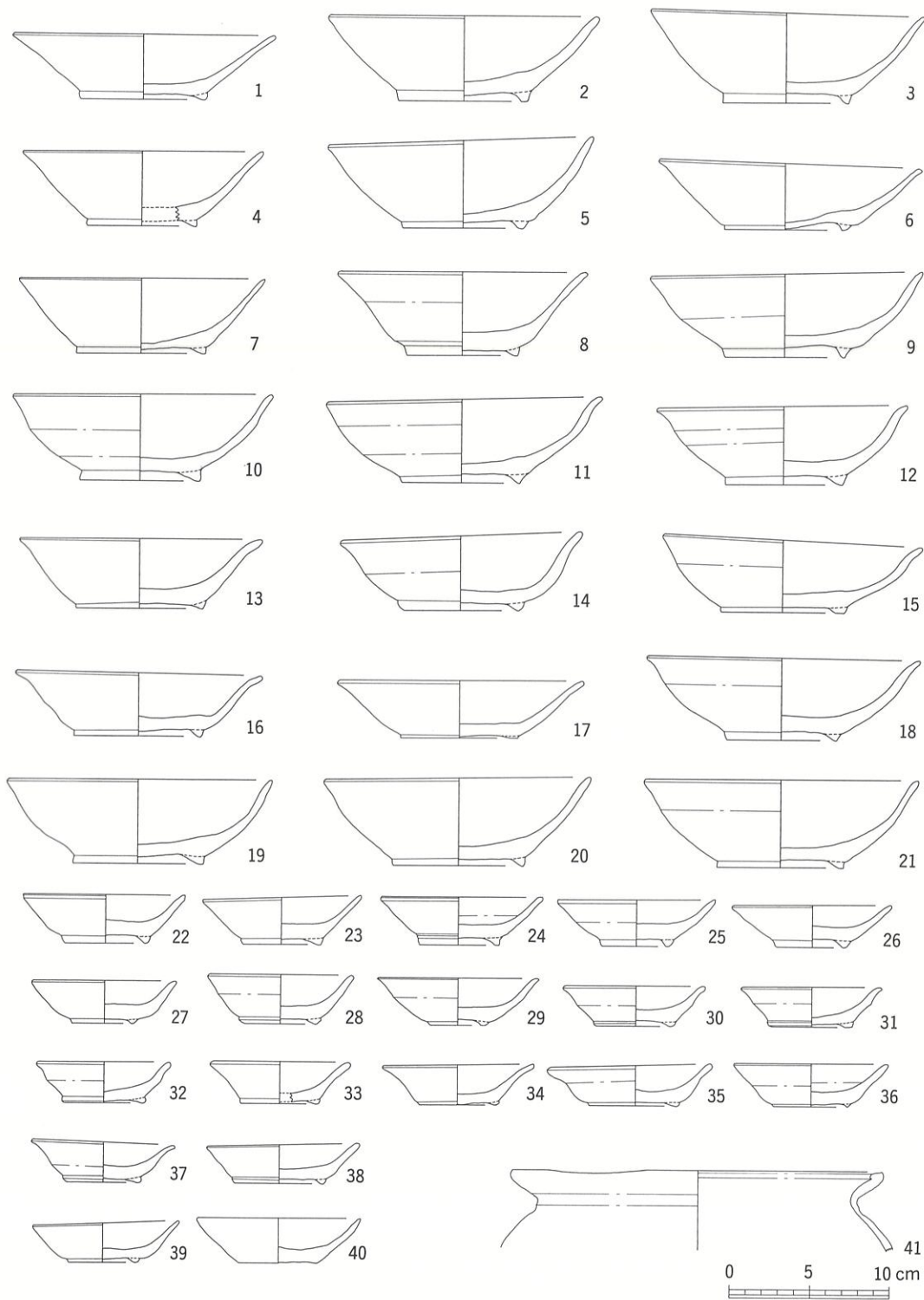
第17表 神明古窯出土広口長頸瓶口縁端部法量表（平均値）（単位 cm）



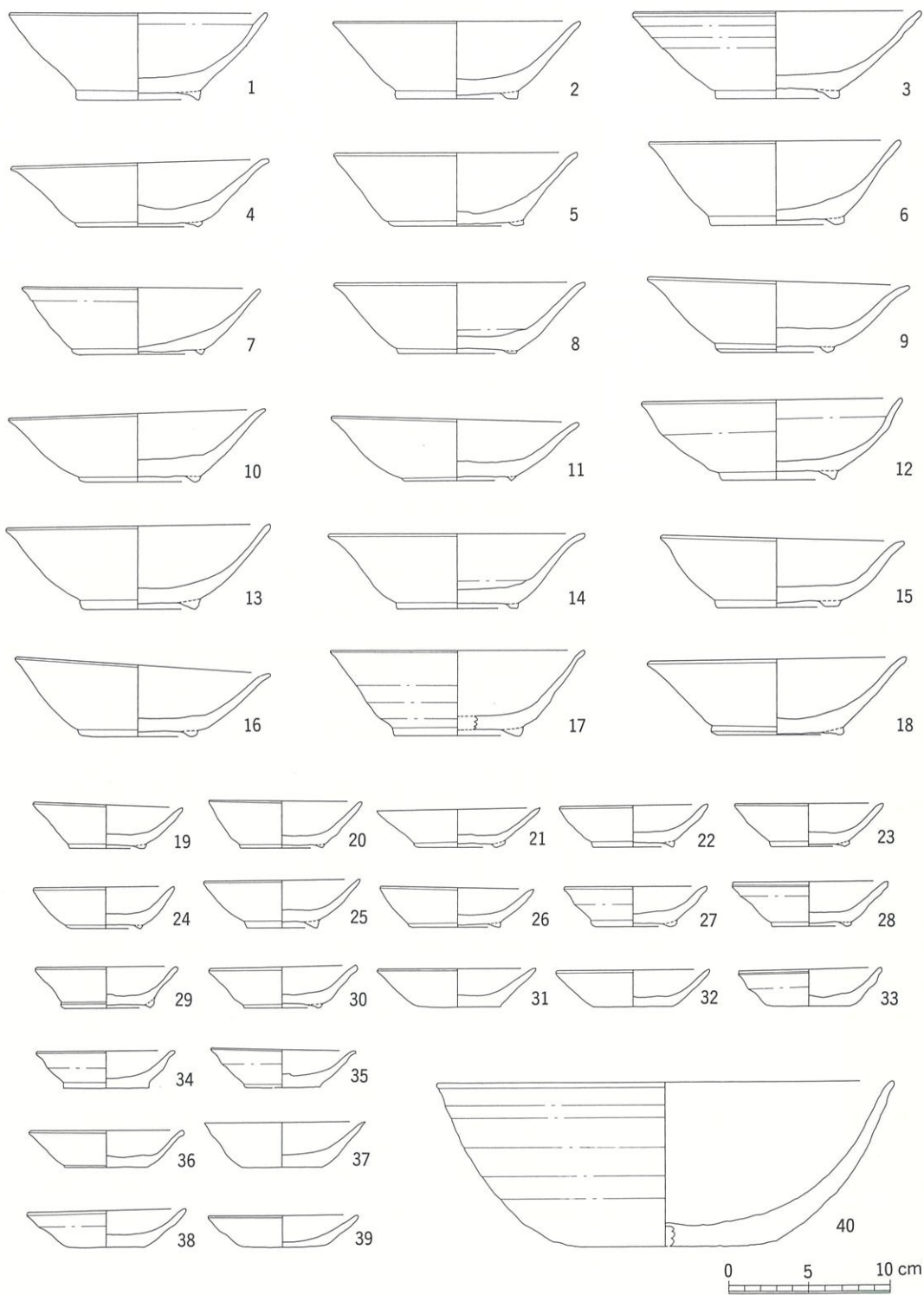
第27图 神明第2号窠窠内出土遗物实测图



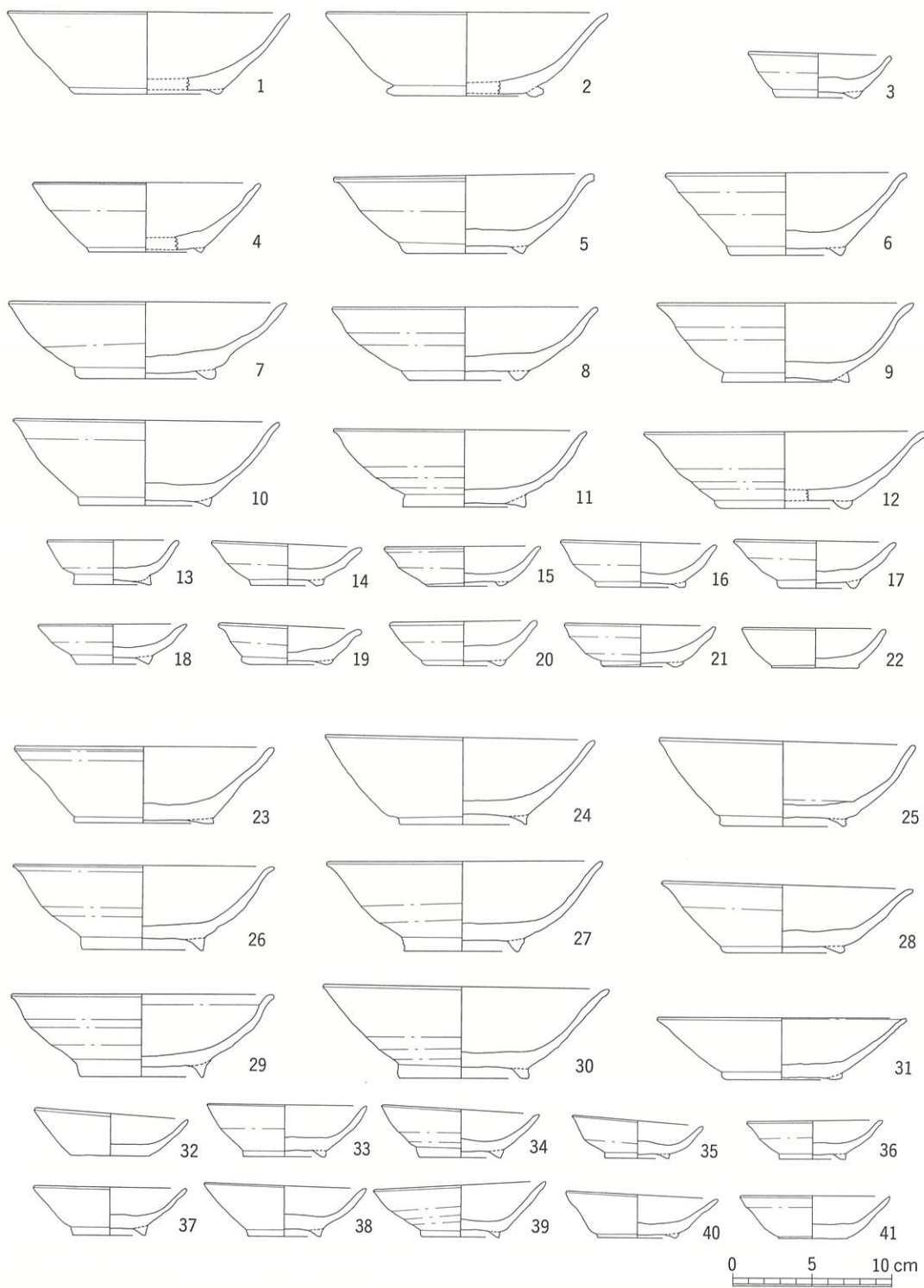
第28図 神明第2号竪坑出土遺物実測図



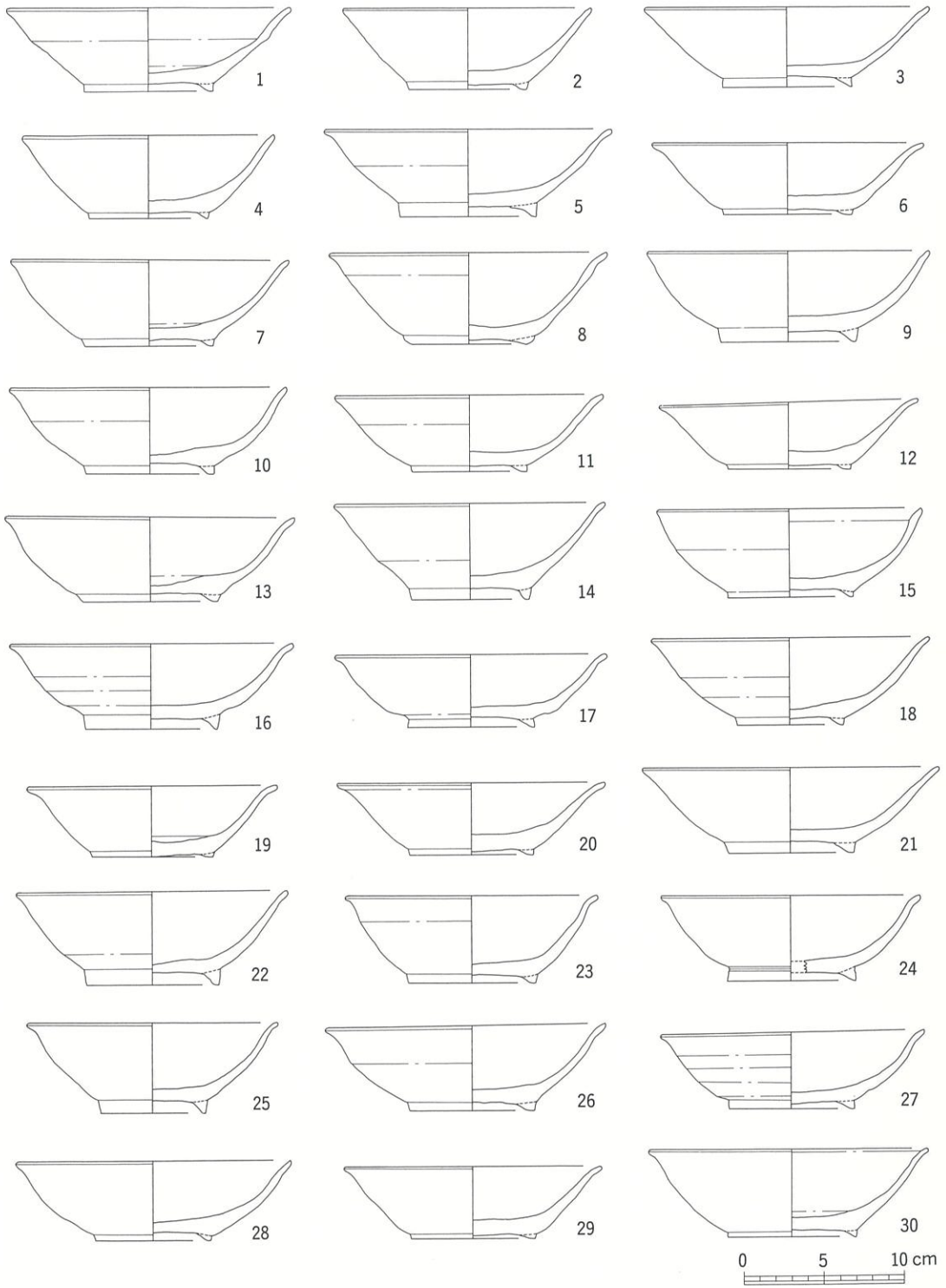
第29图 神明第3号窠窠内出土遗物实测图



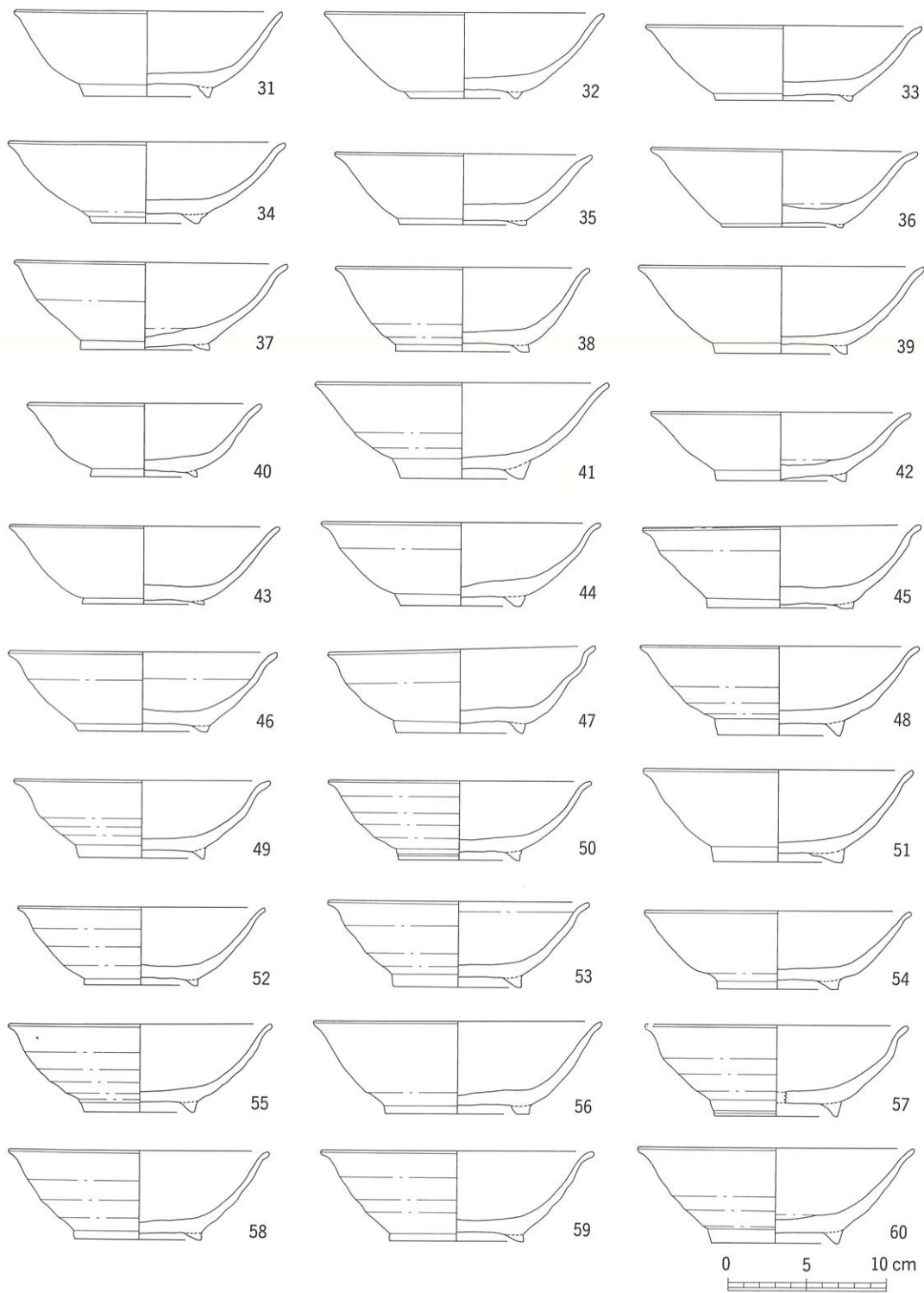
第30図 神明第3号竈ピット出土遺物実測図



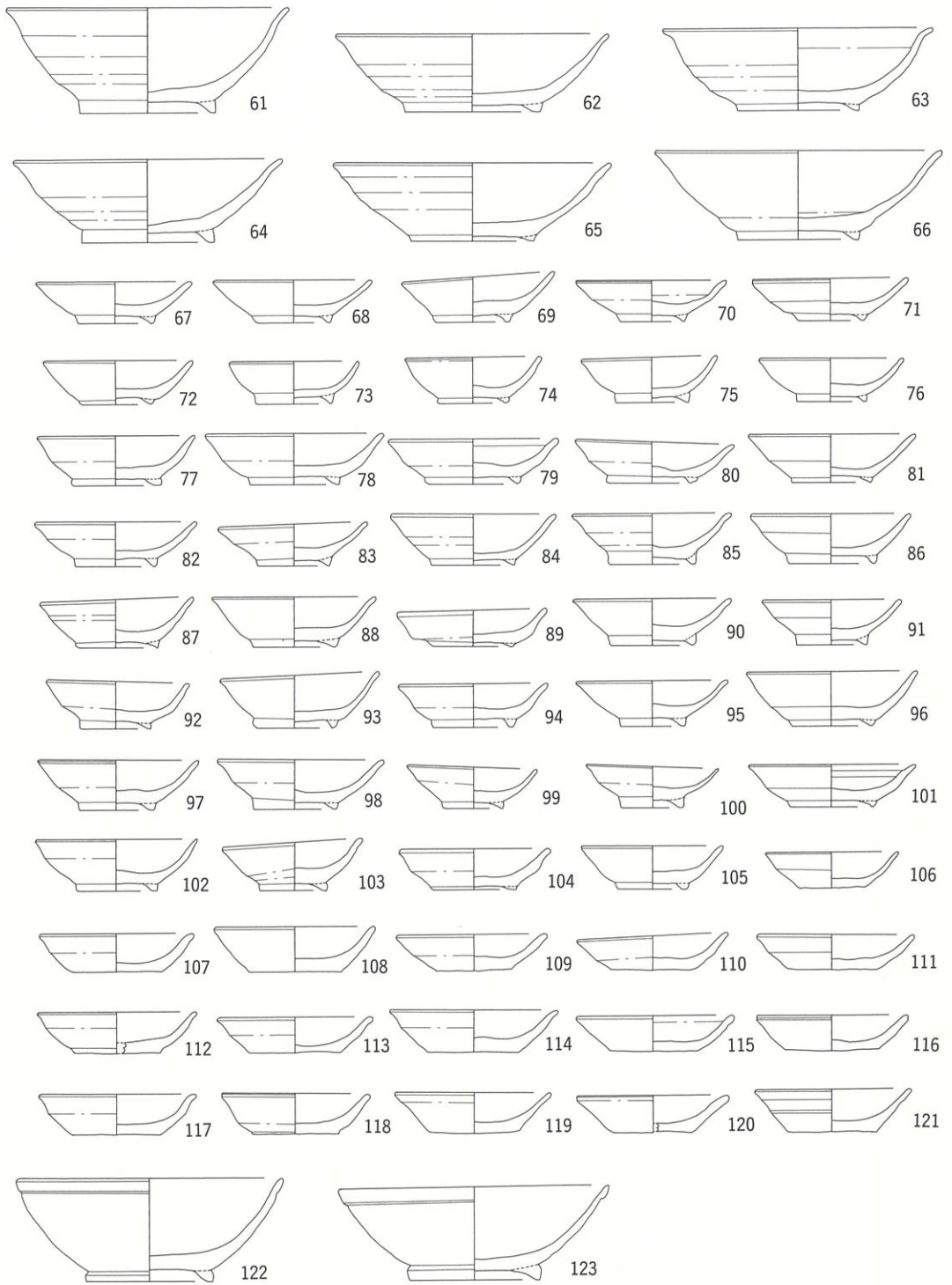
第31图 神明古窯前庭部出土遺物実測図



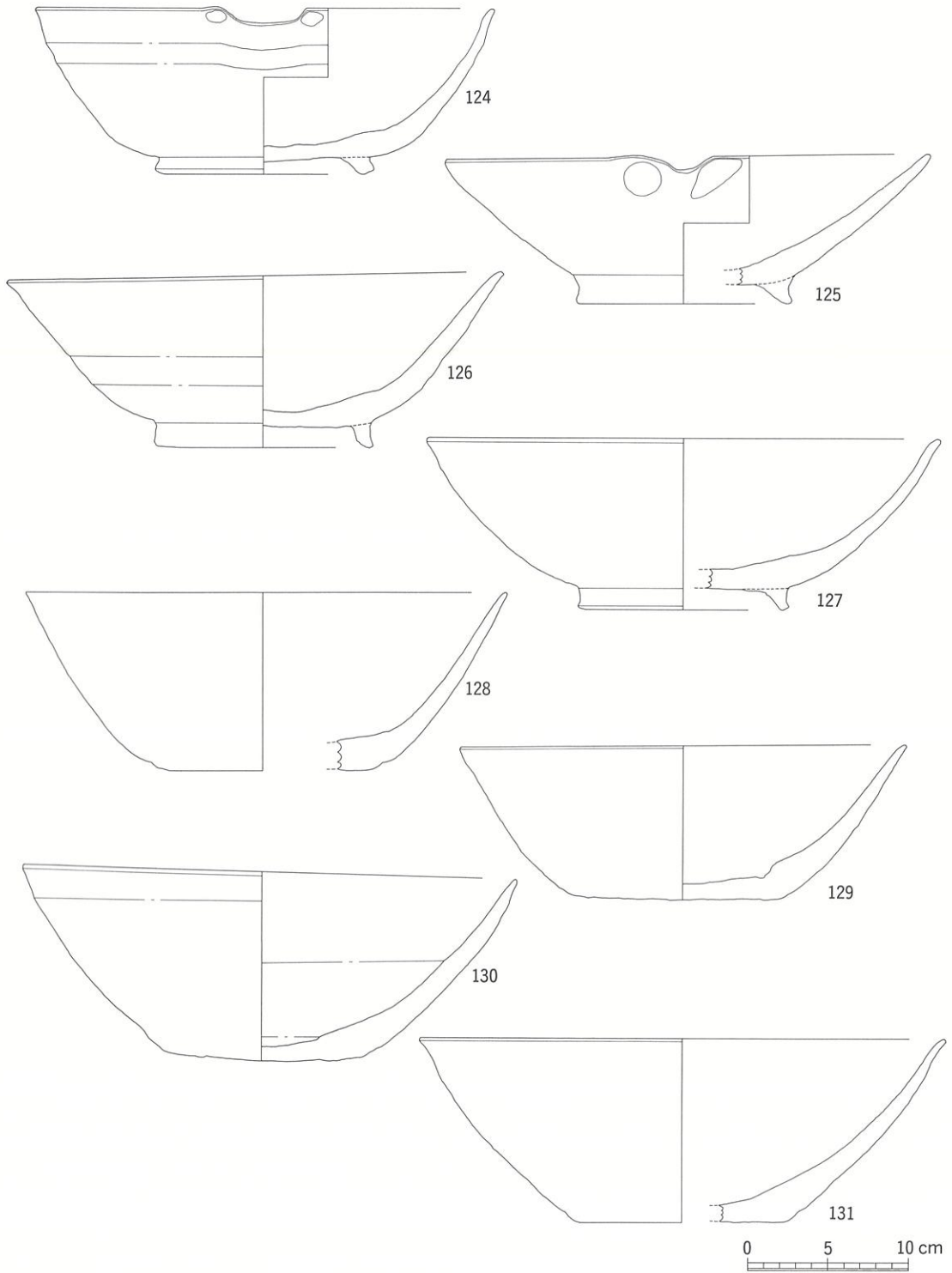
第32図 神明古窯前庭部ベルト出土遺物実測図(1)



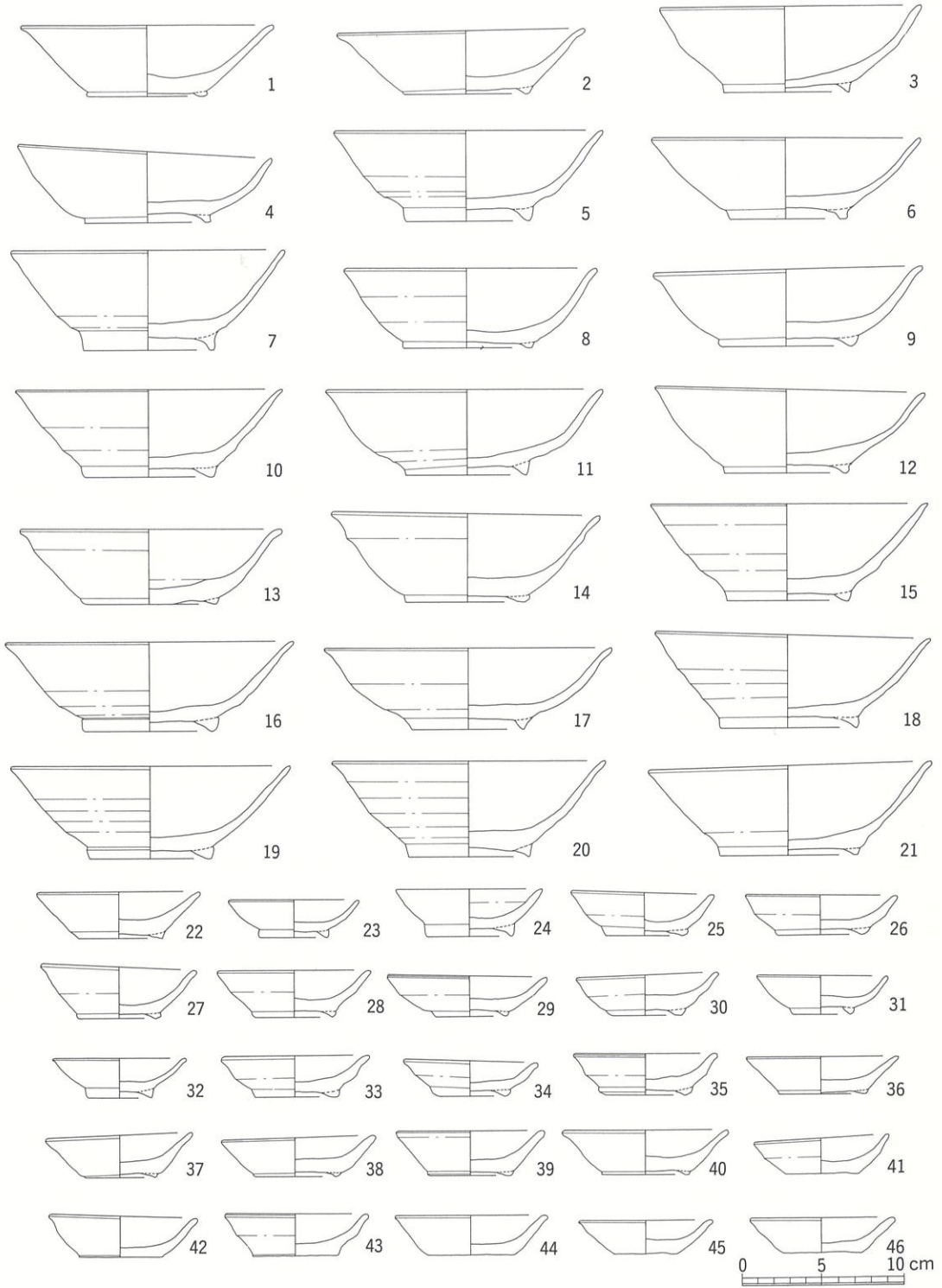
第33図 神明古窯前庭部ベルト出土遺物実測図(2)



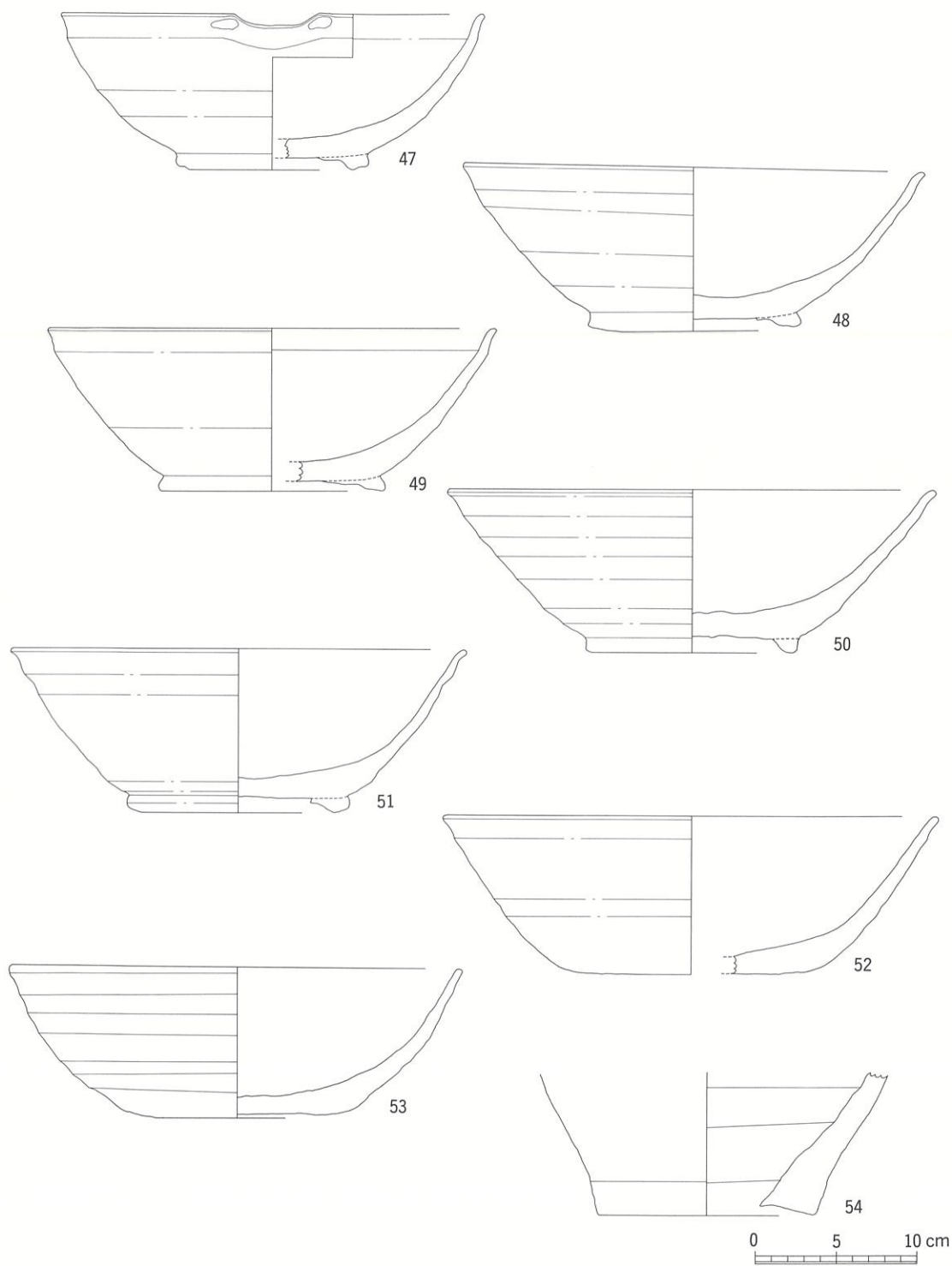
第34図 神明古窯前庭部ベルト出土遺物実測図(3)



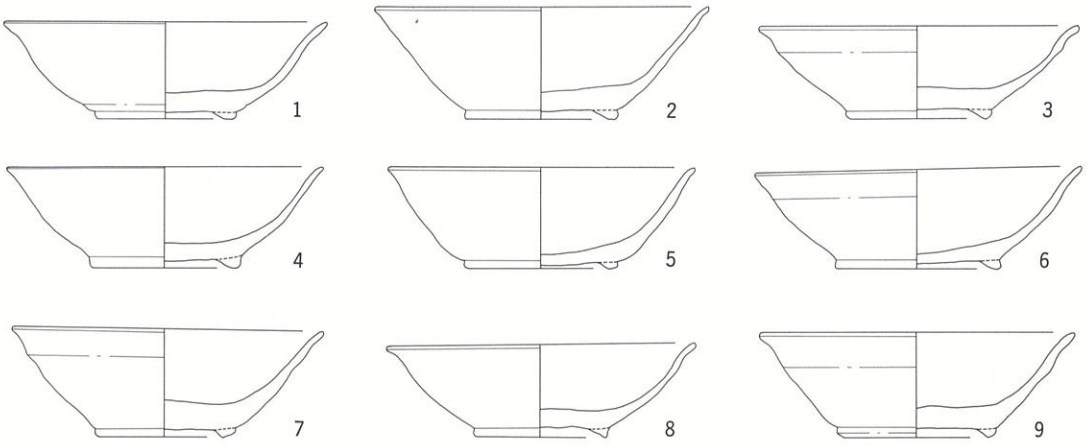
第35図 神明古窠前庭部ベルト出土遺物実測図(4)



第36図 神明古窯灰原出土遺物実測図(1)



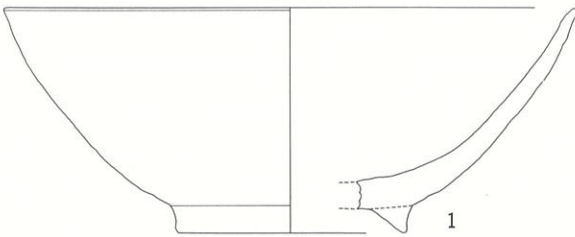
第37図 神明古窯灰原出土遺物実測図(2)



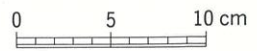
第38図 神明第1号窠分焰柱内出土遺物実測図

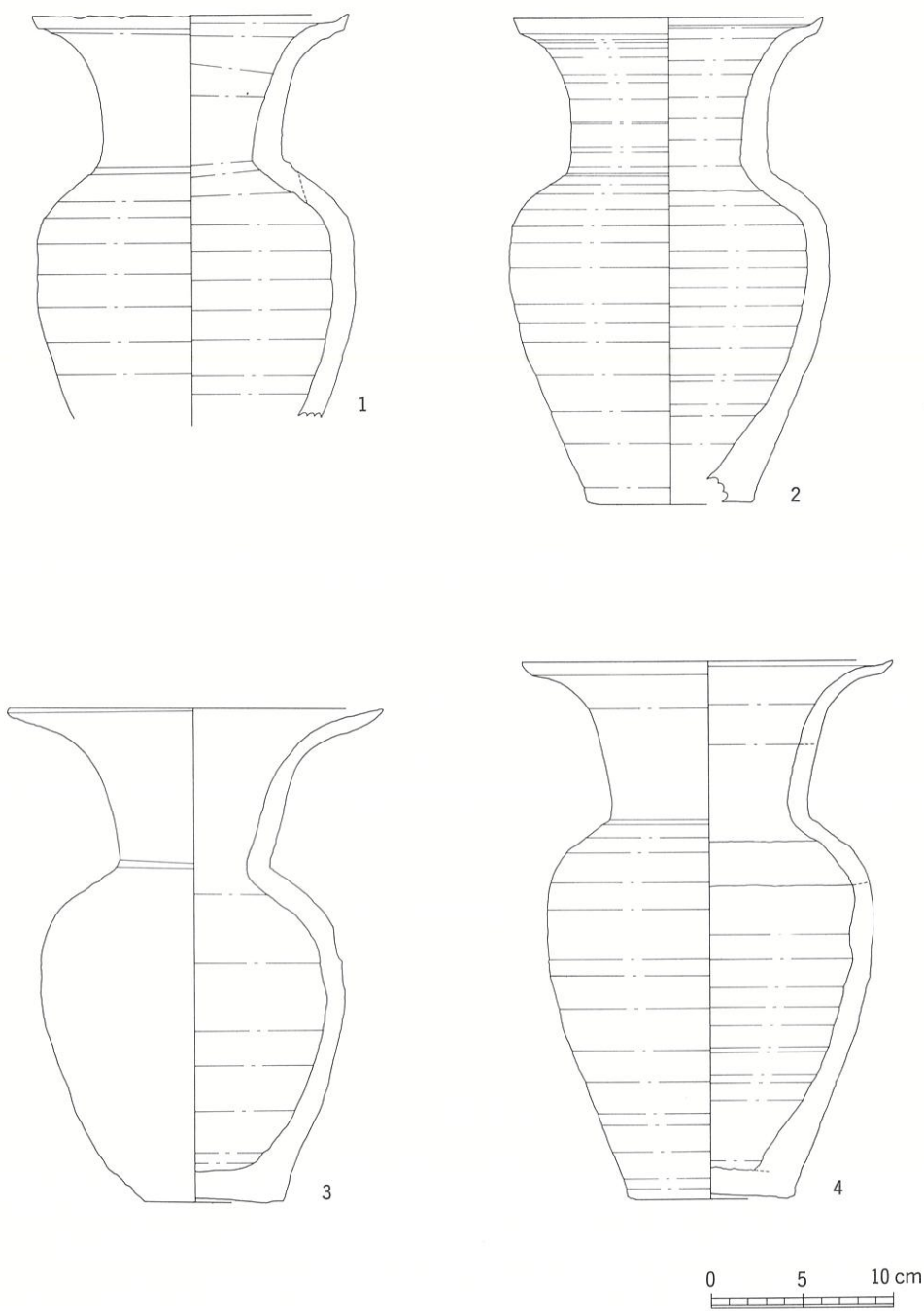


第39図 神明第2号窠分焰柱内出土遺物実測図

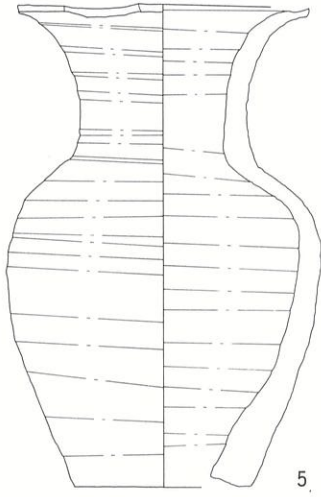


第40図 神明古窠表採遺物実測図

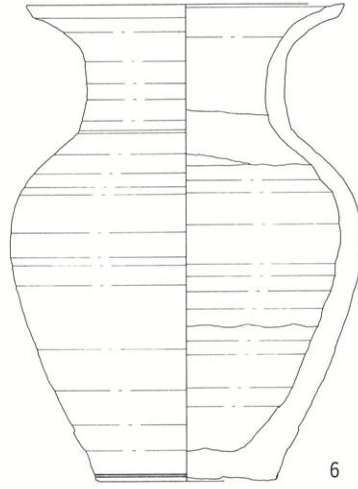




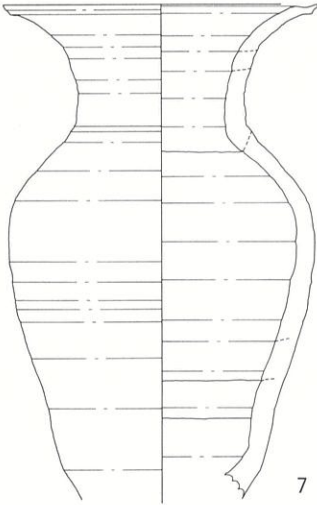
第41図 神明古窯出土広口長頸瓶実測図(1)



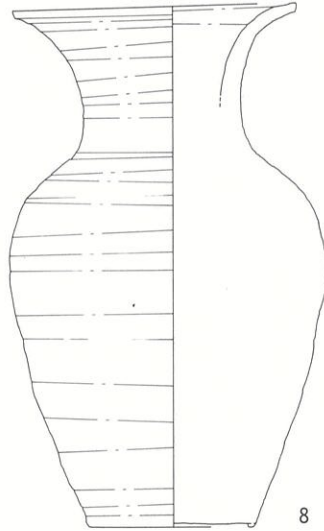
5



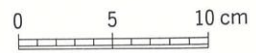
6



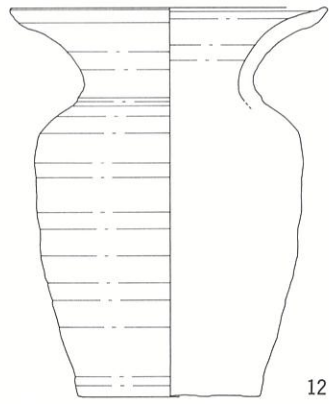
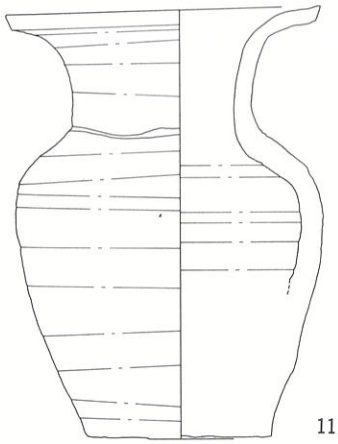
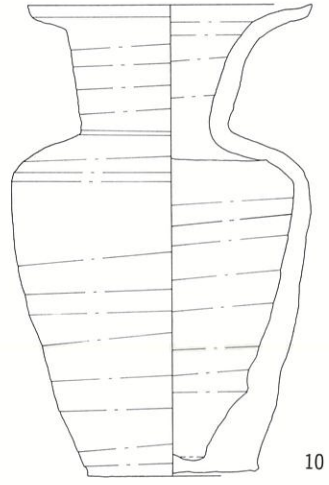
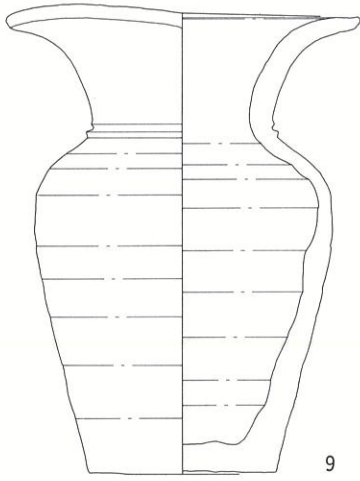
7



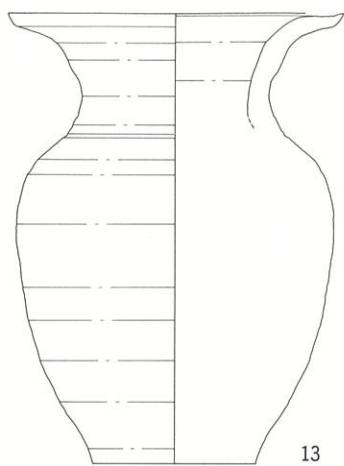
8



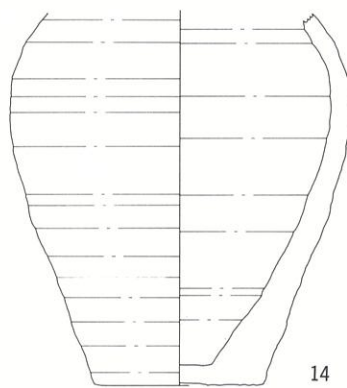
第42図 神明古窠出土広口長頸瓶実測図(2)



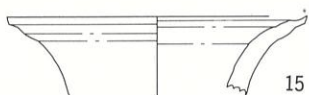
第43図 神明古窠出土広口長頸瓶実測図(3)



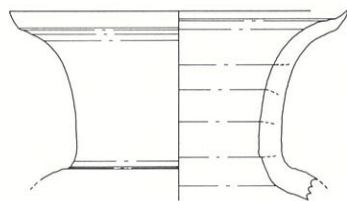
13



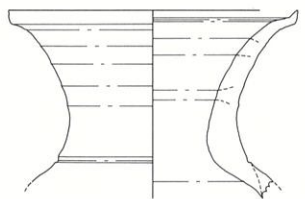
14



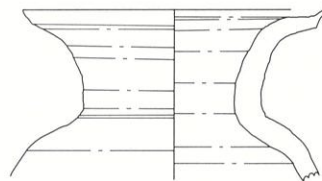
15



16



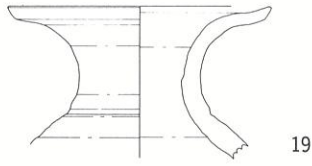
17



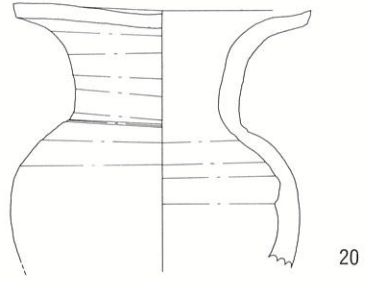
18



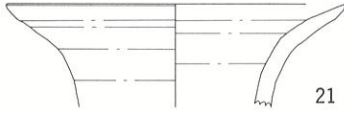
第44図 神明古窯出土広口長頸瓶実測図(4)



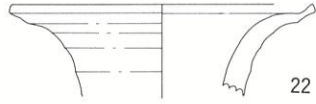
19



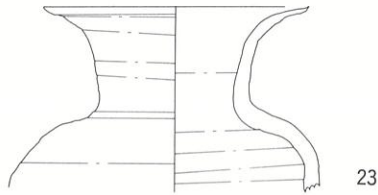
20



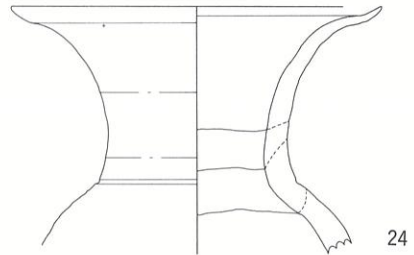
21



22



23



24



第45図 神明古窯出土広口長頸瓶実測図(5)

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量 (cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
1			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	15.8	7.2	5.4	有	1/4潰れ	接合
2			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(15.4)	(7.6)	5.0	有	1/2潰れ	
3			Ac2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り・ 板目	16.1	7.8	5.0	有	潰れ	接合
4	27-8	25-7	Bc1	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.8)	(7.8)	5.8	有		生焼け
5			Bc2	2号窯分焰柱東側	砂跡	糸切り	(15.8)	(7.6)	5.3	有		口唇部に線
6			Bb2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(15.9)	(6.6)	5.1	有	潰れ	
7			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(17.3)	7.5	5.5	有	1/2潰れ	口唇部にミゾ
8	27-9	25-8	Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	16.8	8.0	5.1	有	1/2潰れ	重量感あり
9			Bc2	2号窯分焰柱東側	靱跡	糸切り	(17.1)	7.8	5.5	有	潰れ	
10			Ba2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	16.6	8.5	5.2	有	1/2潰れ・1/2 とれ	歪み
11			Bc2	2号窯分焰柱東側	靱跡	糸切り	(16.9)	8.0	5.3	有	潰れ	
12			Bb2	2号窯焼成室	靱跡	指ナデ	17.4	8.6	4.5	有	1/2潰れ	
13			Bc2	2号窯焼成室	靱跡	糸切り	(16.9)	7.7	5.2	有	潰れ	
14			Bb2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り・ 板目	16.5	8.0	5.2	有	潰れ	接合
15	27-5		Bb1	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(17.7)	(8.6)	5.5	有	潰れ	重量感あり
16	27-10	25-9	Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(18.5)	8.0	5.0	有		重量感あり
17	27-11	25-10	Bc2	2号窯燃焼室	靱砂跡	糸切り	17.3	7.6	5.4	有	潰れ	
18	27-1	25-1	Ac2	2号窯焼成室	靱跡	糸切り・ 板目	(17.2)	8.0	5.0	有	潰れ	重量感あり、口唇部 にミゾ
19			Ba2	2号窯焼成室	靱跡	糸切り	16.0	8.2	5.2	有		歪み
20			Bc2	2号窯分焰柱東側	靱砂跡	糸切り	16.7	8.3	4.8	有	潰れ	
21			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	16.5	7.8	5.6	有	1/4潰れ	生焼け
22			Ac2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	17.0	8.0	5.2	有	潰れ	生焼け
23			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.8)	8.2	5.1	有	潰れ	重量感あり
24	27-15	26-14	Db2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(17.8)	8.0	5.5	有	潰れ	重量感あり
25	27-6	25-5	Bb2	2号窯焼成室	砂跡	糸切り	(16.4)	8.6	5.1	有	2/3潰れ	
26	27-4	25-4	Ba2	2号窯焼成室	靱跡	糸切り	16.7	8.6	5.4	有		重量感あり
27			Bb2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.8)	6.8	5.2	有	潰れ・1/2とれ	
28	27-12	26-11	Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	指ナデ・ 板目	16.4	7.4	5.1	有	3/4潰れ	
29	27-2	25-2	Ac2	2号窯燃焼室	靱砂跡	指ナデ	16.9	7.5	5.0	有		
30	27-3	25-3	Ac2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	16.7	8.0	5.3	有	3/4潰れ	重量感あり、口唇部 にミゾ
31			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り・ 板目	16.7	7.6	4.8	有	潰れ	
32	27-14	26-13	Cb1	2号窯分焰柱東側	靱跡	糸切り	(17.8)	9.0	5.2	有	2/3潰れ	
33			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(17.6)	8.0	5.4	有		
34			Bc2	2号窯分焰柱東側	靱跡	糸切り	16.5	8.5	5.0	有		
35			Bb2	2号窯燃焼室	靱跡	指ナデ	16.4	8.2	5.1	有	1/2潰れ	接合
36			Bc2	2号窯燃焼室	砂跡	糸切り・ 板目	17.1	7.7	5.1	有	潰れ	
37			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.4)	7.6	5.4	有	潰れ	
38			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	16.8	8.4	4.8	有	1/4潰れ	
39	27-13	26-12	Bc2	2号窯焼成室	靱砂跡	糸切り	16.2	8.2	5.1	有	1/2潰れ	重量感あり
40	27-7	25-6	Bb2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	16.0	7.2	5.9	有	3/4潰れ	
41			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(15.6)	8.2	5.1	有		
42			Bb1	2号窯焼成室	靱砂跡	糸切り	16.2	8.9	4.8	有	潰れ	
43			Bb2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(15.8)	7.4	4.9	有		
44			Ac2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	16.4	8.4	5.0	有	潰れ	接合
45			Ac2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	16.4	8.0	4.9	有	1/3潰れ	
46			Ac2	2号窯分焰柱東側	靱跡	糸切り	(17.4)	8.1	5.0	有		
47			Ac2	2号窯燃焼室	靱跡	ナデ	(16.2)	8.0	5.0	有		接合、口唇部にミゾ
48			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.4)	8.3	4.9	有	1/2とれ	
49			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	16.4	8.4	5.1	有	潰れ	接合
50			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	—	(14.8)	(7.4)	5.0	有	潰れ	
51			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.6)	8.0	5.4	有	1/2潰れ	
52			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	16.0	7.5	5.2	有	潰れ	接合、口唇部にミゾ

第18表 神明古窯出土遺物観察表 碗(1)

法量の数値で () は推定値、[] は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量 (cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
53			Bb2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.2)	7.8	5.1	有	1/2潰れ	
54			Ab2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.6)	7.8	5.6	有		
55			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.0)	(7.8)	5.5	有	1/2とれ	口唇部にミゾ
56			Bb2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(17.2)	8.5	5.0	有	1/3潰れ	接合
57			Ba1	2号窯焼成室	靱跡	糸切り	(17.6)	(8.0)	5.0	有	5/6とれ	
58			Bc2	2号窯焼成室	靱跡	糸切り	16.4	7.3	4.9	有	1/3潰れ	接合
59			Bb2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.4)	(8.0)	5.8	有	少々潰れ	
60			Bb2	2号窯分焰柱東側	靱跡	ナデ	(16.2)	(8.0)	5.5	有		
61			Bc2	2号窯分焰柱東側	靱跡	糸切り・ 板目	16.5	8.3	5.1	有		接合
62			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.2)	8.1	5.0	有	1/2潰れ	
63			Bb2	2号窯分焰柱西側	靱跡	糸切り	17.0	7.2	5.2	有	1/2潰れ	
64			Bb2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	17.2	8.1	4.7	有	1/3潰れ	接合
65			Ac2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り・ 板目	(16.4)	8.8	5.1	有	1/4潰れ	
66			Ac2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	15.9	8.2	5.2	有	潰れ	接合
67			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り・ 板目	(16.4)	8.9	5.1	有	2/3とれ	
68			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(17.0)	8.2	5.2	有	潰れ	接合、口唇部にミゾ
69			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.6)	7.6	5.0	有	潰れ	
70			Aa2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.8)	(8.4)	5.2	有		
71			Bb2	2号窯燃焼室	靱跡	—	(16.2)	(7.4)	4.9	有	潰れ	
72			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り・ 板目	16.6	8.4	5.4	有	潰れ	接合、口唇部にミゾ
73			Aa2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(15.8)	7.2	4.5	有		
74			Ba2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(17.2)	8.4	5.9	有	1/3潰れ	
75			Ab1	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.4)	(8.2)	5.6	有		
76			Ac2	2号窯燃焼室	靱跡	—	(16.2)	(8.0)	4.5	有	1/2とれ	
77			Bc2	2号窯分焰柱東側	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.2)	4.9	有	3/4とれ	
78			Bb2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.2)	7.6	5.1	有	2/3潰れ	重ね焼最上部
79			Ac2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.4)	7.6	4.6	有	1/3潰れ	
80			Ba2	2号窯焼成室	砂跡	ナデ	(16.2)	(7.8)	5.0	有		
81			Ac2	2号窯分焰柱西側	靱跡	糸切り	(15.8)	8.4	5.0	有		
82			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り・ 板目	(16.4)	7.7	5.0	有	潰れ	
83			Ac2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	16.5	7.9	5.1	有	潰れ	接合
84			Bc2	2号窯分焰柱東側	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.4)	5.5	有	1/4潰れ	口唇部にミゾ
85			Bb2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.6)	7.8	4.9	有	潰れ	
86			Bb2	2号窯燃焼室	靱跡	—	(14.8)	(6.6)	[4.1]	—	とれ	
87			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.6)	8.3	5.2	有	潰れ	口唇部にミゾ
88			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	16.4	7.2	5.2	有	潰れ	
89			Ba2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(17.0)	7.6	5.0	有	1/2潰れ	歪み
90			Bb2	2号窯焼成室	靱跡	指ナデ	(16.0)	7.5	5.0	有		
91			Aa2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.0)	8.0	5.1	有	潰れ	
92			Ac2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.6)	(8.2)	5.5	有	潰れ	
93			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.6)	(7.6)	4.8	有	1/3とれ	
94			Ac2	2号窯燃焼室	靱跡	ナデ	(16.8)	(7.2)	5.0	有	1/2とれ	
95			Ac2	2号窯燃焼室	靱跡	ナデ	(16.0)	8.0	5.0	有	潰れ	
96			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り・ 板目	(17.4)	8.3	5.4	有	1/2潰れ	口唇部にミゾ
97			Bb1	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(17.0)	8.0	5.0	有		
98			Bb1	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(17.6)	(7.2)	4.9	有	潰れ	
99			Ac2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.6)	8.2	4.2	有	1/3とれ	
100			Bb2	2号窯分焰柱東側	靱跡	—	(16.6)	(7.2)	5.1	有		口唇部にミゾ
101			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(17.4)	(8.2)	4.9	有	1/2とれ	
102			Bb2	2号窯燃焼室	靱跡	ナデ	(16.2)	(7.6)	5.2	有	潰れ	歪み

第19表 神明古窯出土遺物観察表 碗(2)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
103			Ab2	2号窯燃焼室	靱跡	ナデ	(16.2)	7.4	5.3	有	潰れ	
104			Bc2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.2)	7.7	5.2	有	1/2とれ	口唇部にミゾ
105			Ac2	2号窯焼成室	靱砂跡	—	(15.4)	(7.6)	5.1	有		
106			Bb2	2号窯焼成室	砂跡	糸切り	(16.0)	8.0	5.5	有		
107			Bb2	2号窯焼成室	靱跡	糸切り	(16.2)	(8.2)	5.1	有		
108			Bb2	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	(16.0)	(8.0)	5.2	有		生焼け
109			Bc2	3号窯焼成室上層	靱跡	ナデ	16.5	8.1	5.1	有	潰れ	接合
110	29-19	33-12	Db1	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	(16.5)	8.2	5.3	有		
111			Bb1	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	(15.5)	8.0	5.5	有		
112	29-8	32-4	Ba2	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(15.5)	7.9	5.2	有	1/2潰れ	
113	29-17		Bb3	3号窯燃焼室	靱跡	ナデ	(15.3)	7.3	3.6	有		
114	29-1		Aa1	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.4)	7.7	4.1	有	潰れ	
115	29-10		Bb1	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	16.3	7.6	5.4	有	潰れ	生焼け
116			Ab1	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	16.5	7.8	5.6	有		
117	29-5		Ab2	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	16.4	7.5	5.5	有	1/4潰れ	
118	29-9	32-5	Ba2	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	17.0	7.4	5.2	有		
119	29-11		Bb1	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	17.1	7.4	5.2	有		
120	29-12	32-6	Bb1	3号窯焼成室	靱跡	—	15.7	7.3	4.9	有	潰れ	完形品
121	29-13	32-7	Bb1	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	15.2	7.9	4.4	有	1/2潰れ・1/4 削れ	重量感あり
122	29-14	32-8	Bb1	3号窯焼成室上層	靱跡	ナデ	15.0	7.1	4.7	有	1/2潰れ	
123	29-4	32-2	Ab1	3号窯燃焼室	靱跡	—	15.0	6.9	4.7	有		
124			Aa1	3号窯焼成室	砂跡	糸切り	16.3	7.2	5.7	有	潰れ・1/2とれ	重ね焼最上部、完形品
125			Bb2	3号窯焼成室	砂跡	糸切り	(16.0)	7.3	4.9	有		
126	29-15	32-9	Bb2	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	16.2	7.6	4.5	有	潰れ	
127			Ab2	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	17.3	7.7	5.3	有		
128	29-21	33-14	Db2	3号窯焼成室	靱跡	板目	17.2	7.9	5.5	有		
129	29-20	33-13	Db1	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	16.6	8.1	5.5	有		
130			Bb2	3号窯燃焼室	靱跡	ナデ	(16.9)	6.8	5.4	有	潰れ	
131			Ba2	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	(16.6)	8.0	5.6	有		
132	29-18	33-11	Bb3	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	17.1	6.8	5.1	有		胎土に小石をかむ
133	29-2		Aa1	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	(16.8)	8.1	5.4	有		
134	29-6	32-3	Ab2	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	16.5	7.5	4.1	有	潰れ	
135			Bb2	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	16.4	7.7	4.9	有	潰れ・1/4とれ	重ね焼最上部、完形品
136	29-7		Ab2	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(15.3)	8.0	4.7	有	潰れ・削れ	
137	29-3	32-1	Aa1	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	17.2	7.8	5.7	有		接合
138	29-16	32-10	Bb2	3号窯燃焼成室	靱跡	糸切り・板目	15.4	8.0	3.9	有		ほぼ完形
139			Ab3	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.2)	8.2	5.0	有	潰れ・1/2とれ	
140			Ab2	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	15.9	8.3	4.4	有	潰れ	
141			Ab2	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.4)	5.0	有	潰れ・1/2とれ	
142			Ab1	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(14.8)	7.5	4.0	有	1/2潰れ	
143			Aa3	3号窯燃焼室	靱跡	ナデ	14.9	8.2	4.8	有	1/2潰れ	
144			Bc2	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(15.0)	7.7	4.4	有		重ね焼最上部
145			Ba2	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り・ 藁跡	15.2	8.2	4.4	有	1/2潰れ	接合、重ね焼最上部
146			Ba3	3号窯燃焼室	砂跡	糸切り	(13.8)	(7.2)	5.0	有	潰れ	
147			Ab3	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	(16.8)	7.4	4.9	有		
148			Ab2	3号窯燃焼室	靱跡	—	(14.6)	7.1	4.9	有	3/4潰れ	重ね焼最上部
149			Bb4	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	(15.6)	(7.0)	4.9	有		
150			Bb2	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	(18.2)	(8.2)	5.5	有		
151			Ba2	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.6)	7.5	4.6	有	潰れ	
152			Aa2	3号窯燃焼室	砂跡	糸切り	15.1	7.9	4.8	有	1/4潰れ	
153			Bc2	3号窯燃焼室	靱跡	—	(16.2)	(7.6)	4.9	有	潰れ	
154			Bc2	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.6)	8.3	5.0	有	潰れ	
155			Bb1	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.6)	4.8	有	潰れ	
156			Db2	3号窯燃焼室	靱跡	ナデ	(16.8)	(8.7)	4.6	有	潰れ	
157			Ba2	3号窯燃焼室	砂跡	糸切り	(15.6)	(7.6)	4.3	有	潰れ	
158			Bc1	3号窯燃焼室	—	糸切り・ 藁跡	15.0	7.5	4.0	無		重ね焼最上部
159			Bb3	3号窯燃焼室	砂跡	糸切り	(17.4)	7.7	5.1	有	潰れ	

第20表 神明古窯出土遺物観察表 碗(3)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値、高台なしは底径をしめす

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
160			Ab2	3号窯燃焼室	靱跡	—	(17.2)	(7.6)	4.8	有		
161			Ba2	3号窯燃焼室	靱跡	ナデ	(16.6)	7.6	5.4	有		
162			Db3	3号窯燃焼室	靱跡	—	(15.8)	(8.2)	4.8	有	潰れ	胎土に小石をかむ 口唇部にミゾ
163			Ba1	3号窯焼成室	靱跡	—	(15.8)	(7.6)	4.8	有	潰れ	
164			Bb3	3号窯燃焼室	靱跡	ナデ	(15.8)	6.5	4.5	有		
165			Bb2	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(17.2)	7.6	5.4	有	1/2潰れ	
166			Ab2	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(15.2)	(7.2)	4.0	有	1/2潰れ	
167			Ba3	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(15.6)	(7.8)	4.6	有		
168			Bb2	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	(17.4)	8.0	5.4	有		
169			Bb1	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	16.1	7.5	5.3	有	3/4削れ	
170			Ba2	3号窯焼成室上層	靱跡	糸切り	(16.8)	8.0	5.3	有		
171			Ba2	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	(17.4)	(8.2)	5.2	有		
172			Bb2	3号窯焼成室	—	糸切り	(16.6)	(8.6)	5.0	有		
173			Bb2	3号窯燃焼室	靱跡	—	(15.4)	(7.0)	4.8	有	潰れ	
174			Ab2	3号窯燃焼室	靱跡	—	16.0	7.4	4.8	有	潰れ	
175			Aa3	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(15.8)	(7.8)	4.9	有	潰れ	
176			Ba2	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	(16.8)	7.6	5.6	有		
177			Ba2	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	(17.0)	7.4	5.3	有		
178			Ab2	3号窯燃焼室	砂跡	糸切り	(15.4)	8.0	4.2	有	潰れ・削れ	重ね焼最上部
179			Aa1	3号窯燃焼室	砂跡	—	15.3	7.7	5.0	有	1/2潰れ	重ね焼最上部
180			Bb2	3号窯焼成室	砂跡	—	15.4	7.7	4.5	有	潰れ・1/4とれ	ほぼ完形
181			Ba4	3号窯焼成室	靱跡	糸切り	(16.2)	8.0	4.4	有	潰れ	
182			Aa2	3号窯燃焼室	靱跡	—	(14.6)	(6.2)	4.6	有		口唇部にミゾ
183			Aa2	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(15.4)	7.0	4.4	有	潰れ	
184			Ab2	3号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(16.4)	7.9	4.3	有	1/2潰れ	

第21表 神明古窯出土遺物観察表 碗(4)

法量の数値で () は推定値、[] は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
238	28-21	30-19	Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.8)	7.5	5.3	有	1/3潰れ	口唇部にミゾ、ほぼ 完形
239			Bc2	2号窯前庭部東側 ピット	砂跡	糸切り	16.0	7.7	5.4	有	潰れ	
240	28-5	29-5	Bb2	2号窯前庭部東側 ピット	靱跡	糸切り	(17.0)	8.4	5.3	有	1/4潰れ・1/2 とれ	
241			Ba1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(18.0)	7.8	4.9	有	1/3潰れ	
242			Ac2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	17.2	8.6	5.5	有	1/4潰れ	
243			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.4)	8.7	5.2	有	1/3削れ	
244			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.5)	8.8	5.5	有	潰れ	
245			Bb1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(19.3)	(9.5)	5.7	有	2/3潰れ	
246			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.9)	7.5	5.2	有	1/2潰れ	
247			Bb4	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	16.1	7.0	4.9	有	潰れ	
248			Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	16.7	7.9	4.7	有		
249			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.2)	(9.4)	4.6	有	1/4とれ	
250	28-22	30-20	Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.4)	5.0	有	1/4とれ	
251			Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.8)	5.2	有		
252			Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り・ 板目	16.9	8.1	5.3	有		
253			Bc2	2号窯東側ピット	靱砂跡	糸切り	(15.8)	7.7	5.1	有		
254			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	17.0	8.8	[4.9]	有	とれ	
255			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(18.2)	8.3	4.9	有	少々潰れ	
256			Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.0)	7.2	5.2	有		
257			Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.4)	(8.2)	5.1	有		
258	Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り・ 板目	17.3	8.3	5.2	有				
259			Bb1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	17.5	8.0	5.4	有	潰れ	接合 接合 接合 接合 接合 接合 接合 接合 接合 接合 接合 接合 接合 接合 接合 接合 接合 接合 接合 接合
260			Bb2	2号窯東側ピット	—	糸切り	(16.0)	7.6	4.1	有		
261			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.0)	8.0	5.5	有		
262			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.4)	7.8	5.6	有		
263			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.6)	8.6	5.0	有		
264			Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	板目	(16.2)	7.8	5.3	有		
265			Bb2	2号窯東側ピット	砂跡	糸切り	(16.4)	(7.4)	5.0	有		
266			Bc2	2号窯東側ピット	靱砂跡	糸切り	(16.4)	(7.2)	4.9	有		
267			Bb4	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.6)	(8.2)	4.3	有		
268			Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	—	(16.2)	(7.2)	4.9	有		
269			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	—	(15.8)	(6.4)	5.3	有		
270			Bb1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(18.0)	(8.0)	5.3	有		
271			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.2)	(8.0)	5.0	有		
272			Ab2	2号窯東側ピット	靱跡	—	(15.2)	(7.2)	5.3	有		
273			B—	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	—	(8.0)	—	有		
274			Bb1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.2)	5.1	有		
275			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.0)	5.2	有		
276			Bc2	2号窯東側ピット	靱砂跡	糸切り	(17.0)	(8.2)	5.3	有		
277			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	ナデ	(17.0)	(7.8)	5.2	有		
278			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.8)	(7.2)	5.5	有		
279	B—	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	—	(7.2)	—	有				
280	Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.8)	(8.0)	4.1	有				
281	Bb1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(18.0)	(7.8)	5.3	有				
282	Ba2	2号窯東側ピット	—	糸切り	(15.4)	(6.4)	5.7	有				
283	Bc2	2号窯東側ピット	—	糸切り	(16.0)	(8.2)	[4.5]	有	とれ			
284	Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.8)	(7.6)	5.0	有				
285	Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.4)	7.4	5.4	有				
286	Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.2)	(7.8)	5.1	有				
287	Bc2	2号窯東側ピット	靱砂跡	糸切り	(16.8)	8.4	5.3	有				
288	Bc2	2号窯前庭部東側 ピット	靱跡	糸切り・ 板目	(16.8)	9.0	5.1	有				

第23表 神明古窯出土遺物観察表 碗(6)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量 (cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
289			Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.4)	7.6	5.0	有		
290			Ab2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.0)	(8.2)	5.2	有		
291			Bb1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.0)	5.1	有		
292			Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.4)	7.4	5.2	有		
293			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.8)	(7.2)	5.5	有		
294			Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.0)	8.2	5.1	有	削れ	口唇部にミゾ
295			Bb1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.0)	(7.4)	5.0	有		
296			B—	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	—	8.2	—	有		口縁部とれ
297			Bb2	2号窯東側ピット	砂跡	—	(16.6)	(8.0)	5.0	有		
298			Aa1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.6)	(7.2)	5.0	有		
299			Ac2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.2)	(7.6)	5.2	有		
300			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(15.8)	(7.0)	5.1	有		
301			Bb1	2号窯東側ピット	砂跡	糸切り	(17.0)	(7.2)	4.7	有		
302			Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(15.8)	(7.4)	4.8	有		
303			Ba2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.2)	5.3	有		
304			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.6)	(7.2)	4.6	有		重ね焼最上部
305			Bb1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.2)	(8.0)	5.4	有		
306			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	ナデ	(18.0)	(7.8)	4.7	有		
307			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.6)	(7.4)	4.8	有		重ね焼最上部
308			Bb1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.2)	5.2	有		
309			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.4)	8.2	5.4	有		
310			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	—	(15.2)	(6.8)	5.2	有		
311			Ab2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.5)	8.0	4.8	有	潰れ	
312			Ac2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.8)	(8.0)	5.1	有	潰れ	
313			Ab2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.6)	7.8	5.5	有	潰れ	
314			Ab2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	16.4	9.6	5.5	有	潰れ・1/4とれ	
315			Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.4)	7.7	4.7	有	潰れ	
316			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.6)	(7.0)	5.3	有	潰れ・とれ	
317			Ba1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.0)	7.4	5.3	有	潰れ	
318			Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.8)	7.8	5.0	有	潰れ	
319			Ba1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(18.4)	8.4	5.1	有	潰れ・1/4とれ	
320			Ac2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(14.9)	8.4	5.4	有	潰れ	
321			Ac2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り・ 板目	(16.2)	8.0	4.8	有	潰れ	
322			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	ナデ	(18.4)	8.3	4.8	有	潰れ	
323			Bb1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.8)	8.2	6.1	有	潰れ・1/2削れ	重量感あり
324			Ac2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	15.9	7.8	5.4	有	潰れ・1/2とれ	
325			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.0)	8.2	5.6	有	潰れ	
326			Aa1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.2)	8.1	5.4	有	潰れ	重量感あり
327			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.5)	8.6	5.3	有	1/2潰れ	重ね焼最上部
328			Ba1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(18.8)	7.9	5.4	有	3/4潰れ	
329			Ba1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.0)	(8.6)	5.3	有	大部分とれ	
330			Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	ナデ	(15.8)	8.0	5.1	有	潰れ	口唇部にミゾ
331			Bb1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.4)	8.1	5.2	有	潰れ	
332			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.4)	8.3	5.1	有	潰れ	重量感あり
333			Bb2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(18.0)	8.2	4.7	有	潰れ・1/2とれ	
334			Ac2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	16.6	8.3	4.6	有	潰れ・1/2とれ	
335			Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.4)	7.7	4.9	有	1/2潰れ	
336			Bb1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(17.0)	9.3	5.3	有	1/2潰れ	
337			Ac2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.8)	8.5	5.3	有	潰れ	
338			Ab2	2号窯東側ピット	靱跡	ナデ	(15.1)	7.4	5.3	有	1/2潰れ	
339			Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.3)	(8.2)	4.8	有	潰れ・1/4とれ	
340			Bc2	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り・ 板目	(16.3)	7.9	5.1	有	潰れ	
341			Ba1	2号窯東側ピット	靱跡	糸切り	(16.7)	7.8	4.6	有		

第24表 神明古窯出土遺物観察表 碗(7)

法量の数値で () は推定値、[] は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量 (cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
342			Bc1	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	17.4	7.7	5.3	有	3/4潰れ	重量感あり
343			Bc2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(18.0)	8.2	5.2	有		
344			Bc2	2号窯東側ビット	—	糸切り	(16.8)	(8.6)	[5.0]	—	とれ	
345			Bc2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	16.8	8.7	5.4	有	潰れ	
346			Bb2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(17.4)	(8.0)	5.0	有	1/4潰れ・1/2とれ	
347			Ba2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(16.8)	8.6	5.4	有	潰れ	
348			Bb1	2号窯東側ビット	靱跡	ナデ	16.8	8.0	5.3	有	潰れ	重ね焼最上部
349			Aa1	2号窯東側ビット	靱跡	—	(16.8)	(7.0)	5.7	有	潰れ	
350			Ba2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(16.0)	(7.4)	5.0	有	7/8とれ	
351			Bb2	2号窯東側ビット	砂跡	糸切り・板目	16.2	8.6	4.3	有	潰れ	
352			Bb2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(16.1)	8.0	4.6	有	潰れ	重量感あり
353			Bb1	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(15.6)	8.1	5.3	有		
354			Bc2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り・板目	16.6	8.9	5.6	有	潰れ・1/2とれ	口唇部にミゾ
355			Ab2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(17.2)	(8.1)	5.4	有	5/6とれ	
356			Ba3	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(16.0)	7.4	5.0	有	潰れ・1/6とれ	
357			Bb2	2号窯東側ビット	靱跡	ナデ	(15.5)	7.7	5.1	有	潰れ	
358			Bc2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(16.7)	8.2	5.1	有	潰れ	口唇部にミゾ
359			Ab2	2号窯東側ビット	靱跡	板目	(16.4)	8.2	5.1	有	潰れ	
360			Ab2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(17.8)	7.8	5.0	有	2/3削れ	
361			Bc2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(16.5)	7.4	5.0	有	潰れ・1/2とれ	
362			Bc2	2号窯前庭部東側ビット	靱跡	糸切り	16.7	8.0	4.8	有	潰れ	
363			Ba2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(17.2)	7.4	5.3	有	潰れ・削れ・1/4とれ	
364			Bb2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(16.3)	7.3	5.5	有	潰れ	
365			Bc2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	17.1	8.3	4.6	有	2/3潰れ	
366			Bc2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(16.0)	7.7	4.3	有	2/3削れ	
367			Bb3	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(16.1)	7.4	5.5	有	潰れ	
368			Bc2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(15.8)	8.4	5.6	有	潰れ	
369			Bb2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(17.4)	7.2	4.5	有		重ね焼最上部
370			Bb2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(17.3)	8.0	5.2	有	潰れ・1/2とれ	
371			Bb2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(16.4)	8.4	6.4	有	潰れ・2/3とれ	
372			Bb1	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	16.1	7.6	5.5	有	潰れ・削れ	
373			Bb2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り・板目	(16.3)	8.0	5.2	有	潰れ	
374			Bb2	2号窯東側ビット	靱砂跡	糸切り・板目	(17.6)	8.4	5.3	有	潰れ	
375			Bb2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	16.5	6.9	4.7	有	潰れ・1/3とれ	重ね焼最上部
376			Bc1	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(17.6)	7.5	5.3	有	潰れ	
377			Bc2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り・板目	(16.2)	8.0	5.7	有	2/3潰れ	
378			Bb2	2号窯東側ビット	靱跡	ナデ	(17.6)	7.4	4.6	有	潰れ	重ね焼最上部、歪み
379			Bc2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(17.2)	7.3	4.9	有	潰れ	口唇部にミゾ
380			Bb2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(17.1)	8.0	5.0	有	潰れ	
381			Bc2	2号窯前庭部東側ビット	靱跡	糸切り・板目	(16.5)	7.8	5.0	有	潰れ	口唇部にミゾ
382			Bb2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(15.7)	7.1	5.8	有	潰れ	
383			Bb2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(17.4)	8.0	5.1	有	2/3潰れ	
384			Bb2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(17.3)	8.0	4.8	有	潰れ	
385			Bc2	2号窯東側ビット	靱砂跡	糸切り	(16.8)	8.1	5.5	有	潰れ	
386			Bb2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	16.3	7.6	5.3	有	2/3潰れ	
387			Bc2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(16.0)	7.6	4.7	有	潰れ	

第25表 神明古窯出土遺物観察表 碗(8)

法量の数値で () は推定値、[] は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
388			Ab2	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り・ 板目	(16.2)	8.3	4.6	有	潰れ・1/4とれ	
389	30-9		Bb1	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	16.3	7.3	4.5	有	潰れ	重量感あり
390			Db2	3号窯東側ピット	靱跡	糸切り	16.1	7.5	4.8	有	潰れ・1/4とれ	
391	30-11	35-8	Bb2	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	15.5	6.8	3.8	有	潰れ	重量感あり
392	30-12		Bb2	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	16.2	7.1	5.0	有		
393	30-2	35-2	Aa2	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	15.5	7.7	4.9	有	潰れ	重量感あり
394	30-10		Bb1	3号窯西側ピット上層	靱跡	ナデ	16.1	7.6	4.3	有	潰れ	重量感あり
395	30-13	35-9	Bb2	3号窯西側ピット上層	靱跡	ナデ	16.6	7.4	5.2	有	潰れ	重量感あり
396	30-8		Ba2	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	15.7	7.4	4.5	有	潰れ・1/4とれ	
397			Ab2	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(16.4)	(9.0)	4.3	有	1/2削れ	
398			Bb2	3号窯西側ピット下層	靱跡	糸切り	(16.1)	(8.6)	4.5	有	潰れ・1/4とれ	
399			Bb2	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	(15.8)	8.4	4.8	有	潰れ	重量感あり
400	30-14		Bb2	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	(16.1)	7.5	4.7	有	潰れ	重量感あり
401			Bb2	3号窯西側ピット下層	靱跡	糸切り	(16.5)	(7.5)	5.0	有		
402	30-18	35-10	Db2	3号窯西側ピット上層	靱跡	ナデ	16.1	8.2	4.7	有	潰れ	重量感あり
403			Bb2	3号窯西側ピット上層	靱跡	ナデ	(16.2)	7.9	4.6	有	1/2潰れ	重量感あり
404			Cb1	3号窯西側ピット下層	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.4)	4.7	有		
405	30-17		Cb1	3号窯西側ピット下層	靱跡	ナデ	(16.0)	(8.1)	5.4	有	潰れ	
406			Bb1	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(16.6)	7.9	4.2	有	潰れ	重量感あり
407	30-5	35-5	Ab2	3号窯西側ピット上層	砂跡	板目	15.3	8.4	4.6	有	潰れ	重量感あり
408	30-1	35-1	Aa1	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	16.2	7.8	5.5	有		
409	30-3	35-3	Aa2	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	(18.0)	7.7	5.5	有		生焼け
410	30-15		Bb2	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	15.2	7.5	4.4	有	潰れ	重量感あり
411	30-16		Bb2	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	16.0	7.4	4.5	有	潰れ	重量感あり
412			Bb2	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(15.8)	8.0	3.7	有	1/4とれ	重量感あり
413	30-6	35-6	Ab2	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	15.7	8.4	5.3	有		重量感あり
414	30-4	35-4	Ab1	3号窯西側ピット下層	靱跡	糸切り・ 板目	16.2	7.8	4.0	有	潰れ	重量感あり
415	30-7	35-7	Ab2	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り・ 板目	15.0	8.2	4.2	有	1/4潰れ	
416			Ab2	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	16.0	7.8	4.4	有		
417			Bb1	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	(15.4)	8.3	4.9	有	潰れ	重量感あり
418			Ab2	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(14.8)	7.5	4.4	有	潰れ	重量感あり
419			Bb2	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(16.4)	7.6	4.3	有	潰れ	重量感あり
420			Bb1	3号窯西側ピット	靱跡	ナデ	(15.6)	7.7	5.1	有	潰れ	重ね焼最上部、口唇部にミゾ
421			Bb1	3号窯西側ピット	—	糸切り	15.1	8.5	[4.6]	有	削れ	
422			Ba1	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(15.8)	7.6	4.3	有	潰れ・削れ	
423			Bb2	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	16.1	8.0	4.7	有	潰れ	
424			Aa3	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(15.2)	7.3	4.8	有		口唇部にミゾ
425			Bb2	3号窯西側ピット 下層(灰色)	靱跡	糸切り	(17.2)	7.2	4.3	有	潰れ	重量感あり
426			Bb2	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	(15.8)	7.8	4.8	有	潰れ	
427			Bb2	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	(16.3)	7.8	4.5	有	1/4潰れ・削れ	
428			Bb1	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	(16.0)	7.8	4.5	有	潰れ	
429			Ba2	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	15.1	7.8	4.8	有	潰れ	
430			Bb1	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	15.5	7.0	4.3	有		重ね焼最上部
431			Bb2	3号窯西側ピット上層	砂跡	糸切り	15.7	7.7	4.4	有	潰れ・削れ	
432			Ab1	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	(15.0)	8.1	4.8	有	潰れ・1/3とれ	
433			Bb2	3号窯西側ピット 下層(灰色)	靱跡	糸切り	15.2	7.6	4.3	有	潰れ	重量感あり
434			Ab1	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(15.6)	8.4	4.5	有	潰れ・1/3とれ	
435			Bb2	3号窯西側ピット下層 (灰色)	靱跡	糸切り	(16.0)	(7.0)	4.0	有	潰れ・とれ	
436			Ba2	3号窯西側ピット上層	靱跡	板目	16.2	7.0	4.2	有	潰れ	
437			Aa1	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	15.9	7.8	4.7	有	潰れ・1/4とれ	
438			Aa1	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	(15.8)	7.4	4.4	有	1/2潰れ	
439			Aa2	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(16.0)	8.0	4.5	有	2/3潰れ	
440			Ab2	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(15.2)	(8.2)	5.1	有	潰れ・3/4とれ	

第26表 神明古窯出土遺物観察表 碗(9)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
441			Bb1	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	(17.0)	7.0	5.1	有		
442			Bb1	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	(17.0)	7.6	4.1	有	潰れ	
443			Bb1	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	(15.2)	7.1	4.0	有	1/4潰れ	
444			Db2	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	(15.4)	7.6	4.9	有	1/2潰れ	
445			Bb1	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り・ 板目	14.9	7.7	4.5	有		
446			Ab2	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(15.8)	7.4	4.7	有	潰れ	
447			Bb2	3号窯西側ピット	靱跡	—	(16.2)	(8.0)	5.0	有	潰れ	
448			Bb1	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(15.8)	7.8	4.1	有	潰れ	
449			Ba1	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(15.4)	7.7	5.0	有	潰れ・1/4とれ	
450			Ab2	3号窯西側ピット	砂跡	糸切り	(16.2)	7.8	4.9	有	潰れ・削れ	胎土に小石をかむ
451			Da1	3号窯西側ピット上層	—	糸切り	(14.6)	8.5	[4.2]	有	削れ	
452			Bb2	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	(15.3)	7.7	5.1	有	潰れ・削れ	口唇部にミゾ
453			Bb1	3号窯西側ピット上層	靱跡	—	15.6	7.8	5.0	有	潰れ・削れ	
454			Bc2	3号窯西側ピット	靱跡	—	(15.4)	(8.0)	5.5	有	潰れ	
455			Ba2	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(15.3)	(9.0)	4.3	有		
456			Bb2	3号窯西側ピット	—	糸切り	(14.8)	7.5	[4.8]	—	とれ	
457			Bc1	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(17.0)	7.7	5.2	有	1/2潰れ・一部 削れ	
458			Ab2	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(16.3)	8.3	4.5	有	潰れ	
459			Bb1	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り・ 板目	(15.8)	7.2	4.1	有	潰れ	
460			Bc2	3号窯西側ピット	—	糸切り	(15.9)	8.4	[4.6]	—	とれ	
461			Aa2	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(16.3)	8.0	5.5	有	大部分削れ	
462			Ba2	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	(16.7)	(8.4)	5.1	有		
463			Bb1	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(15.7)	(7.4)	5.0	有	潰れ	
464			Bb2	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(16.7)	8.2	4.5	有	潰れ	
465			Bb2	3号窯西側ピット	—	糸切り	(15.8)	(7.8)	[4.9]	有	大部分とれ	
466			Bb1	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(16.0)	(8.0)	4.6	有	潰れ	
467			Ab2	3号窯西側ピット 下層(灰色)	靱跡	糸切り	(15.6)	(8.2)	4.6	有	1/3潰れ	
468			Bb1	3号窯西側ピット	靱砂跡	糸切り・ 板目	(16.0)	7.7	4.2	有	潰れ	
469			Ab2	3号窯西側ピット	靱跡	板目	(15.6)	7.4	4.6	有	潰れ	
470			Bb1	3号窯西側ピット 下層(灰色)	—	—	(16.4)	(7.2)	[4.3]	—	とれ	
471			Bb1	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(16.5)	7.2	4.5	有	潰れ	
472			Bb2	3号窯西側ピット	靱跡	板目	(16.0)	7.6	4.8	有	2/3潰れ	
473			Bb2	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(15.0)	7.5	4.7	有	潰れ	
474			Bb1	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(16.4)	7.7	4.4	有	潰れ	
475			Ab3	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	(16.0)	7.2	4.7	有	潰れ	
476			Bb1	3号窯西側ピット上層	靱跡	糸切り	(14.2)	(7.2)	5.0	有	潰れ	
477			Bb1	3号窯西側ピット	—	糸切り	(15.6)	(8.0)	[4.5]	—	とれ	
478			Bb1	3号窯西側ピット	靱跡	糸切り	(14.2)	(7.0)	3.8	有		
479			Bb1	3号窯西側ピット 下層(灰色)	靱跡	糸切り	(17.0)	(8.4)	5.1	有		
480			Bb2	1号窯前庭部上層	靱跡	糸切り	(15.5)	(5.3)	7.2	有	潰れ	
481	31-2	37-2	Bb2	1号窯前庭部東側	靱跡	糸切り	(17.6)	(9.8)	5.3	有	潰れ	
482	31-1	37-1	Ab2	1号窯前庭部上層	靱跡	糸切り	(17.8)	(9.5)	5.2	有		

第27表 神明古窯出土遺物観察表 碗(10)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量 (cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
483	31-9	37-9	Ab2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	17.2	7.6	5.3	有	1/2潰れ	
484			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	ナデ	(16.1)	8.0	5.0	有	1/2とれ	
485			Bb1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.8)	7.5	4.9	有	潰れ	
486			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り・ナデ	(16.8)	(7.9)	5.0	有	潰れ	
487	31-11	38-11	Cb1	2号窯前庭部西側	靱跡	糸切り	(15.6)	7.5	5.6	有		
488			Cb1	2号窯前庭部西側	靱跡	糸切り	15.8	7.7	4.8	有		高台にミゾ
489			Ab2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	17.5	7.9	4.9	有	潰れ	生焼け
490			Ac2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.4)	7.7	5.0	有	潰れ	
491	31-10	38-10	Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	16.6	8.2	5.1	有	潰れ	
492			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り・板目	16.0	7.6	4.9	有	1/4潰れ	
493			Ab2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り・ナデ	16.9	7.4	6.3	有	潰れ	口唇部にミゾ、生焼け
494			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	16.8	8.4	5.4	有	1/3潰れ	
495	31-8	37-8	Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	16.3	7.8	5.3	有	1/4潰れ	口唇部にミゾ
496			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り・板目	(16.8)	8.4	5.3	有	3/4潰れ	生焼け
497			Bb1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.6)	(6.8)	4.6	有	潰れ	重量感あり
498			Ab2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	16.3	7.3	4.9	有	1/2潰れ	ほぼ完形、口唇部にミゾ
499	31-6	37-6	Ac2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(15.2)	7.2	5.2	有	1/2潰れ	
500	31-7	37-7	Ba2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	17.5	8.8	4.8	有	1/4潰れ	ほぼ完形、重量感あり
501	31-12	38-12	Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り・板目	(16.4)	(7.4)	5.0	有	潰れ	
502			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.0)	(8.8)	5.3	有	大部分割れ	
503			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	17.1	8.3	5.9	有	潰れ	口唇部にミゾ
504			Bb1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(17.5)	8.9	5.3	有	潰れ・1/2とれ	
505			Ab2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	18.0	8.0	5.1	有	潰れ・2/3とれ	歪み
506			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(17.4)	(6.8)	4.7	有	2/3潰れ	
507			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.2)	8.4	5.3	有	1/6とれ	
508			Bb1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	16.9	8.9	5.3	有	潰れ	
509			Bb1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.8)	7.4	5.0	有	1/4潰れ	
510			Ab2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り・板目	(17.4)	7.3	4.2	有	1/4潰れ・1/3とれ	
511	31-4	37-4	Cb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(17.8)	(8.6)	4.8	有	1/3潰れ	
512			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(15.1)	(8.0)	4.4	有	潰れ	
513			Aa3	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(14.4)	(7.1)	4.4	有		口唇部にミゾ
514			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.5)	(7.8)	4.3	有	潰れ	
515			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.9)	(8.4)	4.9	有		
516			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	16.7	8.7	5.0	有	1/2潰れ	口唇部にミゾ
517			Cb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り・板目	(17.0)	8.2	5.5	有		
518			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	ナデ	(16.0)	7.5	4.5	有	潰れ	
519			Bc1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(17.0)	8.2	5.2	有	潰れ	
520			Bb1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(17.2)	(8.0)	5.4	有	潰れ・大部分とれ	
521	31-12	38-12	Cb1	2号窯前庭部西側	靱跡	糸切り	(16.4)	7.8	6.0	有		歪み
522			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.4)	(8.2)	5.2	有	潰れ	口唇部にミゾ
523			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	ナデ	(15.8)	7.6	5.0	有	大部分割れ	
524			Ab2	2号窯前庭部西側	靱砂跡	糸切り	(15.0)	7.2	5.1	有		重ね焼最上部
525			Bb1	2号窯前庭部	靱跡	ナデ	(15.4)	(8.0)	4.5	有	潰れ	
526			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(17.0)	(8.2)	5.5	有	潰れ	
527			Aa2	2号窯前庭部西側	靱跡	ナデ	(15.2)	(8.0)	4.5	有	潰れ	重ね焼最上部
528			Bb1	2号窯前庭部西側	靱砂跡	糸切り・板目	16.1	7.1	4.5	有	潰れ	接合
529			Ab2	2号窯前庭部西側	靱跡	ナデ	(15.8)	(7.2)	4.4	有		
530			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	ナデ	(15.6)	7.7	5.0	有	潰れ	
531	31-12	38-12	Cb1	2号窯前庭部西側	靱跡	糸切り	(16.0)	7.4	5.0	有		
532			Bb1	2号窯前庭部西側	靱跡	糸切り	(15.4)	(7.6)	4.9	有	2/3とれ	
533			Bb1	2号窯前庭部西側	靱跡	糸切り	(15.8)	(7.2)	5.1	有	1/2とれ	
534			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	ナデ	16.2	7.8	4.8	有	3/4削れ	
535			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.6)	5.3	有	1/2潰れ	口唇部にミゾ

第28表 神明古窯出土遺物観察表 碗(11)

法量の数値で () は推定値、[] は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
536			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り・ 板目	(15.4)	7.6	5.3	有	1/4潰れ	口唇部にミゾ
537			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(17.0)	8.1	5.0	有	1/2潰れ	
538			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り・ 板目	(16.8)	8.2	5.4	有	1/2潰れ	
539			Ab1	2号窯前庭部	靱跡	ナデ	(16.6)	(7.2)	5.5	有	潰れ	
540			Ab2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.6)	8.2	5.1	有	潰れ	
541			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り・ 板目	(17.2)	7.6	4.3	有	潰れ	口唇部にミゾ
542			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	16.0	8.0	4.7	有		
543			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	ナデ	(16.8)	7.4	4.9	有	1/2潰れ	口唇部にミゾ
544			Bb1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.2)	(8.2)	5.0	有	1/2潰れ	
545			Bb1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	16.0	8.3	5.5	有	潰れ	
546			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	16.6	7.7	4.8	有	1/3潰れ	口唇部にミゾ、接合
547			Bb1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.8)	(7.2)	5.3	有		
548			Ba1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.4)	8.2	5.7	有	大部分削れ	
549			Bb1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(15.8)	7.3	6.0	有	1/2とれ	
550			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	ナデ	(15.8)	(8.4)	4.8	有	1/2潰れ	
551			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り・ 板目	(16.6)	(7.4)	5.0	有	1/2潰れ	
552			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(15.8)	(8.0)	5.3	有		口唇部にミゾ
553			Bb1	2号窯前庭部西側	靱跡	—	(16.0)	(7.2)	5.0	有		
554			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.0)	7.8	5.4	有	1/2潰れ	
555			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り・ 板目	(16.4)	7.7	5.3	有	潰れ	口唇部にミゾ
556			Aa2	2号窯前庭部	靱跡	ナデ	(15.8)	7.0	4.1	有		
557			Bc1	2号窯前庭部西側	靱跡	糸切り	(16.2)	(8.0)	5.2	有	潰れ	
558			Aa1	2号窯前庭部西側	靱跡	—	(14.8)	(7.2)	4.5	有		
559			Bb1	2号窯前庭部	靱跡	ナデ	(15.7)	7.3	4.9	有	一部分潰れ	
560			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(17.4)	8.0	5.2	有	1/2潰れ	生焼け 接合
561			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.6)	7.8	5.0	有	潰れ	
562			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	ナデ	16.0	7.2	4.8	有	潰れ	
563			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.2)	7.9	4.8	有	潰れ	
564			Ab1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	16.8	7.7	5.1	有	潰れ	
565			Ab1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	16.4	(7.6)	5.0	有	潰れ・3/4とれ	
566			Bb1	2号窯前庭部	靱跡	ナデ	(15.0)	(7.6)	4.5	有	潰れ	
567			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	ナデ	(15.8)	7.8	4.6	有	潰れ	
568			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	ナデ	(16.2)	7.8	4.7	有	2/3潰れ	生焼け
569			Bc2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(17.6)	8.5	4.8	有	3/4潰れ	
570			Bb1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.4)	7.8	4.8	有	潰れ	
571			Bb1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(15.2)	7.3	5.0	有	潰れ	
572			Bb1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(17.2)	(8.0)	5.5	有	潰れ・1/2とれ	
573			Ac2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(17.0)	(8.4)	5.2	有	2/3とれ	
574			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(17.4)	8.4	5.3	有	潰れ	
575			Bb2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(16.8)	(8.0)	5.3	有	潰れ	重ね焼最上部

第29表 神明古窯出土遺物観察表 碗(12)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
576	31-31		Db2	3号窯前庭部上層灰層	靨跡	糸切り	(15.6)	7.6	3.9	有	3/4潰れ	
577			Bb1	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	(16.1)	(7.5)	5.1	有		
578	31-29	39-24	Bc1	3号窯前庭部上層灰層	靨跡	糸切り	(16.6)	(7.8)	5.2	有		
579			Aa2	3号窯前庭部上層灰層	靨跡	糸切り	(15.8)	(7.2)	4.4	有	潰れ	
580			Bb1	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	(16.3)	(7.6)	5.3	有		
581			Bb1	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	(16.2)	7.6	5.1	有	1/8とれ	高台にミノ
582			Cb1	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	(16.0)	(8.7)	5.2	有		
583			Cb1	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	17.6	9.0	5.7	有	1/2潰れ	生焼け
584			Bb2	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	17.1	7.8	5.5	有	1/8潰れ	
585			Bb2	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	16.2	7.2	5.4	有		高台にミノ
586			Bb2	3号窯前庭部東側下層	靨跡	糸切り	16.0	7.4	5.1	有		
587			Bb1	3号窯前庭部東側下層	靨跡	糸切り	17.7	7.0	5.3	有	1/2潰れ	
588			Bb2	3号窯前庭部東側下層	靨跡	糸切り	(17.6)	8.0	5.9	有		
589			Ba2	3号窯前庭部西側下層	—	糸切り	16.8	8.2	[4.9]	—	とれ	
590	31-26	38-21	Bb1	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	16.4	7.5	5.3	有	1/2とれ	接合、ほぼ完形
591	31-23		Aa1	3号窯前庭部上層灰層	靨跡	糸切り	(16.4)	8.8	4.8	有	潰れ	
592			Bb1	3号窯前庭部上層灰層	靨跡	糸切り	15.9	7.9	4.3	有	潰れ	重量感あり
593			Bb2	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	16.2	8.1	4.3	有	潰れ	
594			Bb2	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	(17.0)	7.2	4.7	有		
595	31-24		Ab2	3号窯前庭部下層	靨跡	糸切り	16.8	7.9	5.4	有	1/3潰れ	
596			Cb1	3号窯前庭部西側下層	靨跡	糸切り	17.3	7.5	5.1	有	1/4潰れ	重ね焼最上部、ほぼ完形、高台にミノ胎土に小石をかむ
597			Bb1	3号窯前庭部西側下層	靨跡	糸切り	17.0	7.9	5.4	有		
598			Ab2	3号窯前庭部東側下層	靨跡	糸切り	17.3	7.4	5.2	有	1/2潰れ	
599			Bb2	3号窯前庭部東側下層	靨跡	糸切り	17.7	7.8	5.5	有	1/4潰れ・1/2削れ	
600			Cb1	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	16.6	7.5	5.4	有	1/4とれ	
601			Bb1	3号窯前庭部上層灰層	靨跡	糸切り	14.9	7.4	4.3	有	潰れ	重量感あり
602			Bb2	3号窯前庭部上層灰層	靨跡	糸切り・板目	15.3	8.3	4.6	有	1/2削れ	重量感あり
603	31-30	39-25	Cb1	3号窯前庭部西側下層	靨跡	糸切り	17.8	8.0	5.7	有		ほぼ完形
604	31-27	39-22	Bb1	3号窯前庭部西側下層	靨跡	糸切り	17.2	7.1	5.6	有	3/4削れ	ほぼ完形
605			Bb1	3号窯前庭部下層	靨跡	糸切り	16.6	8.0	5.1	有	1/6とれ	
606			Bb1	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	(15.2)	7.3	5.2	有	1/2とれ	
607	31-28	39-23	Bb2	3号窯前庭部西側下層	靨跡	糸切り	15.7	7.7	4.3	有	潰れ	ほぼ完形、重量感あり
608	31-25	38-20	Ba2	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	16.1	8.0	5.3	有	1/3潰れ	
609			Ab2	3号窯前庭部上層灰層	砂跡	糸切り	(16.7)	8.7	4.7	有	潰れ	重量感あり
610			Cb1	3号窯前庭部西側下層	靨跡	糸切り	17.7	7.9	5.8	有		
611			Cb2	3号窯前庭部東側下層	靨跡	糸切り	16.4	7.5	5.1	有	1/4とれ	
612			Cb2	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	(16.6)	(8.0)	4.8	有	潰れ	
613			Cb1	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	(14.8)	(8.0)	5.7	有	3/4とれ	
614			Bb3	3号窯前庭部東側上層	靨跡	ナデ	(17.4)	6.5	5.6	有		
615			Cb1	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	(16.4)	8.1	4.8	有	潰れ・1/4とれ	
616			Ab2	3号窯前庭部上層灰層	靨跡	糸切り	(15.2)	8.6	4.9	有	3/4削れ	
617			Bb2	3号窯前庭部上層灰層	靨跡	糸切り	(16.0)	7.7	5.2	有	潰れ	
618			Ab2	3号窯前庭部上層灰層	靨跡	—	(16.4)	(8.0)	4.9	有	潰れ	
619			Ab3	3号窯前庭部上層灰層	砂跡	糸切り	(14.4)	7.3	5.1	有	潰れ	重ね焼最上部
620			Bb2	3号窯前庭部東側下層	靨跡	糸切り	17.1	7.2	5.6	有		
621			Bc1	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	16.6	7.5	5.5	有		接合
622			Bb2	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	(16.0)	(7.2)	5.4	有	2/3とれ	
623			Cb1	3号窯前庭部東側上層	靨跡	糸切り	(16.2)	(7.8)	4.9	有	1/4とれ	
624			Aa2	3号窯前庭部上層灰層	砂跡	糸切り	(15.8)	8.4	4.9	有	潰れ	重ね焼最上部
625			Da2	3号窯前庭部上層灰層	靨跡	糸切り	(16.6)	7.9	4.7	有	潰れ・1/3とれ	
626			Da2	3号窯前庭部上層灰層	砂跡	糸切り	(14.4)	(7.4)	5.1	有	潰れ	
627			Bb1	3号窯前庭部上層灰層	砂跡	糸切り	(16.8)	8.6	4.6	有	潰れ	
628			Ba2	3号窯前庭部上層灰層	—	糸切り	(15.6)	(6.6)	3.9	有	削れ	

第30表 神明古窯出土遺物観察表 碗(13)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考	
							口径	高台径	器高				
629			Bb2	3号窯前庭部上層灰層	靱跡	ナデ	(15.6)	(7.0)	4.0	有	潰れ	重ね焼最上部	
630			Aa2	3号窯前庭部上層灰層	——	糸切り	(15.8)	(7.0)	[4.5]	——	とれ		
631			Ba4	3号窯前庭部東側上層	靱跡	——	(14.8)	(7.4)	4.1	有	潰れ		
632			Bb2	3号窯前庭部上層灰層	靱跡	糸切り	(14.8)	(7.2)	5.1	有	潰れ		
633			Db3	3号窯前庭部上層灰層	——	糸切り	15.8	8.7	[4.9]	有	削れ		
634			Ab2	3号窯前庭部上層灰層	靱跡	糸切り	(15.2)	(7.2)	4.9	有	2/3削れ		
635			Bb2	3号窯前庭部東側上層	靱砂跡	糸切り	(15.8)	(8.0)	5.2	有	潰れ		
636			Ba2	3号窯前庭部東側下層	靱跡	糸切り	18.0	7.5	5.8	有	潰れ		
637			Cb1	3号窯前庭部東側上層	靱跡	糸切り	(16.0)	8.0	5.3	有			
638			Ab1	3号窯前庭部東側上層	靱跡	糸切り・ 板目	(16.7)	7.6	4.7	有			
639			Ba1	3号窯前庭部上層灰層	——	糸切り・ 板目	(14.8)	7.6	[4.8]	有	削れ		
640			Bb2	3号窯前庭部上層灰層	靱跡	糸切り	(15.5)	7.9	4.3	有	1/3潰れ		
641			Bb3	3号窯前庭部上層灰層	靱跡	——	(15.0)	(7.0)	5.4	有	潰れ		
642			Bb2	3号窯前庭部上層灰層	靱跡	ナデ	(15.8)	7.6	4.5	有	潰れ		
643			Bb2	3号窯前庭部上層灰層	靱跡	糸切り	(15.9)	7.7	4.4	有	潰れ		
644			Bb1	3号窯前庭部上層灰層	靱跡	糸切り	(15.6)	(8.0)	5.8	有			
645			Db1	3号窯前庭部上層灰層	靱跡	ナデ	(15.8)	7.7	4.8	有	潰れ		接合
646			Bb2	3号窯前庭部上層灰層	靱跡	——	(15.0)	(7.4)	4.5	有	潰れ		
647			Bb2	3号窯前庭部上層灰層	靱跡	糸切り	15.5	7.6	5.1	有	潰れ		重量感あり、口唇部にミゾ
648			Cb1	3号窯前庭部上層灰層	靱跡	糸切り	(16.3)	(7.2)	[4.3]	——	とれ		
649			Ba1	3号窯前庭部上層灰層	靱跡	糸切り	(14.4)	7.8	4.9	有	潰れ		
650			Cb2	3号窯前庭部西側下層	靱跡	糸切り	16.8	7.0	5.3	有	1/3とれ		
651			Db1	3号窯前庭部上層灰層	靱砂跡	板目	(15.8)	7.0	4.7	有	1/2潰れ		
652			Bb2	3号窯前庭部上層灰層	靱砂跡	ナデ	(16.4)	7.6	4.6	有	潰れ		
653			Ae2	3号窯前庭部上層灰層	——	——	(16.0)	(7.2)	4.4	有			

第31表 神明古窯出土遺物観察表 碗(14)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
654			Bb1	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	15.5	7.2	5.4	有	1/2潰れ	ほぼ完形
655	32-30	42-26	Bb2	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	17.5	8.0	5.5	有	1/2潰れ	
656			Bb1	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.2)	5.4	有	1/2とれ	重ね焼最上部
657			Ba2	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(16.5)	8.1	5.0	有		
658	32-9	40-8	Ba1	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(17.7)	8.4	5.7	有	3/4潰れ	重量感あり
659	33-58	45-52	Cb2	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(16.4)	8.0	5.6	有	1/2削れ	
660	33-59		Cb2	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(17.2)	(8.4)	5.7	有	1/3潰れ	
661	33-60	45-53	Cb2	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(17.4)	8.1	6.0	有		
662	33-48	44-44	Cb1	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(17.6)	7.8	5.6	有		接合
663			Cb2	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	16.2	7.2	5.0	有	1/4とれ	接合
664	33-49		Cb1	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(16.2)	(8.0)	4.9	有		
665			Bb1	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(15.3)	(7.0)	5.2	有		
666	32-5	40-4	Ab2	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(18.0)	8.5	5.5	有	1/4潰れ・1/4とれ	
667			Bb2	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	15.7	7.0	5.2	有	1/2潰れ	重量感あり
668			Bb1	前庭部ベルト G 区	靱跡	糸切り	(15.4)	(8.4)	4.7	有		
669			Bb1	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	17.0	7.9	5.2	有		接合
670	32-16		Bb1	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(17.8)	(8.2)	5.3	有		
671			Cb1	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(15.8)	(8.0)	5.0	有	潰れ	
672			Bb1	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(17.6)	(8.4)	5.3	有	潰れ	
673	34-61	45-54	Cb2	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(17.5)	8.4	6.5	有	潰れ・2/3とれ	
674			Bb1	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	17.0	8.8	5.7	有	潰れ	接合
675			Ba1	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	(16.6)	7.6	5.7	有	潰れ	
676			Bb1	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(17.1)	7.4	5.1	有	1/4とれ・1/6潰れ	
677	32-17	41-15	Bb1	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(17.0)	8.0	4.5	有		
678			Cb2	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	16.2	8.5	6.0	有	1/2削れ	
679			Ba2	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	18.3	8.6	5.7	有	1/4潰れ	
680			Ba2	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	17.7	8.0	5.5	有		
681			Cb2	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	16.2	7.9	5.2	有	潰れ	
682	33-31	42-27	Bb2	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(17.0)	8.0	5.4	有	1/2削れ	
683			Cb2	前庭部ベルト J 区	靱跡	指ナデ	(16.2)	7.4	5.8	有	1/4潰れ	胎土に小石をかむ
684	33-32	42-28	Bb2	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	(17.6)	6.8	5.4	有	1/4潰れ	
685	34-62	45-55	Cb2	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	(16.8)	8.4	4.8	有	潰れ	
686			Cb1	前庭部ベルト E 区	靱跡	糸切り	17.5	8.4	5.4	有		
687			Ab2	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	17.2	8.6	5.3	有		
688	32-18	41-16	Bb1	前庭部ベルト D 区	靱跡	糸切り	(17.4)	6.6	5.5	有		生焼け
689			Cb2	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	17.9	8.0	5.7	有	1/8とれ	
690	33-33	42-29	Bb2	前庭部ベルト D 区	靱跡	糸切り	(17.4)	8.6	4.7	有		
691	32-12	41-11	Bb2	前庭部ベルト F 区上層	靱跡	糸切り	16.2	7.6	4.2	有	潰れ・削れ	重量感あり
692	32-10	40-9	Ba1	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	17.4	8.0	5.4	有		重量感あり
693	33-34	42-30	Bb2	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	(17.5)	6.8	5.1	有		
694	33-50	44-45	Cb1	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	(16.5)	7.6	5.0	有	1/4とれ	高台に沈線
695	32-19	41-17	Bb1	前庭部ベルト F 区上層	靱跡	糸切り	15.7	7.5	4.4	有	潰れ	重量感あり
696	33-51	44-46	Cb1	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	(17.0)	8.2	5.8	有	潰れ	
697			Cb2	前庭部ベルト L 区	—	糸切り	(17.4)	7.6	[5.1]	—	とれ	
				下層灰層								
698			Bb2	前庭部ベルト H 区	靱跡	糸切り	(17.3)	8.5	5.9	有		
699	32-20	41-18	Bb1	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(16.8)	7.8	4.5	有	潰れ・1/4とれ	重量感あり
700	33-35	43-31	Bb2	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	(16.2)	8.0	4.5	有	潰れ	重量感あり
701			Db1	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	(15.7)	7.1	5.5	有	1/3とれ	
702	32-1	40-1	Aa2	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	(17.8)	8.0	5.3	有		
703	33-36	43-32	Bb2	前庭部ベルト F 区上層	靱跡	糸切り	16.8	7.6	4.9	有	潰れ	重量感あり
704	34-66	45-58	Db1	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	17.6	7.3	5.5	有	1/2潰れ	胎土に小石をかむ
705	33-52	44-47	Cb1	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	(15.6)	7.2	4.9	有	潰れ	
706	33-53	44-48	Cb1	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	(16.4)	8.0	5.4	有	1/2潰れ	

第32表 神明古窯出土遺物観察表 碗(15)

法量の数値で () は推定値、[] は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
707	32-21	41-19	Bb1	前庭部ベルトH区	靱跡	指ナデ	(18.6)	7.8	5.3	有		重量感あり
708	32-22	41-20	Bb1	前庭部ベルトH区	靱跡	糸切り	(17.1)	8.2	5.8	有		
709	33-54	44-49	Cb1	前庭部ベルトF区	靱跡	糸切り	(16.8)	7.6	4.9	有	潰れ	
710	32-11	40-10	Ba1	前庭部ベルトD区	靱跡	糸切り	(16.8)	7.2	4.8	有	1/2潰れ	
711	33-45	44-41	Bc2	前庭部ベルトF区	靱跡	糸切り	17.6	9.2	5.2	有	潰れ・1/6とれ	口唇部にミゾ
712	32-23		Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.8)	(8.0)	5.4	有	1/3とれ	
713	34-63		Cb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.6)	(7.4)	5.1	有		
714			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.4)	7.0	5.0	有		
715			Cb1	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	(15.6)	(6.3)	5.4	有		
716	32-24	42-21	Bb1	前庭部ベルトF区	靱跡	糸切り	(16.2)	(8.0)	5.3	有		高台にミゾ
717			Cb1	前庭部ベルトI区	—	糸切り	(17.1)	(8.3)	[4.6]	—	とれ	
718			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.7)	(7.0)	5.3	有		
719	32-25		Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.7)	(6.6)	5.6	有		
720	33-55		Cb1	前庭部ベルトH区	靱跡	糸切り	(16.6)	(7.0)	5.5	有		
721	32-2	40-2	Aa2	前庭部ベルトF区上層	靱跡	指ナデ	(15.6)	7.4	5.1	有	1/2潰れ	
722			Bb1	前庭部ベルトF区上層	靱跡	糸切り	(16.0)	7.3	4.4	有	潰れ	
723	33-56	44-50	Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(18.2)	9.0	5.8	有	1/4潰れ	
724			Bb1	前庭部ベルトH区	靱跡	糸切り	(15.6)	7.3	4.8	有		
725			Bb1	前庭部ベルトD区	靱跡	糸切り	(15.8)	(7.0)	5.6	有		
726			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.8)	4.7	有		
727	33-57	45-51	Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.6)	(7.7)	5.7	有	1/3とれ	高台にミゾ
728			Bb2	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	16.1	8.3	4.2	有		接合
729			Bb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	18.2	8.4	5.4	有	1/3潰れ	生焼け
730	32-26	42-22	Bb1	前庭部ベルトK区	靱跡	指ナデ	17.5	7.8	5.3	有		
731	33-37	43-33	Bb2	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	17.3	8.2	5.5	有		
732	34-64	45-56	Cb2	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(16.6)	8.2	5.1	有		
733	33-38	43-34	Bb2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.0)	8.4	5.3	有		
734	33-34	43-40	Bc1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(17.5)	7.5	5.2	有	1/3潰れ	
735	32-27	42-23	Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	16.5	7.8	4.8	有		ほぼ完形
736			Bc1	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	17.2	7.5	5.5	有	潰れ	重量感あり
737			Bb2	前庭部ベルトK区	靱跡	指ナデ	(18.0)	6.3	5.1	有		
738	32-13	41-12	Ba2	前庭部ベルトJ区	砂跡	糸切り	18.1	8.4	5.3	有		生焼け、接合
739	32-28	42-24	Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	指ナデ	17.2	7.2	5.0	有		ほぼ完形
740			Bb2	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(17.0)	7.1	5.0	有	1/4とれ	
741	32-8	40-7	Ac2	前庭部ベルトG区	砂跡	指ナデ	(17.4)	8.0	5.7	有	潰れ	重量感あり
742			Bc2	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	18.0	8.2	5.2	有	1/3潰れ	
743			Ab2	前庭部ベルトJ区	砂跡	指ナデ	16.9	7.9	5.2	有		
744	33-39	43-35	Bb2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(18.0)	8.4	5.5	有	潰れ	
745	32-3		Aa2	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(17.8)	8.0	5.0	有		生焼け
746	32-29	42-25	Bb1	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(16.2)	7.8	4.5	有	潰れ	重量感あり
747	33-40	43-36	Bb2	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(14.8)	6.8	4.6	有		重量感あり
748	33-43	43-39	Bb3	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(17.0)	7.8	4.9	有	1/2潰れ	重量感あり
749	33-41	43-37	Bb2	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(18.5)	7.7	6.0	有		生焼け
750	33-46	44-42	Bc2	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(17.0)	8.0	5.0	有	1/3潰れ	
751			Bb2	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	16.8	8.3	5.8	有	3/4とれ	
752	32-14	41-13	Ba2	前庭部ベルトM区	靱跡	糸切り	(17.0)	7.4	6.0	有		重ね焼最上部
753	34-65	45-57	Da1	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	(17.0)	7.6	4.8	有	潰れ・大部分とれ	
754	33-47	44-43	Bc2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	16.8	8.0	5.2	有		
755	32-15	41-14	Ba2	前庭部ベルトJ区	砂跡	指ナデ	(16.6)	7.8	5.5	有	1/3潰れ	
756			Bb1	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	16.1	8.0	4.8	有		高台にミゾ
757			Bb2	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	17.1	8.0	5.7	有	1/3潰れ	
758	32-6	40-5	Ab2	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(17.0)	8.0	4.5	有	潰れ	重ね焼最上部

第33表 神明古窯出土遺物観察表 碗(16)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量 (cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
759			Ab2	前庭部ベルトE区	—	糸切り	(15.8)	7.6	4.9	有	1/4削れ・3/4とれ	重ね焼最上部
760			Bb2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(17.4)	8.4	5.8	有		
761			Cb2	前庭部ベルトC区	靱跡	糸切り	(16.0)	(7.6)	5.0	有		
762			Bb1	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(17.9)	7.6	5.4	有		
763	32-4	40-3	Aa2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(15.8)	7.4	5.2	有		
764	32-7	40-6	Ab2	前庭部ベルトJ区	靱跡	指ナデ	17.5	8.0	5.4	有		ほぼ完形
765			Bb2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	17.7	7.7	5.5	有		
766			Ba2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	17.1	8.2	5.1	有		
767	33-42	43-38	Bb2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.4)	8.2	4.3	有	潰れ	重量感あり
768			Cb2	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	16.2	7.6	5.2	有		接合
769			Bb1	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(16.6)	(7.6)	4.3	有	潰れ	重量感あり
770			Bb2	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(17.6)	8.4	5.9	有	1/2潰れ	胎土に小石をかむ
771			Ab2	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	(16.0)	(8.2)	4.3	有	潰れ	
772			Cb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.6)	5.5	有		
773			Bb2	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	(16.1)	7.2	5.5	有	1/3潰れ	
774			Bb2	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(16.0)	(8.2)	5.4	有		
775			Cb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.8)	7.8	5.4	有	潰れ	
776			Aa2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.6)	8.0	5.5	有		
777			Ba1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(17.0)	8.0	5.3	有		
778			Bb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.4)	7.8	5.2	有	潰れ	
779			Ab2	前庭部ベルトH区	靱跡	糸切り	(16.2)	8.2	5.2	有		
780			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	16.0	7.7	5.0	有	潰れ	重ね焼最上部
781			Bb1	前庭部ベルトF区	靱跡	糸切り	(16.6)	7.8	5.0	有	1/3潰れ	
782			Ba1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.2)	(8.2)	5.7	有	2/3とれ	
783			Bb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.6)	8.0	4.8	有		
784			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.4)	6.7	4.9	有		
785			Aa4	前庭部ベルトB区	靱跡	糸切り・ 板目	17.6	8.7	[4.5]	—	とれ	
786			Cb2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(15.8)	7.5	5.0	有		
787			Ba2	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	(16.2)	7.5	5.1	有	大部分削れ	
788			Ba2	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	(16.2)	7.0	5.0	有	潰れ	
789			Ab2	前庭部ベルトF区	靱跡	糸切り	(18.2)	(8.2)	5.7	有	潰れ	
790			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.0)	7.0	5.1	有	1/2削れ	重ね焼き
791			Bb2	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	17.2	(8.2)	[5.8]	有	大部分とれ	歪み
792			Bb1	前庭部ベルトH区	靱跡	糸切り	(16.0)	7.5	5.3	有	1/4とれ	
793			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.2)	5.1	有		
794			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(15.8)	7.4	5.5	有		接合
795			Bb2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.0)	7.4	5.3	有		
796			Cb2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(17.2)	7.1	5.2	有	1/4とれ	
797			Ca1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(17.6)	7.8	6.0	有		
798			Bb2	前庭部ベルトM区	靱跡	糸切り	(16.8)	7.8	5.3	有		
799			Aa2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(15.8)	7.1	4.2	有	潰れ	
800			Bb1	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	(17.6)	7.2	5.2	有	潰れ	
801			Bb1	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(18.6)	7.0	5.5	有		
802			Aa2	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(15.8)	8.0	4.3	有	潰れ	歪み
803			Cb1	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(16.6)	8.0	6.1	有		
804			Cb2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(17.0)	8.0	5.5	有	1/6とれ	
805			Ba1	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	(16.4)	7.1	4.7	有		
806			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(17.2)	(7.0)	[4.5]	—	とれ	
807			Ba1	前庭部ベルトJ区	砂跡	ナデ	(17.4)	(8.0)	4.9	有		
808			Bb2	前庭部ベルトK区	靱跡	ナデ	(16.4)	7.8	4.5	有		
809			Bb2	前庭部ベルトH区	靱跡	糸切り	(17.4)	(8.0)	5.5	有	大部分とれ	
810			Bb3	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(17.2)	(7.4)	5.0	有		

第34表 神明古窯出土遺物観察表 碗(17)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
811			Cb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.4)	5.0	有		
812			Bb2	前庭部ベルトF区	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.6)	4.9	有		
813			Ca2	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(17.4)	7.4	5.0	有		
814			Ab2	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(15.2)	8.0	[3.9]	—	とれ	
815			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.6)	(8.0)	5.5	有	潰れ	
816			Cb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.2)	5.5	有		
817			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(17.0)	(7.0)	[4.3]	—	とれ	
818			Bb1	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	(17.0)	(7.4)	5.0	有		
819			Bb2	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(16.2)	7.6	5.4	有	潰れ・割れ	重ね焼最上部
820			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.0)	(7.2)	5.5	有		
821			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.4)	4.7	有	潰れ・3/4とれ	
822			Cb2	前庭部ベルトH区	靱跡	糸切り	(18.0)	(8.2)	5.1	有		
823			Cb1	前庭部ベルトF区	靱跡	糸切り	(16.4)	(8.0)	5.6	有		
824			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.4)	8.0	4.8	有		
825			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	ナデ	(16.0)	7.4	4.8	有	潰れ	
826			Cb1	前庭部ベルトH区	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.6)	4.8	有	1/2とれ	
827			Bb2	前庭部ベルトH区	靱跡	糸切り	(17.0)	7.8	5.4	有	潰れ	
828			Aa2	前庭部ベルトK区	靱砂跡	糸切り	(15.6)	7.5	4.1	有	潰れ	
829			Bb2	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(15.8)	(7.4)	4.4	有		
830			Cb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.2)	(6.8)	[4.6]	—	とれ	
831			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	—	(14.8)	(7.4)	5.0	有		
832			Bb2	前庭部ベルトB区	靱跡	糸切り	(16.8)	(7.0)	4.8	有	1/2とれ	
833			Cb2	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.8)	5.7	有		
834			Ab2	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(15.4)	(6.6)	[4.0]	—	とれ	重ね焼最上部
835			Bb1	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	(18.0)	(8.2)	5.1	有		
836			Bb1	前庭部ベルトC区	靱跡	—	(16.2)	(7.2)	4.4	有		
837			Bb2	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.2)	5.3	有		
838			Cb1	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	17.2	7.0	[5.1]	—	とれ	
839			Cb1	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(16.0)	(8.0)	5.0	有		
840			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(15.2)	(7.2)	5.6	有		
841			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.2)	7.0	4.0	有		
842			Db2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.2)	7.6	4.0	有	潰れ	
843			Bb1	前庭部ベルトH区	靱跡	糸切り	(17.2)	(7.6)	5.2	有		
844			Ab1	前庭部ベルトI区	靱跡	—	(14.8)	8.2	4.5	有	潰れ	
845			Cb2	前庭部ベルトI区	靱跡	—	(16.2)	(7.4)	5.0	有		
846			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	ナデ	(16.2)	(7.8)	4.8	有	1/5潰れ	
847			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.6)	(7.2)	5.5	有	1/2とれ	
848			Ab2	前庭部ベルトM区	靱跡	糸切り	(17.6)	(8.0)	5.2	有	大部分とれ	
849			Cb1	前庭部ベルトM区	靱跡	糸切り	16.1	7.4	5.6	有		接合 口唇部にミゾ
850			Bc2	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(15.8)	(7.4)	4.7	有	潰れ	
851			Cb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.2)	5.0	有		
852			Ba1	前庭部ベルトM区	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.2)	5.3	有		
853			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(15.2)	(7.0)	5.0	有	潰れ	
854			Bb2	前庭部ベルトF区上層	靱跡	糸切り	(16.4)	7.9	5.4	有	1/8とれ	
855			Bb2	前庭部ベルトD区	靱跡	糸切り	(17.0)	7.0	4.8	有	1/4潰れ	
856			Cb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(17.2)	(8.0)	5.5	有	大部分とれ	歪み
857			Cb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.4)	7.4	5.2	有	1/4とれ	
858			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り・ 板目	(17.2)	(7.6)	5.2	有	5/6とれ	重ね焼最上部
859			Cb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(17.4)	7.8	5.5	有	1/4とれ	
860			Bb4	前庭部ベルトF区上層	靱跡	糸切り	(16.4)	7.8	4.1	有	潰れ	
861			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.8)	(8.0)	6.0	有		
862			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(17.0)	(7.4)	5.4	有	1/2とれ	
863			Ba1	前庭部ベルトD 区	靱跡	糸切り	(16.4)	7.2	5.3	有	1/2潰れ	

第35表 神明古窯出土遺物観察表 碗(18)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
864			Bb2	前庭部ベルトF区上層	靱跡	糸切り	(16.0)	7.5	4.5	有		
865			Bb1	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	(15.4)	(7.2)	5.5	有	1/3とれ	
866			Bb2	前庭部ベルトD区	靱跡	糸切り	(17.2)	7.9	6.0	有		生焼け
867			Ba1	前庭部ベルトD区	靱跡	糸切り	(17.2)	7.5	5.0	有	1/2潰れ	
868			Bc2	前庭部ベルトF区上層	靱跡	糸切り	(16.2)	8.0	4.4	有	潰れ	口唇部にミゾ
869			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	16.4	7.6	5.1	有		
870			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.8)	7.8	5.8	有		重ね焼最上部
871			Bb2	前庭部ベルトF区上層	靱跡	糸切り	16.3	7.5	4.4	有	潰れ	
872			Bb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.4)	8.0	5.3	有		歪み
873			Bb2	前庭部ベルトD区	靱跡	糸切り	(17.2)	8.0	5.0	有	3/4潰れ	
874			Bb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	16.8	7.8	5.6	有	1/4とれ	
875			Bb2	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(16.0)	7.3	5.3	有		高台に沈線
876			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.8)	8.0	5.3	有	1/6とれ	
877			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.2)	7.7	5.0	有	1/2とれ	
878			Bb2	前庭部ベルトD区	靱跡	糸切り	(16.6)	(7.2)	4.6	有	潰れ・大部分とれ	
879			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.4)	7.6	4.9	有		
880			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.8)	7.3	5.4	有	潰れ	重ね焼最上部
881			Bb2	前庭部ベルトF区上層	靱跡	糸切り	15.5	7.2	4.4	有	1/4潰れ	重ね焼最上部
882			Cb1	前庭部ベルトD区	靱跡	糸切り	16.6	8.0	5.1	有	1/2とれ	
883			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.6)	(7.0)	4.8	有	大部分削れ	
884			Ab2	前庭部ベルトF区上層	靱跡	糸切り	16.2	7.6	4.7	有	潰れ	接合
885			Bb1	前庭部ベルトF区上層	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.4)	4.5	有	潰れ・3/4とれ	
886			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.8)	8.3	4.9	有		高台に沈線
887			Cb1	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.2)	4.9	有	潰れ	
888			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.0)	7.8	5.1	有		
889			Cb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り・靱跡	(16.2)	8.3	4.9	有	1/2潰れ	
890			Ba1	前庭部ベルトF区	靱跡	糸切り	(16.6)	(7.4)	[4.7]	—	とれ	
891			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.8)	(7.2)	5.1	有		
892			Bc2	前庭部ベルトF区上層	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.2)	5.3	有	潰れ	
893			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.8)	(7.2)	5.5	有	1/2とれ	
894			Bb2	前庭部ベルトF区上層	靱跡	ナデ	(15.8)	(7.6)	5.2	有	1/2潰れ	
895			Cb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.4)	(8.2)	5.6	有		
896			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.8)	5.1	有		
897			Cb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.4)	7.0	5.4	有		重ね焼最上部
898			Bb1	前庭部ベルトF区上層	靱跡	ナデ	(15.6)	(7.2)	5.0	有	潰れ	
899			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	ナデ	(15.4)	7.5	5.5	有		
900			Cb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.8)	(8.0)	5.3	有		
901			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.8)	7.3	5.1	有		
902			Ba1	前庭部ベルトD区	靱跡	—	(16.0)	7.2	5.0	有	潰れ	
903			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.8)	(7.2)	4.9	有	潰れ	
904			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.6)	(7.4)	6.0	有	1/6とれ	
905			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.2)	(7.0)	5.3	有	潰れ	
906			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.6)	(7.4)	5.5	有	潰れ	
907			Bb1	前庭部ベルトE区	靱跡	—	(16.6)	(8.0)	5.4	有		
908			Cb2	前庭部ベルトI区	靱跡	—	(16.2)	(7.2)	5.2	有		
909			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.6)	(7.6)	6.0	有	1/2とれ	
910			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(17.0)	8.3	5.1	有	潰れ・1/2とれ	
911			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.0)	(7.6)	5.5	有	2/3とれ	
912			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.6)	(7.4)	5.5	有		
913			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.6)	(8.0)	5.2	有	潰れ・1/2とれ	

第36表 神明古窯出土遺物観察表 碗(19)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
914			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.4)	5.4	有		
915			Bb1	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.6)	5.0	有		
916			Cb1	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	15.6	6.8	[4.6]	—	とれ	
917			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(14.4)	(6.2)	[5.1]	—	とれ	
918			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.0)	7.2	5.3	有		
919			Bb2	前庭部ベルトE区	靱跡	糸切り	(16.8)	(8.0)	5.2	有	潰れ・2/3とれ	
920			Cb1	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(17.6)	8.1	5.2	有	潰れ・1/3とれ	
921			Bb1	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(16.8)	7.6	5.2	有		重ね焼最上部
922			Cb1	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り・ 板目	(16.8)	(7.6)	5.0	有	5/6とれ	
923			Ba1	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(18.2)	8.5	5.0	有		
924			Bb1	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(17.0)	7.4	[4.4]	—	とれ	生焼け
925			Bb1	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り・ 板目	(17.2)	8.4	5.8	有		生焼け
926			Ba1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	17.1	7.5	5.1	有		重ね焼最上部
927			Bb1	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(16.0)	7.7	5.5	有	外に広がる	
928			Ab2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.6)	8.1	5.2	有		
929			Cb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.4)	4.9	有	2/3とれ	重ね焼最上部
930			Bb1	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(16.2)	7.5	5.1	有		重ね焼最上部
931			Bc2	前庭部ベルトJ区	靱跡	ナデ	(16.0)	7.4	5.1	有	潰れ	重量感あり
932			Bc1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(17.4)	7.5	4.7	有	1/3割れ	重ね焼最上部
933			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(17.4)	7.4	4.9	有	潰れ	
934			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	ナデ	(17.6)	7.8	5.4	有	潰れ	
935			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.0)	7.5	5.0	有		歪み、高台に沈線
936			Bc2	前庭部ベルトD区	靱跡	糸切り	(16.4)	7.5	5.4	有	1/2潰れ	
937			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.6)	8.1	5.0	有		
938			Bb2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.6)	8.2	5.5	有	割れ	
939			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(17.2)	(7.2)	5.6	有		
940			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.6)	(7.0)	4.8	有		高台に沈線
941			Bb2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(15.2)	(6.4)	5.0	有		
942			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	16.0	7.5	5.1	有	潰れ	
943			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.6)	(7.6)	5.2	有		
944			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り・ 板目	(16.8)	(8.6)	5.0	有	潰れ	
945			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.0)	7.5	4.9	有	潰れ	重量感あり
946			Cb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(17.4)	(7.4)	5.2	有	潰れ	
947			Cb1	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(17.2)	7.2	4.7	有	潰れ	接合
948			Ab1	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(18.0)	(8.2)	4.9	有		生焼け
949			Cb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(17.6)	8.1	5.1	有	1/2とれ	生焼け
950			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(18.0)	8.4	5.2	有	潰れ	
951			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(15.8)	(7.4)	5.2	有		高台に沈線
952			Cb2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.8)	(8.2)	5.6	有	潰れ	
953			Cb1	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(15.6)	(7.2)	5.1	有		
954			Bc1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.0)	(7.4)	5.4	有	潰れ	
955			Bb1	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	16.2	8.2	[4.8]	—	とれ	
956			Cb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.6)	7.2	5.1	有		
957			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.2)	(8.2)	5.4	有		
958			Bb1	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(16.0)	(8.2)	5.1	有	1/2潰れ	
959			Bb2	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	17.0	7.7	5.3	有	潰れ・1/4割れ	接合
960			Cb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.0)	(7.8)	5.2	有		
961			Cb2	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(17.4)	(7.8)	5.2	有	1/2潰れ	重ね焼最上部

第37表 神明古窯出土遺物観察表 碗(20)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
962			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.0)	(7.6)	4.9	有		
963			Bb1	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(15.8)	7.9	4.7	有		高台にミゾ
964			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(15.4)	7.4	4.9	有	削れ	重ね焼最上部
965			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	—	(17.2)	7.4	5.6	有		
966			Cb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り・ 板目	(17.0)	(6.4)	[4.8]	—	とれ	
967			Bb1	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	(17.0)	(8.2)	5.0	有		
968			Bb1	前庭部ベルトD区	靱跡	糸切り	(17.0)	(8.2)	5.7	有	1/3潰れ	
969			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	—	(15.0)	(7.4)	5.0	有		
970			Bc1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(17.0)	(7.8)	5.1	有		
971			Bc1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.0)	(6.8)	5.2	有		
972			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.2)	5.2	有	1/3潰れ	高台にミゾ
973			Bc1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.8)	(7.8)	5.0	有		
974			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.0)	(7.4)	5.3	有		
975			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(17.0)	(7.0)	5.0	有	1/3とれ	
976			Bb2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.6)	7.2	5.4	有		
977			Cb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.4)	8.2	5.3	有	潰れ・削れ	
978			Bb1	前庭部ベルトD区	靱跡	糸切り	(16.0)	(7.2)	4.7	有		
979			Ba1	前庭部ベルトD区	靱跡	糸切り	(15.8)	(7.2)	5.4	有		
980			Bc1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.4)	6.6	5.1	有		
981			Bb1	前庭部ベルトD区	靱跡	糸切り	(17.2)	(8.0)	5.7	有		
982			Bc2	前庭部ベルトD区	靱跡	—	(16.4)	(7.0)	5.6	有	1/2潰れ	
983			Bc1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(17.0)	(7.0)	[4.7]	有	とれ	
984			Bc1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(15.0)	(7.0)	4.9	有		
985			Ba2	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(17.0)	8.4	6.0	有	潰れ	
986			Cb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	16.4	7.2	5.1	有		
987			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.8)	(8.2)	5.5	有	1/3潰れ	
988			Cb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(15.8)	(6.8)	5.7	有		
989			Cb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.0)	(7.2)	5.2	有		
990			Bb1	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(15.2)	(7.2)	5.2	有	潰れ	
991			Ba2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.4)	7.7	5.3	有		
992			Ba2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.6)	7.2	5.3	有		
993			Bb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(17.4)	7.6	5.2	有		
994			Ba2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.6)	7.0	4.8	有	潰れ	
995			Bb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(18.6)	7.9	5.6	有	1/2潰れ	
996			Ba2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.6)	7.6	5.1	有		歪み
997			Bb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(17.8)	7.4	4.9	有	1/4とれ	歪み
998			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(17.0)	8.1	5.4	有		
999			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(15.8)	7.0	4.8	有	1/3とれ	
1000			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(17.0)	7.8	5.2	有	1/6とれ	高台にミゾ
1001			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.4)	(7.2)	5.2	有	1/2とれ	
1002			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	16.2	7.0	4.9	有	1/4とれ	歪み
1003			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.0)	7.6	4.9	有	1/6とれ	
1004			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.6)	4.8	有	1/3とれ	
1005			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.2)	(8.2)	5.5	有	1/2とれ	
1006			Bb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(18.2)	(7.8)	5.2	有		
1007			Ab2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	16.6	8.2	5.0	有		接合
1008			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(17.4)	7.3	5.0	有		
1009			Cb1	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(17.0)	7.2	4.5	有		
1010			Bb1	前庭部ベルトI区	靱跡	—	(18.4)	(7.0)	5.3	有		
1011			Bb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(17.0)	(7.8)	4.6	有		
1012			Bb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.0)	(7.4)	4.8	有		
1013			Bb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(17.4)	(7.2)	5.5	有		
1014			Ab2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(16.6)	(8.6)	5.1	有	3/4とれ	歪み、接合
1015			Bb2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(17.8)	(8.4)	5.3	有		

第38表 神明古窯出土遺物観察表 碗(2)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
1016			Cb2	灰原中央部西側	靱跡	糸切り	15.7	6.8	5.2	有		高台にミゾ
1017			Bb2	灰原中央部西側	靱跡	糸切り	(17.6)	(8.6)	6.0	有		
1018	36-1	51-1	Ab2	灰原東側末端	靱跡	糸切り	(16.0)	7.6	4.5	有	潰れ	
1019			Ab2	灰原北東側末端	靱跡	糸切り	(16.6)	(8.2)	5.4	有	潰れ	
1020	36-15	52-14	Cb1	灰原北側末端	靱跡	糸切り	(17.1)	7.5	6.1	有		
1021	36-19	52-18	Cb2	灰原北側	靱跡	糸切り	(17.6)	7.6	5.8	有	1/2潰れ	
1022	36-3	51-3	Ba2	灰原中央部	靱跡	糸切り	16.2	7.8	5.4	有		
1023	36-11	51-10	Bb2	灰原北側	靱跡	糸切り	17.4	7.6	5.4	有		生焼け
1024			Ba2	灰原中央部	靱跡	糸切り	(17.6)	8.0	5.9	有	潰れ	接合、生焼け
1025	36-4	51-4	Ba2	灰原中央部西側	靱跡	糸切り	16.0	8.0	4.5	有	潰れ	
1026	36-16	52-15	Cb1	灰原中央部	靱跡	糸切り	(18.1)	8.4	5.6	有	潰れ・1/3とれ	
1027	36-20	52-19	Cb2	灰原北側	靱跡	糸切り	(17.2)	7.6	6.0	有		
1028	36-12	52-11	Bb2	灰原北東側	靱跡	糸切り	16.7	7.7	5.3	有		
1029	36-13	52-12	Bb2	灰原北東側末端	靱跡	ナデ・板 目	16.5	8.7	4.7	有	潰れ・1/2とれ	ほぼ完形
1030			Bb3	灰原中央部	靱跡	糸切り	16.2	7.8	6.0	有	1/2とれ	生焼け
1031	36-21	52-20	Cb2	灰原北側	靱跡	糸切り	17.6	8.5	5.6	有		
1032	36-17	52-16	Cb1	灰原北側末端	靱跡	糸切り	(18.1)	7.0	5.1	有		
1033			Ab2	灰原北側末端	靱跡	糸切り	(17.1)	8.2	5.6	有		接合、生焼け
1034			Ca2	灰原北側	靱跡	糸切り	(17.8)	7.2	5.4	有		胎土に小石をかむ
1035			Bb2	灰原東側末端	靱跡	糸切り	(17.5)	7.9	5.4	有	潰れ	
1036			Cb1	灰原中央部西側	靱跡	糸切り	(18.0)	(9.7)	5.5	有	1/3潰れ	
1037			Ca1	灰原北側末端	靱跡	糸切り	17.9	7.7	6.0	有		生焼け
1038			Bb1	灰原中央部	靱跡	糸切り	(16.1)	(7.2)	5.1	有		
1039			Aa1	2号窯灰原の上層上部	靱跡	糸切り・ 板目	15.6	8.3	4.3	有	潰れ	
1040	36-8	51-7	Bb1	灰原上層	靱跡	ナデ	15.9	8.0	5.0	有	潰れ	
1041	36-9	51-8	Bb1	灰原上層	靱跡	糸切り	16.6	8.3	4.9	有	潰れ	
1042			Bb1	灰原東側末端	靱跡	糸切り・ 板目	(16.4)	7.4	4.5	有	潰れ	重ね焼最上部
1043	36-14	52-13	Bb2	灰原東側上層	靱跡	糸切り・ 板目	16.8	7.5	5.5	有	潰れ	
1044	36-10	51-9	Bb1	灰原北西側	靱跡	糸切り	(16.8)	8.1	5.5	有	3/4潰れ	胎土に小石をかむ
1045	36-2	51-2	Ab2	灰原西側上層	靱跡	糸切り	15.6	7.9	4.0	有		重量感あり、ほぼ完形
1046			Cb1	灰原北西側	靱跡	糸切り	(16.5)	8.1	5.1	有	1/2とれ	
1047	36-18	52-17	Cb1	灰原西側	靱跡	糸切り	17.0	8.4	5.9	有	3/4潰れ	ほぼ完形
1048	36-5	51-5	Ba2	灰原西側	靱跡	糸切り	16.9	7.8	5.7	有		ほぼ完形、胎土に小石
1049			Ca1	灰原東側	靱跡	糸切り	(17.3)	7.4	5.5	有	1/2とれ	胎土に小石をかむ
1050			Bb1	灰原中央部	靱跡	糸切り	(17.3)	8.0	6.1	有	1/3とれ	生焼け
1051			Bb1	灰原中央部	靱跡	糸切り	17.1	8.2	5.7	有	潰れ	
1052			Ba1	灰原北西側	靱跡	糸切り	(17.6)	8.1	5.6	有	潰れ	生焼け、胎土に小石
1053	36-6	51-6	Ba2	灰原中央部	靱跡	糸切り	16.6	7.3	5.1	有	潰れ	
1054	36-7		Ba3	灰原西側	靱跡	糸切り	(17.2)	(8.3)	6.3	有		胎土に小石をかむ
1055			Bb2	1号窯灰原上層	靱跡	糸切り	17.1	9.2	5.6	有	潰れ	生焼け
1056			Bb1	灰原西側	靱跡	糸切り	(16.6)	7.2	4.9	有	1/3削れ	
1057			Bb2	灰原北西側	靱跡	糸切り	(17.0)	7.6	5.0	有	潰れ	
1058			Cb1	灰原東側	靱跡	糸切り	(16.4)	(8.4)	5.3	有		
1059			Bb2	灰原東側	靱跡	—	(16.6)	(7.6)	4.9	有		
1060			Ab2	2・3号窯の前庭 部付近の灰原上層	靱跡	糸切り	16.0	8.4	4.7	有		接合
1061			Bc2	2号窯灰原上層	靱跡	糸切り	(16.8)	8.1	5.5	有	1/3とれ	
1062			Ab2	2・3号窯の前庭 部付近の灰原上層	靱跡	糸切り	(16.2)	7.9	4.8	有	潰れ	
1063			Ab2	2・3号窯の前庭 部付近の灰原上層	靱跡	ナデ	(17.0)	8.6	4.6	有	潰れ	
1064			Bb2	2・3号窯の前庭 部付近の灰原上層	靱跡	糸切り	(15.4)	6.7	4.4	有	潰れ	

第39表 神明古窯出土遺物観察表 碗(22)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考	
							口径	高台径	器高				
1065			Bb2	2号窯前庭部付近の灰原上層	靨跡	ナデ	(17.9)	7.7	5.0	有	潰れ	重ね焼最上部	
1066			Bb1	2・3号窯の前庭部付近の灰原上層	靨砂跡	糸切り	(16.6)	7.0	4.5	有	潰れ		
1067			Bb1	2・3号窯の前庭部付近の灰原上層	靨跡	ナデ	(15.2)	(9.0)	4.9	有	潰れ		
1068			Bb2	2・3号窯の前庭部付近の灰原上層	靨跡	糸切り・板目	(16.7)	7.5	4.4	有	潰れ		
1069			Bb2	2・3号窯の前庭部付近の灰原上層	靨跡	糸切り	(14.7)	(7.8)	4.6	有	潰れ		
1070			Ab1	2・3号窯の前庭部付近の灰原上層	靨跡	糸切り	(15.2)	8.1	4.2	有	潰れ		
1071			Ab2	2・3号窯の前庭部付近の灰原上層	靨跡	糸切り	(15.8)	8.4	4.6	有	潰れ		
1072			Bc2	2・3号窯の前庭部付近の灰原上層	靨跡	糸切り	(15.0)	(7.6)	4.8	有	大部分とれ		口唇部にミゾ
1073			Bb2	1号窯灰原上層	靨跡	—	(16.2)	(7.4)	5.0	有	潰れ		
1074			Ab1	2・3号窯の前庭部付近の灰原上層	靨跡	糸切り	(15.4)	7.5	5.0	有	1/2潰れ		
1075			Bb2	灰原北東側末端	靨跡	ナデ	(16.6)	7.6	4.8	有	1/2潰れ	接合 重ね焼最上部 接合	
1076			Bb1	灰原中央部	靨跡	糸切り	16.4	8.1	5.4	有	潰れ		
1077			Bb2	灰原中央部	靨跡	糸切り	(16.3)	7.7	5.9	有	1/2潰れ		
1078			Cb1	灰原中央部	靨跡	糸切り	(16.4)	8.3	5.7	有	潰れ		
1079			Cb2	灰原北側	靨跡	糸切り	(18.4)	7.8	5.2	有	潰れ		
1080			Bb2	3号窯前庭部付近の灰原上層	靨跡	糸切り	(16.6)	7.0	4.5	有	潰れ		
1081			Bb1	灰原中央部西側	靨跡	糸切り	(16.2)	7.2	5.0	有	1/2とれ		
1082			Aa2	3号窯前庭部付近の灰原上層	靨跡	糸切り	15.0	8.1	4.7	有	潰れ・削れ		
1083			Bb2	灰原中央部	靨跡	糸切り	(15.2)	(6.8)	5.4	有	潰れ		
1084			Ab2	3号窯前庭部付近の灰原上層	靨跡	糸切り	15.3	7.8	4.4	有	1/2潰れ		重ね焼最上部
1085			Cb2	灰原中央部西側	靨跡	糸切り	(15.4)	7.9	5.6	有	1/2潰れ		
1086			Aa2	3号窯前庭部付近の灰原上層	靨跡	糸切り	15.7	8.0	5.1	有	潰れ・削れ		
1087			Bb1	灰原中央部	—	糸切り	(17.0)	(8.4)	[3.6]	—	とれ	接合	
1088			Cb2	灰原中央部西側	靨跡	糸切り・板目	17.5	7.6	6.4	有	3/4とれ		
1089			Db2	3号窯前庭部付近の灰原上層	靨跡	糸切り	(15.5)	7.0	5.0	有	潰れ		
1090			Ba3	3号窯前庭部付近の灰原上層	靨跡	糸切り	(16.2)	(8.4)	4.7	有			
1091			Da1	3号窯前庭部付近の灰原上層	靨跡	糸切り	(14.8)	7.5	5.5	有	潰れ・削れ	接合	
1092			Bc2	灰原中央部	靨跡	糸切り	(16.1)	7.2	5.1	有	潰れ・1/4とれ		
1093			Ca1	灰原中央部	靨跡	糸切り	(17.8)	7.7	5.7	有			
1094			Bc2	灰原北東側末端	靨跡	糸切り・板目	(17.0)	8.3	5.2	有	潰れ		
1095			Ab1	灰原北東側	靨跡	糸切り	(14.6)	(7.2)	4.9	有			
1096			Aa2	灰原東側末端	靨跡	糸切り	15.8	8.2	4.8	有	1/4潰れ		
1097			Cb1	灰原中央部	靨跡	糸切り	(16.4)	(6.8)	5.0	有			
1098			Bb2	灰原中央部	—	糸切り	(16.2)	7.5	[4.5]	—	とれ		
1099			Cb1	灰原中央部	靨跡	糸切り	(15.8)	(8.0)	5.5	有	1/2とれ		
1100			Bb2	灰原中央部	靨跡	糸切り	(17.4)	(8.8)	5.7	有			
1101			Cb1	灰原中央部	—	糸切り	(16.8)	7.4	[4.7]	—	とれ		
1102			Cb1	灰原中央部	—	糸切り	16.6	7.4	[4.6]	—	とれ		
1103			Bb1	灰原中央部	靨跡	糸切り	17.2	8.1	6.1	有			
1104			Ab2	灰原北側	靨跡	糸切り	(17.6)	(7.2)	5.8	有	潰れ		
1105			Bb2	灰原西側	靨跡	糸切り	16.6	7.2	5.7	有			
1106			Cb1	灰原中央部西側	靨跡	糸切り	(15.8)	(6.4)	4.5	有			
1107			Bb2	灰原北東側末端	靨跡	—	(17.4)	(7.4)	4.9	有		口唇部にミゾ	
1108			Bc1	灰原北東側末端	靨跡	ナデ	(16.4)	(7.0)	5.0	有			
1109			Bb1	灰原中央部	靨跡	糸切り	(17.0)	(7.2)	5.1	有			
1110			Aa1	3号窯前庭部付近の灰原上層	靨跡	糸切り	(15.6)	(8.2)	4.8	有	潰れ	口唇部にミゾ	
1111			Ba3	3号窯前庭部付近の灰原上層	靨跡	糸切り	(16.0)	(7.2)	5.1	有	潰れ		
1112			Aa2	3号窯前庭部付近の灰原上層	—	糸切り	(16.2)	(8.4)	4.9	有	大部分とれ・潰れ		
1113			Aa2	灰原北側末端	靨跡	糸切り	(16.8)	(7.4)	6.6	有	潰れ	口唇部にミゾ	
1114			Ab3	3号窯前庭部付近の灰原上層	靨跡	糸切り	(15.4)	(8.0)	4.5	有	潰れ		
1115			Cb1	灰原中央部西側	靨跡	糸切り	(17.4)	(7.8)	5.1	有	潰れ		
1116			Aa2	灰原北東側末端	靨跡	糸切り	(16.8)	8.6	4.6	有	潰れ		

第40表 神明古窯出土遺物観察表 碗(23)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
1117			Bb2	3号窯前庭部付近 の灰原上層	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.4)	4.5	有	潰れ	
1118			Ab1	灰原北側末端	靱跡	糸切り	(16.0)	(7.8)	5.0	有	潰れ	
1119			Bb1	灰原上層	靱跡	糸切り	(15.8)	(8.0)	4.9	有	潰れ	
1120			Bb2	灰原西側	靱跡	糸切り	(16.8)	8.2	5.4	有		生焼け
1121			Aa1	灰原東側末端	靱跡	糸切り・ 板目	(15.0)	(7.2)	5.0	有	2/3潰れ	
1122			Bb2	灰原上層	靱跡	ナデ	(16.0)	7.2	4.9	有	潰れ	
1123			Cb1	灰原北西側	靱跡	糸切り	(15.6)	(7.2)	5.2	有	1/3とれ	
1124			Bb1	灰原中央部西側	靱跡	糸切り	(17.0)	8.0	5.0	有		
1125			Cc2	灰原中央部西側	靱跡	糸切り	16.6	7.6	5.3	有		重ね焼最上部
1126			Ba1	灰原東側末端	靱跡	糸切り	(17.0)	7.2	5.5	有	潰れ	
1127			Cb1	灰原東側	靱跡	糸切り	(17.2)	(7.6)	5.2	有		
1128			Bb1	灰原東側	靱跡	糸切り	(17.4)	8.3	5.5	有	潰れ	
1129			Bb2	灰原上層	靱跡	ナデ	(16.0)	7.1	4.7	有		
1130			Bb1	灰原東側	靱跡	糸切り	(16.2)	(7.0)	5.4	有		
1131			Bb1	灰原中央部西側	靱跡	糸切り	16.0	7.9	5.2	有		重ね焼最上部 歪み
1132			Cb1	灰原中央部	靱跡	糸切り	16.2	7.2	5.7	有		
1133			Cb1	灰原中央部	—	糸切り	(16.6)	7.6	[4.6]	—	とれ	
1134			Bb2	灰原東側末端	靱跡	糸切り	(16.8)	7.6	5.3	有		
1135			Bc2	灰原西側	靱跡	—	(16.0)	(7.0)	4.9	有	1/2潰れ	
1136			Bb1	灰原東側	靱跡	糸切り	(15.4)	(7.2)	4.8	有	1/3潰れ	高台にミゾ 歪み
1137			Cb1	灰原北西側	靱跡	糸切り	18.0	7.6	5.2	有		
1138			Bb1	灰原西側	靱跡	ナデ	(19.0)	8.5	5.0	有	潰れ	
1139			Cb1	灰原北西側	靱跡	糸切り	(17.0)	(8.2)	5.1	有		
1140			Ab1	灰原北西側	靱跡	糸切り	(17.2)	8.3	5.8	有		
1141			Ac2	灰原東側	靱跡	糸切り・ 板目	(15.6)	(7.6)	5.2	有	潰れ・1/2とれ	
1142			Bb1	灰原北西側	靱跡	糸切り	(17.0)	(7.2)	4.8	有	潰れ	
1143			Ab1	灰原東側末端	—	糸切り	(15.6)	(7.0)	[4.7]	—	とれ	
1144			Bb1	灰原北西側	靱跡	糸切り	(16.4)	8.0	5.6	有	1/6とれ	
1145			Cb1	灰原北西側	靱跡	糸切り	(16.8)	7.8	5.0	有		
1146			Bb2	灰原東側	靱跡	糸切り	(17.2)	8.2	5.3	有	1/4とれ	接合
1147			Bb1	灰原西側	靱跡	糸切り	17.0	8.0	5.9	有	1/2とれ	接合
1148			Ba4	1号窯付近の表採	靱跡	ナデ	15.9	7.8	4.5	有	潰れ	口唇部にミゾ
1149			Cb1	表採	靱跡	糸切り	16.2	8.0	5.0	有	1/4とれ	接合
1150			Bc1	表採	靱跡	糸切り	(15.1)	7.3	5.0	有		
1151	38-3	56-2	Bb2	1号窯分焰柱はりつけ	靱跡	—	(16.8)	7.7	4.9	有	1/2潰れ	
1152	38-1	56-1	Bb1	1号窯分焰柱はりつけ	靱跡	糸切り	(17.3)	7.5	5.2	有	潰れ	
1153	38-4	56-3	Bb2	1号窯分焰柱はりつけ	靱跡	糸切り	(16.9)	8.0	5.4	有	潰れ	
1154			B—	1号窯分焰柱はりつけ	靱跡	糸切り	—	7.9	—	有	3/4潰れ	口縁部とれ
1155	38-7	56-5	Bc2	1号窯分焰柱はりつけ	靱跡	糸切り・ 板目	16.7	7.4	5.7	有	潰れ	
1156	38-8	56-6	Bc2	1号窯分焰柱はりつけ	靱跡	糸切り	16.5	7.1	4.9	有	潰れ	
1157	38-5	56-4	Bb2	1号窯分焰柱はりつけ	靱跡	糸切り	(16.3)	8.2	5.4	有	潰れ	
1158	38-9		Bc2	1号窯分焰柱はりつけ	靱跡	糸切り	(16.6)	8.4	5.6	有	潰れ	
1159	38-6		Bb2	1号窯分焰柱はりつけ	靱跡	糸切り	17.2	8.8	5.3	有	1/4とれ・潰れ	接合
1160	38-2		Bb1	1号窯分焰柱はりつけ	靱跡	糸切り	(17.8)	8.2	6.0	有	1/2とれ・潰れ	
1161			B—	1号窯分焰柱はりつけ	靱跡	糸切り	—	8.0	—	有	2/3潰れ	口縁部とれ

第41表 神明古窯出土遺物観察表 碗(24)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	高台状態	備 考
							口径	高台径	器高			
1	34-122	45-59	—	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(16.5)	7.8	6.3	有		重ね焼最上部
2	34-123	45-60	—	前庭部ベルトJ区	靱跡	ナデ	16.4	8.0	5.6	有		接合

第42表 神明古窯出土遺物観察表 玉縁状口縁碗

法量の数値で()は推定値、[]は残存値

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	備 考
							口径	底径	器高		
1	27-16	26-15	A3	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	9.8	5.4	3.1	有	
2	27-21	26-20	C3	2号窯分焰柱東側	靱跡	—	9.3	5.1	2.7	有	ほぼ完形
3	27-17	26-16	B3	2号窯燃焼室	靱跡	—	9.3	5.1	2.8	有	
4	27-23	26-22	C5	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	9.9	5.6	3.1	有	ほぼ完形、重ね焼最上部
5			C1	2号窯分焰柱東側	靱跡	—	9.7	5.3	2.8	有	
6	27-22	26-21	C3	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	9.6	5.2	2.8	有	
7	27-19	26-18	C1	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	9.5	5.4	2.8	有	
8			C1	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(9.8)	5.6	2.5	有	
9			C5	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	9.4	5.4	3.0	有	
10	27-25	27-24	D3	2号窯分焰柱東側	靱跡	糸切り	8.5	4.9	2.7	有	完形品
11			C3	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(9.8)	4.9	3.0	有	
12			D1	2号窯分焰柱東側	靱跡	—	9.0	5.1	2.6	有	
13	27-18	26-17	B3	2号窯分焰柱東側	靱跡	板目	9.1	5.5	2.6	有	ほぼ完形
14			C3	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	9.4	5.1	3.0	有	
15			D3	2号窯窯内	靱跡	糸切り	9.0	4.8	2.7	有	ほぼ完形
16			C3	2号窯燃焼室	砂跡	糸切り	(10.2)	5.1	3.1	有	
17			D3	2号窯燃焼室	靱跡	—	9.2	5.1	2.8	有	
18			D3	2号窯燃焼室	靱跡	—	9.1	5.6	2.5	有	
19			C3	2号窯分焰柱東側	靱跡	—	9.0	5.3	2.8	有	
20			D3	2号窯分焰柱東側	靱跡	—	8.7	4.9	2.4	有	接合
21	27-24	26-23	D1	2号窯分焰柱東側	靱跡	糸切り	9.0	5.3	2.6	有	ほぼ完形、重ね焼最上部
22	27-20	26-19	C1	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	9.8	5.4	2.7	有	内側に靱付着
23			C1	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	9.7	5.3	2.9	有	ほぼ完形
24			D1	2号窯分焰柱東側	靱跡	糸切り	8.9	5.9	2.5	有	ほぼ完形
25			D3	2号窯焼成室	靱跡	糸切り	(8.8)	(5.6)	2.4	有	
26			C1	2号窯分焰柱東側	靱跡	糸切り	(8.8)	(5.4)	3.0	有	
27			C3	2号窯燃焼室	—	糸切り	(9.7)	(5.2)	2.5	無	
28			C3	2号窯燃焼室	—	糸切り	(9.8)	4.8	2.6	無	
29			D1	2号窯燃焼室	—	糸切り	9.0	5.0	2.2	無	
30			D1	2号窯分焰柱東側	—	糸切り	(9.2)	(5.6)	2.3	無	
31	27-28	27-27	D2	2号窯燃焼室	—	糸切り	8.8	4.9	2.4	無	
32	27-27	27-26	D1	2号窯分焰柱東側	—	糸切り	8.8	4.8	2.1	無	ほぼ完形
33			C5	2号窯燃焼室	—	糸切り	9.4	5.0	2.6	無	
34			D2	2号窯分焰柱東側	—	糸切り	8.7	5.3	2.1	無	接合
35			C1	2号窯燃焼室	—	糸切り	9.3	4.7	2.3	無	
36			C1	2号窯燃焼室	—	糸切り	(8.7)	4.8	2.4	無	
37			F5	2号窯燃焼室	—	—	(9.4)	(6.0)	[2.4]	とれ	
38			D2	2号窯分焰柱東側	—	糸切り	9.1	5.3	2.2	無	
39	27-29	27-28	D3	2号窯燃焼室	—	糸切り	8.8	4.9	2.3	無	ほぼ完形
40			C1	2号窯燃焼室	—	糸切り	(8.8)	(4.8)	[2.8]	とれ	
41			D2	2号窯分焰柱東側	—	糸切り	(8.8)	5.3	2.0	無	
42			C1	2号窯燃焼室	—	糸切り	(10.5)	(6.6)	2.6	有	
43	27-30	27-29	F3	2号窯燃焼室	—	糸切り	10.1	5.2	2.7	無	
44			C1	2号窯分焰柱東側	—	糸切り	8.7	4.5	2.2	無	
45			D2	2号窯分焰柱東側	—	糸切り	8.9	5.4	2.2	無	口唇部にミゾ
46	27-26	27-25	C2	2号窯分焰柱東側	—	糸切り	9.3	4.6	2.4	無	
47			D2	2号窯分焰柱東側	—	糸切り	8.5	4.4	2.2	無	
48			D2	2号窯燃焼室	—	糸切り	9.3	4.2	2.5	無	
49			B3	2号窯分焰柱東側	—	糸切り	8.8	4.6	2.3	無	
50			D2	2号窯燃焼室	—	糸切り・板目	9.1	4.6	2.4	無	重ね焼最上部
51			C3	2号窯燃焼室	—	糸切り	8.7	4.6	2.1	無	重ね焼最上部
52			C5	2号窯燃焼室	—	糸切り	8.9	4.8	2.4	無	重ね焼最上部
53			C1	2号窯分焰柱東側	—	糸切り	9.4	4.5	2.2	無	

第43表 神明古窯出土遺物観察表 皿(1)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値、高台有りは高台径

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	備 考
							口径	底径	器高		
54			C5	2号窯燃焼室	—	糸切り・板目	8.9	4.4	2.7	無	
55			C5	2号窯燃焼室	—	糸切り	(9.2)	4.8	2.6	無	
56			C3	2号窯燃焼室	—	糸切り	9.3	5.4	2.4	無	
57			C3	2号窯燃焼室	—	糸切り	(9.2)	5.0	2.3	無	重ね焼最上部
58			D3	2号窯燃焼室	—	糸切り	(9.0)	4.7	2.3	無	
59			C3	2号窯燃焼室	—	糸切り	(9.2)	4.7	2.7	無	
60			C2	2号窯燃焼室	—	糸切り	(8.9)	4.7	2.5	無	重ね焼最上部
61			C3	2号窯燃焼室	—	糸切り	(9.0)	4.8	2.2	無	重ね焼最上部
62			C2	2号窯燃焼室	—	糸切り	(8.6)	(5.0)	2.2	無	重ね焼最上部
63			D1	2号窯燃焼室	—	糸切り	(9.3)	5.0	2.3	無	
64			D1	2号窯燃焼室	—	糸切り	9.0	5.0	2.2	無	
65			C5	2号窯燃焼室	—	糸切り	(9.3)	5.0	2.5	無	重ね焼最上部
66			C2	2号窯燃焼室	靱跡	—	(10.0)	(5.6)	2.3	有	
67			C2	2号窯分焰柱東側	—	—	(9.0)	(5.0)	2.7	無	
68			C1	2号窯燃焼室	—	—	(9.0)	(5.0)	2.5	無	
69			D1	2号窯分焰柱東側	—	糸切り	(8.6)	(5.0)	2.2	無	
70			C2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り・板目	9.0	4.8	2.6	有	重ね焼最上部
71			C3	2号窯燃焼室	—	糸切り	9.6	5.1	2.7	有	
72			B5	2号窯分焰柱東側	靱跡	糸切り・板目	9.2	4.9	2.9	有	
73			C2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(9.2)	5.0	3.0	有	
74			D2	2号窯分焰柱東側	靱跡	—	8.8	5.3	2.7	有	
75			C3	2号窯燃焼室	—	糸切り	9.8	5.4	2.8	有	
76			C3	2号窯燃焼室	靱跡	—	9.0	5.2	2.5	有	
77			C5	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	9.8	4.4	2.8	有	
78			B2	2号窯燃焼室	—	糸切り	8.6	5.2	2.4	無	
79			D1	2号窯焼成室上層	靱跡	ナデ	8.6	4.5	2.5	有	口唇部にミゾ
80			C5	2号窯分焰柱西側	砂跡	糸切り	10.0	5.5	2.8	有	内側に靱付着
81			C5	2号窯分焰柱東側	靱跡	糸切り	(9.8)	5.3	3.1	有	
82			C2	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	9.7	5.5	3.1	有	
83			D2	2号窯分焰柱東側	靱跡	—	(8.8)	4.7	2.5	有	重ね焼最上部
84			B3	2号窯分焰柱東側	靱跡	ナデ	9.1	5.8	2.5	有	
85			C5	2号窯燃焼室	靱跡	—	(10.4)	(5.0)	2.8	有	
86			C5	2号窯燃焼室	—	糸切り	(8.6)	5.6	2.5	有	
87			D2	2号窯分焰柱東側	靱跡	—	8.8	5.0	2.4	有	重ね焼最上部
88			B1	2号窯燃焼室	砂跡	糸切り	8.7	5.4	2.1	有	
89			C5	2号窯燃焼室	靱跡	糸切り	(11.4)	4.9	3.3	有	
90			C3	2号窯分焰柱東側	—	糸切り	(11.2)	4.9	[2.9]	有	

第44表 神明古窯出土遺物観察表 皿(2)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値、高台有りは高台径

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量 (cm)			高台 有無	備 考
							口径	底径	器高		
91	29-26	33-17	A3	3号窯焼成室	靨跡	—	10.0	4.9	2.6	有	重ね焼最上部
92	29-37	33-21	F3	3号窯燃焼室	砂跡	糸切り	9.0	4.9	2.5	有	
93	29-35		F1	3号窯燃焼室	靨跡	糸切り	10.4	5.7	2.5	有	
94	29-29		C3	3号窯焼成室	靨跡	—	(10.0)	3.9	3.0	有	
95	29-30	33-19	D1	3号窯燃焼室	靨跡	糸切り	(8.8)	5.1	2.5	有	
96	29-24	33-16	A2	3号窯燃焼室	靨跡	—	10.1	5.3	3.0	有	体部内側にミゾ
97	29-36		F1	3号窯燃焼室	靨跡	糸切り	9.6	4.9	2.7	有	体部内側にミゾ、口唇部にミゾ
98	29-25		A2	3号窯焼成室	靨跡	—	9.8	4.6	2.9	有	
99	29-22		A1	3号窯焼成室	靨跡	—	10.1	5.6	3.0	有	口唇部にミゾ
100	29-23	33-15	A1	3号窯焼成室	靨跡	糸切り	9.9	5.2	2.9	有	
101	29-39	33-22	F5	3号窯燃焼室	靨跡	板目	9.2	4.6	2.4	有	
102	29-34		E2	3号窯燃焼室	靨跡	糸切り	9.4	5.2	2.5	有	
103	29-27	33-18	B1	3号窯燃焼室	靨跡	—	9.0	4.3	2.7	有	
104	29-38		F3	3号窯燃焼室	靨跡	糸切り	9.6	4.9	2.4	有	接合
105			A1	3号窯燃焼室	靨跡	—	9.2	5.2	2.4	有	接合
106			F3	3号窯燃焼室	靨跡	板目	9.7	5.4	2.7	有	
107	29-28		B3	3号窯燃焼室	靨跡	板目	(9.2)	5.1	3.1	有	
108	29-31	33-20	D3	3号窯燃焼室	靨跡	糸切り	(8.8)	5.4	2.5	有	
109	29-33		E1	3号窯燃焼室	靨跡	—	(8.8)	(5.0)	2.6	有	
110			G3	3号窯燃焼室	—	糸切り	(9.5)	(5.6)	2.2	無	口唇部にミゾ
111	29-40	33-23	B4	3号窯燃焼室	—	糸切り	(10.2)	4.9	2.8	無	113との重ね
112			C3	3号窯燃焼室	—	糸切り	(10.4)	4.9	2.6	無	112との重ね、重ね焼最上部
113	29-32		D3	3号窯燃焼室	靨跡	—	(8.4)	(5.2)	2.6	有	重ね焼最上部
114			D1	3号窯燃焼室	靨跡	—	(9.0)	(5.1)	2.2	有	
115			B5	3号窯焼成室	靨跡	—	(9.0)	4.3	2.7	有	重ね焼最上部
116			B5	3号窯焼成室	靨跡	—	10.0	4.4	2.9	有	重ね焼最上部
117			B5	3号窯窯内	靨跡	糸切り	9.0	4.5	2.9	有	重ね焼最上部
118			F2	3号窯燃焼室	—	糸切り	(9.2)	4.3	2.2	無	重ね焼最上部
119			G2	3号窯燃焼室	砂跡	ナデ	(9.4)	(5.0)	2.7	有	
120			C1	3号窯焼成室	靨跡	—	(9.6)	4.3	2.7	有	
121			C2	3号窯燃焼室	靨跡	—	(9.2)	(6.0)	2.4	有	
122			G3	3号窯燃焼室	靨跡	糸切り	(10.2)	5.3	2.7	有	
123			B2	3号窯燃焼室	靨跡	糸切り	9.8	4.3	2.8	有	重ね焼最上部
124			F2	3号窯燃焼室	靨跡	—	(9.6)	4.7	2.9	有	
125			A3	3号窯焼成室	靨跡	—	10.0	4.5	3.1	有	重ね焼最上部
126			C2	3号窯焼成室	靨跡	—	10.1	4.5	2.8	有	重ね焼最上部
127			A5	3号窯燃焼室	靨跡	—	(10.4)	4.7	3.0	有	
128			C5	3号窯燃焼室	靨跡	—	(10.1)	4.6	2.8	有	重ね焼最上部
129			D2	3号窯燃焼室	靨跡	—	(8.8)	(5.0)	2.4	有	
130			A5	3号窯燃焼室	靨跡	—	(9.0)	3.8	2.4	有	重ね焼最上部
131			B5	3号窯焼成室	砂跡	—	(9.6)	4.6	3.1	有	重ね焼最上部
132			A4	3号窯焼成室	—	糸切り	(9.2)	5.4	2.5	有	重ね焼最上部、口唇部にミゾ
133			E3	3号窯焼成室	—	糸切り	(9.2)	5.0	2.4	無	重ね焼最上部

第45表 神明古窯出土遺物観察表 皿(3)

法量の数値で () は推定値、[] は残存値、高台有りは高台径

遺物番号	挿図番号	図版番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台有無	備考
							口径	底径	器高		
134	28-30	31-26	C3	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	9.6	5.8	2.7	有	
135	28-27		C1	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	9.2	4.9	2.9	有	
136	28-31		C3	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	9.4	5.2	2.6	有	
137			C3	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	9.2	5.4	2.5	有	
138	28-32		C3	2号窯東側ビット	靱跡	—	9.9	5.1	2.8	有	
139	28-26	31-24	B1	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(8.7)	5.3	3.0	有	
140			C3	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	10.4	5.2	2.6	有	
141			C3	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	9.8	5.2	3.0	有	
142	28-33	31-27	C3	2号窯前庭部東側ビット	靱跡	糸切り	10.0	5.6	2.9	有	
143			C1	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(10.3)	5.8	2.7	有	
144	28-34	31-28	C5	2号窯前庭部東側ビット	靱跡	—	9.4	5.4	2.8	有	
145	28-25	31-23	A1	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(9.4)	5.3	2.9	有	
146	28-29	31-25	C2	2号窯前庭部東側ビット	靱跡	糸切り	(9.4)	5.0	2.9	有	
147			C3	2号窯前庭部東側ビット	靱跡	糸切り	9.3	5.3	2.5	有	
148	28-28		C1	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	9.3	5.8	2.6	有	
149			C1	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(9.8)	5.2	3.0	有	接合
150			C3	2号窯東側ビット	靱跡	—	9.1	5.1	2.6	有	
151			C1	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	9.2	5.3	2.7	有	
152			C3	2号窯東側ビット	—	糸切り	9.6	4.4	2.4	無	
153			C3	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	9.9	5.6	2.7	有	生焼け
154			C3	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	9.8	5.9	2.9	有	
155	28-37		D1	2号窯東側ビット	—	糸切り	9.2	4.6	2.2	無	重ね焼最上部
156			D1	2号窯東側ビット	—	糸切り・板目	9.0	4.8	2.4	無	重ね焼最上部
157			D3	2号窯東側ビット	—	糸切り	(8.6)	5.2	2.7	無	重ね焼最上部
158	28-39		D3	2号窯東側ビット	—	糸切り・板目	9.0	4.8	2.6	無	
159			C3	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	9.0	4.8	2.4	有	
160	28-38		D2	2号窯前庭部東側ビット	—	糸切り・板目	8.8	5.2	2.4	無	重ね焼最上部
161			D2	2号窯東側ビット	—	糸切り	(8.8)	4.6	2.2	無	
162	28-35	31-29	B3	2号窯前庭部東側ビット	—	糸切り・板目	9.0	4.9	2.7	無	
163			C1	2号窯東側ビット	—	糸切り	9.4	4.6	2.4	無	
164			C3	2号窯東側ビット	—	糸切り	8.8	4.5	2.4	無	
165			D2	2号窯東側ビット	—	糸切り・板目	8.9	4.8	2.3	無	重ね焼最上部
166	28-36	31-30	C1	2号窯東側ビット	—	糸切り	9.2	5.0	2.5	無	ほぼ完形、重ね焼最上部
167			C1	2号窯東側ビット	—	糸切り	(9.5)	(5.0)	2.6	無	
168			C2	2号窯前庭部東側ビット	—	糸切り	9.0	4.6	2.5	無	重ね焼最上部
169			C2	2号窯東側ビット	—	糸切り	8.8	5.3	2.3	無	接合、重ね焼最上部
170			B2	2号窯東側ビット	—	糸切り	9.0	5.1	2.3	無	重ね焼最上部
171			B2	2号窯東側ビット	—	糸切り	9.0	5.0	2.6	無	
172			C3	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	8.9	4.7	3.1	有	重ね焼最上部
173			B2	2号窯前庭部東側ビット	—	糸切り・板目	8.9	5.0	2.3	無	重ね焼最上部
174			B3	2号窯東側ビット	—	糸切り	8.8	4.6	2.5	無	接合、重ね焼最上部
175			B2	2号窯東側ビット	—	糸切り	(8.8)	5.0	2.4	無	重ね焼最上部
176			C1	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(9.4)	5.1	2.7	有	重ね焼最上部
177			B2	2号窯東側ビット	—	糸切り	(9.0)	(5.0)	2.2	無	
178			B2	2号窯東側ビット	—	糸切り	8.7	4.8	2.6	無	重ね焼最上部
179			C2	2号窯前庭部東側ビット	靱跡	糸切り	(9.2)	4.9	2.5	有	重ね焼最上部
180			B3	2号窯東側ビット	—	糸切り	9.0	4.7	2.4	無	重ね焼最上部
181			C3	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	9.4	5.0	2.6	有	重ね焼最上部
182			C2	2号窯東側ビット	靱跡	糸切り	(9.4)	4.6	2.4	有	重ね焼最上部

第46表 神明古窯出土遺物観察表 皿(4)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値、高台有りは高台程

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	備 考
							口径	底径	器高		
183	30-19	36-11	A1	3号窯西側ビット下層	靱跡	糸切り	9.4	5.0	2.7	有	重ね焼最上部
184	30-21	36-13	A4	3号窯西側ビット上層	靱跡	糸切り・板目	10.3	5.8	2.4	有	
185	30-20	36-12	A3	3号窯西側ビット	靱跡	糸切り	9.6	5.4	2.9	有	
186	30-22		B1	3号窯西側ビット上層	砂跡	糸切り	9.3	5.2	2.6	有	
187	30-27		D3	3号窯西側ビット	靱跡	糸切り	9.0	5.4	2.5	有	
188	30-26		D1	3号窯西側ビット上層	靱跡	糸切り	9.6	5.8	2.5	有	
189	30-23		B1	3号窯西側ビット上層	靱跡	—	9.2	4.9	2.7	有	
190			D1	3号窯西側ビット	靱跡	—	(9.5)	(6.0)	2.6	有	
191	30-28	36-15	E2	3号窯西側ビット	靱跡	板目	(9.7)	4.9	2.8	有	
192	30-29	36-16	E3	3号窯西側ビット上層	—	糸切り	(9.0)	4.9	2.6	有	
193	30-24	36-14	B2	3号窯西側ビット	靱跡	糸切り	8.8	5.0	2.6	有	
194	30-25		B4	3号窯西側ビット上層	靱跡	—	9.8	4.8	3.0	有	
195	30-30		G3	3号窯西側ビット	靱跡	糸切り	9.4	5.0	2.5	有	
196			C2	3号窯西側ビット上層	砂跡	糸切り	(10.0)	(6.8)	2.9	有	
197	30-34	36-18	D1	3号窯西側ビット	—	糸切り	8.7	5.4	2.3	無	
198			G2	3号窯西側ビット	—	糸切り	(10.0)	(5.2)	[2.3]	とれ	
199	30-32		A2	3号窯西側ビット上層	—	糸切り	(9.6)	5.0	2.3	無	
200	30-31		A1	3号窯西側ビット上層	—	糸切り	(10.0)	5.2	2.4	無	
201			A1	3号窯西側ビット上層	—	糸切り	(9.2)	4.5	2.2	無	
202	30-27	36-20	F4	3号窯西側ビット上層	—	糸切り	10.1	5.0	2.8	無	
203			A3	3号窯西側ビット上層	—	糸切り	9.9	5.3	2.7	無	
204	30-28	36-21	G3	3号窯西側ビット上層	—	糸切り・板目	10.0	4.8	2.3	無	
205	30-35	36-19	D3	3号窯西側ビット	—	糸切り	9.1	4.8	2.4	無	
206			D1	3号窯西側ビット上層	—	糸切り	8.1	5.0	2.3	無	
207			B4	3号窯西側ビット上層	—	糸切り	(10.0)	(4.8)	2.2	無	
208			C2	3号窯西側ビット上層	—	糸切り	(9.6)	4.4	2.4	無	
209	30-26		F1	3号窯西側ビット上層	—	糸切り	9.7	5.1	2.3	無	
210			G3	3号窯西側ビット	—	糸切り	9.4	5.1	2.2	無	
211	30-33	36-17	C2	3号窯西側ビット上層	—	糸切り	8.8	4.9	2.3	無	
212	30-39	36-22	G4	3号窯西側ビット上層	—	糸切り	9.4	5.6	1.9	無	
213			C2	3号窯西側ビット	襜跡	ナデ	(9.4)	5.4	2.6	有	
214			B3	3号窯西側ビット	—	糸切り	(9.8)	(5.2)	2.8	有	
215			D2	3号窯西側ビット上層	襜跡	—	8.6	4.2	2.3	有	
216			G5	3号窯西側ビット	襜跡	糸切り	(9.6)	(2.8)	2.9	有	
217			A5	3号窯西側ビット上層	靱跡	糸切り	(8.8)	5.0	3.0	有	
218			D1	3号窯西側ビット上層	靱跡	ナデ	(9.2)	4.2	2.6	有	
219			A5	3号窯西側ビット上層	靱跡	—	—	5.1	—	有	
220			D2	3号窯西側ビット上層	靱跡	—	(8.4)	(5.0)	2.7	有	
221			B1	3号窯西側ビット下層(灰色) —	糸切り	(9.2)	(5.0)	2.5	無		
222			C2	3号窯西側ビット上層	—	糸切り	(9.6)	(5.6)	2.3	無	
223			C5	3号窯西側ビット上層	—	糸切り	(9.8)	4.7	2.0	無	
224			D2	3号窯西側ビット上層	—	糸切り	(10.0)	5.7	2.4	無	
225			G2	3号窯西側ビット上層	—	糸切り	(9.8)	5.4	2.2	無	
226			C3	1号窯前庭部西側	—	—	8.7	—	—	無	
227	31-3	37-3	D3	1号窯焚口	靱跡	糸きり・板目	9.0	5.6	2.8	有	

第47表 神明古窯出土遺物観察表 皿(5)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値、高台有りは高台径

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	備 考
							口径	底径	器高		
228	31-20	38-18	D2	2号窯前庭部	靱跡	板目	9.1	5.2	2.8	有	
229	31-21	38-19	G2	2号窯前庭部西側	靱跡	板目	8.4	5.1	2.6	有	重ね焼最上部
230			C3	2号窯前庭部	—	糸切り	9.2	4.9	[2.5]	とれ	
231			D2	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	8.9	5.4	2.5	有	
232			C1	2号窯前庭部	—	糸切り	9.6	5.0	[2.3]	有	重ね焼最上部
233	31-14	38-14	C3	2号窯前庭部	—	—	9.5	4.7	[2.6]	有	ほぼ完形、重ね焼最上部
234	31-15		C3	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	9.7	5.2	2.5	有	接合
235	31-13	38-13	C1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(8.4)	(5.0)	2.8	有	
236	31-18	38-17	C5	2号窯前庭部	靱跡	—	(9.4)	5.2	2.5	有	
237			C3	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	8.9	5.2	2.8	有	
238	31-19		D1	2号窯前庭部	靱跡	—	10.0	5.7	2.4	有	
239	31-16	38-15	C3	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	9.7	5.6	2.8	有	
240			C3	2号窯前庭部	靱跡	—	9.0	4.9	2.8	有	
241			C3	2号窯前庭部	靱跡	—	9.3	4.5	2.8	有	
242			C1	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	10.4	5.5	3.0	有	
243	31-17	38-16	C3	2号窯前庭部	靱跡	—	10.2	5.3	3.0	有	ほぼ完形
244			C3	2号窯前庭部	—	糸切り	9.4	5.2	2.4	無	
245	31-22		B1	2号窯前庭部西側	—	糸切り	9.0	5.5	2.5	無	
246			C1	2号窯前庭部	—	—	9.2	4.2	2.3	無	
247			C3	2号窯前庭部	—	糸切り・板目	9.0	4.9	2.5	無	
248			C3	2号窯前庭部	—	糸切り	8.8	4.6	2.2	無	
249			C3	2号窯前庭部	—	糸切り	8.7	4.9	2.5	無	
250			C1	2号窯前庭部	—	糸切り	9.0	5.2	2.5	無	
251			C3	2号窯前庭部西側	靱跡	糸切り	(11.0)	(5.4)	2.7	有	重ね焼最上部
252			B2	2号窯前庭部	靱跡	板目	8.7	4.9	2.7	有	
253			C5	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	(9.2)	4.8	2.6	有	
254			C5	2号窯前庭部	靱跡	—	(9.4)	(5.0)	3.1	有	
255			C2	2号窯前庭部西側	靱跡	—	(9.2)	4.5	2.9	有	
256			C5	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	9.0	4.6	2.9	有	重ね焼最上部
257			C5	2号窯前庭部	—	糸切り	9.0	4.6	2.7	無	
258			C1	2号窯前庭部	靱砂跡	糸切り	(10.1)	4.9	2.6	有	
259			G5	2号窯前庭部西側	砂跡	糸切り	(9.6)	5.0	2.5	有	重ね焼最上部
260			D3	2号窯前庭部	靱跡	—	(8.8)	4.1	2.6	有	重ね焼最上部
261			C3	2号窯前庭部	靱跡	糸切り	9.3	4.9	2.6	有	
262			B2	2号窯前庭部	—	糸切り	(8.8)	(5.2)	2.4	無	重ね焼最上部
263			B2	2号窯前庭部	—	糸切り	(8.4)	(5.0)	2.3	無	
264			D3	2号窯前庭部	—	糸切り	(9.0)	4.9	2.4	無	重ね焼最上部
265			G1	2号窯前庭部	—	糸切り・板目	(9.6)	(5.6)	2.7	無	
266			C2	2号窯前庭部	—	—	8.9	4.2	2.5	無	
267			D2	2号窯前庭部	—	糸切り	(8.2)	(4.0)	2.4	無	
268			D1	2号窯前庭部	—	糸切り・板目	9.2	4.5	2.6	無	重ね焼最上部
269			D2	2号窯前庭部	—	糸切り	8.9	4.9	2.5	無	接合

第48表 神明古窯出土遺物観察表 皿(6)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値、高台有りは高台径

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量 (cm)			高台 有無	備 考
							口径	底径	器高		
270	31-34	39-27	B3	3号窯前庭部西側下層	靱痕	—	9.8	5.4	3.0	有	
271			D1	3号窯前庭部上層灰層	砂跡	—	(9.6)	(5.5)	2.6	有	
272	31-35	39-28	C1	3号窯前庭部東側上層	靱痕	糸切り	8.1	4.1	2.3	有	
273	31-36	39-29	C1	3号窯前庭部東側上層	靱痕	糸切り	8.5	4.2	2.4	有	
274			E1	3号窯前庭部上層灰層	靱痕	糸切り	(9.5)	(5.3)	2.4	有	
275	31-38	39-30	C3	3号窯前庭部下層	靱痕	—	10.2	5.0	3.2	有	
276			C1	3号窯前庭部東側上層	靱痕	—	(9.0)	(5.9)	2.7	有	
277			E3	3号窯前庭部上層灰層	靱痕	糸切り	8.4	5.3	2.5	有	
278			A3	3号窯前庭部上層灰層	靱痕	板目	9.0	5.2	2.6	有	
279			E1	3号窯前庭部上層灰層	靱痕	—	(9.7)	(5.2)	2.7	有	
280	31-33	39-26	A5	3号窯前庭部西側下層	靱痕	糸切り	10.1	5.3	3.3	有	
281	31-37		C2	3号窯前庭部東側上層	靱痕	—	9.7	4.9	3.0	有	重ね焼最上部
282	31-40	39-32	E1	3号窯前庭部上層灰層	—	—	9.5	5.1	2.7	有	
283	31-39	39-31	C3	3号窯前庭部西側下層	靱痕	糸切り	10.7	4.9	3.2	有	ほぼ完形
284			G4	3号窯前庭部上層灰層	—	糸切り	9.5	5.3	2.5	無	
285			F3	3号窯前庭部上層灰層	—	糸切り・板目	10.9	5.6	2.8	無	
286	31-41	39-33	G5	3号窯前庭部上層灰層	—	糸切り	9.4	4.4	2.7	無	重ね焼最上部
287	31-32		A3	3号窯前庭部上層灰層	—	糸切り	9.7	4.9	2.6	無	
288			E2	3号窯前庭部上層灰層	—	糸切り	(9.2)	(5.2)	2.5	無	
289			C3	3号窯前庭部上層灰層	—	糸切り	(9.2)	(4.9)	2.0	無	
290			B5	3号窯前庭部東側上層	靱痕	—	9.7	4.5	2.8	有	重ね焼最上部
291			G2	3号窯前庭部上層灰層	砂跡	糸切り	(9.6)	5.1	2.7	有	重ね焼最上部、口唇部ミソ
292			G3	3号窯前庭部東側上層	靱痕	—	9.3	4.3	2.7	有	重ね焼最上部
293			B2	3号窯前庭部東側上層	靱痕	—	10.5	4.1	2.8	有	
294			E1	3号窯前庭部上層灰層	靱痕	—	9.9	4.6	2.3	有	重ね焼最上部
295			C5	3号窯前庭部上層灰層	靱痕	—	(9.6)	4.4	2.7	有	
296			G5	3号窯前庭部上層灰層	靱痕	ナデ	9.2	4.9	2.4	有	重ね焼最上部、接合
297			A5	3号窯前庭部上層灰層	靱痕	—	(9.6)	(5.0)	3.1	有	
298			D2	3号窯前庭部上層灰層	靱痕	—	(9.2)	(5.0)	2.2	有	
299			F2	3号窯前庭部上層灰層	靱痕	—	(9.2)	(5.0)	2.7	有	
300			G1	3号窯前庭部上層灰層	靱痕	ナデ	(9.8)	(5.0)	2.5	有	
301			C3	3号窯前庭部上層灰層	—	糸切り	(9.8)	(5.2)	2.6	無	重ね焼最上部
302			C5	3号窯前庭部東側上層	靱痕	—	(10.0)	(5.0)	3.1	有	
303			F3	3号窯前庭部上層灰層	—	糸切り	(10.2)	(5.4)	3.1	無	重ね焼最上部
304			C5	3号窯前庭部上層灰層	—	糸切り・板目	9.6	5.5	2.4	無	重ね焼最上部
305			F3	3号窯前庭部上層灰層	—	糸切り・板目	9.3	5.8	2.7	無	重ね焼最上部
306			F5	3号窯前庭部上層灰層	—	糸切り	(10.0)	(5.4)	2.4	無	重ね焼最上部
307			D2	3号窯前庭部上層灰層	—	—	(9.0)	(5.0)	[2.2]	とれ	
308			G4	3号窯前庭部上層灰層	—	糸切り	(9.0)	(5.0)	2.4	無	
309			D1	3号窯前庭部上層灰層	—	糸切り	(9.2)	(5.4)	2.2	無	
310			C3	3号窯前庭部上層灰層	—	糸切り	(9.8)	(5.0)	[2.4]	無	重ね焼最上部、歪み

第49表 神明古窯出土遺物観察表 皿(7)

法量の数値で () は推定値、[] は残存値、高台有りは高台径

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量 (cm)			高台 有無	備 考
							口径	底径	器高		
311	34-101	47-93	C5	前庭部ベルト E 区	靱跡	—	(10.2)	(5.6)	2.6	有	内側に靱殻付着
312	34-73		B3	前庭部ベルト J 区	靱跡	板目	(8.0)	(5.0)	2.6	有	
313	34-90	47-83	C3	前庭部ベルト G 区	靱跡	—	9.8	5.5	2.9	有	重ね焼最上部
314	34-82	46-75	C2	前庭部ベルト G 区	靱跡	糸切り	(10.0)	5.2	2.8	有	
315	34-77	46-70	C1	前庭部ベルト G 区	靱跡	糸切り	9.8	5.6	3.1	有	
316	34-83	46-76	C2	前庭部ベルト H 区	靱跡	—	9.2	4.7	2.6	有	
317	34-78	46-71	C1	前庭部ベルト K 区	靱跡	—	(11.0)	5.7	3.1	有	
318	34-74	46-67	B3	前庭部ベルト I 区	—	糸切り	(8.4)	4.5	2.9	有	
319	34-91	47-84	C3	前庭部ベルト I 区	靱跡	—	(8.5)	4.4	2.8	有	
320	34-92	47-85	C3	前庭部ベルト E 区	靱跡	—	8.8	4.4	2.9	有	
321	34-103	47-94	D3	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	8.6	4.3	2.9	有	
322	34-93	46-86	C3	前庭部ベルト M 区	靱跡	糸切り	9.8	5.3	3.2	有	
323	34-67	46-61	A1	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	9.6	4.9	2.6	有	重ね焼最上部
324	34-75	46-68	B3	前庭部ベルト H 区	靱跡	板目	8.4	4.7	2.8	有	重ね焼最上部
325			C3	前庭部ベルト J 区	靱跡	—	10.1	4.6	2.7	有	重ね焼最上部
326	34-84	46-77	C2	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	(10.2)	(5.4)	3.2	有	
327	34-85	46-78	C2	前庭部ベルト F 区	靱跡	糸切り	(9.8)	5.6	3.1	有	
328	34-86	47-79	C2	前庭部ベルト G 区	靱跡	糸切り	9.7	5.6	3.1	有	
329	34-69	46-63	A3	前庭部ベルト H 区	靱跡	—	9.4	5.0	2.8	有	ほぼ完形
330	34-76	46-69	B3	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	(8.8)	4.3	2.7	有	
331	34-94		C3	前庭部ベルト G 区	靱跡	糸切り	(9.2)	5.3	2.7	有	
332	34-95	47-87	C3	前庭部ベルト I 区	靱跡	—	(9.4)	4.2	2.8	有	
333	34-96	47-88	C3	前庭部ベルト I 区	—	—	(10.4)	5.3	3.4	有	
334	34-79	46-72	C1	前庭部ベルト D 区	靱跡	糸切り	(10.5)	(5.0)	2.8	有	
335	34-80	46-73	C1	前庭部ベルト D 区	靱跡	糸切り	9.8	5.6	2.6	有	
336	34-97	47-89	C3	前庭部ベルト J 区	靱跡	—	9.9	4.9	3.1	有	重ね焼最上部
337	34-70	46-64	B2	前庭部ベルト M 区	靱跡	—	(9.3)	4.5	2.6	有	口唇部にミゾ
338	34-98	47-90	C3	前庭部ベルト K 区	靱跡	糸切り	10.2	5.3	3.0	有	
339			B1	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	(8.2)	(5.0)	2.4	有	
340			C2	前庭部ベルト H 区	靱跡	糸切り	9.9	5.2	3.3	有	接合
341	34-99	47-91	C3	前庭部ベルト J 区	靱跡	—	8.0	3.8	2.5	有	重ね焼最上部
342	34-104		D3	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	(9.3)	(5.3)	2.5	有	
343	34-71	46-65	B2	前庭部ベルト J 区	靱跡	—	9.5	4.6	2.6	有	口唇部にミゾ
344	34-87	47-80	C2	前庭部ベルト G 区	靱跡	糸切り	9.5	5.2	3.0	有	底部に二重丸跡
345	34-72	46-66	B2	前庭部ベルト I 区	靱跡	—	9.2	4.7	2.7	有	
346	34-100	47-92	C3	前庭部ベルト M 区	靱跡	—	8.2	4.0	2.5	有	
347	34-81	46-74	C1	前庭部ベルト G 区	靱跡	糸切り	(10.2)	5.0	3.0	有	
348	34-68	46-62	A1	前庭部ベルト J 区	靱跡	糸切り	9.8	5.0	2.6	有	
349	34-88	47-81	C2	前庭部ベルト J 区	—	—	10.0	5.5	3.1	有	
350	34-102		C5	前庭部ベルト F 区	靱跡	糸切り	(10.0)	5.1	3.2	有	
351	34-105	47-95	E2	前庭部ベルト I 区	靱跡	糸切り	8.7	4.5	2.7	有	重ね焼最上部
352	34-89	47-82	C2	前庭部ベルト G 区	靱跡	糸切り	9.2	5.5	2.2	有	重ね焼最上部
353			C1	前庭部ベルト D 区	—	—	10.2	5.1	[3.0]	有	
354	34-120	48-109	E3	前庭部ベルト F 区上層	—	糸切り	(9.4)	(4.8)	2.3	無	
355	34-112	48-102	D1	前庭部ベルト F 区上層	—	糸切り	(9.8)	(5.6)	2.5	無	
356			D3	前庭部ベルト J 区	—	糸切り	9.9	5.8	2.7	無	
357	34-114	48-104	D2	前庭部ベルト F 区上層	—	糸切り	(10.4)	(5.6)	2.6	無	
358	34-115	48-105	D2	前庭部ベルト F 区上層	—	糸切り	9.7	5.5	2.2	無	
359	34-119	48-108	E1	前庭部ベルト F 区上層	—	糸切り	9.6	4.8	2.5	無	
360	34-107	48-97	C1	前庭部ベルト J 区	—	糸切り	(9.5)	(5.6)	2.3	無	
361	34-118	48-107	D3	前庭部ベルト J 区	—	糸切り	9.1	5.4	2.5	無	
362	34-108	48-98	C1	前庭部ベルト J 区	—	糸切り	9.9	5.6	2.8	無	
363	34-116	48-106	D2	前庭部ベルト J 区	—	糸切り	(9.2)	5.7	2.2	無	口唇部にミゾ

第50表 神明古窯出土遺物観察表 皿(8)

法量の数値で () は推定値、[] は残存値、高台有りは高台径

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量 (cm)			高台 有無	備 考
							口径	底径	器高		
364			C1	前庭部ベルトK区	—	糸切り	(10.6)	(6.0)	2.3	無	
365	34-111	48-101	C3	前庭部ベルトK区	—	糸切り	9.6	5.4	2.2	無	
366	34-109	48-99	C1	前庭部ベルトG区	—	糸切り・板目	9.3	4.7	2.2	無	
367	34-113	48-103	D1	前庭部ベルトJ区	—	糸切り	(9.6)	(5.6)	2.2	無	
368	34-121	48-110	F3	前庭部ベルトJ区	—	糸切り	(9.5)	5.4	2.6	無	
369	34-106	47-96	B3	前庭部ベルトI区	—	糸切り	8.1	3.9	2.2	無	
370	34-110	48-100	C1	前庭部ベルトG区	—	糸切り	9.4	5.3	2.1	無	重ね焼最上部
371	34-117		D2	前庭部ベルトK区	—	糸切り	(9.7)	(5.4)	2.5	無	
372			G5	前庭部ベルトH区	靱跡	ナデ	10.3	5.4	2.9	有	重ね焼最上部
373			F3	前庭部ベルトD区	靱跡	糸切り	(9.4)	(4.8)	3.0	有	
374			C2	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(10.2)	4.8	3.0	有	
375			C3	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	10.1	5.0	2.4	有	重ね焼最上部
376			B2	前庭部ベルトJ区	靱跡	—	(10.0)	(5.4)	3.2	有	
377			B5	前庭部ベルトJ区	靱跡	ナデ	10.0	4.3	3.2	有	重ね焼最上部
378			C2	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	10.8	5.3	3.1	有	
379			C3	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	9.6	5.2	2.7	有	重ね焼最上部
380			C5	前庭部ベルトO区	靱跡	糸切り	(8.8)	4.3	2.8	有	重ね焼最上部
381			C2	前庭部ベルトK区	砂跡	—	(9.8)	4.0	2.7	有	重ね焼最上部
382			B5	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(8.2)	4.5	3.0	有	
383			C5	前庭部ベルトM区	靱跡	糸切り	(9.8)	5.2	2.8	有	
384			C3	前庭部ベルトK区	—	糸切り	9.4	4.9	2.4	有	
385			C2	前庭部ベルトI区	—	—	(9.2)	(5.0)	2.5	有	重ね焼最上部
386			C3	前庭部ベルトH区	靱跡	糸切り	(9.6)	5.1	2.8	有	重ね焼最上部
387			G3	前庭部ベルトF区上層	靱跡	糸切り	9.6	4.9	2.7	有	
388			B5	前庭部ベルトJ区	靱跡	—	(9.6)	4.1	3.1	有	重ね焼最上部
389			C3	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(9.1)	4.4	2.8	有	重ね焼最上部、たれ
390			D5	前庭部ベルトJ区	靱跡	—	(9.4)	(5.0)	3.5	有	
391			B3	前庭部ベルトK区	靱跡	—	(9.8)	(5.0)	2.8	有	
392			D1	前庭部ベルトK区	靱跡	ナデ	(9.0)	5.0	2.6	有	
393			C2	前庭部ベルトG区	靱跡	糸切り	9.8	4.8	3.3	有	重ね焼最上部
394			D3	前庭部ベルトK区	靱跡	—	8.7	5.2	2.5	有	重ね焼最上部
395			G2	前庭部ベルトH区	靱跡	板目	(8.2)	(4.0)	2.4	有	
396			C3	前庭部ベルトF区上層	靱跡	—	(10.4)	(5.0)	3.2	有	
397			B3	前庭部ベルトI区	靱跡	板目	(9.2)	4.5	2.6	有	
398			D1	前庭部ベルトG区	靱跡	—	(9.6)	4.9	2.7	有	
399			A2	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	(10.6)	4.9	2.7	有	重ね焼最上部
400			C2	前庭部ベルトO区	靱跡	—	(9.6)	(5.0)	2.8	有	
401			C5	前庭部ベルトK区	靱跡	—	(10.4)	4.3	2.9	有	重ね焼最上部
402			B3	前庭部ベルトJ区	靱跡	—	(8.6)	4.5	2.6	有	重ね焼最上部
403			C2	前庭部ベルトF区	靱跡	糸切り	(10.2)	4.6	2.9	有	
404			E2	前庭部ベルトK区	靱跡	糸切り	9.2	5.0	2.5	有	重ね焼最上部
405			D3	前庭部ベルトK区	靱跡	—	(9.2)	5.0	2.4	有	
406			A3	前庭部ベルトI区	靱跡	—	9.9	4.1	2.8	有	重ね焼最上部
407			B5	前庭部ベルトO区	靱跡	糸切り	(10.4)	5.4	3.4	有	
408			A5	前庭部ベルトJ区	靱跡	—	(9.6)	4.2	3.0	有	重ね焼最上部
409			C5	前庭部ベルトO区	靱跡	糸切り	(9.7)	5.2	2.9	有	重ね焼最上部
410			C2	前庭部ベルトJ区	靱跡	—	(9.0)	4.3	2.8	有	重ね焼最上部
411			B3	前庭部ベルトI区	靱跡	板目	8.4	4.4	2.8	有	重ね焼最上部
412			C5	前庭部ベルトI区	靱跡	—	(8.8)	4.9	2.8	有	
413			B2	前庭部ベルトI区	靱跡	板目	(10.3)	5.0	3.4	有	
414			C5	前庭部ベルトJ区	靱跡	—	(8.8)	(4.0)	3.2	有	重ね焼最上部
415			G5	前庭部ベルトF区上層	砂跡	板目	10.1	5.4	2.3	有	
416			C5	前庭部ベルトJ区	砂跡	糸切り・板目	(9.8)	5.1	2.5	有	重ね焼最上部

第51表 神明古窯出土遺物観察表 Ⅲ(9)

法量の数値で () は推定値、[] は残存値、高台有りは高台径

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	備 考
							口径	底径	器高		
417			D1	前庭部ベルトK区	靱跡	—	(9.0)	(5.0)	2.0	有	
418			C3	前庭部ベルトI区	靱跡	—	(10.4)	4.4	3.4	有	
419			C1	前庭部ベルトE区	砂跡	糸切り	(9.4)	5.7	2.4	有	
420			C5	前庭部ベルトI区	靱跡	—	(8.8)	4.7	3.1	有	重ね焼最上部
421			B3	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	8.6	4.2	2.9	有	
422			C5	前庭部ベルトI区	—	板目	(8.8)	4.2	2.9	有	重ね焼最上部
423			C3	前庭部ベルトI区	靱跡	—	(8.6)	4.1	2.4	有	
424			B3	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	8.9	4.5	2.6	有	
425			B5	前庭部ベルトI区	靱跡	—	(8.0)	3.8	2.8	有	重ね焼最上部
426			C3	前庭部ベルトJ区	靱跡	—	(9.4)	4.9	3.5	有	
427			C5	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	(8.2)	4.3	2.6	有	
428			C3	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(8.4)	4.4	2.6	有	重ね焼最上部
429			B5	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	8.7	4.6	2.5	有	重ね焼最上部、ほぼ完形
430			C2	前庭部ベルトI区	靱跡	—	(10.5)	(5.0)	3.2	有	
431			B2	前庭部ベルトM区	靱跡	糸切り	(10.0)	4.8	3.1	有	
432			C3	前庭部ベルトF区	靱跡	糸切り	(8.8)	5.1	2.1	有	
433			B5	前庭部ベルトI区	靱跡	糸切り	8.7	3.9	2.9	有	重ね焼最上部
434			B3	前庭部ベルトI区	靱跡	—	(8.2)	(4.2)	2.6	有	
435			B3	前庭部ベルトI区	靱跡	—	(8.0)	4.4	2.2	有	重ね焼最上部
436			C5	前庭部ベルトF区	—	糸切り	(9.6)	4.5	2.7	有	重ね焼最上部
437			B2	前庭部ベルトO区	靱跡	糸切り	(10.2)	5.3	3.2	有	
438			B3	前庭部ベルトJ区	靱跡	糸切り	(7.8)	4.1	2.8	有	重ね焼最上部
439			C2	前庭部ベルトF区	靱跡	糸切り	(10.0)	(5.4)	2.9	有	重ね焼最上部
440			D3	前庭部ベルトG区	—	糸切り	(9.1)	(5.8)	2.5	無	
441			C3	前庭部ベルトH区	—	糸切り	(9.7)	4.6	[2.7]	とれ	重ね焼最上部
442			C5	前庭部ベルトG区	—	糸切り	(9.6)	(5.0)	2.5	無	
443			D2	前庭部ベルトK区	—	糸切り	(9.0)	(5.0)	2.3	無	
444			B2	前庭部ベルトF区上層	靱跡	糸切り	(10.0)	4.8	3.1	無	
445			G3	前庭部ベルトK区	—	糸切り	(9.5)	5.5	2.7	無	
446			D1	前庭部ベルトF区上層	—	糸切り	(9.8)	5.6	2.5	無	
447			C5	前庭部ベルトH区	—	糸切り	8.5	4.4	2.3	無	
448			D1	前庭部ベルトK区	—	糸切り	9.2	5.0	2.2	無	重ね焼最上部
449			G2	前庭部ベルトF区上層	—	糸切り	9.6	5.7	2.4	無	接合
450			D3	前庭部ベルトK区	—	糸切り	(9.2)	(5.5)	2.2	無	
451			C2	前庭部ベルトJ区	—	糸切り	9.4	5.2	2.5	無	重ね焼最上部
452			C2	前庭部ベルトD区	—	糸切り	(9.0)	4.8	2.4	無	重ね焼最上部
453			B5	前庭部ベルトI区	—	糸切り・板目	(8.6)	3.8	2.3	無	
454			D1	前庭部ベルトI区	—	糸切り	9.0	5.0	2.4	無	重ね焼最上部
455			G3	前庭部ベルトK区	—	糸切り・板目	(9.8)	5.4	2.3	無	重ね焼最上部
456			D3	前庭部ベルトG区	—	糸切り	8.9	5.1	2.2	無	重ね焼最上部

第52表 神明古窯出土遺物観察表 皿(10)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値、高台有りは高台径

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	出土位置	痕跡	底部外面	法量(cm)			高台 有無	備 考
							口径	底径	器高		
457	36-33	53-29	D1	3号窯前庭部付近の 灰原上層	靱跡	—	9.3	5.4	2.6	有	接合
458	36-34	53-30	D2	灰原中央部西側	靱跡	—	8.5	5.1	2.2	有	
459	36-28		C2	灰原東側末端	靱跡	糸切り	(9.6)	5.3	2.9	有	
460	36-40	53-35	F3	灰原北側	靱跡	糸切り	(10.4)	5.5	2.8	有	
461			C3	灰原中央部西側	靱跡	糸切り	9.0	5.3	2.5	有	重ね焼最上部
462	36-25	53-24	C1	灰原中央部	靱跡	糸切り	8.9	5.4	2.7	有	
463	36-30	53-27	C3	2号窯灰原の上層上 部	靱跡	—	8.9	5.0	2.5	有	重ね焼最上部
464	36-26	53-25	C1	2・3号窯の前庭部 付近の灰原上層	砂跡	糸切り	9.4	5.9	2.5	有	生焼け
465	36-36	53-32	E1	3号窯前庭部付近の 灰原上層	靱跡	糸切り	(9.4)	5.5	2.3	有	重ね焼最上部
466	36-29	53-26	C2	灰原東側末端	靱跡	糸切り	10.0	4.9	2.5	有	口唇部にミゾ
467	36-22	53-21	A3	灰原上層	靱跡	糸切り	10.3	5.5	2.9	有	
468			C2	灰原東側末端	靱跡	—	(9.6)	4.9	2.9	有	
469	36-31	53-28	C3	灰原北側末端	靱跡	—	8.1	4.0	2.4	有	
470	36-37	53-33	E1	2・3号窯の前庭部 付近の灰原上層	—	糸切り	9.3	4.7	2.7	有	重ね焼最上部
471			C1	灰原東側	靱跡	糸切り	(10.2)	5.1	2.9	有	
472			F1	灰原西側	靱跡	糸切り	(10.5)	(5.8)	2.9	有	
473	36-38	53-34	F1	2・3号窯の前庭部 付近の灰原上層	靱跡	糸切り	9.7	5.6	2.4	有	
474	36-27		C1	灰原東側	靱跡	糸切り	9.8	5.3	3.2	有	接合
475	36-24	53-23	B5	灰原中央部	砂跡	糸切り	(9.2)	(5.7)	3.0	有	
476	36-35	53-31	D3	3号窯前庭部付近の 灰原上層	靱跡	—	(9.0)	5.9	2.6	有	底部に靱殻付着
477	36-39		F2	灰原東側上層	靱跡	糸切り	(9.4)	5.4	2.8	有	
478			C3	灰原北西側	—	—	(9.2)	(5.2)	2.6	有	
479			D3	3号窯前庭部付近の 灰原上層	靱跡	—	(8.4)	(4.7)	2.6	有	
480	36-32		C3	灰原北東側	靱跡	板目	(8.4)	4.3	2.5	有	
481	36-23	53-22	B1	灰原北東側	靱跡	糸切り	(8.2)	4.4	2.4	有	重ね焼最上部
482			G1	灰原東側末端	—	糸切り	(9.8)	(5.2)	2.2	無	
483	36-46	53-38	G3	灰原中央部	—	糸切り	9.0	4.8	2.2	無	
484	36-45		G1	灰原北西側	—	糸切り	(8.4)	4.0	2.1	無	
485			D1	2・3号窯の前庭部 付近の灰層上層	—	糸切り	9.3	4.9	2.4	無	重ね焼最上部
486	36-42		D1	3号窯前庭部付近の 灰原上層	—	糸切り	9.4	5.2	2.5	無	
487	36-44	53-37	E3	2・3号窯の前庭部 付近の灰層上層	—	糸切り	(9.6)	5.4	2.5	無	
488	36-43		D2	3号窯直下の灰原西 側中より上層	—	糸切り	9.0	5.4	2.6	無	
489	36-41	53-36	C5	灰原西側	—	糸切り	8.3	4.5	2.2	無	
490			C2	2・3号窯の前庭部 付近の灰層上層	—	糸切り	8.6	4.9	2.2	無	
491			G3	灰原北西側	靱跡	糸切り	(10.2)	4.9	2.7	有	重ね焼最上部
492			B5	2・3号窯の前庭部 付近の灰層上層	靱跡	板目	9.2	5.0	2.7	有	重ね焼最上部
493			G5	2・3号窯の前庭部 付近の灰層上層	靱跡	ナデ	(9.0)	4.9	2.4	有	
494			D2	2号窯前庭部付近の 灰層上層	靱跡	ナデ	(8.8)	4.5	2.7	有	重ね焼最上部、接合
495			B5	灰原北東側	靱跡	糸切り	(10.0)	(6.0)	2.8	有	重ね焼最上部
496			C5	2号窯灰原上層	—	糸切り	(10.2)	(5.6)	(2.5)	有	歪み
497			B3	2号窯灰原上層	—	糸切り	(8.8)	4.7	2.5	無	
498	39-1		G3	2号窯分焰柱内(補 修面)	—	糸切り	(8.8)	(5.0)	2.3	無	

第53表 神明古窯出土遺物観察表 皿(11)

法量の数値で()は推定値、[]は残存値、高台有りは高台径

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	器形 分類	口縁端 部器形	主要出土地点	胎土 資質	釉	破片 (コ)	口 径	頸基部径
1	45-19	64-24		a2	3号窯	普通	有	2	(14.0)	(7.6)
2	44-15	64-27		a1	2号窯	普通	無	1	(16.0)	—
3				d	灰原	普通	有	1	(16.4)	—
4	44-16	64-26		a1	2号窯	普通	有	1	(18.0)	(11.8)
5	44-17	64-25		a1	灰原	良	有	4	15.4	(10.2)
6	44-18	63-18		a1	3号窯	普通	有	4	16.1	10.2
7	45-20	63-19		a2	3号窯	普通	有	4	15.8	9.8
8	41-1	59-2	A	a1	3号窯	良	無	5	17.3	11.4
9	42-5	60-6	C	a1	灰原	普通	有	5	15.5	9.8
10	41-3	59-4	B	b	3号窯	普通	有	9	20.5	8.2
11	43-9	60-9	D	a2	3号窯	普通	有	8	(19.0)	(10.2)
12	42-6	60-7	C	a2	3号窯	普通	有	9	(16.8)	(11.5)
13	43-10	61-10	D	a2	3号窯	普通	有	14	17.2	7.8
14	43-11	61-11	D	a2	3号窯	普通	有	7	16.8	9.8
15	42-7	60-8	C	a1	3号窯	普通	有	6	16.8	9.2
16	45-23	63-20		d	灰原	良	有	3	14.1	8.2
17	44-14	66-35			灰原	良	無	4	—	—
18	41-2	59-3	A	a1	前庭部ベルト	良	有	13	(16.6)	9.8
19	42-8	58-1	C	a1	3号窯	良	有	1	15.1	10.0
20	41-4	59-5	B	b	3号窯	普通	有	10	20.2	9.4
21	43-12	61-12	E1	a2	3号窯	普通	有	3	16.6	9.6
22	45-21	64-28		b	灰原	普通	有	1	(17.8)	—
23	45-24			d	3号窯	粗	有	4	(19.6)	10.5
24				a1	灰原	普通	有	2	(16.6)	8.5
25		62-14	C	a1	3号窯	普通	有	1	16.1	9.2

第54表 神明古窯出土遺物観察表 広口長頸瓶(1)

法量(cm)				残存率(%)				備 考
胴部最大径	底 径	器 高	口頸部高	口 縁	頸 部	胴 部	底 部	
—	—	—	5.7	25.0	—	—	—	接合
—	—	—	—	20.0	—	—	—	生焼け
—	—	—	—	10.0	—	—	—	
—	—	—	8.4	20.0	20.0	—	—	
—	—	—	8.1	50.0	33.3	—	—	接合、同一地点出土
—	—	—	5.7	100	100	—	—	接合
15.3	—	—	6.6	100	100	—	—	口縁に壁の破片付着、接合
(17.4)	—	—	8.0	100	100	33.3	—	接合
16.5	9.4	[25.6]	8.3	100	100	66.7	66.7	接合
16.6	8.8	26.7	8.3	75.0	100	100	100	ほぼ完形、胴部に壁が付着、接合
(15.9)	10.0	24.2	6.4	33.3	33.3	100	100	口縁に壁の破片付着、接合
(18.8)	(9.6)	25.1	6.8	33.3	33.3	50.0	66.7	接合
15.8	9.0	25.0	6.7	80.0	100	66.0	100	接合
16.4	9.8	22.7	6.2	100	100	90.0	100	完形品、胴・口縁に壁の破片付着、同一地点出土、接合
16.2	—	—	6.5	33.3	50.0	33.3	—	接合
—	—	—	5.4	80.0	100	—	—	同一地点出土、接合
(18.0)	9.0	—	—	—	—	33.3	100	接合
17.4	9.0	26.5	8.4	66.7	50.0	50.0	100	底抜け、緑系の釉が掛かる、接合
16.8	8.8	27.5	7.9	100	100	100	100	完形品
(17.8)	9.0	29.3	8.6	80.0	100	50.0	66.7	口縁に壁の破片付着、接合、
14.2	9.6	20.6	5.3	80.0	100	100	100	接合
—	—	—	—	66.7	—	—	—	
—	—	—	9.1	20.0	80.0	—	—	接合
—	—	—	6.7	20.0	50.0	—	—	接合
15.8	9.5	25.2	7.2	80.0	100	100	100	ほぼ完形

法量の () は推定値、器高の [] は残存値で、底部が底抜けで口縁部まで残存しているもののみ

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	器形 分類	口縁端 部器形	主要出土地点	胎土 資質	釉	破片 (コ)	口 径	頸基部径
26		63-23		a1	灰原	良	有	2	15.4	10.2
27		62-15	E2	a2	前庭部ベルト	普通	有	21	(15.6)	9.3
28		62-16	C	a1	3号窯	普通	有	4	15.9	9.9
29	44-13	61-13	E2	a1	3号窯	普通	有	2	(17.8)	11.5
30		62-17	E1	a1	3号窯	普通	有	4	(16.8)	9.2
31		65-32			灰原	普通	有	15	—	9.2
32		66-37			前庭部ベルト	普通	有	8	—	—
33		66-38			灰原	良	有	2	—	—
34		66-34			3号窯	普通	有	7	—	—
35		65-33			3号窯	良	有	6	—	—
36		66-39			3号窯	良	無	6	—	—
37		63-21		a1	灰原	普通	有	7	14.8	9.0
38		63-22		a2	3号窯	普通	有	8	16.8	9.6
39		66-36			2号窯	普通	有	3	—	—
40		65-30			3号窯	普通	有	7	—	(9.2)
41		65-31	C	a1	3号窯	普通	有	1		
42	45-22	64-29		c	前庭部ベルト	普通	有	1	(16.0)	—
43					灰原	普通	有	2	—	—
44					灰原	良	有	1	—	—
45					前庭部ベルト	普通	有	3	—	—
46					灰原	普通	有	2	—	—
47					灰原	良	有	2	—	—
48					表採	良	無	1	—	—
49					灰原	普通	有	2	—	—
50					灰原	良	有	2	—	—

第55表 神明古窯出土遺物観察表 広口長頸瓶(2)

法量 (cm)				残存率 (%)				備 考
胴部最大径	底 径	器 高	口頸部高	口 縁	頸 部	胴 部	底 部	
—	—	—	8.7	100	100	—	—	同一地点出土、接合
15.2	7.8	22.4	5.0	50.0	100	80.0	100	口縁に壁の破片付着、同一地点出土、接合
16.4	9.4	25.2	6.8	100	80.0	100	100	ほぼ完形、口縁に壁の破片付着、底部に焼台付着、接合
16.9	8.7	24.0	6.4	66.7	80.0	100	100	口縁に壁の破片付着、底部に焼台付着、接合
14.8	9.3	20.6	4.3	100	100	100	100	ほぼ完形、口縁に壁の破片付着、同一地点出土、接合
17.0	8.9	—	—	—	20.0	80.0	100	肩に壁の破片付着、同一地点出土、接合
16.3	9.4	—	—	—	—	80.0	100	底抜け、接合
—	8.5	—	—	—	—	33.3	100	胴部に壁の破片付着、同一地点出土
15.6	9.0	[19.8]	—	—	—	66.7	100	接合
16.4	8.9	[8.8]	—	—	—	66.7	100	接合
(18.6)	9.1	—	—	—	—	33.3	80.0	口縁に壁の破片付着、接合
(15.8)	—	—	6.3	80.0	100	20.0	—	接合
(15.6)	—	—	5.0	80.0	100	20.0	—	口縁に壁の破片付着、接合
(15.8)	9.1	—	—	—	—	33.3	100	底部に焼台付着、接合
16.4	10.1	[18.0]	—	—	20.0	50.0	100	底部に焼台付着、接合
焼成時にハゼたため、すべて測定不可能				25.0	80.0	100	100	底部に焼台付着、胴部・肩に壁の破片付着
—	—	—	—	33.3	—	—	—	
—	9.8	—	—	—	—	10.0	100	接合
—	9.0	—	—	—	—	10.0	66.7	底部に焼台付着
—	9.2	—	—	—	—	20.0	100	底部に焼台付着、接合
—	(9.0)	—	—	—	—	30.0	66.7	接合
—	9.5	—	—	—	—	20.0	66.7	接合できないが同一個体
(15.4)	(10.0)	—	—	—	—	25.0	25.0	
—	(9.2)	—	—	—	—	20.0	20.0	接合、同一地点出土
—	(9.4)	—	—	—	—	15.0	—	接合

法量の () は推定値、器高の [] は残存値で、底部が底抜けで口縁部まで残存しているもののみ

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	器形 分類	口縁端 部器形	主要出土地点	胎土 資質	釉	破片 (コ)	口 径	頸基部径
51					表採	普通	有	1	—	—
52					2号窯分焰柱(補修面)	普通	有	1	—	—
53					灰原	普通	有	1	—	—
54					前庭部ベルト	普通	有	2	—	—
55					灰原	普通	有	1	—	—
56					灰原	普通	有	2	—	—
57					前庭部ベルト	普通	無	3	—	—
58					3号窯	良	無	1	—	—
59					灰原	良	有	1	—	—
60					灰原	普通	有	1	—	(9.2)
61				a1	前庭部ベルト	普通	有	3	(15.8)	(9.8)
62				a1	前庭部ベルト	普通	有	1	(17.2)	—
63				a1	前庭部ベルト	普通	有	1	(24.0)	—
64				a2	灰原	普通	有	1	(19.2)	—
65				d	灰原	良	有	1	(16.4)	—
66				a1	3号窯	普通	有	5	(19.8)	—
67				a1	灰原	普通	有	2	(15.8)	—
68				a1	2号窯	普通	有	2	(16.8)	—
69				d	2号窯	普通	有	1	(17.4)	—
70				a1	灰原	普通	有	2	(16.8)	—
71				a1	前庭部ベルトH区他	普通	有	4	(17.8)	—
72				a1	3号窯西側ピット他	普通	有	3	(17.8)	(8.4)
73				a1	1号窯直下灰原東側中寄上層	普通	有	1	(15.8)	—
74				a1	前庭部ベルトG区	普通	有	1	(15.2)	—
75				a1	前庭部ベルトJ区他	普通	有	3	(15.8)	—
76				a1	前庭部ベルトD区他	普通	有	2	(16.4)	—

第56表 神明古窯出土遺物観察表 広口長頸瓶(3)

法量(cm)				残存率(%)				備 考
胴部最大径	底 径	器 高	口頸部高	口 縁	頸 部	胴 部	底 部	
—	(9.0)	—	—	—	—	10.0	20.0	壁の破片付着
—	(9.0)	—	—	—	—	15.0	20.0	
—	(9.0)	—	—	—	—	20.0	20.0	接合
—	(9.2)	—	—	—	—	20.0	20.0	
—	(9.6)	—	—	—	—	20.0	40.0	接合
—	(8.8)	—	—	—	—	20.0	20.0	
—	(10.4)	—	—	—	—	10.0	40.0	部分接合
(15.8)	—	—	—	—	—	33.3	—	部分接合
(17.2)	—	—	—	—	—	20.0	—	
(15.8)	—	—	—	—	10.0	30.0	—	接合
—	—	—	6.9	40.0	20.0	—	—	
—	—	—	—	20.0	—	—	—	口縁に壁の破片付着
—	—	—	—	10.0	—	—	—	部分接合
—	—	—	—	15.0	—	—	—	
—	—	—	—	15.0	—	—	—	部分接合
—	—	—	—	70.0	—	—	—	
—	—	—	—	20.0	10.0	—	—	接合できないが同一個体
—	—	—	—	25.0	10.0	—	—	接合できないが同一個体、同一地点出土
—	—	—	—	20.0	—	—	—	接合しないが同一個体
—	—	—	—	60.0	—	—	—	
—	—	—	—	60.0	10.0	—	—	部分接合
—	—	—	6.9	33.3	30.0	—	—	接合
—	—	—	—	30.0	30.0	—	—	口縁に壁の破片付着
—	—	—	—	20.0	20.0	—	—	接合
—	—	—	—	30.0	20.0	—	—	
—	—	—	—	20.0	10.0	—	—	接合

法量の（ ）は推定値、器高の [] は残存値で、底部が底抜けで口縁部まで残存しているもののみ

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	器形 分類	主要出土地点	胎土 資質	釉	破片 (コ)	口 径	頸基部径
1	27-33	28-32		2号窯焼成室他	普通	有	2	—	—
2		28-33		2号窯前庭部東側ピット	普通	有	2	—	—

第57表 神明古窯出土遺物観察表 三筋壺

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	器形 分類	主要出土地点	胎土 資質	釉	破片 (コ)	口 径	頸基部径
1	37-54	55-46		灰原東側上層他	普通	無	4	—	—

第58表 神明古窯出土遺物観察表 壺

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	器形 分類	主要出土地点	胎土 資質	釉	破片	口 径	頸基部径
1	29-41	34-24		3号窯燃焼室		無	4	(23.2)	—

第59表 神明古窯出土遺物観察表 土師質鍋

法量(cm)				残存率(%)				備 考
胴部最大径	底 径	器 高	口頸部高	口 縁	頸 部	胴 部	底 部	
(16.0)	—	—	—	25.0	—	—	—	上が2本、下は2本、接合 上が2本、下は2本で途中か ら3本となる。接合
(16.2)	—	—	—	30.0	—	—	—	

法量の（ ）は推定値、器高の [] は残存値をしめす

法量(cm)				残存率(%)				備 考
胴部最大径	底 径	器 高	口頸部高	口 縁	頸 部	胴 部	底 部	
—	(13.2)	—	—	—	—	25.0	75.0	底抜け、器形の肉厚みは立ち 上がりの部分で2.7cm、接合

器形値の（ ）は底部から頸部までの高さ、[] は残存値……底部が底抜けで口縁部まで残存しているもの

法量(cm)				残存率(%)				備 考
胴部最大径	底 径	器 高	口頸部高	口 縁	頸 部	胴 部	底 部	
—	—	[5.0]	—	40	—	—	—	接合

器形値の（ ）は底部から頸部までの高さ、[] は残存値……底部が底抜けで口縁部まで残存しているもの

遺物 番号	挿図 番号	図版 番号	分類	主要出土地点	痕跡	底部外面	釉	法量(cm)			注口 有無	高台 有無	備 考
								口径	高台径	器高			
1	27-31	27-30	A1	2号窯窯内	靱跡	ナデ	有	(30.0)	(15.8)	10.5	有	有	接合
2	27-32	27-31	A2	2号窯窯内	靱跡	ナデ	有	(28.5)	(14.3)	10.4	有	有	接合
3	30-40	36-23	A1	3号窯ピット	—	ナデ	無	(28.6)	(14.0)	[9.2]	—	とれ	接合
4	35-124	49-112	A1	前庭部ベルト	靱跡	ナデ	有	(28.7)	(13.7)	(10.3)	有	有	接合
5	35-128	—	A2	前庭部ベルト	—	ナデ	有	(30.0)	(14.5)	[11.0]	—	とれ	接合
6	35-126	49-114	A1	前庭部ベルト	靱跡	ナデ	有	31.1	13.7	10.6	有	有	接合
7	35-125	49-113	B3	前庭部ベルト	靱跡	ナデ	無	30.1	(13.3)	9.3	有	有	接合
8	35-131	50-118	B1	前庭部ベルト	—	ナデ	有	(32.6)	(12.6)	[11.4]	—	とれ	接合
9	35-129	50-116	A2	前庭部ベルト	—	ナデ	有	(27.6)	(12.8)	[9.5]	—	とれ	接合
10	37-48	54-40	A1	灰原	靱跡	ナデ	有	28.5	13.1	10.2	—	有	接合
11	37-49	55-45	A1	灰原	靱跡	ナデ	有	(28.0)	(14.1)	10.1	有	有	接合
12	—	50-119	A2	前庭部ベルト	—	—	有	28.9	[12.6]	(11.9)	有	とれ	接合
13	37-47	54-39	A1	灰原	靱跡	ナデ	有	(26.4)	(12.0)	9.7	有	有	接合
14	35-130	50-117	A2	前庭部ベルト	—	ナデ	有	30.9	(12.4)	[11.8]	—	とれ	接合、碗との重ね焼き
15	37-53	55-44	A3	灰原	—	ナデ	有	28.2	(12.6)	[9.4]	—	とれ	接合
16	37-50	54-41	A1	灰原	靱跡	ナデ	有	(30.2)	(13.0)	10.2	—	有	接合
17	37-51	54-42	A1	灰原	靱跡	ナデ	有	(28.4)	(13.9)	10.2	有	有	接合
18	37-52	55-43	A1	灰原	—	ナデ	有	(30.6)	(14.0)	[9.8]	—	とれ	接合
19	35-127	49-115	A1	前庭部ベルト	靱跡	ナデ	無	(31.8)	(13.0)	10.6	—	有	接合
20	40-1	57-1	A1	表採	—	—	有	(30.6)	(12.3)	(11.9)	—	有	接合

法量の数値の()は推定値、[]は残存値で、高台径で高台の無いものは底径をさす

第60表 神明古窯出土物観察表 鉢

第4節 出土炭化材の樹種同定

1. はじめに

古窯が発掘された半月の神明は、半月を南北に従断する前田川の、東西に広がる丘陵地帯の東側に位置している。この丘陵地は、現在拓かれて畑になっている部分が多い。江戸時代は一帯が藩有林として植林が行われていた記録は残されているが、それ以前の植生についての記録は残されていない。

今回発掘された古窯は、平安末期のものという位置づけから、出土した炭化材の分析により、当時の植生を解明するための手がかりになるのではないか、と考えてみた。幸い、神明とは距離的に近い位置に、創建が建久3年(1192)3月の七社宮(神明宮)があり、4700m²もの広さに社叢が残されている。この、ほとんど手つかずの社叢林も、当時の植生解明への糸口をつけてくれるのではないか、との期待を持った。



全景

社叢林内

写真1 七社神社社叢林と植生

高木・亜高木層 (針葉樹……クロマツ・スギなど)

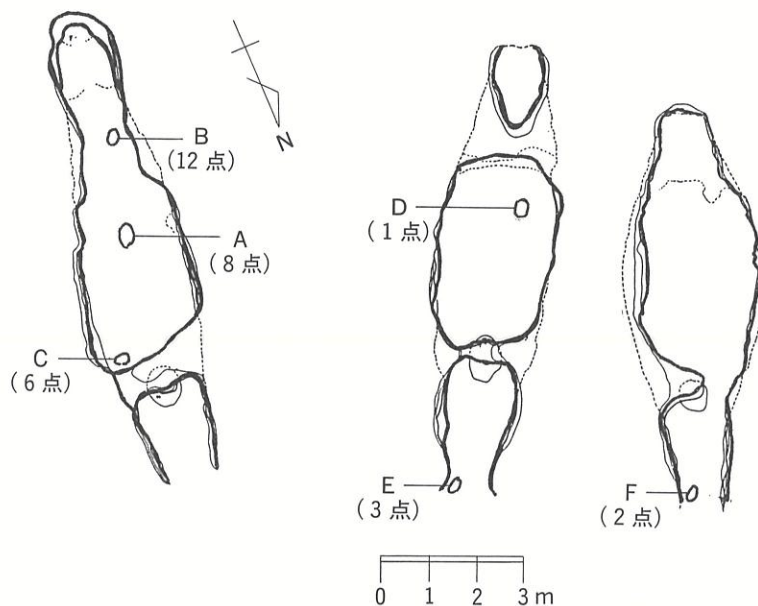
(落葉樹……コナラ・アベマキ・アカメガシワなど)

(照葉樹……アラカシ・シラカシ・クロガネモチ・モチノキ・クスノキ

ヒサカキ・ヤブツバキ・ハイノキ・タブなど)

低木層 クサギ・コナラ・ヌルデ・ヤマハゼ・イヌビワ・ムラサキシキブなど

2. 出土炭化材の分布と種類ならびに試料点数



第46図 古窯の配置と試料分布

試料採取場所	試料数	試料記号	種類
A：1号窯 焼成室中央部	8	A-1～A8	炭
B：1号窯 焼成室上部	12	B-1～B-12	炭
C：1号窯 分焰柱付近	6	C-1～C-6	炭
D：2号窯 焼成室上部	1	D-1	炭
E：2号窯 前庭部左側	3	E-1～E3	炭
F：3号窯 前庭部左側	2	F-1～F2	炭

第61表 試料採取場所・試料数・試料記号・種類

3. 試料同定の方法

採取した試料は、表面に付着している砂泥を流水で洗い流し、陰干しにしてよく乾燥させた。次に、走査電顕の試料台に木口・柁目・板目の各断面の試料を戴せ、金蒸着を施して写真撮影を行った。一方、炭化材そのものも光学顕微鏡・ルーペ等により精査し、同定への判断資料として重視した。

4. 出土炭材の樹種同定

I. 概要

今回の樹種同定の結果、出土炭材は次の2属の樹種に限られている。

- 1) 針葉樹：マツ属 *Pinus* spp
- 2) 広葉樹：コナラ属コナラ亜属 *Quercus* spp

それぞれの属の同定のための木材解剖学的特徴について記すと、

① マツ属

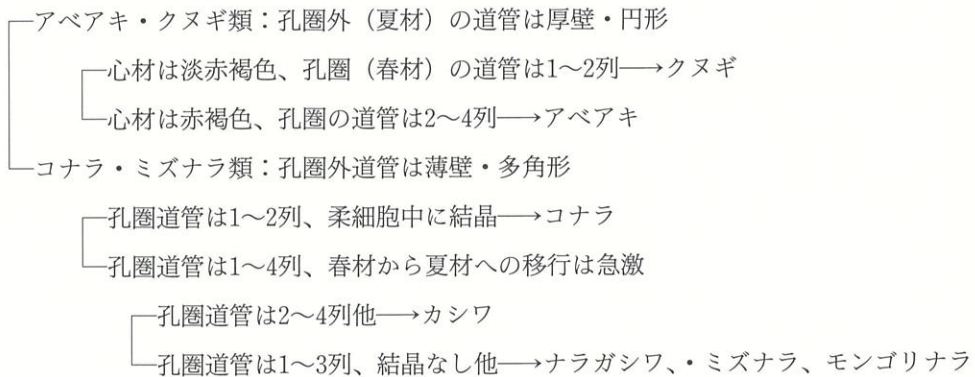
- ① 樹脂道が存在する。炭材の木口面で垂直樹脂道がルーペで認められる。
- ② 柾目面での顕微鏡観察により、放射組織に放射仮道管があり、分野壁孔は窓状である。
- ③ 高倍率での観察の結果、放射仮道管内壁に鋸歯状肥厚が認められ、二葉松グループの材であることが知られる。

② コナラ属コナラ亜属

- ① 広放射組織が、木口・柾目・板目の各面でルーペで認められる。
- ② コナラ属のうち、常緑のカシ類（アカガシ亜属）は、すべて放射孔材であるが今回の出土炭材はすべて環孔材であることがルーペで認められ、落葉ナラ類（コナラ亜属）のものである。

本来、木材樹種同定は属までとされ、その先の種の同定には、それぞれより細かい特徴の認められる場合に限られる。この様な細部の観察は、炭材ではその変形のため行い得ないので、樹種同定はこの範囲で止めるのが常識である。

あえて、コナラ亜属の細分化を試みると、コナラ亜属は材の性質から、クヌギ・アベアキ類と、コナラ・ミズナラ類に区分される。今回の炭材のかなりの部分がヌカメ材といわれる成長の遅い材で、孔圏部の道管が近接して出現し、散孔材の外観を示すため、区分は必ずしも明確ではない。



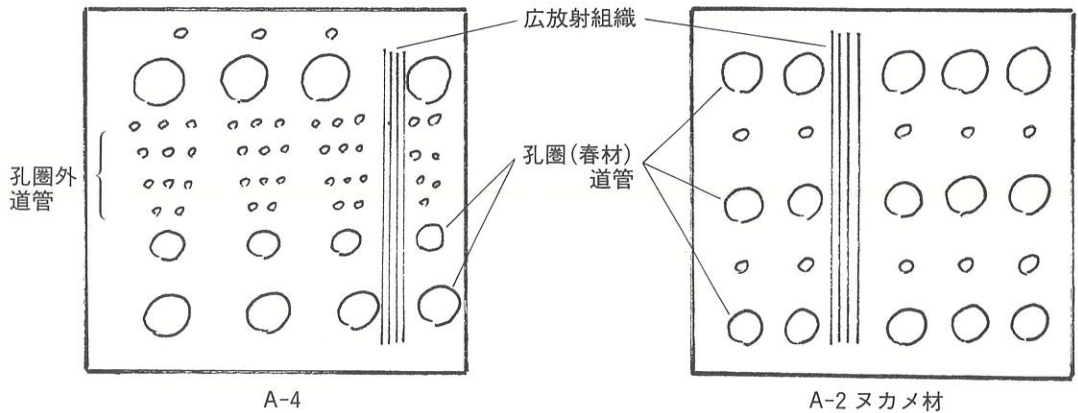
II. 同定結果

以上の特徴より、

1) マツ類は、二葉松のアカマツ *Pinus densiflora* か、クロマツ *Pinus thunbergii* であり、両者とも分布的には出現の可能性がある。

A-1 A-b B-9 D-1 F-1 F-2

2) 他はすべてコナラ属コナラ亜属である。



第47図 アベマキ・ヌカメ材木口模式図

但し、ヌカメ材が多く、また炭材では炭化による材の収縮変形が著しいため、コナラ属から先の種の同定はできないとするのが普通である。また、中部地方でのコナラ亜属の分布は、日本産コナラ亜属のすべてが出現する可能性はあるが、大府という比較的南部の低地という場所からして、コナラ・アベマキ・クヌギとしてよいのではないかとと思われる。但し、植生分布に関しては、もっと細かい文献調査を行う必要がある。

① ヌカメ材——コナラ・クヌギ・アベマキ

A-2 A-3 A-5 A-7 A-8 B-1 B-2 B-4 B-5 E-2

② 孔圏道管が単列に出て、孔圏外部（夏材）の火炎状紋様の幅も広くないため、クヌギあるいはコナラとしたもの

B-3 B-6 B-7 B-8 B-10 C-1 C-2 E-1 E-3

但し、孔圏外道管の形は変形のため必ずしも明確ではなく、又壁厚も定かではないため、決定的とはいえない。

その中でも、孔圏外道管が薄壁ではないかと思われ、コナラ色が強いと思われるものは次の通りである。

B-11 B-12 C-3 C-4 C-5

③ 孔圏道管は複列で、孔圏外道管は円形厚壁と思われるためアベマキとしたもの。

A-4 C-6

III. 終りに

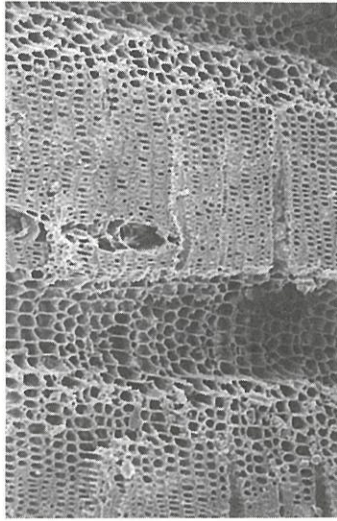
- 1) 炭材についての知見に乏しいために、不十分な同定結果に終わっている。今後のこの方面の研究成果にまちたい。
- 2) 当時の植生分布についての文献調査も今回は十分行えなかった。植生との対応調査も必要であろう。
- 3) かつて、名古屋市東部郊外の地区から恵那地区へかけての窯跡出土炭材の同定を行ったことがあり、同時に窯の年代も決定された。結果は樹種的には今回と同様、コナラ属コナラ亜属のものとマツ属のものとのであった。しかし、同一窯跡よりの両者の出現比率が年代により異なり、年代が新しくなるほどマツ属の出現が多くなる。同一比率の出現が見られるのに、名古屋市東部郊外と恵那では、約一世紀の差が見られた。即ち、始めコナラを使用していた窯も、優先的に生えるマツを使うようになってくるものと思われ、窯が恵那方面へと広がって行く速度と対応する植生との関係がみられておもしろい。そして、畿内の窯跡との対比においては、畿内の窯には一世紀早くマツへの変化が現れることも文献的に見られた。

この方面の研究を行うことにより、大府地区の人文地理的位置づけに、新しい知見が加わる
ことが期待できよう。

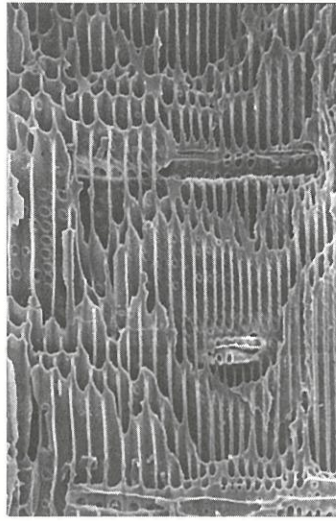
1995.10.1

試料番号	種名	試料番号	種名
A-1	マツ属	C-1	クヌギ or コナラ
A-2	ヌカメ材 (コナラ・クヌギ・アベマキ)	C-2	クヌギ or コナラ
A-3	ヌカメ材 (コナラ・クヌギ・アベマキ)	C-3	コナラ
A-4	アベマキ	C-4	コナラ
A-5	ヌカメ材 (コナラ・クヌギ・アベマキ)	C-5	コナラ
A-6	マツ属	C-6	アベマキ
A-7	ヌカメ材 (コナラ・クヌギ・アベマキ)	D-1	マツ属
A-8	ヌカメ材 (コナラ・クヌギ・アベマキ)	E-1	クヌギ or コナラ
B-1	ヌカメ材 (コナラ・クヌギ・アベマキ)	E-2	ヌカメ材 (コナラ・クヌギ・アベマキ)
B-2	ヌカメ材 (コナラ・クヌギ・アベマキ)	E-3	クヌギ or コナラ
B-3	クヌギ or コナラ	F-1	マツ属
B-4	ヌカメ材 (コナラ・クヌギ・アベマキ)	F-2	マツ属
B-5	ヌカメ材 (コナラ・クヌギ・アベマキ)		
B-6	クヌギ or コナラ		
B-7	クヌギ or コナラ		
B-8	クヌギ or コナラ		
B-9	マツ属		
B-10	クヌギ or コナラ		
B-11	コナラ		
B-12	コナラ		
			出土炭化材の樹種比率
			マツ属 : コナラ属コナラ亜属
			6 : 26
			マツ属 18.75%
			コナラ属コナラ亜属 81.25%

第62表 出土炭化材樹種同定結果一覧表



木口×75

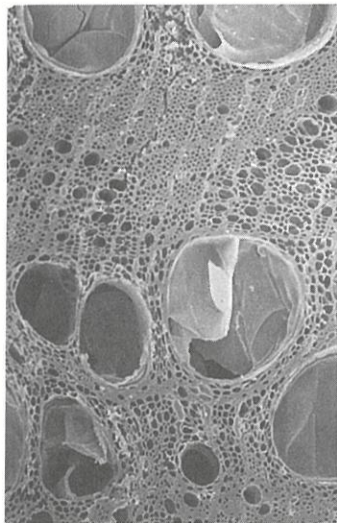


柁目×100

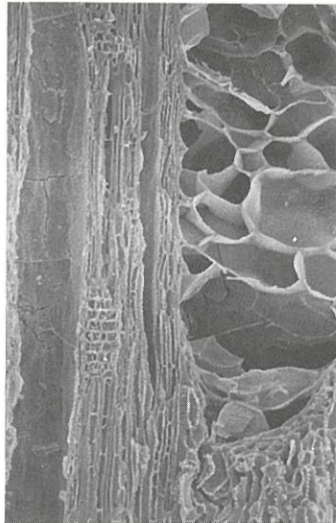


板目×100

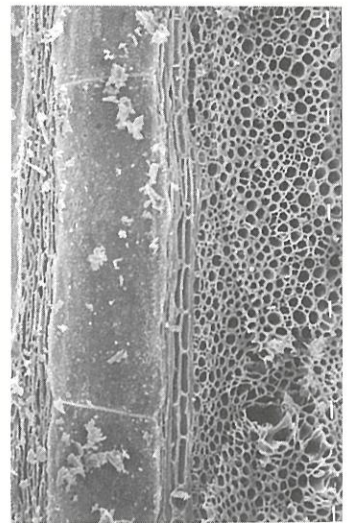
Pinus spp F-1



木口×75



柁目×100



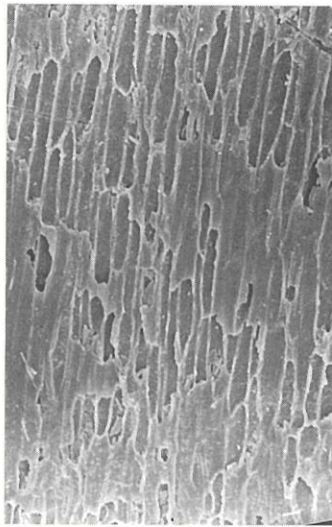
板目×150

Quercus spp ヌカ目材 B-1

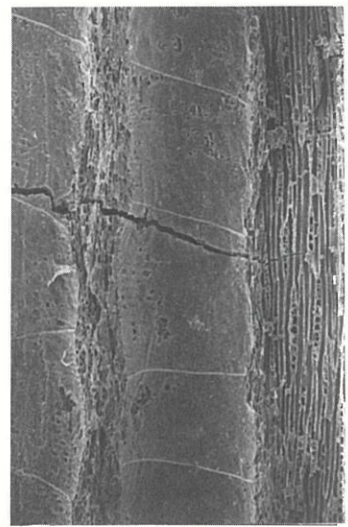
写真2 走査型電子顕微鏡写真資料(1)



木口×50

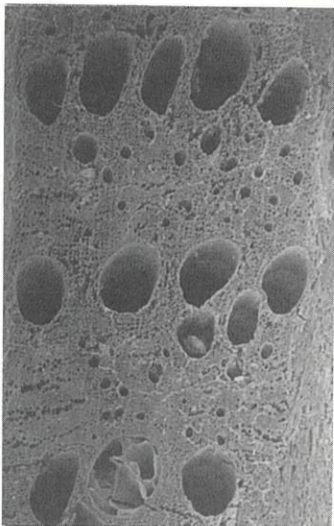


桁目×150



板目×175

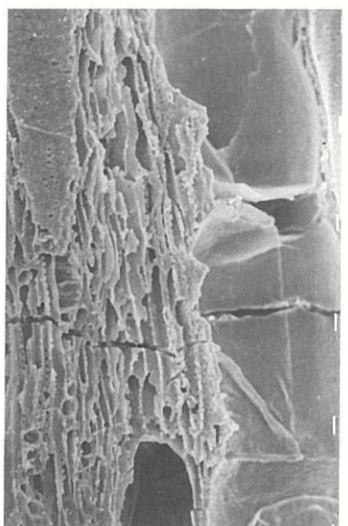
Q (*serrata* or *acutissima*) SP C-1



木口×35



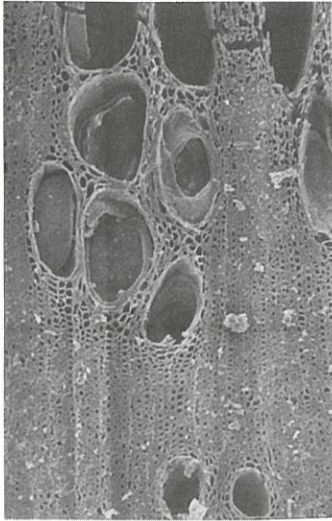
桁目×100



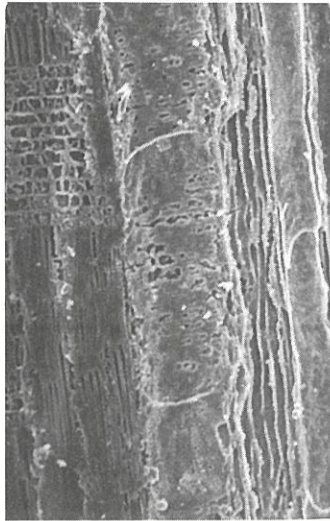
板目×100

Quercus (*serrata* THUNB) C-3

写真3 走査型電子顕微鏡写真資料(2)



木口×100



柁目×100



板目×100

Quercus (varisbilis BLUME) A-4

写真 4 走査型電子顕微鏡写真資料(3)

5. 考 察

今回出土した炭化材のみについて考えてみると、マツ属とコナラ属コナラ亜属の出現比率は、後者のものが圧倒的に多い(第62表)。当時窯をたくのに必要な薪は、他所から搬入したとは考えにくく、窯の周辺に生育していた樹木を利用したものと考える方が自然である。従って出土炭化材の樹種は、当時の窯周辺の植生と一致すると考えても不自然ではない。先に述べた七社神社(神明宮)は、窯が造られたと同時代の平安末期の創建であり、社叢林の大半は、常緑広葉樹林(照葉樹林)である。このことは、神社創建以来、土地の人々の手によって代々保護がなされてきた結果、現在に至るまで自然林の姿を残してきたものと考えられる。

一方、神明古窯の周辺は、炭化材の同定結果からも考えられるように、七社神社の社叢林とは対称的に、土地の人々による生活のための手が多くはあった、いわゆる雑木林で、落葉性の樹木が優先して生育していた場所ではなかったか、という推測が成り立つものと思われる。

6. 結 び

出土炭化材の樹種を解明することにより、古窯が使用されていた当時の窯周辺の植生を知ることができるのではないかと、いとも単純に考えて進めたことが、結果的には多くの先生方のお手をわずらわす結果となったことを深く反省している。

樹種の同定をお願いした、名古屋大学名誉教授の木方洋二先生には、ずい分ご迷惑をおかけしたことを謹んでお詫び申し上げますと共に、親切に対応していただいたことに厚く謝意を表わす次第です。また、愛知教育大学教授の太田唯之先生には、電頭の資料づくりから操作まで、ていねいなご指導を賜わり、有難く深く謝意を申し上げます。尚、木方先生への仲介の労をとっていただいたり、貴重な文献を紹介くださった愛知教育大学教授橘田紘洋先生にも厚くお礼申し上げます。

1995.10.15

(小川)

参考文献

- 走査電子顕微鏡図説 木材の構造 佐伯 浩著 日本林業協会 1982.8.1
- 日本の木材 木材工業編集委員会編 社団法人 日本木材加工技術協会 1966
- 上芳池古窯址群調査報告書 愛知県知多郡阿久比町教育委員会 1990.3
- 大府市誌 資料編自然 大府市誌編纂刊行委員会 愛知県大府市 1988.3.15

第5節 小 結

本古窯址群は3基の窯体と灰原からなる古窯址群である。窯体の1基はほぼ完全に残存し、他の2基も煙道部と、焼成室の最上部分を一部欠落するのみで、遺存状態は極めて良好であった。また3基とも、床面・側壁等で補修痕が検出されており、焼成も数回繰り返されたことがうかがえる。そのため遺物も膨大な量が出土した。

遺構について

本窯の窯体における特徴としては、床面と分焰柱に施された補修痕があげられる。分焰柱は3基とも天井部まで残存しており、いずれも地山掘り残しによって作られている。しかし3基とも補修の仕方かなりの違いがみられる。第1号窯の分焰柱は、全面に山茶碗が貼り付けられている。補修に使用された山茶碗は内部にスサ入り粘土を詰めて、分焰柱の回り全面に一列に並べて貼り付け、その上からさらにスサ入り粘土で塗り固めてあった。第2号窯の分焰柱は掘り残し部分が4分の1しか残存しておらず、焼成室側に2本の木材を立て、その間に重なった山茶碗を伏せて、その上からスサ入り粘土で塗り固めてあった。また燃焼室側からは、広口長頸瓶と山皿の破片が貼り付けられていた。第3号窯の分焰柱はほぼ原形をとどめており、回りに薄く粘土を貼り付けたのみであった。3基の分焰柱でこれ程の差が生じた原因としては、地山である砂層の違いなのか、焼成時における温度や焰のあたりぐあいなのかは不明である。

焼成室の床面に施された補修痕にも、3基とも違いがみられる。3基とも床面は2層になっており、それぞれ数回の焼成が行なわれていた。第1号窯は、地山である砂層の上に粘土層が2層あった。ここでは地山である砂層は全く焼けていないため、築窯後、焼成前に掘り抜き面に粘土を貼り付けてから焼成を行なったものと思われる。また上層の補修面はスサ入り粘土が使用されているのに対して、下層面は粘土だけが使用されていた。第2号窯・第3号窯はともに、下層は地山である砂層、上層は粘土層であった。ここでは下層である砂層も焼けているため、築窯後、掘り抜き面でそのまま焼成が行なわれたのであろう。その後、補修のために粘土を貼り付けて焼成が行なわれている。またこの粘土層は、第2号窯では貼り付けた後に平に調整されているのに対して、第3号窯では貼り付けた時の掌の跡が全面に残っており、貼り付けた後の調整がなされていないことがわかる。

遺物について

本古窯址群の出土遺物は、山茶碗・玉縁碗・山皿・鉢・三筋壺・広口長頸瓶等であり、出土量

は膨大な量にのぼった。特に広口長頸瓶は破片で 287個、約50個体分が出土した。知多古窯では現在までに、1ヶ所の古窯址群からこれ程の量の広口長頸瓶が1度にまとまって出土した例はなく、極めて特殊な例であるといえる。広口長頸瓶の出土例は、知多古窯では14古窯址群から報告されている⁽¹⁾。

本古窯址群出土の広口長頸瓶は、第3号窯内と第3号窯前庭部右ピットから多数出土している他、第2号窯前庭部から灰原にかけて出土している。しかし第2号窯焼成室内からは1点も検出されていない。このため本古窯址群では、広口長頸瓶は第3号窯のみで焼成されたものと考えてよいであろう。器形の形態をみると、大別して5種類6タイプに分類される。全体に成形はやや粗雑感が目立つが、その中の数点は猿投窯出土の広口長頸瓶に類似したものがある⁽²⁾。1基の古窯址で、このように器形の形態に違いがみられるのは、工人の差によるものか、时期的な差によるものかは不明である。大府市域は知多古窯の最北端であるとともに猿投窯の南端にも近いので、猿投窯との関連性も考慮する必要があると思われる。また、知多古窯・猿投窯ともに、広口長頸瓶が1基の窯体から大量に検出された例はなく、これには様々な推測がなされる。本古窯址群から西に約 2.2km の地点に位置する吉田1号窯・2号窯⁽³⁾は瓦陶兼業窯として知られる古窯である。吉田古窯出土の三巴文軒丸瓦と唐草文軒平瓦は、京都鳥羽東殿へ供給されている。しかも、京への供給を目的として、瓦生産が行われていたのである⁽⁴⁾。本古窯址は、吉田古窯とほぼ同時期に操業されていたと思われるが、吉田古窯における瓦生産と同様に、本古窯址における広口長頸瓶の生産も、供給を目的として、大量に生産された可能性も考えられるところである。

また、玉縁状口縁碗が2点出土した。玉縁状口縁碗も広口長頸瓶同様、猿投窯から広く出土しているが⁽⁵⁾、知多古窯での出土例は数例しかない⁽⁶⁾。

築窯年代について

本古窯址群において特徴のある出土遺物は、広口長頸瓶と玉縁状口縁碗である。知多古窯からの出土例からみて、いずれも操業年代の初期に製作されたものであることがわかる。そこで本古窯址群の操業年代としては、広口長頸瓶と玉縁状口縁碗の出土からみて、12世紀中期から後期にかけての時期にあてはまるものと思われる。

本古窯址群の3基の窯体の築窯順についてみると、前述のように広口長頸瓶は、第3号窯のみで焼成されたことは間違いのないところである。そこで、第2号窯の分焰柱の補修に広口長頸瓶が使われていることから、第2号窯は第3号窯の廃棄後に築窯されたものと思われる。第1号窯については、窯内からの遺物がほとんど出土していないため、詳しくは述べられないが、灰原からの出土遺物に大きな違いがないことから、第2・3号窯とほぼ同時期に前後して築窯されたものと思われる。

(近藤)

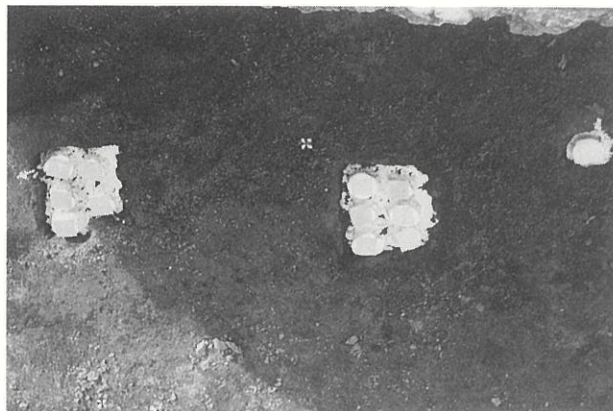
註

- (1) 広口長頸瓶の出土例は、大府市吉田2号窯(文献1)・高根山古窯(文献2)、知多市梶廻間古窯(文献3)、東浦町八巻1~3号窯(文献4)・石浜1号窯・2号窯(文献5)、常滑市清水山1号窯・3号窯(文献6)・三郎谷古窯(文献7)・出地田古窯(文献8)・上白田古窯(文献9)・亀塚池1号窯(文献10)・長曾古窯(文献12)、半田市十三塚5号窯(文献13)・長成池1号窯(文献13)がある。他に五本木古窯(文献14)・松原山古窯(文献14)のものがある。
- (2) 広口長頸瓶は猿投窯では広く認められているが、特に本古窯址群出土の広口長頸瓶と類似したものは、三好町八和田山古窯跡群(文献15)や名古屋市御影町古窯跡群(文献16)などがあげられる。
- (3) 文献17・文献1。
- (4) 文献18。
- (5) 前述の三好町八和田山古窯跡群(文献15)からも多数出土している。
- (6) 玉縁状口縁碗の出土例は、現在までのところ東浦町石浜2号窯(文献5)から1個体、常滑市上白田1号窯(文献9)から12個体が検出されているのみである。

参考文献

1. 『吉田第2号窯発掘調査報告書』1975年 大府市教育委員会
2. 「高根山古窯」(『大府市誌 資料編 考古』所収) 1991年 大府市
3. 『梶廻間古窯址』1962年 知多町八幡公民館
4. 『愛知県知多古窯址群』1962年 愛知県教育委員会
5. 『石浜古窯跡群(1)』1980年 東浦町教育委員会
6. 『清水山古窯址群』1980年 常滑市教育委員会
7. 『三郎谷第1号窯』1981年 常滑市
8. 『出地田古窯址群発掘調査報告書』1983年 常滑市教育委員会
9. 『上白田古窯址群』1988年 常滑市教育委員会
10. 『亀塚池古窯址群発掘調査報告書』1993年 常滑市教育委員会
11. 『長曾古窯址発掘調査報告書』1991年 常滑市教育委員会
12. 『比沙田古窯址群』1989年 阿久比町教育委員会
13. 『半田市誌 資料編II』1969年 半田市
14. 『時代別古常滑名品図録』沢田由治 1974年 光美術工芸
15. 『八和田山古窯跡群発掘調査報告書』1984年 三好町教育委員会
16. 『御影町古窯跡群発掘調査報告書』1974年 名古屋市教育委員会
17. 『吉田第1号窯発掘調査報告書』1969年 大府市教育委員会
18. 「尾張における平安末期の瓦生産——その分布と史的背景——」柴垣勇夫『愛知県陶磁資料館研究紀要1』所収 1982年

第4章 考古地磁気測定について



熱残留磁気測定調査風景

海陸庵・神明古窯址群の考古地磁気年代

富山大学理学部地球科学教室

広岡公夫、水上裕美、川浪英子

はじめに

土の中には、磁石になることができる性質（磁性）をもつ鉱物（磁性鉱物）が数%以下ではあるが含まれている。一般的に広く土に含まれる磁性鉱物は、磁鉄鉱 (Fe_3O_4) や赤鉄鉱（ベンガラ、 Fe_2O_3 ）のような鉄の酸化物と鉄に少量のチタンが混じっているチタン磁鉄鉱 ($(\text{Fe}, \text{Ti})_3\text{O}_4$) である。これらの磁性鉱物は高温に熱すると磁性を失う。この温度をキュリー一点 (Curie point) といい、それぞれの鉱物によって異なる。磁鉄鉱では 578°C 、赤鉄鉱では 670°C 、チタン磁鉄鉱の場合はチタンの含有量が増えるとキュリー一点は下がる。一番高いのはチタンの含有量がゼロの磁鉄鉱の 578°C であり、チタンが25%を超えると 0°C 以下になる。通常は $540\sim 560^\circ\text{C}$ のものが多い。磁性鉱物が、磁性を失ったキュリー一点以上の高温の状態から冷やされると、キュリー一点の温度を通過した途端に磁性を取り戻す。そのとき、地磁気程度の弱い磁場でも、磁場が作用していると、磁性鉱物はその磁場の方向に磁化をもった磁石となり、常温の状態であればこの磁化は殆ど永久に残る残留磁化となる。このようにして獲得された残留磁化を熱残留磁化といい、キュリー一点直下の数十度で残留磁化の大部分が獲得されるので、この温度範囲をブロッキング温度と呼ぶ。

窯跡のように高温まで加熱された遺構では、床面や壁面の焼土が焼成当時の地磁気の方角とその強度を熱残留磁化の形で記録している。これは、土に含まれる酸化鉄などの磁性鉱物が、焼成時の高温から冷却される過程で、作用している地球磁場の影響を受けて、その磁場の方向に磁化されるからである。このような熱残留磁化の強度は、土中の磁性鉱物の含有量とそのときの地球磁場強度の両方に比例する。

地球磁場は永年変化と呼ばれるゆっくりとした時間変化をしているので、焼成時代が異なる遺構では、残留磁化方位も異なってくる。地球磁場が過去の時代にどのような永年変化をしたかがわかっているならば、測定した残留磁化方向から、どの時代に磁化したか、言い替えば、どの時代に焼かれたか、を知ることができるのである。地磁気永年変化については、西南日本各地の比較的年代がよくわかった遺跡の焼土遺構の考古地磁気測定から、過去2,000年間にわたって、相当詳しく地球磁場の変動の様子が明らかにされている (Hirooka, 1971: 広岡, 1977)。

したがって、遺跡焼土の残留磁化方向をこの永年変化曲線と照合すれば、考古地磁気学的な年代を推定することができる。これを考古地磁気年代推定法という。

考古地磁気測定の結果は、大府市内では今回が初めてであるが、知多半島地域では、阿久比町や常滑市、半田市、武豊町でなされている。即ち、阿久比町の福住古窯址群(広岡・藤沢、1978)、上芳池古窯址群(広岡・吉村、1990)、大砂古窯址群(広岡・黒原、1993)、常滑市の籠池古窯址群・柴山古窯址群(広岡、1980)、半田市の大高山古窯址群(広岡、1980)、武豊町の北小松谷1・2号窯(武豊町誌編さん委員会、1983)、中田池古窯址群などである。

測定試料の採取

詳しい年代推定を行うためには、まず、試料として採取した焼土の残留磁化方位をできるだけ正確に知る必要がある。そのためには採取した焼土試料が窯体内でどのような向きになっていたかを精密に測らなければならない。このときの測定の精度が推定年代値の精度を左右する。いくら正確に方位を測っても、その焼土が磁化を獲得した最終焼成終了時以降に動いては、何にもならないので、最終焼成以降動いていない部分でなければならない。更に、遺構の部位によって残留磁化方位が異なることがあるので、よく焼けて、しかも、正確に地磁気の方角を記憶している部分からサンプリングをすることが最も重要なことである。古窯では、上記の条件を満足する部位は床面であるので、サンプリングは可能な限り窯中央部の床面で行う。

焼土試料の方位の測定はクリノコンパスの磁針を用いて、磁北を基準にして行うので、遺跡現場の磁北と真北のずれの角度(現在の偏角)の分だけずれている。そのずれを補正するために、現場で太陽の方位観測による偏角の測定を行った。太陽の方位角は、観測地点の緯度、経度と観測時刻を与えると、理科年表掲載のその日の太陽の赤経、赤緯の値とグリニッジ恒星時から、計算によって求められる。一方、遺跡現場で、トランシットを用いて、磁北を基準にした太陽の方位角を観測しておく、計算で求めた方位角と観測値との差が、その地点の現在の偏角値を与える。こうして求められた遺跡現場の現在の偏角値は、海陸庵1、2号窯は西偏6.33°、神明1、2、3号窯では西偏6.51°となった。測定した残留磁化方位は、これらの値を用いて補正した。

今回の海陸庵および神明古窯跡では、海陸庵1号窯から12個(試料番号CT2411~2422)、2号窯から13個(CT2431~2443)、神明1号窯から13個(CT2451~2463)、2号窯から13個(CT2471~2483)、3号窯から12個(CT2491~2502)の総計63個の試料を採取した。試料番号は第1表にまとめておいた。採取した試料は研究室に持ち帰って、ダイヤモンド・カッターを用いて、34mm×34mm×34mmの立方体に成形する。

残留磁化の測定

磁化測定には、夏原技研製のリングコア型スピナー磁力計(SSM-85型)を使用した。この磁力

計は、 μ メタル(高透磁率金属)で地磁気を遮蔽した無磁場空間内で試料を回転させ、試料が作る磁場の変化をリングコア・タイプのフラックスゲート磁気センサーで測定するものである。試料を回転させると回転軸に直交する平面内の直交する2つの磁化成分を測定することができる。通常、試料を6回置き直して測定するので、合計12の磁化成分が得られる。これによって、直交3成分のそれぞれを4回ずつ測定したことになる。

採取してきた試料が持っている残留磁化を自然残留磁化 (natural remanent magnetization、略して、NRM)といい、これには色々な安定性の磁化成分が含まれている。磁化方向や強度が変わりにくい磁氣的に安定な成分から、外部の磁場の変化によって容易に磁化の方向や強さを変えてしまう不安定なものまで、色々な安定性の磁化成分から成り立っているのである。一般に、焼成温度が低いときには、不安定な磁化成分の割合が多くなる。NRM に不安定成分が多い場合には、最終焼成後の長い埋積期間中に、地球磁場や周りのものが作る磁場によって影響され、磁化方向が変わってしまうことが多い。

不安定な成分の磁化が大きいと、過去の地磁気の記録は覆い隠されてしまって、誤差が大きくなる。より正確な結果を得るためには、これらの不安定成分を消去し、過去の地磁気をよく記録している安定な熱残留磁化の成分のみを選び出さなければならない。

不安定成分の消去には、交流消磁法という実験的手段を用いる。地磁気を遮蔽した無磁場空間内にソレノイド・コイルをおき、そのコイルに交流電流を流す。コイル内に発生する交番磁場によって、コイル内に置かれた試料は交番磁場で磁氣的に揺すられて、不安定な磁化成分が消去される。実験の手順は、まず、全試料について、NRM の測定を行って、磁化方向のまとめり具合いや磁化強度を知り、次いで、交番磁場の強さを適当な段階に設定して、交流消磁を行い、消磁後に残留磁化測定を行う。この段階で磁化のまとめり具合に改善がみられないときには、更に高い消磁磁場の段階で消磁を行う。この手順を繰り返して、何段階もの消磁を行うことを段階交流消磁という。今回は、250e、500e の2段階で消磁実験を行った。

残留磁化測定の結果は、第64～78表に示されているとおりである。

同一の窯跡から採った試料の中に、他の試料のものとは少し外れた磁化方向を示す試料が若干個含まれていることが多い。これは、試料採取の際の方位測定の誤差か、試料として採った部分がなんらかの原因で磁化獲得後に動いたかなどが理由と考えられるが、いずれにしても、昔の地磁気の記録とは考えにくいので、窯跡ごとの平均磁化方向を計算する統計処理の際には除外した。これらの試料には、表中に*印が付されている。

考古地磁気年代推定

第64～78表の測定結果を用いて、各窯の各段階について、平均磁化方向と磁化のばらつきの大さを統計的に求める。このときの統計計算にはフィッシャーの方法 (Fisher、1953) を用い、平

均偏角・平均伏角・95%レベルのフィッシャーの信頼角 (α_{95})・フィッシャーの精度係数 (K) および平均磁化強度を得る。

平均磁化方向 (平均偏角・平均伏角) を中心にして、その周りに半径 α_{95} の円 (フィッシャーの信頼円) を描くと、その円内に95%の確率で、真の磁化方向が存在することになる。すなわち、 α_{95} は、平均磁化方向がどれくらいの誤差を持っているかを表わす値である。測定試料数が多くなるほどその平均磁化方向の信頼度が高くなるので、同一遺構からの試料数が多くなるほど、 α_{95} の値は小さくなる。通常、上記のように1遺構から10~15個程度の試料を採ることになっている。よく焼けた窯跡の場合には、磁化のばらつきが多少大きなものでも、 α_{95} は3°以内におさまる。

K は、個々の試料の磁化方向の平均的なばらつきの程度を表すパラメータである。この値が大きいほどばらつきが少ないことを意味し、通常よく焼けた窯跡では500以上の値となる。この値は測定試料数には関係なく、その遺構の個々の試料の磁化方向のばらつきがどの程度であることを示している。統計計算の結果は第79表に示されている。

海陸庵1号窯および2号窯はともに、250e で消磁した結果が最もまとまりがよくなり、とくに、1号窯では、 α_{95} が1°を切る値となった。神明1号窯では NRM のまとまりがよく、2号窯・3号窯では500e の結果が最もまとまったので、これらの値を考古地磁気データとして採用し、年代推定を行なった。全ての古窯で、 α_{95} は2°未満、K は1000を超える値となり、磁化方向のまとまりは非常に良いことを示している。

第79表の考古地磁気データを考古地磁気永年変化曲線上にプロットすると、第48図のようになる。白丸が50年ごとの地磁気の方角を表わし、黒丸が測定結果(各窯の平均磁化方向)、それを囲む円がフィッシャーの信頼円 (α_{95}) である。黒丸に一番近い部分の永年変化曲線の年代が推定年代値を与えるので、この永年変化曲線が正確に過去の地磁気変動を表しているものとする、考古地磁気推定年代は、

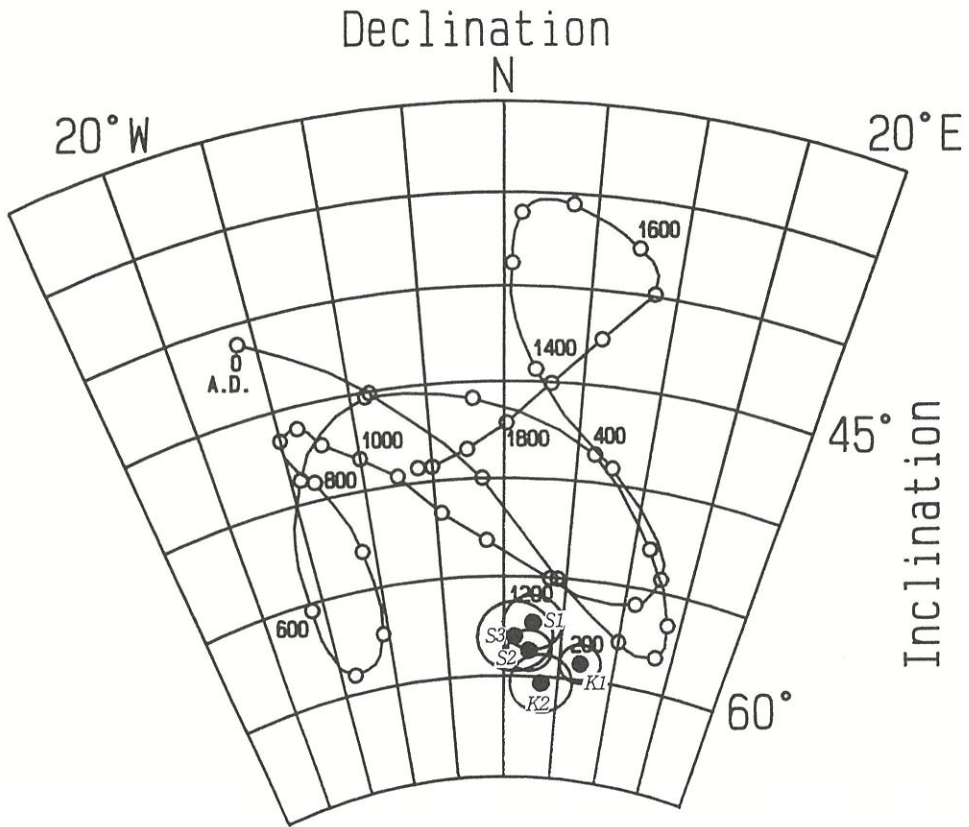
海陸庵1号窯	A. D. 1250±15年
海陸庵2号窯	A. D. 1220±20年
神明1号窯	A. D. 1200±20年
神明2号窯	A. D. 1205±10年
神明3号窯	A. D. 1190±25年

となろう。

引用文献

- R. A. Fisher (1953) Dispersion on a sphere, Proceedings of Royal Society of London, Series A, vol. 217, 295-305.
- Kimio Hirooka (1971) Archaeomagnetic study for the past 2,000 years in Southwest Japan, Memoirs of Faculty of Science, Kyoto University, Series of Geology & Mineralogy, vol. 38, 167-207.

- 広岡公夫 (1977) 考古地磁気および第四紀古地磁気研究の最近の動向、第四紀研究、vol. 15、200-203。
- 広岡公夫、藤沢真澄 (1978) 福住古窯址群の考古地磁気学的研究、「福住古窯址群」、新巽ヶ丘団地関係遺跡発掘調査報告、新巽ヶ丘団地関係遺跡発掘調査団、105-108。
- 広岡公夫 (1980) 考古地磁気方向の永年変化による年代推定、「考古学・美術史の自然科学的研究」、古文化財編集委員会編、日本学術振興会、98-100。
- 広岡公夫、吉村勝之 (1990) 考古地磁気測定、「上芳池古窯址群調査報告書」、愛知県知多郡阿久比町教育委員会、45-50。
- 広岡公夫、黒原秀夫 (1993) 考古地磁気測定、「大砂古窯址群調査報告」、愛知県知多郡阿久比町教育委員会、69-79。
- 武豊町誌編さん委員会 (1983) 「武豊町誌・資料編二」、武豊町、117。



第48図

西南日本の考古地磁気永年変化 (広岡、1977による) と、海陸庵1・2号窯と神明1・2・3号窯の考古地磁気測定結果

K1: 海陸庵1号窯、 K2: 海陸庵2号窯、

S1: 神明1号窯、 S2: 神明2号窯、 S3: 神明3号窯、

Declination: 偏角、 Inclination: 伏角。

遺構名	試料番号
海陸庵 1号窯	CT 2411~2422
海陸庵 2号窯	CT 2431~2443
神明 1号窯	CT 2451~2463
神明 2号窯	CT 2471~2483
神明 3号窯	CT 2491~2502

第63表 大府市 海陸庵・神明古窯群の採集考古地磁気試料番号

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/g)
CT 2411	2.6	57.3	2.98
2412	2.4	59.1	4.34
2413	5.9	64.0	3.46
2414	5.9	60.1	4.01
2415	4.0	59.1	2.97
2416	2.5	60.3	5.00
2417	0.8	56.9	4.65
2418	12.0	58.5	3.81
2419	6.6	64.1	2.19
2420	4.0	59.2	3.67
2421	4.5	58.9	6.09
2422	8.9	61.3	2.97

第64表 海陸庵 1号窯のNRMの磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/g)
CT 2411	6.0	58.0	2.98
2412	4.3	58.3	4.30
* 2413	0.2	62.0	3.24
2414	8.9	59.3	3.99
* 2415	12.4	58.0	3.12
2416	5.4	59.4	4.97
* 2417	1.8	56.2	4.60
* 2418	13.9	56.6	3.67
2419	9.9	60.1	2.15
2420	53.7	58.6	3.64
2420	6.4	58.8	3.67
2421	5.6	58.6	6.09
2422	9.5	60.6	2.90

*: 統計計算の際に除外したもの。

第65表 海陸庵1号窯の250e 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/g)
CT 2411	2.9	57.9	2.82
2412	5.5	57.4	4.03
* 2413	5.3	62.7	3.15
2414	7.2	59.2	3.82
* 2415	11.8	58.4	2.92
2416	4.3	59.1	4.82
* 2417	1.6	55.8	4.46
* 2418	11.4	55.8	3.51
2419	8.7	59.9	2.10
2420	3.8	58.7	3.58
2421	6.0	58.3	5.94
2422	8.1	60.6	2.81

*: 統計計算の際に除外したもの。

第66表 海陸庵1号窯の500e 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/g)
*CT 2431	13.5	58.0	3.95
* 2432	-136.4	58.9	2.15
* 2433	-17.8	61.8	6.78
* 2434	-1.3	25.1	2.96
* 2435	-58.9	2.6	0.792
* 2436	95.2	58.5	2.39
* 2437	-41.3	26.3	0.724
2438	2.8	62.4	18.8
2439	-0.7	62.5	21.6
2440	4.0	62.4	16.6
2441	2.8	59.8	23.2
2442	1.6	58.7	22.6
2443	2.5	60.4	29.2

*: 統計計算の際に除外したもの。

第67表 海陸庵2号窯のNRMの磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/g)
*CT 2431	15.2	56.0	4.01
* 2432	-140.5	58.1	2.12
* 2433	-13.1	63.0	6.75
* 2434	-4.1	26.0	2.89
* 2435	-56.7	-4.4	0.789
* 2436	96.3	56.0	2.44
* 2437	-35.0	21.2	0.691
2438	5.0	60.9	19.3
2439	4.0	62.4	22.2
2440	7.1	60.4	16.9
2441	3.1	58.8	23.7
2442	1.4	59.1	23.3
2443	1.0	60.0	29.5

*: 統計計算の際に除外したもの。

第68表 海陸庵2号窯の25Oe消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/g)
*CT 2431	15.1	57.1	3.98
* 2432	-140.8	56.1	2.12
* 2433	-12.9	61.7	6.73
* 2434	-1.8	21.5	2.89
* 2435	-57.1	-4.6	0.782
* 2436	97.5	55.2	2.37
* 2437	-38.6	18.7	0.682
2438	3.9	61.3	18.9
2439	0.8	61.5	21.5
2440	6.7	60.7	16.6
2441	1.7	58.8	23.4
2442	1.0	57.2	22.6
2443	1.4	59.4	29.3

*: 統計計算の際に除外したもの。

第69表 海陸庵2号窯の50Oe 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/g)
CT 2451	1.4	58.0	11.6
2452	1.7	59.5	11.4
2453	7.8	57.7	12.3
2454	-0.8	55.9	11.1
2455	1.5	54.9	7.93
2456	8.6	57.0	8.97
* 2457	21.7	64.6	6.23
2458	6.6	57.6	8.74
2459	-0.6	59.8	10.6
2460	6.6	57.2	11.7
2461	0.4	56.9	12.0
2462	-1.1	57.1	259
2463	-2.2	55.9	61.6

*: 統計計算の際に除外したもの。

第70表 神明1号窯のNRMの磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/g)
CT 2451	-0.1	58.7	11.7
2452	1.8	59.0	11.6
2453	5.1	59.3	12.5
2454	1.0	56.0	11.4
2455	-0.7	54.3	8.23
2456	6.9	57.1	9.13
* 2457	23.9	63.3	6.28
2458	3.1	58.0	8.83
2459	-0.7	60.6	10.9
2460	6.3	58.9	11.7
2462	-4.2	57.2	258
2463	-1.3	55.4	61.8

*: 統計計算の際に除外したもの。

第71表 神明1号窯の250e 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/g)
CT 2451	-4.3	58.3	12.1
2452	1.3	59.4	11.9
2453	6.2	59.8	12.8
2454	-0.1	55.3	11.4
2455	-0.4	55.6	8.18
2456	7.6	55.7	9.11
* 2457	21.5	64.4	6.32
2458	2.2	57.5	8.79
2459	-2.0	60.3	10.9
2460	5.4	57.8	11.6
2462	-3.9	56.4	257
2463	-0.7	55.7	61.3

*: 統計計算の際に除外したもの。

第72表 神明1号窯の500e 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/g)
CT 2471	-5.2	63.8	0.331
* 2472	7.8	44.8	0.423
* 2473	44.7	39.8	0.355
* 2474	-16.1	37.1	0.505
* 2475	9.3	48.9	0.498
* 2476	14.7	67.8	0.719
2477	-7.8	62.2	5.66
2478	7.6	55.2	4.35
2479	0.3	58.9	5.37
2480	1.3	58.6	5.14
2481	2.5	59.3	5.59
2482	5.8	56.5	3.18
2483	1.9	61.2	3.82

*: 統計計算の際に除外したもの。

第73表 神明2号窯のNRMの磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/g)
*CT 2471	-24.7	65.5	0.337
* 2472	1.6	52.4	0.438
* 2473	49.0	49.9	0.413
* 2474	-16.8	44.4	0.535
* 2476	8.5	68.7	0.739
2477	-5.1	62.4	5.85
2478	1.8	56.1	4.40
2479	3.6	60.1	5.48
2480	0.5	59.6	5.33
2481	2.7	59.8	5.77
2482	2.4	57.2	3.21
2483	-0.4	60.7	3.97

*: 統計計算の際に除外したもの。

第74表 神明2号窯の250e消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/g)
*CT 2471	-22.1	64.3	0.309
* 2472	0.2	49.9	0.383
* 2473	50.6	48.5	0.366
* 2474	-20.1	40.0	0.464
* 2476	7.4	68.7	0.719
* 2477	-5.7	61.5	5.62
2478	3.6	58.8	4.16
2479	0.4	59.0	5.52
2480	3.3	59.3	5.30
2481	2.4	58.6	5.69
2482	2.4	56.7	3.16
2483	1.6	59.8	3.91

*: 統計計算の際に除外したもの。

第75表 神明2号窯の50Oe 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/g)
CT 2491	-12.5	60.2	24.2
2492	-0.1	58.3	21.9
2493	3.9	51.6	19.0
2494	3.4	56.0	19.6
2495	-4.6	58.0	21.0
2496	-1.3	56.3	20.6
2497	1.3	54.9	23.2
2498	6.2	59.0	20.0
2499	2.1	59.1	19.9
2500	18.3	57.9	21.0
* 2501	-0.1	72.8	28.3
* 2502	-5.1	42.3	21.5

*: 統計計算の際に除外したもの。

第76表 神明3号窯のNRMの磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/g)
CT 2491	-0.1	59.5	24.8
2492	-3.8	58.4	22.5
2493	1.6	51.7	19.4
2494	2.5	56.2	20.3
2495	-6.8	58.3	22.0
2496	0.5	57.3	20.6
2497	1.2	54.2	23.7
2498	6.5	59.1	20.3
2499	0.1	56.9	20.4
2500	15.6	58.3	21.5
* 2501	-4.7	73.4	29.3
* 2502	-3.8	44.3	21.7

*: 統計計算の際に除外したもの。

第77表 神明3号窯の250e 消磁後の磁化測定結果

試料番号	偏角 (° E)	伏角 (°)	磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/g)
CT 2491	-3.0	59.5	24.4
2492	-1.7	59.2	22.1
* 2493	5.3	51.7	19.2
2494	1.9	56.5	20.0
2495	-4.7	59.2	21.4
2496	1.4	56.7	20.5
2497	3.0	55.2	23.3
2498	5.7	58.6	20.1
2499	4.7	58.5	20.1
* 2500	20.1	58.0	21.2
* 2501	1.4	73.9	28.8
* 2502	-5.6	43.7	21.9

*: 統計計算の際に除外したもの。

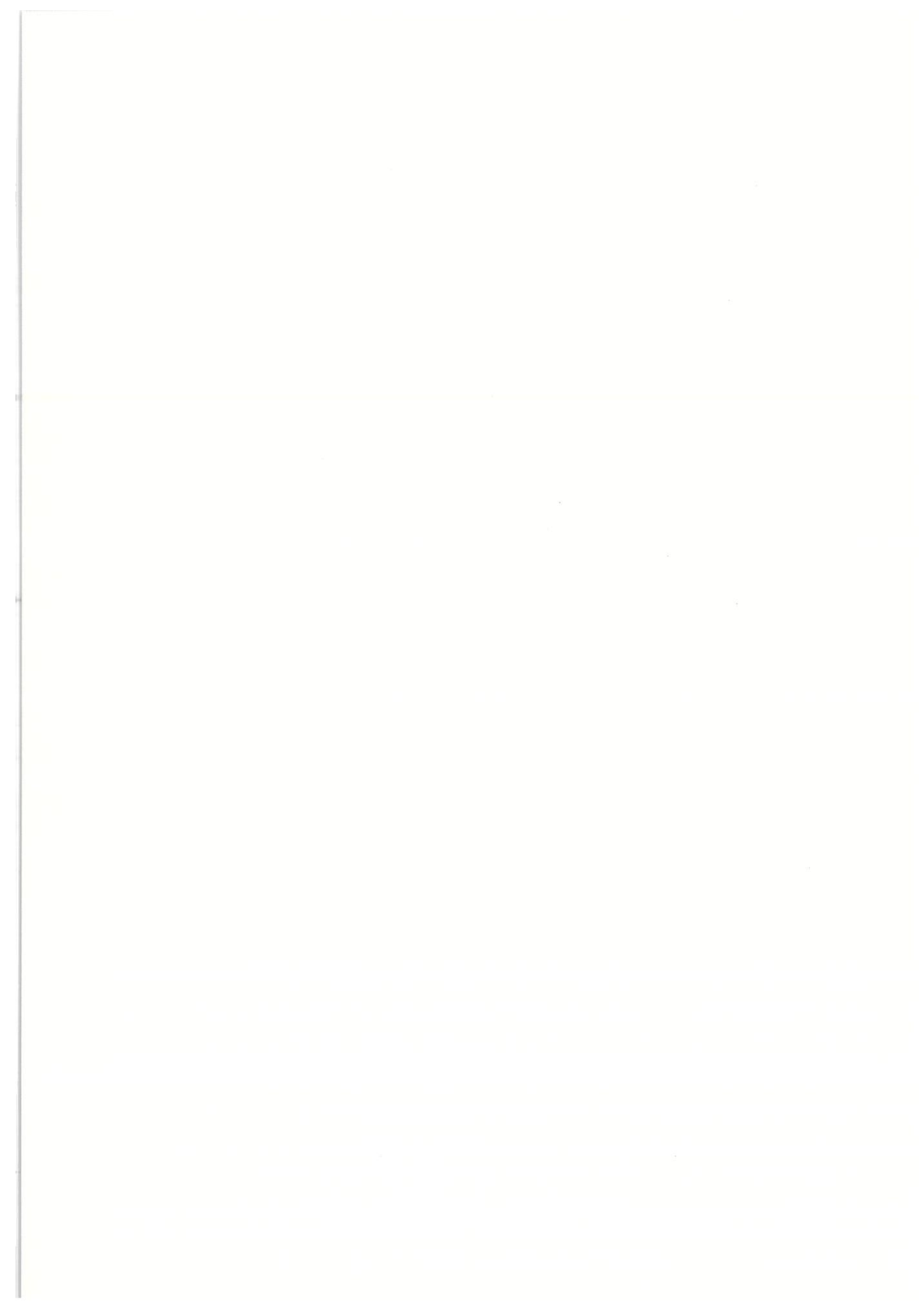
第78表 神明3号窯の500e 消磁後の磁化測定結果

遺構名	消磁段階	N	D (° E)	I (°)	α_{95} (°)	K	平均磁化強度 ($\times 10^{-4}$ emu/g)
海陸庵 1 号窯	(NRM	12	4.9	59.9	1.49	852.2	3.85)
	25 0e	8	6.9	59.2	0.96	3343.2	3.88
	(50 0e	8	5.7	58.9	1.02	2922.6	3.74)
海陸庵 2 号窯	(NRM	6	2.1	61.0	1.49	2033.3	22.0)
	25 0e	6	3.5	60.3	1.43	2184.1	22.5
	(50 0e	6	2.5	59.8	1.67	1604.6	22.1)
神明 1 号窯	NRM	12	2.5	57.3	1.35	1035.4	35.6
	(25 0e	11	1.5	57.7	1.49	938.6	37.8)
	(50 0e	11	1.0	57.5	1.59	827.2	37.7)
神明 2 号窯	(NRM	8	1.1	59.5	2.64	441.2	4.18)
	(25 0e	7	0.9	59.4	1.91	995.6	4.86)
	50 0e	6	2.3	58.7	1.01	4380.0	4.62
神明 3 号窯	(NRM	10	1.8	57.3	2.90	277.6	21.0)
	(25 0e	10	1.7	57.1	2.40	405.8	21.6)
	50 0e	8	1.0	58.0	1.73	1044.8	21.5

N：試料個数、D：平均偏角、I：平均伏角、 α_{95} ：フィッシャーの信頼角、K：フィッシャーの精度係数。

() は年代推定のための考古地磁気データとして採用しなかったものを示す。

第79表 大府市 海陸庵・神明古窯群の考古地磁気測定結果



第5章 総論



現地説明会風景（中央が立松団長）

総まとめ

このたび大府市の海陸庵古窯址群 2 基、神明古窯址群 3 基、計 5 基の古窯を調査する機会を得て、学術調査例の少ない大府市域については特に多くのデータを残すよう心掛けた。特に名古屋大学木方洋二名誉教授に「出土炭材の樹種同定」を、また富山大学の広岡公夫教授には「考古地磁気年代」の測定をお願いし報告書を飾ることができたと同時に大きな成果を得ることができたと確信している。

大府市域には現在までに約 60 基の中世古窯の存在が確認されているが、うち学術調査が行われたのは、吉田 1 号窯、吉田 2 号窯、ハンヤ古窯、野々宮古窯の 4 基にとどまる。ところで、平成 3 年に刊行された『大府市誌』資料編 考古の中から窯体の確認、あるいは出土土器の実測などによって考察が加えられたものを列記するとつぎのようになる。

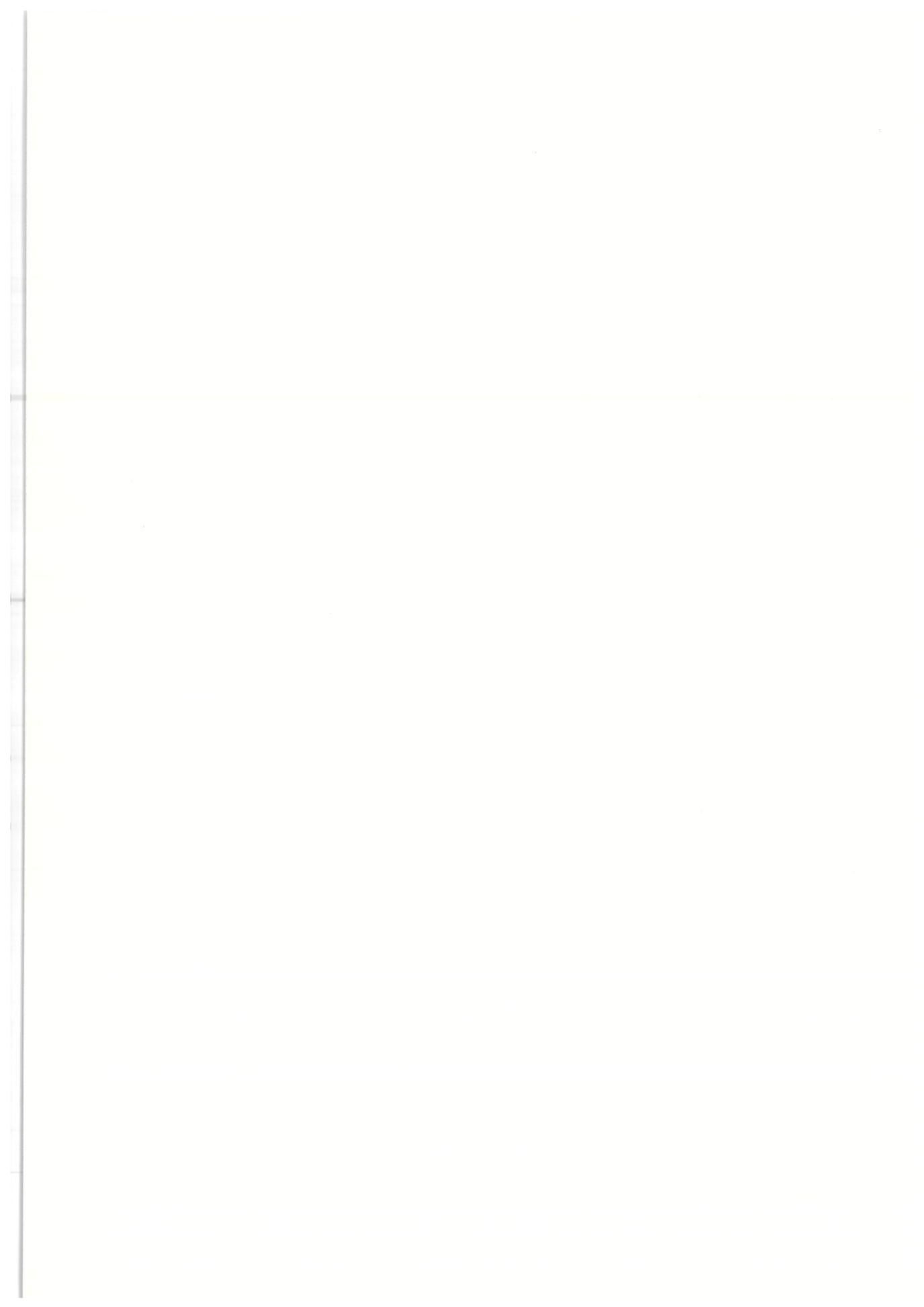
古窯名	焼成物	年代
野々宮古窯	灰釉陶	10C 末～11C 前葉
吉田 1 号窯 } 吉田 2 号窯 }	碗、皿、瓦	12C 中葉～12C 末
高根山古窯	碗、皿、短頸壺、広口壺	12C 前半
石ヶ瀬古窯	碗、皿	12C 後半
上ノ山西古窯(森岡第 1 号窯)	碗、皿	12C 後半
江端古窯	碗、皿	12C 後半
ハンヤ古窯	碗、皿	12C 末～13C 前半
柘山古窯(柘山 A 古窯)	碗、皿	12C 末～13C 前半
名高山古窯	碗、皿	12C 末～13C 前半
立根古窯(立根 A 古窯)	碗、皿	12C 末～13C 前半
福池古窯	碗、皿	12C 末～13C 前半
権兵衛古窯	碗、皿	12C 末～13C 前半

さて、今回の考古地磁気年代測定の結果は、海陸庵古窯が 13C 前葉から中葉、神明古窯が 12C 末葉から 13C 初頭にかけてという数値を得ている。今、出土土器の型式からみると、神明古窯は吉田 1 号窯、吉田 2 号窯の直後に位置し、高根山古窯に近い。一方海陸庵古窯の土器形式からは石ヶ瀬古窯以下の古窯に比定され、半世紀ほどのズレがみられる。

吉田1、2号窯は、行政上は大府市域ではあるが市の西端に位置し、吉田1、2号窯と同様に瓦を焼成した東海市の「社山古窯」「論田古窯」「権現山古窯」などと距離的にも近く、同一文化圏を成していると考えられる。また野々宮古窯は灰釉陶を焼成した窯で、他の古窯とは1世紀以上の隔りがある。

これらを除いて考えると、知多半島基部東側、すなわち大府市、東浦町などは甕の窯が極めて少ない。灰釉陶から中世陶へと移行したと一般的には考えられるが、豊明市九左山古窯や野々宮古窯など、灰釉陶の系譜が吉田、高根山、神明などへと受け継がれていくのであろうか。ともあれ、今後の大府市域の古窯学術調査に期待するものが大きいのである。

(立松)



図版 海陸庵古窯址群



調査前遠景（北西から）

1



調査開始時風景

2



全景（北西から）

1



焚き口左ピット

2



焚き口右ピット

3



全景（北西から）

1



床面下

2



燃烧室

3



1号窯関連の排水溝

1



陶錘出土状況

2



灰原ピット（北から）

1



灰原ピット付属柵列穴

2



1



2



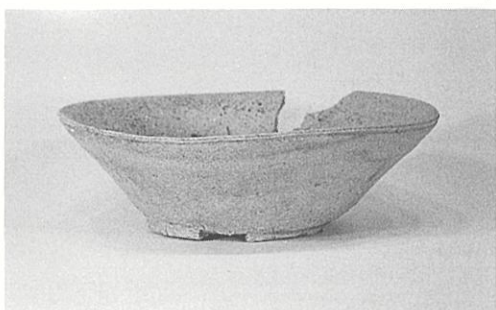
3



4



5



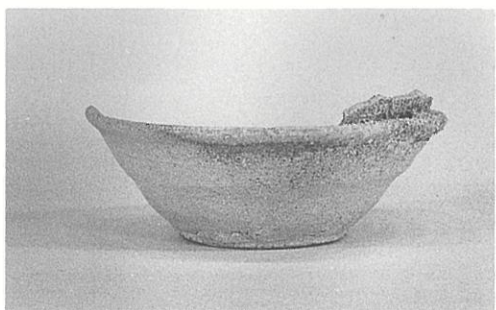
6



7



8



9



10

图版 6 海陸庵古窯出土遺物 碗(1)



11



12



13



14



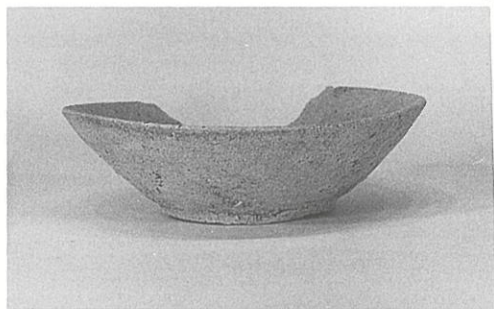
15



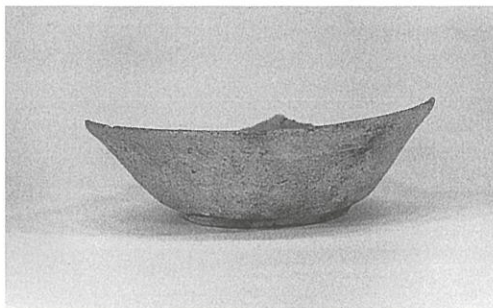
16



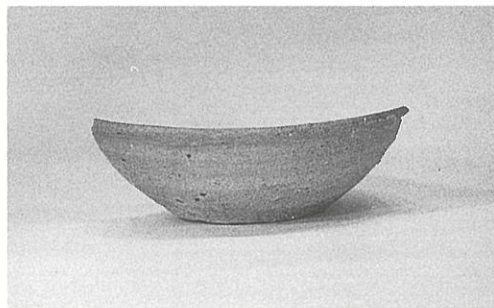
17



18

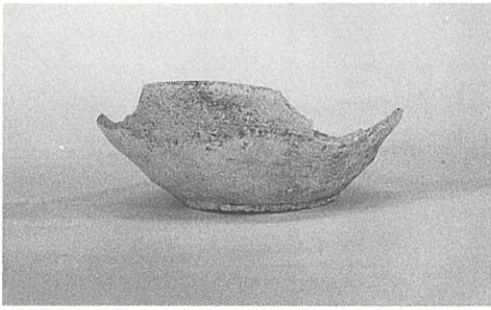


19



20

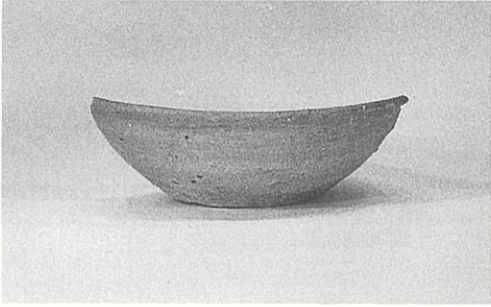
图版 7 海陸庵古窯出土遺物 碗(2)



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30

図版 8 海陸庵古窯出土遺物 碗(3)



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40

图版9 海陸庵古窯出土遺物 碗(4)



41



42



43



44



45



46



47



48

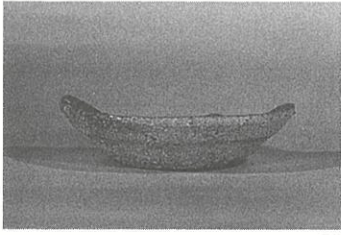


49



50

図版10 海陸庵古窯出土遺物 碗(5)



51



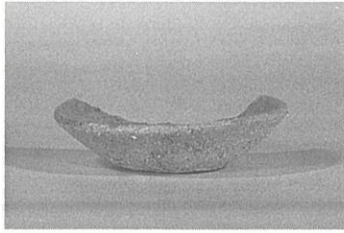
52



53



54



55



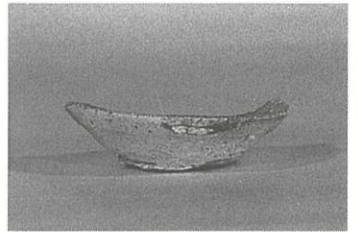
56



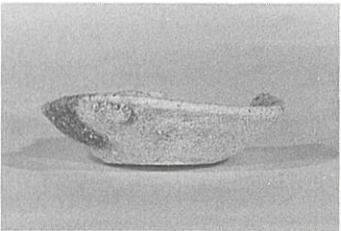
57



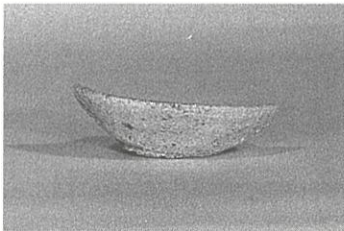
58



59



60



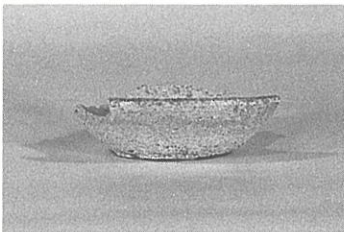
61



62



63



64



65



66



67



68

图版11 海陸庵古窯出土遺物 皿(1)



69



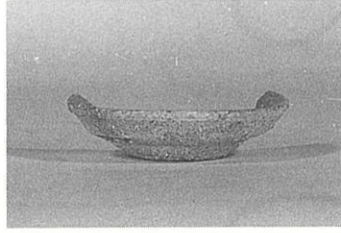
70



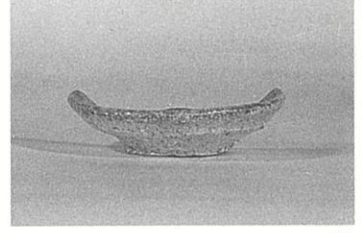
71



72



73



74



75



76



77



78



79



80



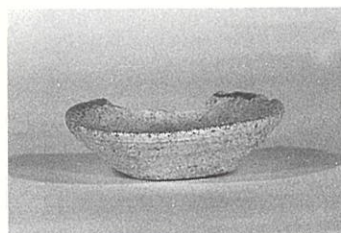
81



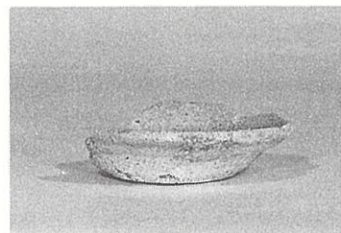
82



83



84



85



86

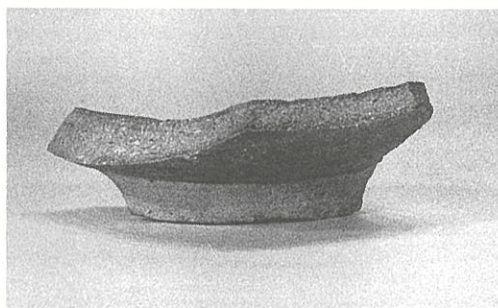
图版12 海陸庵古窯出土遺物 皿(2)



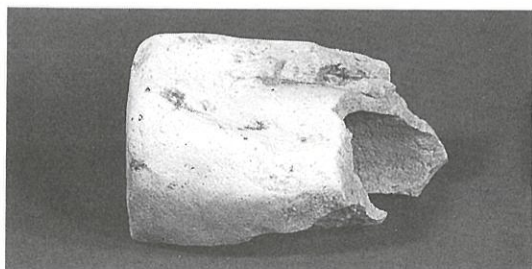
87



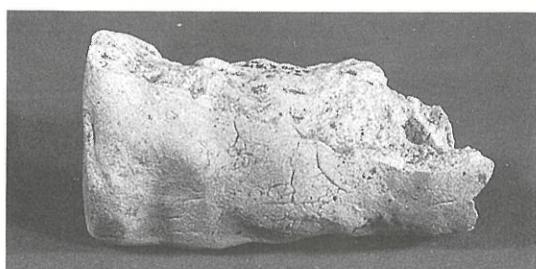
89



88



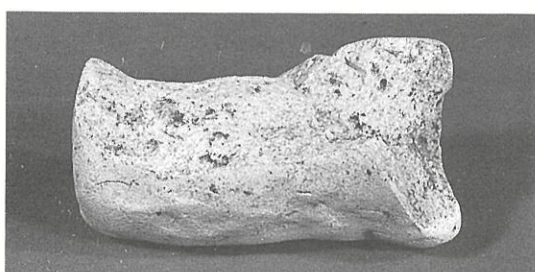
90



91



92



93

図版13 海陸庵古窯出土遺物 鉢 陶錘

图版 神明古窯址群



調査前遠景（南東から）

1



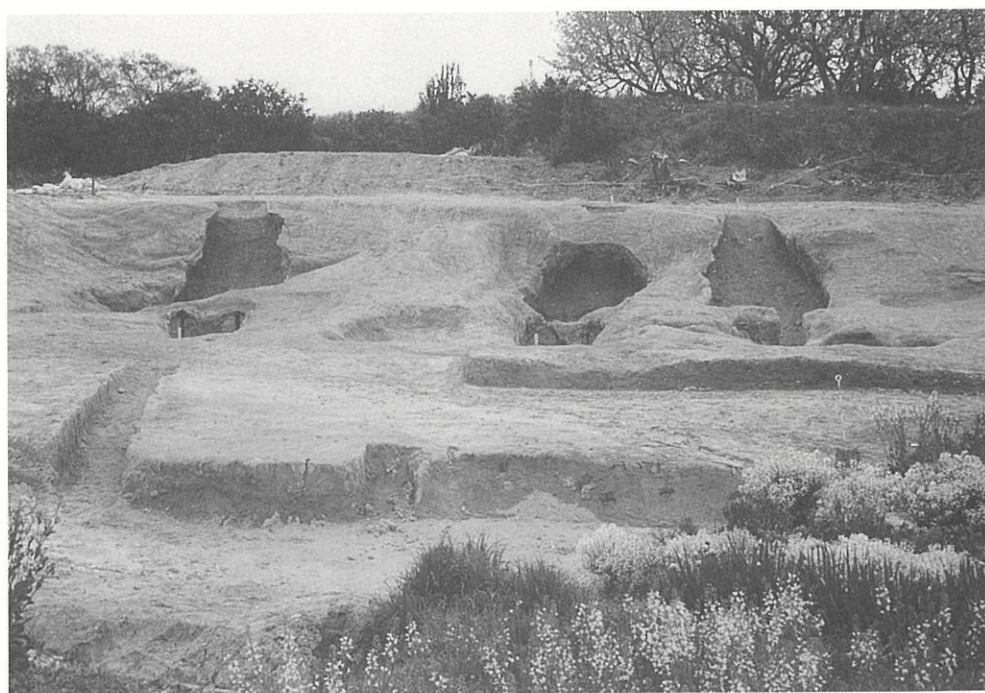
調査風景

2



調査区全景（上が北西）

1



調査区近景（北東から）

2



窯体全景（下から）

1



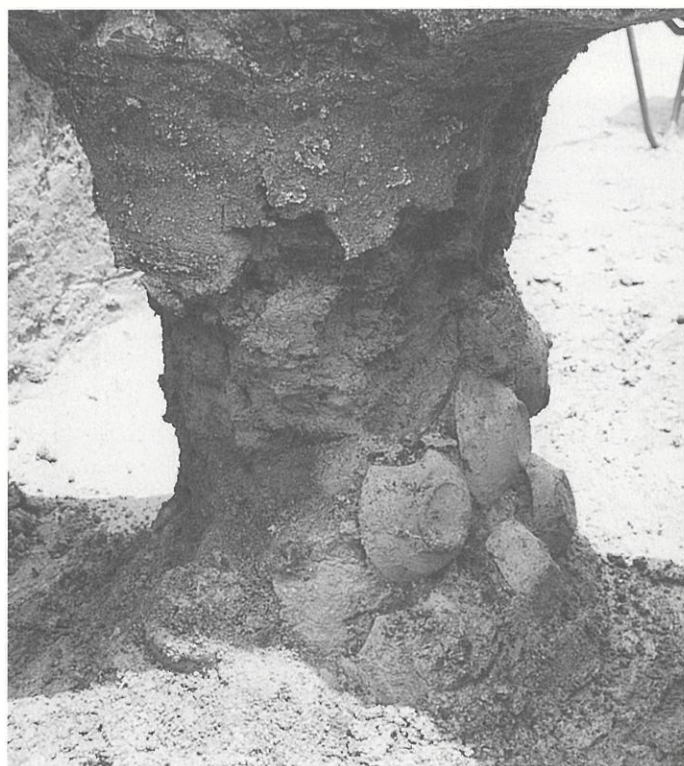
窯体（下から）

2



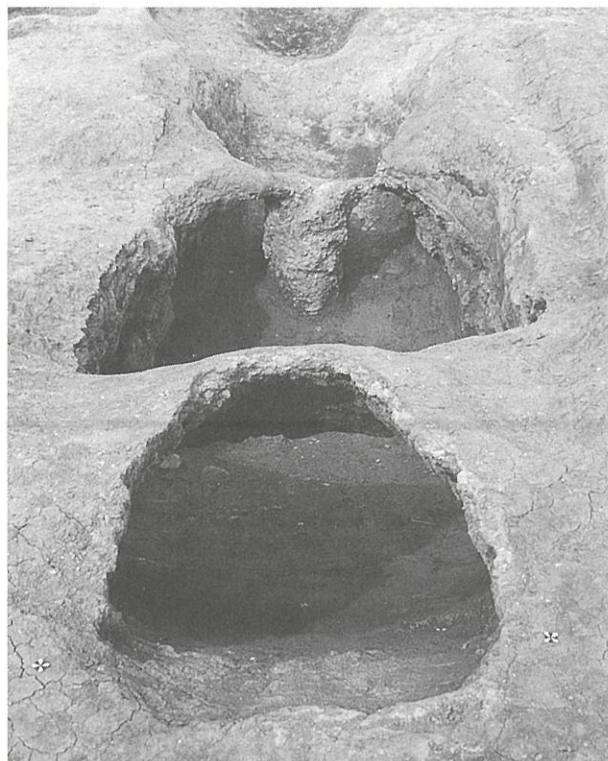
煙り出し

1



分焰柱

2



窠体全景（上から）

1



窠体全景（下から）

2



焼成室（上が東）

1



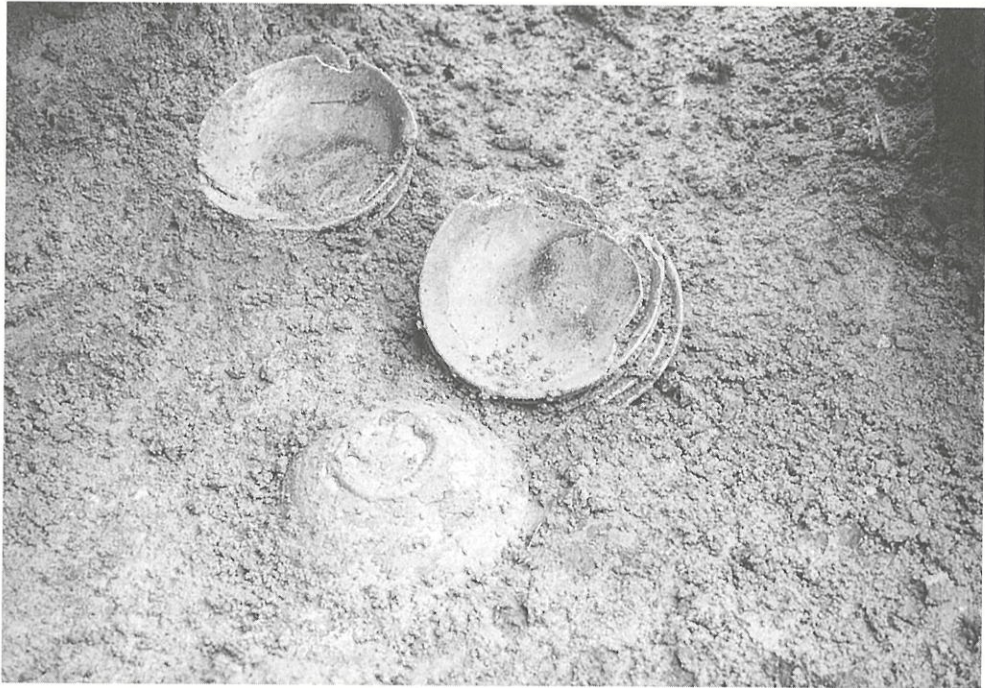
分焰柱補修

2



2号窯窯内遺物出土状況遠景

1



2号窯窯内遺物出土状況

2



広口長頸瓶出土状況（3号窯燃焼室付近）

1



広口長頸瓶出土状況（3号窯燃焼室付近）

2



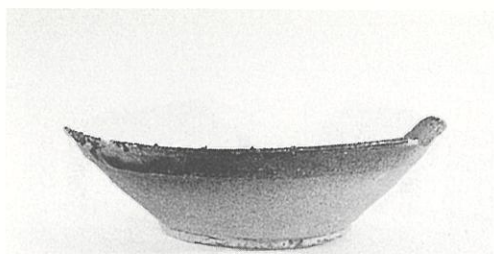
前庭部ベルト（南東から）

1

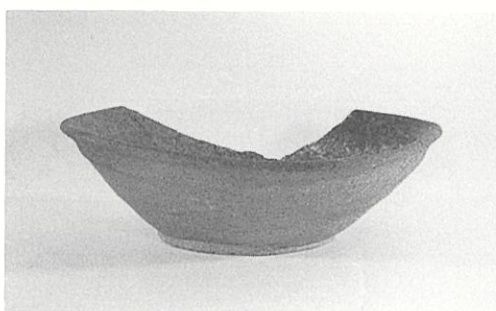


前庭部ベルト3号窯ピット付近（南から）

2



1



2



3



4



5



6



7



8



9

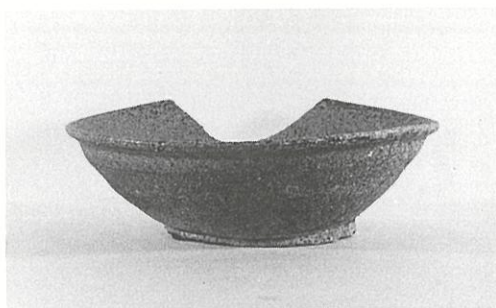


10

図版25 神明第2号窯窯内出土遺物 碗(1)



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23

图版26 神明第2号窠窠内出土遗物 碗(2) 皿(1)



24



25



26



27



28



29



30



31

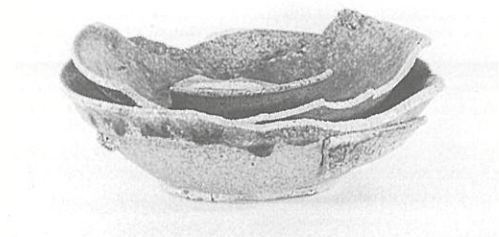
図版27 神明第2号窠窠内出土遺物 皿(2) 鉢



32



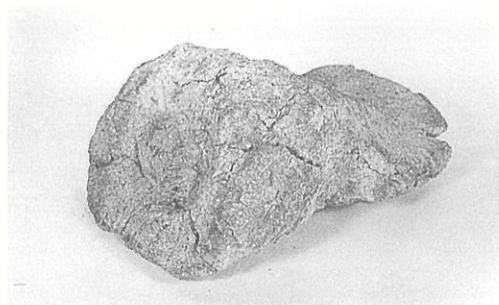
33



34



35



36



37



38



39



1



2



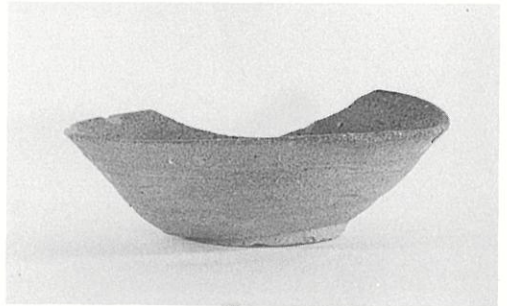
3



4



5



6



7



8



9



10

図版29 神明第2号竈ピット出土遺物 碗(1)



11



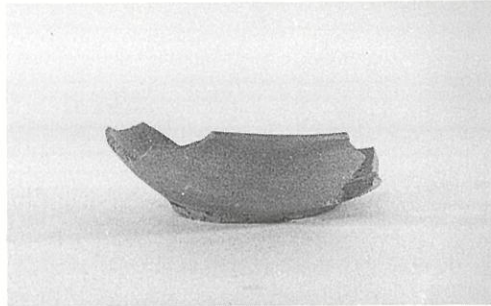
12



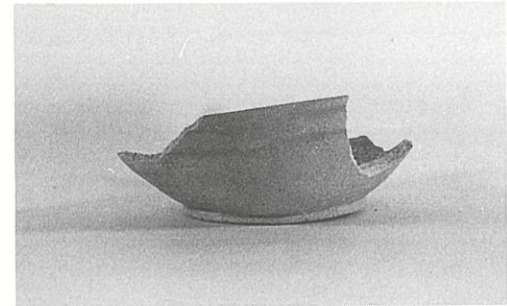
13



14



15



16



17



18

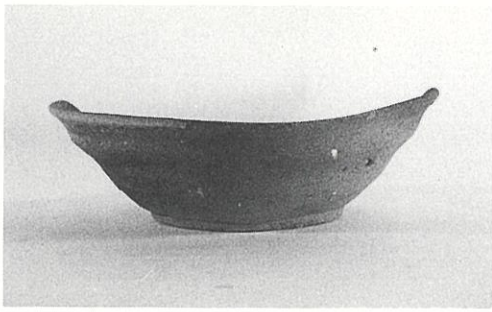


19



20

図版30 神明第2号窯ピット出土遺物 碗(2)



21



22



23



24



25



26



27



28



29

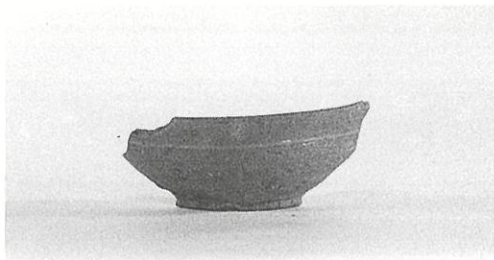


30

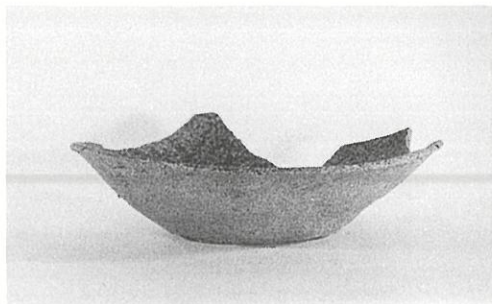
図版31 神明第2号窯ビット出土遺物 碗(3) 皿



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10

图版32 神明第3号窠窠内出土遗物 碗(1)



11



12



13



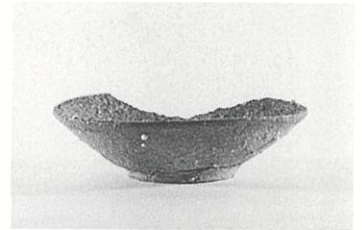
14



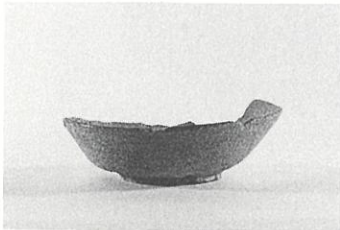
15



16



17



18



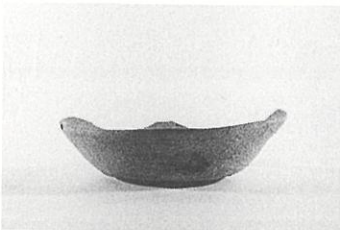
19



20



21

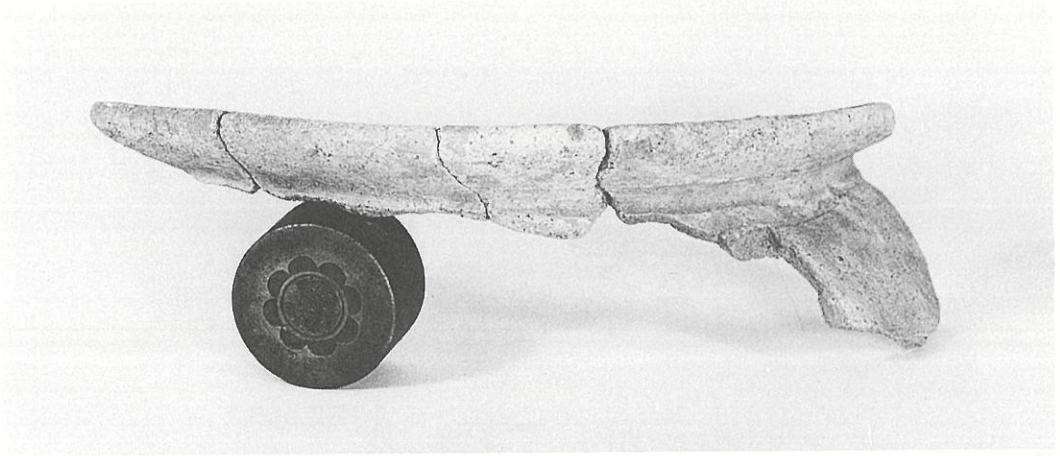


22



23

图版33 神明第3号窠窠内出土遗物 碗(2) 皿



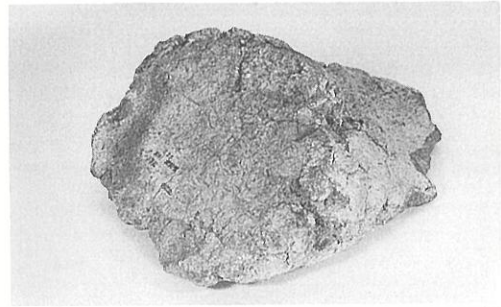
24



25



26



27



28

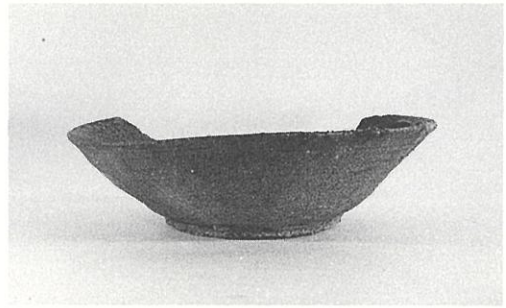


29

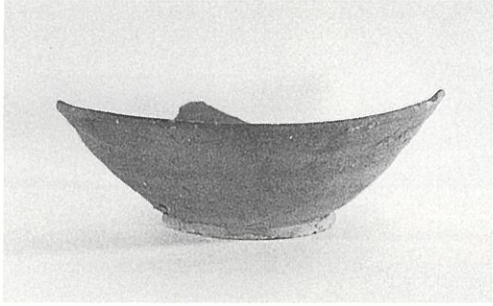
図版34 神明第3号窯内出土遺物 土師質鍋 重ね焼 焼台



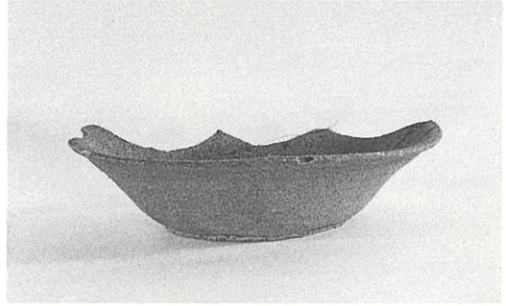
1



2



3



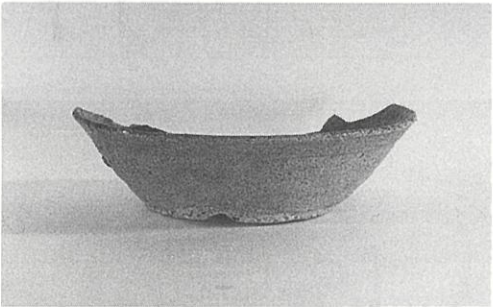
4



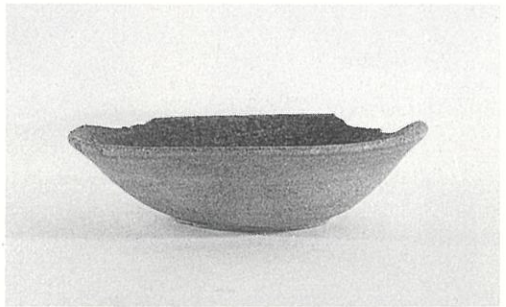
5



6



7



8



9

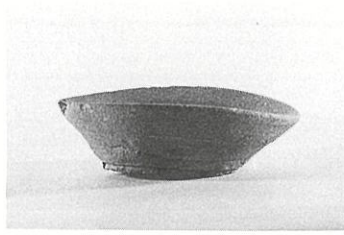


10

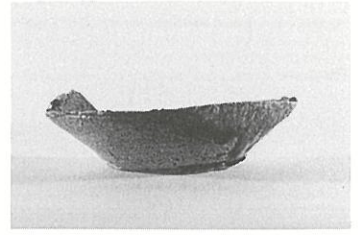
図版35 神明第3号窯ビット出土遺物 碗



11



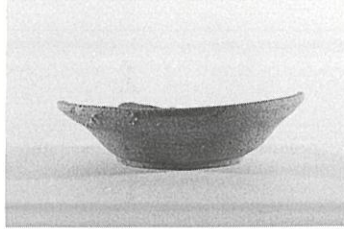
12



13



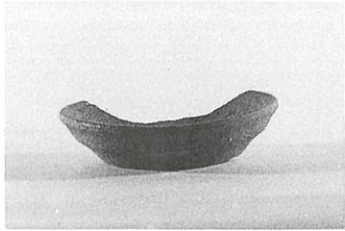
14



15



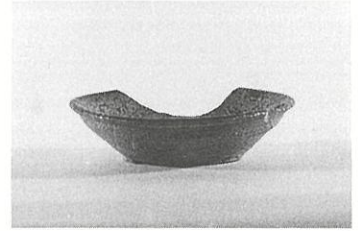
16



17



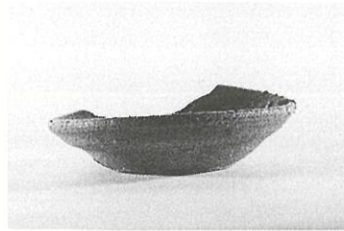
18



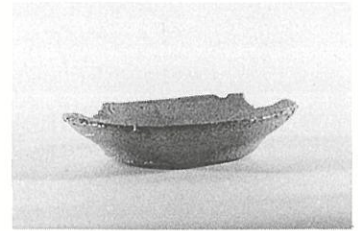
19



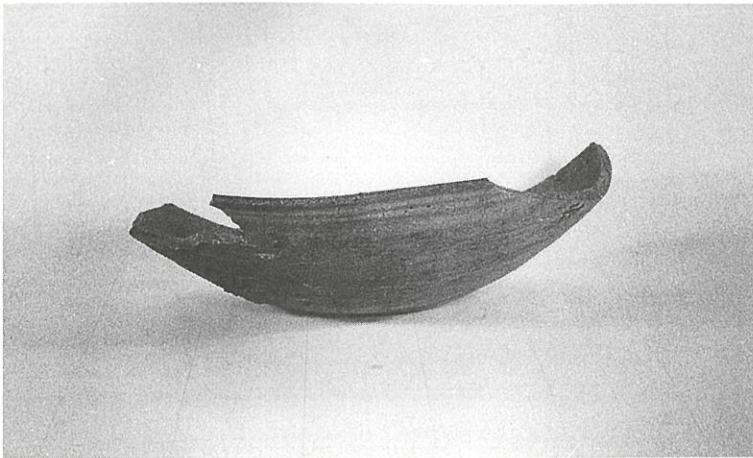
20



21



22

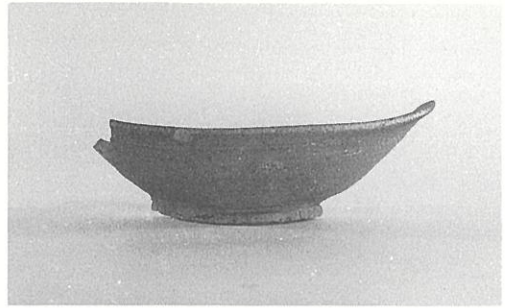


23

図版36 神明第3号窯ピット出土遺物 皿鉢



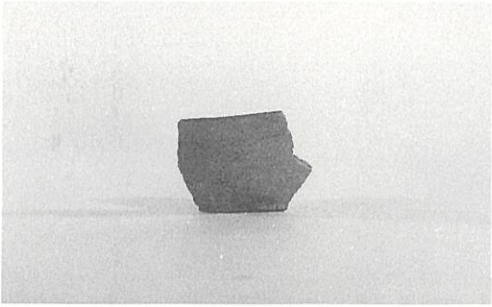
1



2



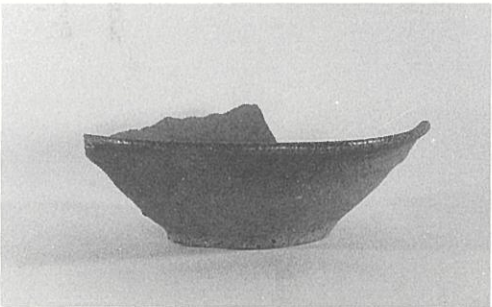
3



4



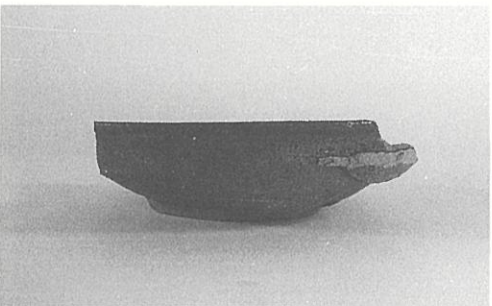
5



6



7

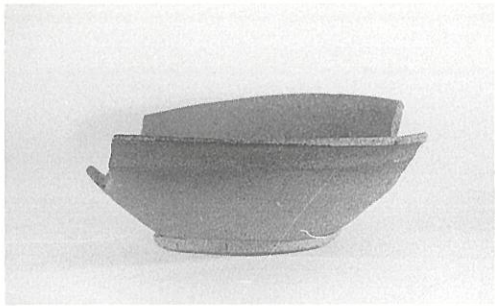


8



9

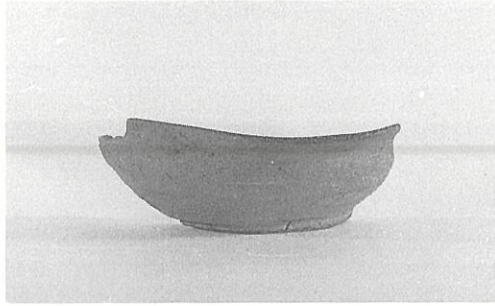
図版37 神明古窯前庭部出土遺物 碗(1) 皿(1)



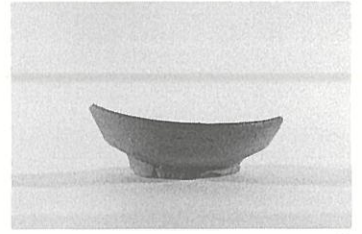
10



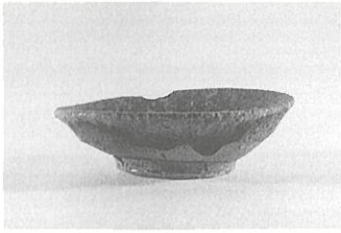
11



12



13



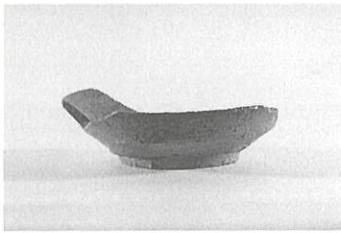
14



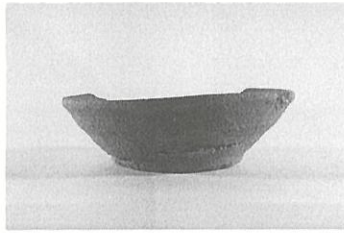
15



16



17



18



19



20

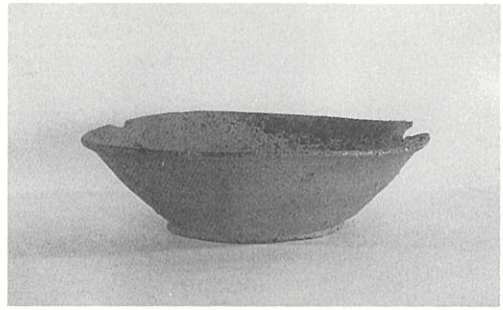


21

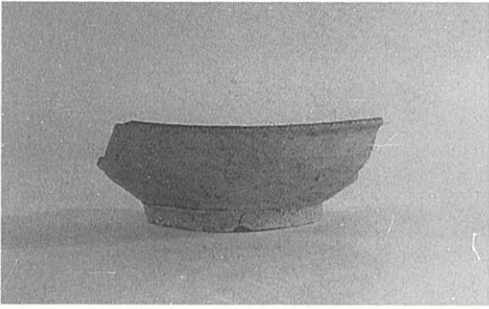
图版38 神明古窠前庭部出土遺物 碗(2) 皿(2)



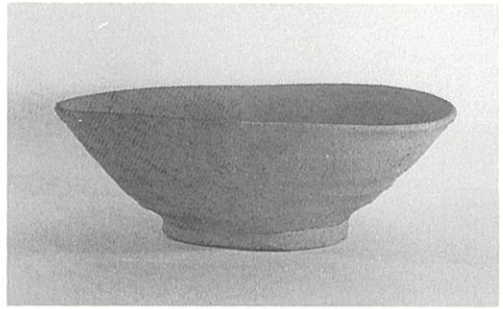
22



23



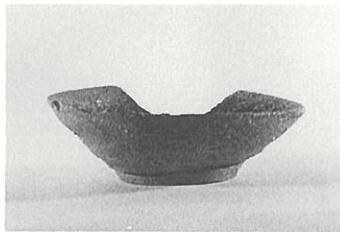
24



25



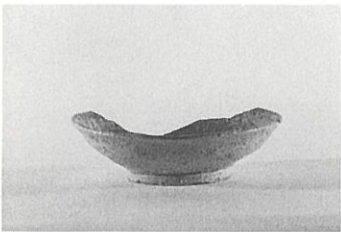
26



27



28



29



30



31



32



33

図版39 神明古窠前庭部出土遺物 碗(3) 皿(3)



1



2



3



4



5



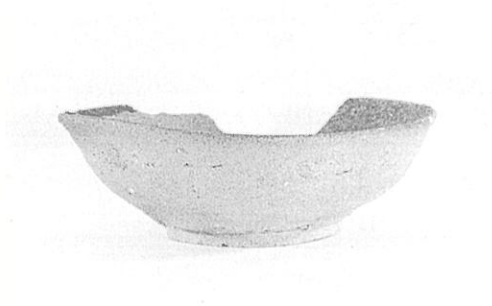
6



7



8



9



10

図版40 神明古窯前庭部ベルト出土遺物 碗(1)



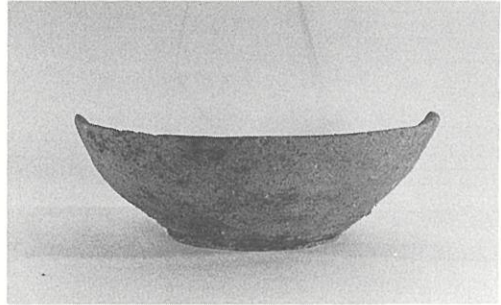
11



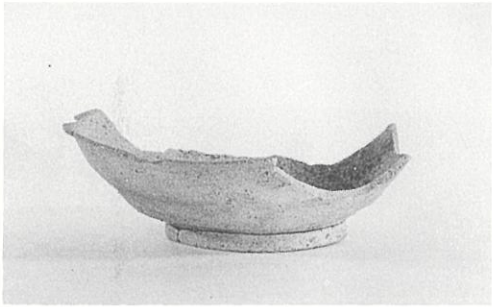
12



13



14



15



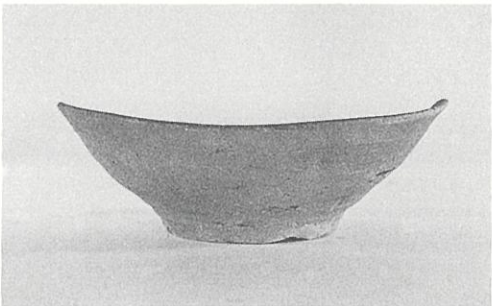
16



17



18

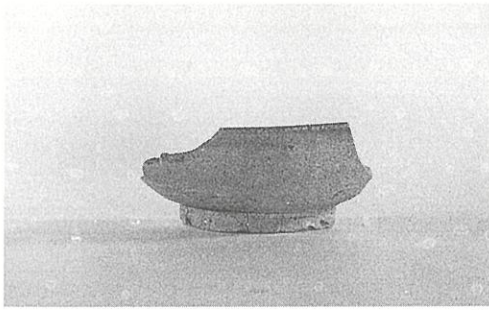


19



20

図版41 神明古窯前庭部ペルト出土遺物 碗(2)



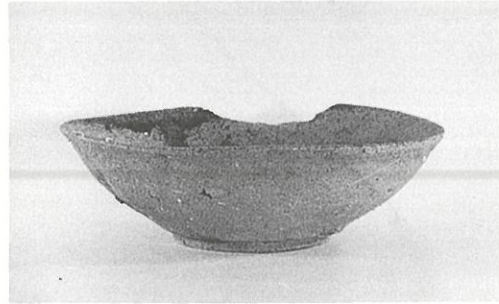
21



22



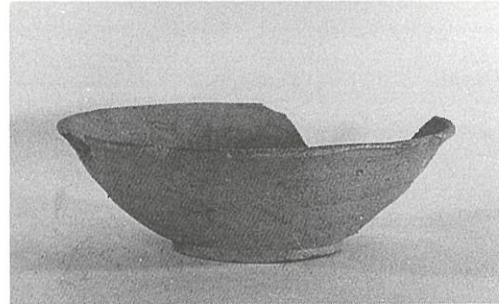
23



24



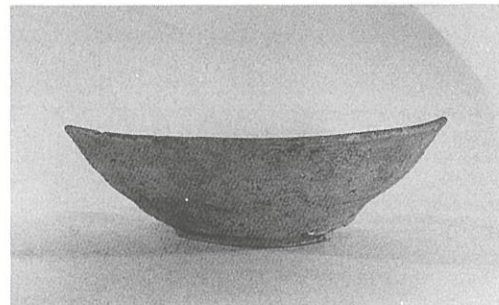
25



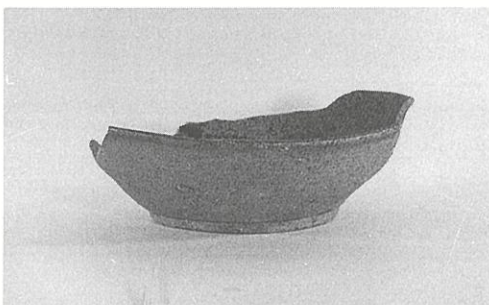
26



27



28



29



30

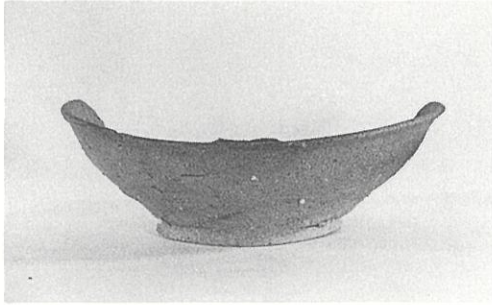
図版42 神明古窯前庭部ベルト出土遺物 碗(3)



31



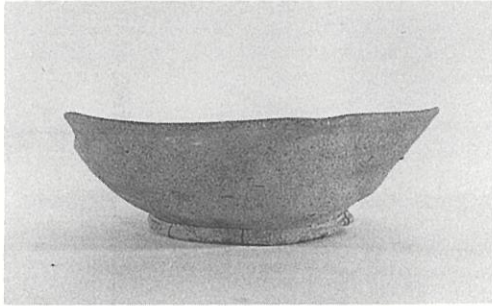
32



33



34



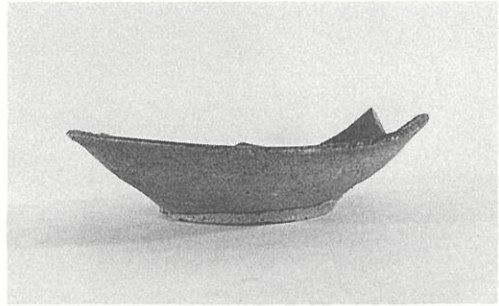
35



36



37



38



39

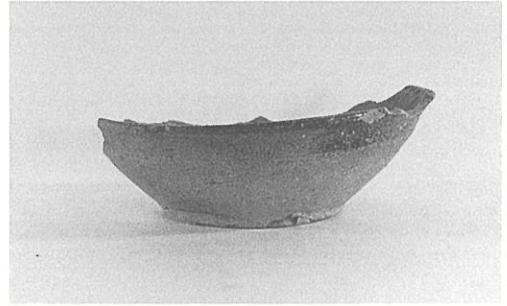


40

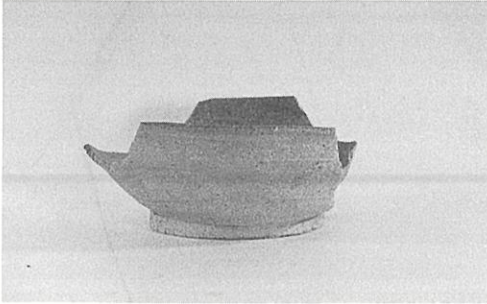
図版43 神明古窯前庭部ベルト出土遺物 碗(4)



41



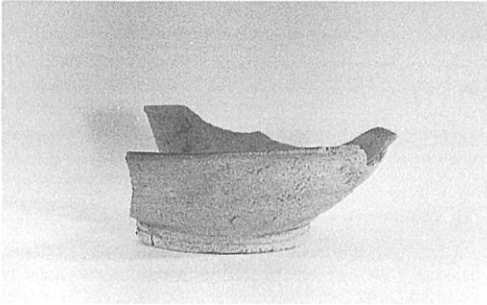
42



43



44



45



46



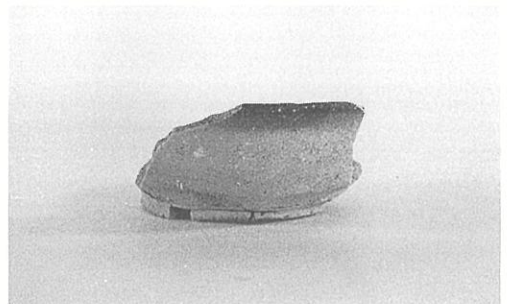
47



48

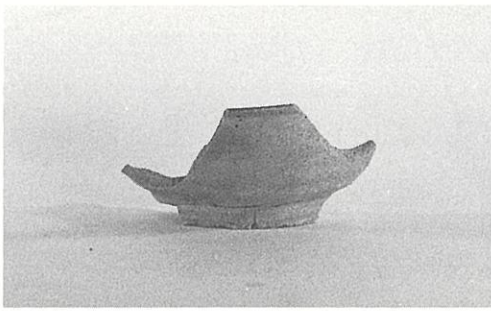


49



50

図版44 神明古窯前庭部ベルト出土遺物 碗(5)



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60

図版45 神明古窯前庭部ベルト出土遺物 碗(6) 玉縁状口縁碗



61



62



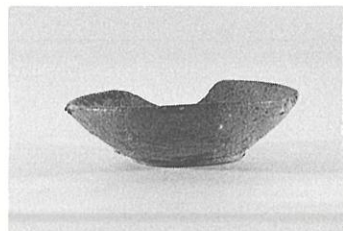
63



64



65



66



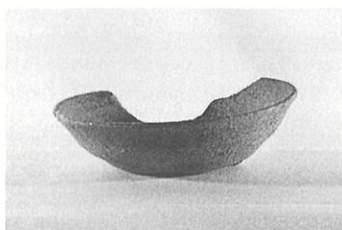
67



68



69



70



71



72



73



74



75



76



77



78

図版46 神明古窯前庭部ベルト出土遺物 皿(1)



79



80



81



82



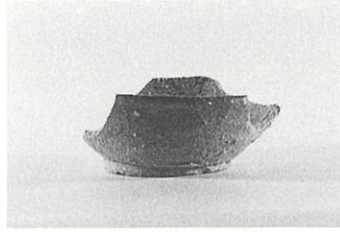
83



84



85



86



87



88



89



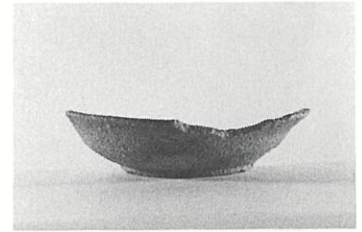
90



91



92



93



94



95



96

図版47 神明古窯前庭部ベルト出土遺物 皿(2)



97



98



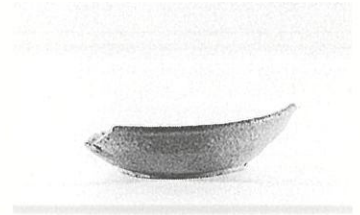
99



100



101



102



103



104



105



106



107



108



109

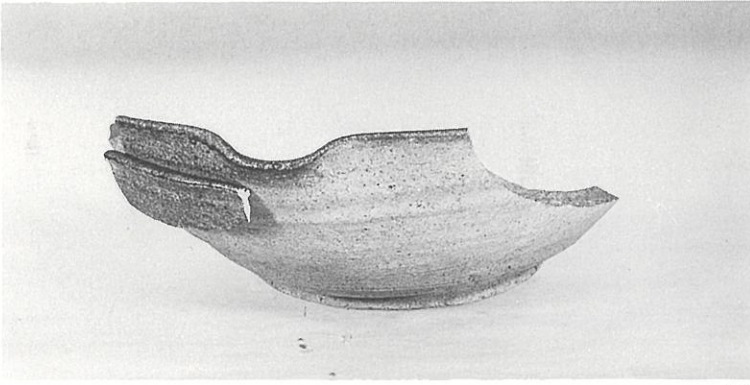


110

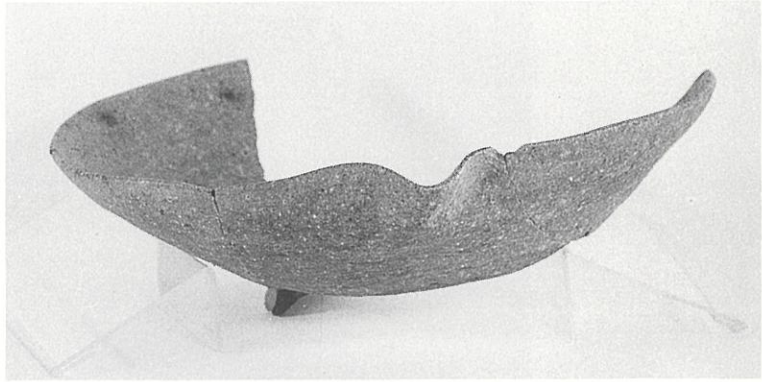


111

図版48 神明古窯前庭部ベルト出土遺物 皿(3) 重ね焼



112



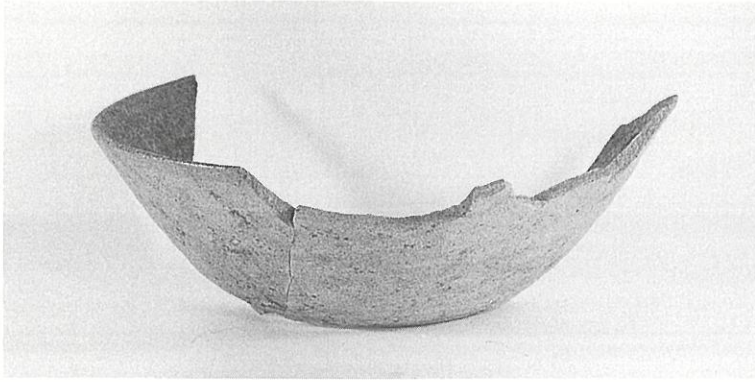
113



114



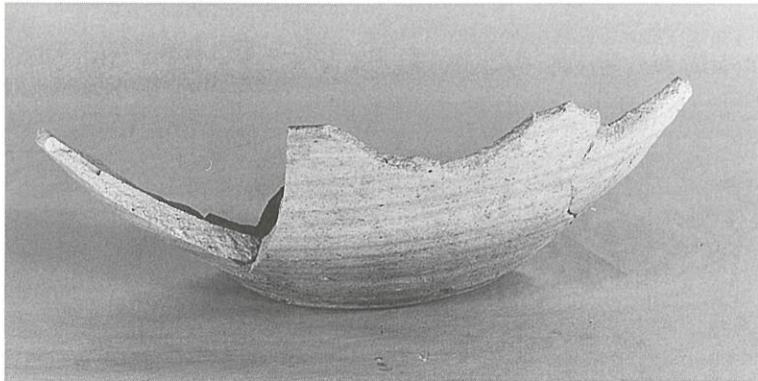
115



116



117

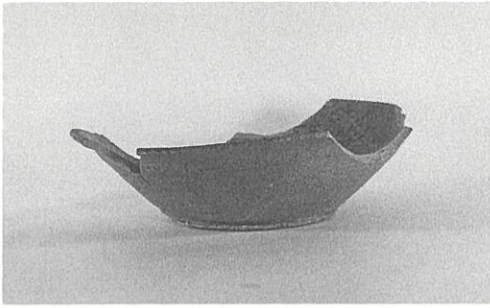


118

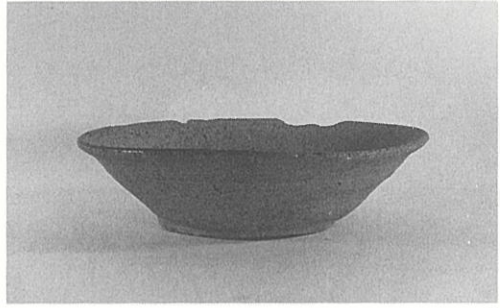


119

図版50 神明古窯前庭部ベルト出土遺物 鉢(2)



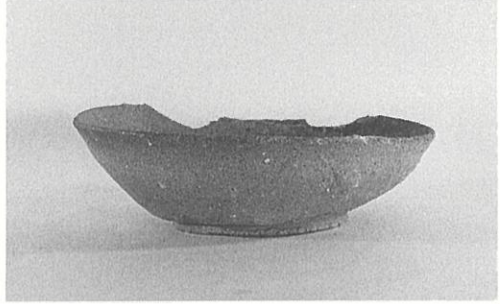
1



2



3



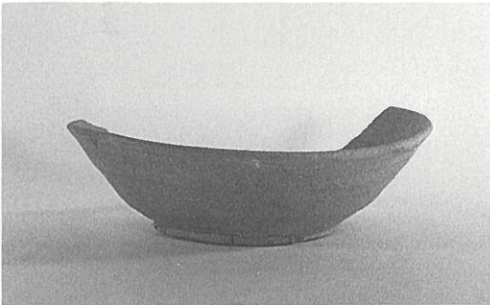
4



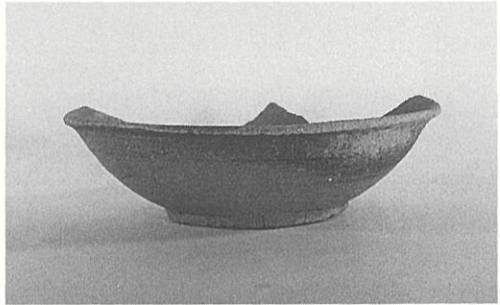
5



6



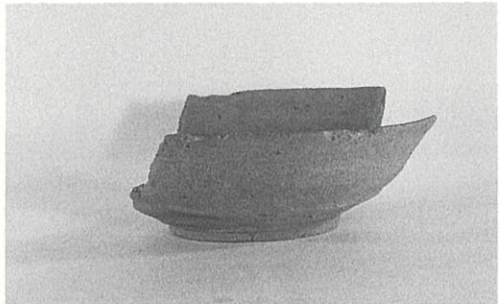
7



8

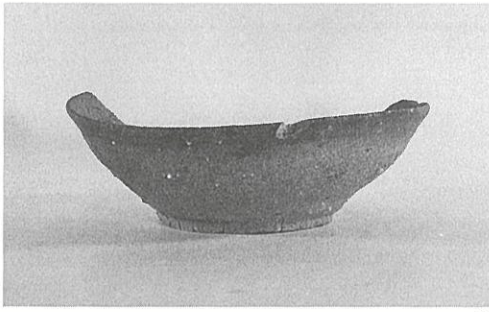


9

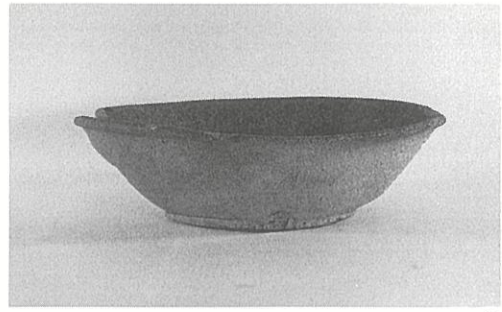


10

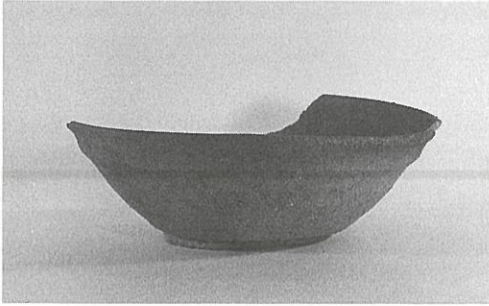
图版51 神明古窠灰原出土遺物 碗(1)



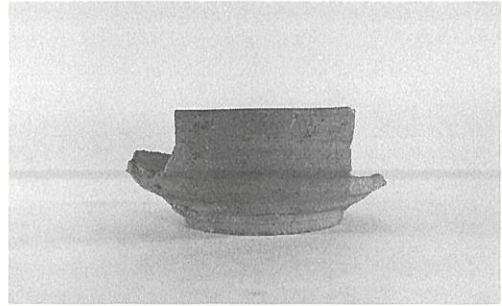
11



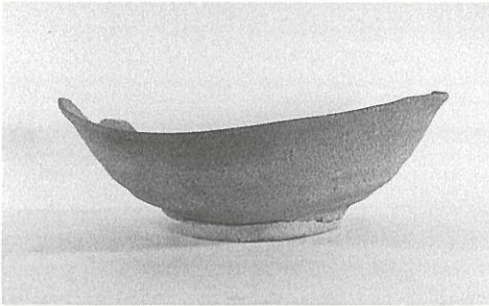
12



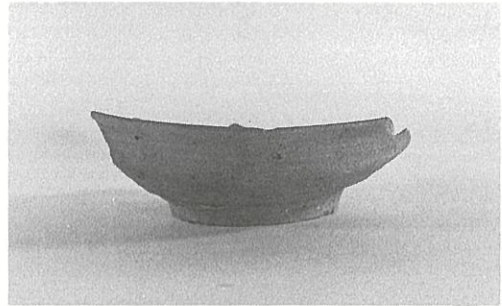
13



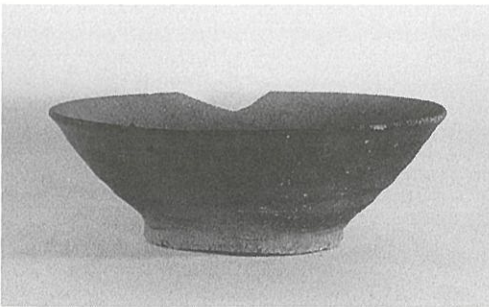
14



15



16



17



18

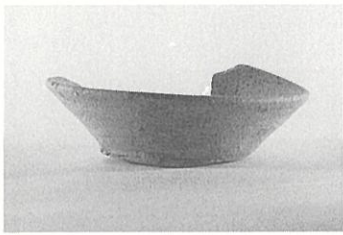


19

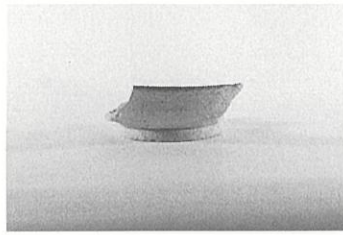


20

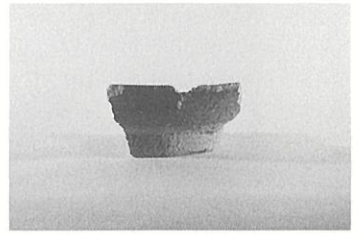
图版52 神明古窯灰原出土遺物 碗(2)



21



22



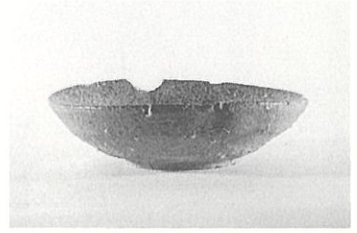
23



24



25



26



27



28



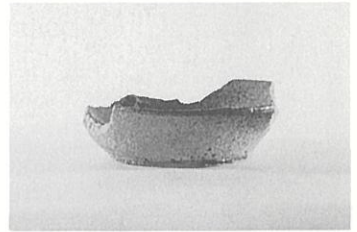
29



30



31



32



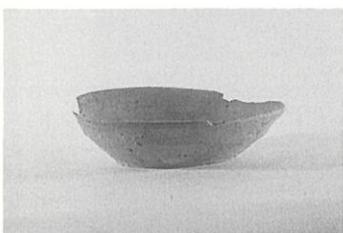
33



34



35



36

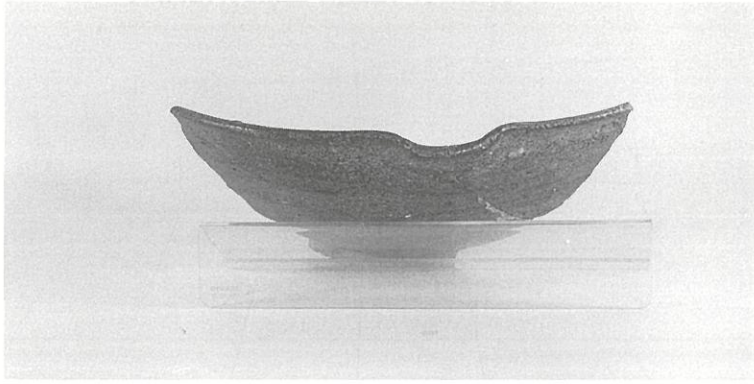


37

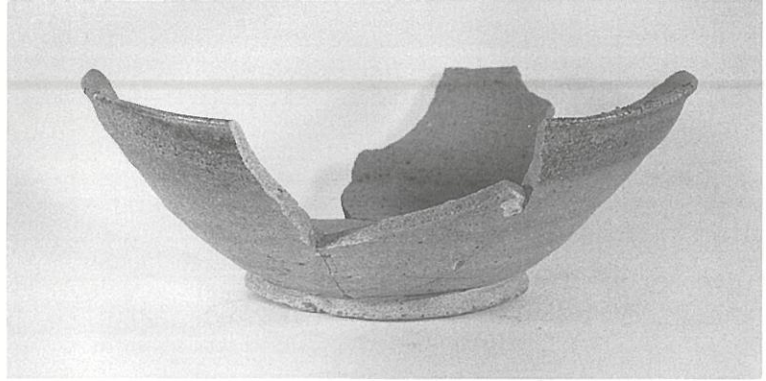


38

图版53 神明古窯灰原出土遺物 皿



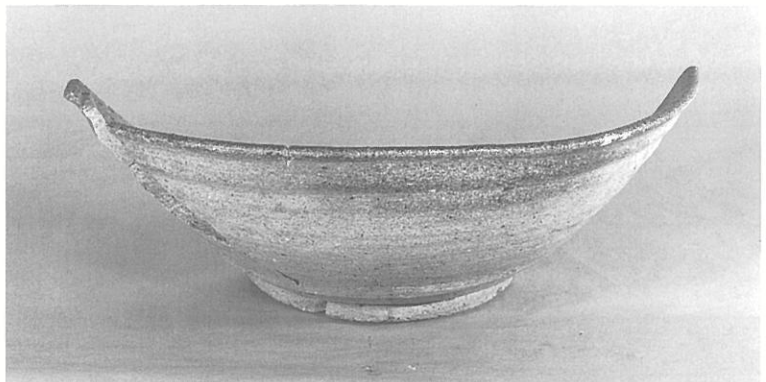
39



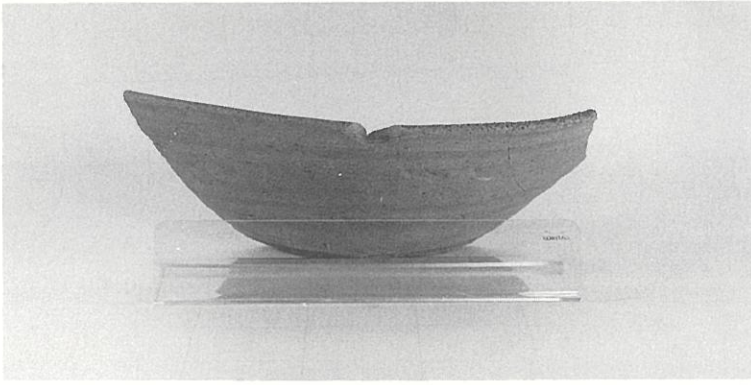
40



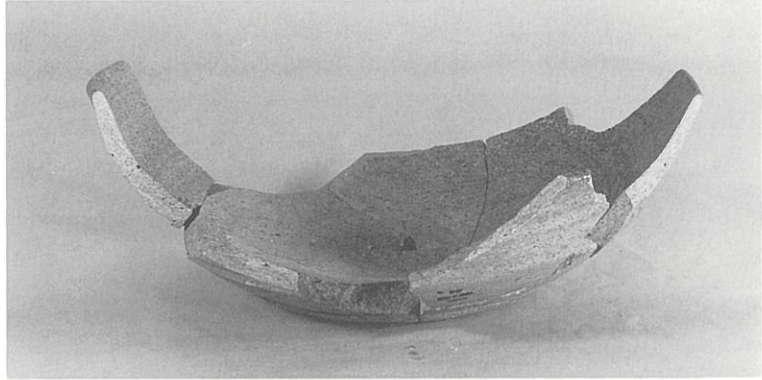
41



42



43



44

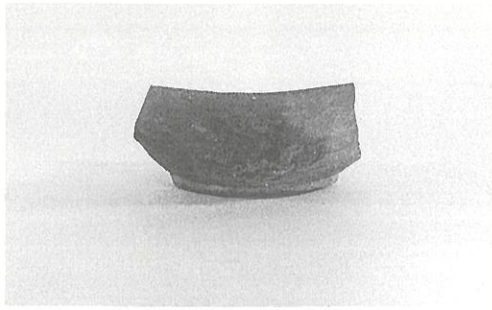


45



46

図版55 神明古窯灰原出土遺物 鉢(2) 壺



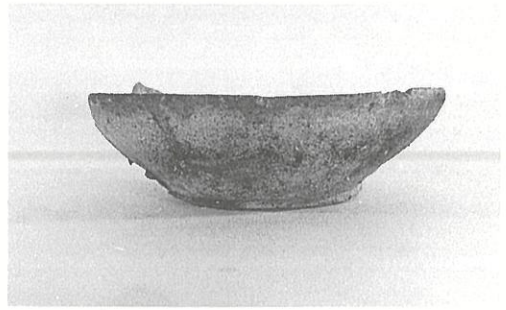
1



2



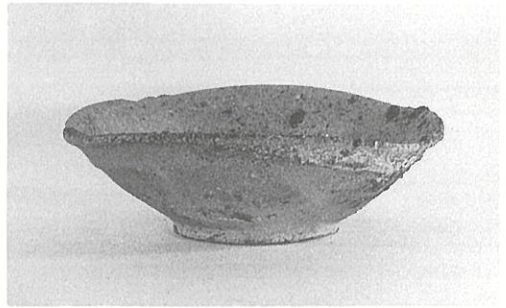
3



4



5



6

図版56 神明第1号窯分焰柱内出土遺物 碗

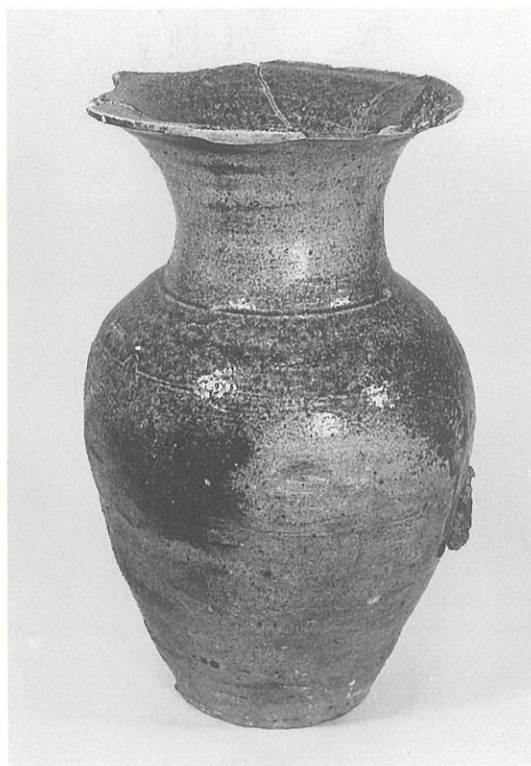
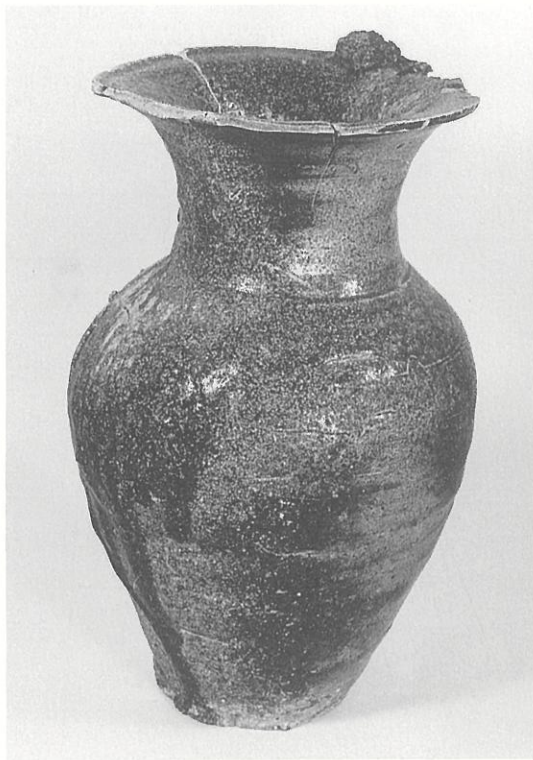


1

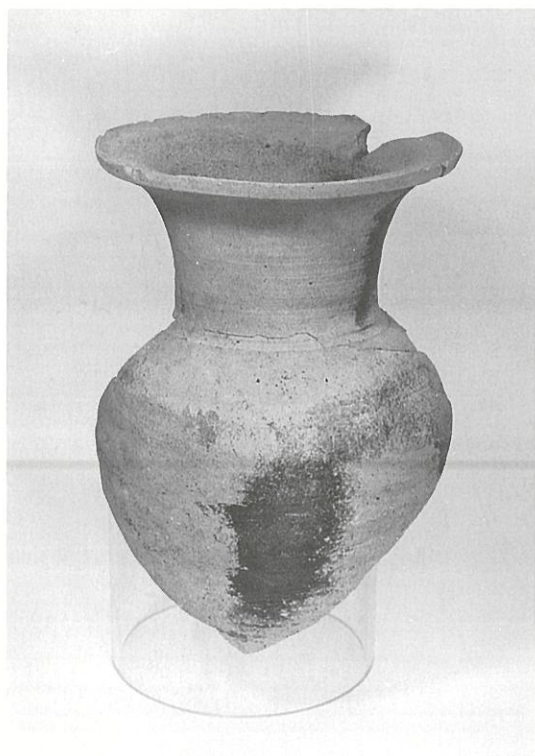
図版57 神明古窯表採出土遺物 鉢



1



図版58 神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(1)



2



3



4



5

図版59 神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(2)



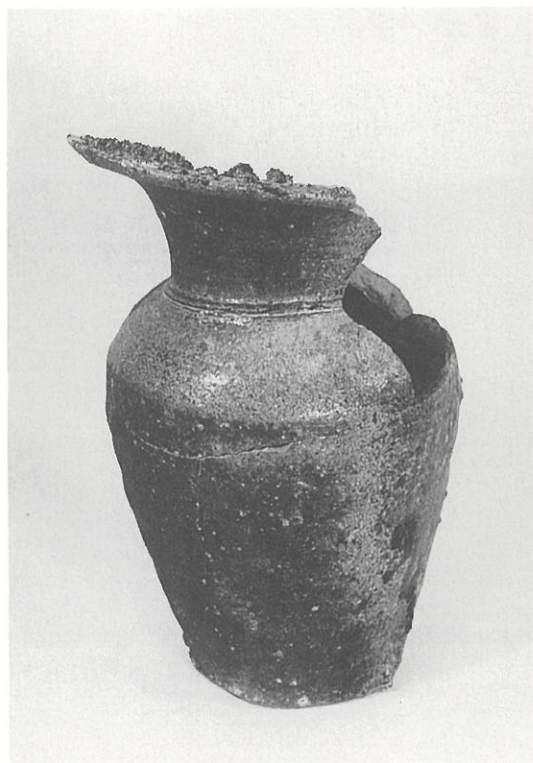
6



7



8



9

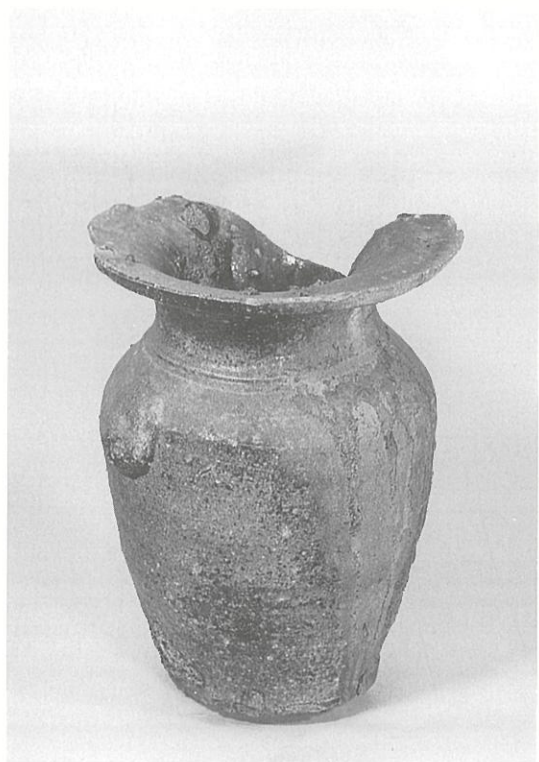
図版60 神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(3)



10



11



12



13

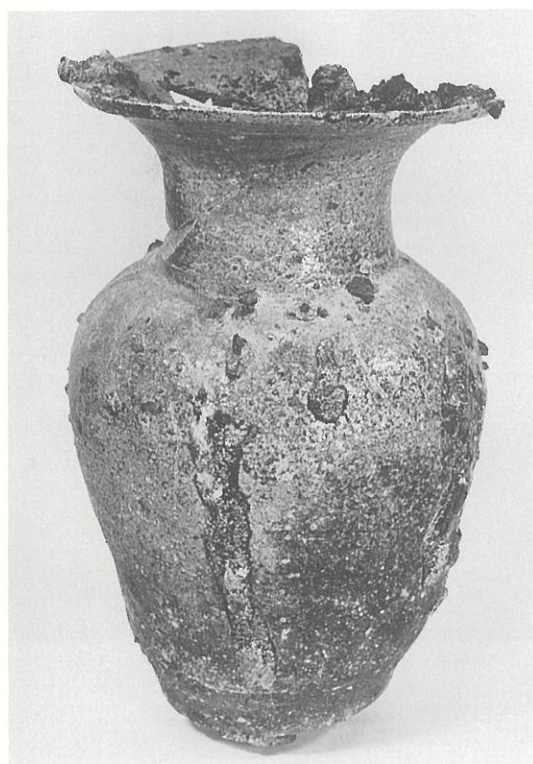
図版61 神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(4)



14



15



16



17

図版62 神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(5)



18



19



20



21



22



23

図版63 神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(6)



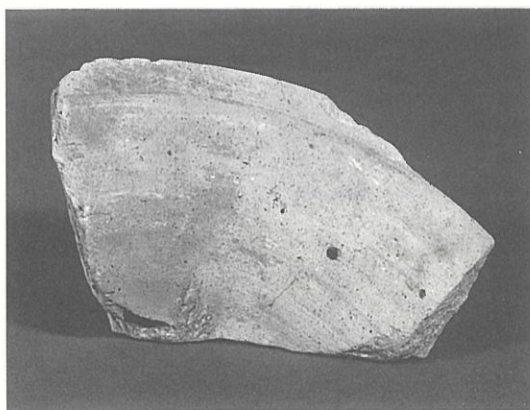
24



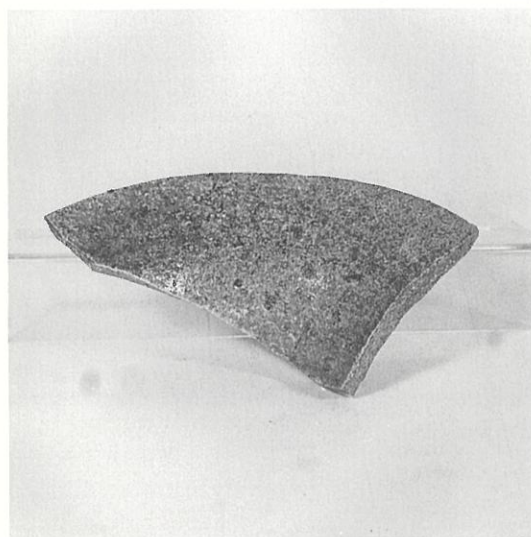
25



26



27



28



29

図版64 神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(7)



30



31



32



33

図版65 神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(8)



34



35



36



37



38



39

図版66 神明古窯出土遺物 広口長頸瓶(9)

報告書抄録

ふりがな	かいりくあんこようしぐん・しんめいこようしぐん							
書名	海陸庵古窯址群 神明古窯址群							
副書名	大府半月特定土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	大府市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第2集							
編著者名	立松宏・小川雅康・近藤英正・吉村暁夫・古田功治・遠山光嗣							
編集機関	愛知県大府市教育委員会							
所在地	〒474 愛知県大府市中央町五丁目70番地							
発行年月日	西暦 1996年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かいりくあんこよう 海陸庵古窯	おおぶしよしだ 大府市吉田 まちかいりくあん 町海陸庵	232238	44059	35度 00分 10秒	136度 56分 46秒	19941019 ～ 19941024 19941123 ～ 19941130 19950110 19950302 ～ 19950303	300 m ²	区画整理 事業にと もなう事 前調査
しんめいこよう 神明古窯	おおぶしよしだ 大府市吉田 まちしんめい 町神明	232238	44058	35度 00分 12秒	136度 56分 39秒	19950314 ～ 19950429 19950509	600 m ²	区画整理 事業にと もなう事 前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
海陸庵古窯	古窯	鎌倉初～中期	窯跡	碗・皿・陶錘・鉢				
神明古窯	古窯	平安末～鎌倉初	窯跡	広口長頸瓶・三筋壺・壺・碗・皿・鉢		広口長頸瓶の破片の 大量出土		



大府市文化財調査報告書 第2集

海陸庵古窯址群・神明古窯址群

～大府半月土地区画整理地内埋蔵文化財発掘調査報告書～

平成8年3月31日 発行

発行 愛知県大府市教育委員会

住所 〒474 愛知県大府市中央町五丁目70番地

印刷 中埜総合印刷株式会社

